

平成30年度

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

目 次

はじめに (ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 大澤 清二)	1
-------------------------------------	---

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動

(1) 授業担当者懇談会実施報告	2
(2) 授業に関するアンケート実施概要	3
(3) 授業に関するアンケート集計結果	6

2 各学部の平成30年度FD活動の概要報告

(1) 家政学部	90
(2) 文学部	92
(3) 社会情報学部	94
(4) 人間関係学部	96
(5) 比較文化学部	98
(6) 短期大学部	100

3 人間文化研究科の平成30年度FD活動	102
----------------------	-----

II 全学FD研修

1 講演会の内容及びアンケート結果

(1) FD講演会

学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～ ……………123

関西大学 教育推進部 教授 森 朋子 氏

参考資料

1. 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程 ……………131

2. 平成30年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会名簿 ……………133

はじめに

平成 30 年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 大澤 清 二

大妻女子大学では自ら考え、自ら学び、自ら道を拓く精神を持ち、積極的に社会に関わり、生涯学び続け、働き続けることができる女性の育成を目指して FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会を組織しており、大学教育の質保証を確実なものにするために、全学 FD 委員会をはじめとして各学部の FD 委員会が実質的な活動を行っております。

FD の元来の意義は大学制度の理念・目的・役割を実現するために必要な教授団の資質を改善・開発するところであり、さらに広義には教育活動のみならず、広く研究活動や社会的サービス、管理運営などの機能の開発を包含して、これらに対応した大学組織と教授団の自己点検・評価をも含むものでもあります。しかし一般的には、教育の規範構造、内容（専門教育と教養教育）、カリキュラム、教授技術などに関する教授団の資質の改善を意味する用語として使用されており、本学の FD 活動も主として教育方法的観点から授業研究や授業評価とそれに関連した授業改善の PDCA 活動を行ってまいりました。

現在も授業改善のための活動を不断に続けているところですが、ここに 2018 年度（平成 30 年度）の授業評価の総括的な報告を行います。それぞれの学部、学科において本報告書の統計を吟味していただき問題点を分析し、改善するための一連の PDCA 活動を 2019 年度に向けて開始していただきたいところです。

どうぞ諸賢のご批判と活発な FD 活動（改善活動）をお願いします。

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動

(1) 授業担当者懇談会実施報告

①概要

今年度も千代田キャンパス・多摩キャンパスにおいて授業担当の教員(専任及び非常勤)並びに理事長、学長、副学長が出席し、学生指導に関する各位のご所見・ご抱負など活発な意見交換が行われた。

②実施内容

千代田キャンパス 平成30年5月12日(土)

(1) 学科別懇談会 14時40分から16時40分

ア 家政学部被服学科	本館E棟	552ゼミ室
イ 家政学部食物学科	本館F棟	542講義室
ウ 家政学部児童学科	本館F棟	744講義室
エ 家政学部ライフデザイン学科	本館F棟	735ゼミ室
オ 文学部日本文学科	本館F棟	733ゼミ室
カ 文学部英文学科	本館F棟	742講義室
キ 文学部コミュニケーション文化学科	本館E棟	457講義室
ク 社会情報学部社会情報学科	本館F棟	344講義室
ケ 比較文化学部比較文化学科	本館E棟	452講義室
コ 短期大学部家政科	本館F棟	544講義室
サ 短期大学部国文科	本館F棟	734ゼミ室
シ 短期大学部英文科	本館F棟	732ゼミ室
ス 全学共通科目(基礎科目・教養科目)	本館F棟	342講義室
セ 教職課程	別館	教職総合支援センター ミーティング室
ソ 図書館学課程	本館F棟	736ゼミ室
タ 博物館学芸員課程	本館F棟	737ゼミ室

(2) 合同懇親会(立食パーティー) 17時から約1時間(大学校舎アトリウム)

多摩キャンパス 平成30年5月26日(土)

(1) 学部懇談会 14時40分から16時40分

人間関係学部	7号館	7348教室
学科・専攻別懇談会(学部別懇談会後に実施)		
社会学専攻	7号館	7385教室
社会・臨床心理学専攻	7号館	7384教室
人間福祉学科	7号館	7383教室

(2) 合同懇親会(立食パーティー) 17時から約1時間(2号館(学生会館)2階集会場)

(2) 授業に関するアンケート実施概要

①概要

今年度も前・後期においてそれぞれ授業に関するアンケートを実施した。
実施科目数及び回答学生数は次のとおりであった。

実施科目数 前期：1,398 科目

後期：1,338 科目

回答学生数 前期：51,366 名（受講者数 62,806 名 回答率 81.79%）

後期：43,032 名（受講者数 55,901 名 回答率 76.98%）

②実施時期

前期：平成 30 年 7 月 2 日～7 月 21 日

後期：平成 30 年 11 月 26 日～12 月 16 日

③実施方法

前期・後期ともに、授業担当者がマークシート用紙を配布、実施した。

④調査用紙（4～5 ページ参照）

⑤集計結果及び公表

集計は前期・後期のデータを、それぞれ全体・大学・短大別及び次の分類別に分析した。

※分類：全体、学年別、学生所属別、学年別、授業別、クラスサイズ別、専任・兼任別、年齢別
また、集計結果は、授業科目別集計を授業担当者にフィードバックしている。

大妻女子大学 「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の[自由記入欄]には授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1. 科目名・教員名

科目名

教員名

1. HBの黒鉛筆のみ可。
2. 折り曲げ厳禁。

良いマーク⇒ ●

※右側のようなマークは、読みとることができません。(悪い例)



2. 所属学科 (学科専攻・学年・組にマークしてください)

被服学科	ア	英文学科	ク	人間福祉学科	1年生	コ	学年	組
食物学科	イ	コミュニケーション文化学科	ケ	人間福祉学専攻		ク		
管理栄養士専攻	ウ	社会情報学科	コ	介護福祉学専攻		チ		
児童学科	エ	環境情報学専攻	サ	比較文化学科	1年生	ツ	①	④
児童教育専攻	オ	情報デザイン専攻	シ	アジア文化コース		テ	②	③
ライフデザイン学科	カ	人間関係学科	ス	アメリカ文化コース		ト	③	⑤
日本文学科	キ	社会・臨床心理学専攻	セ	ヨーロッパ文化コース		チ	④	⑥

家政科	家政専攻	㊦	国文科	㊧
	生活総合ビジネス専攻	㊨	英文科	㊩
	食物栄養専攻	㊫		

3. 次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の○にマークしてください

1 この授業の進め方について

- 1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
- 2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った
- 3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした
※(授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク)
- 4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた
- 5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した
- 6 教員の学生に対する接し方は公平だった
- 7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた

5	4	3	2	1
そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

2 この授業の内容について

- 8 授業は学習の目標がはっきり示された
- 9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた
- 10 授業の内容は興味深いものだった
- 11 授業の内容はよく理解できるものであった
- 12 授業は自分の将来にとって意味があると思う
- 13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

3 この授業への取り組みとその成果について

- 14 この授業にどの程度出席しましたか
- 15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか
- 16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した
- 17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った
- 18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった

100%	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満
⑤	④	③	②	①
3時間以上	2時間以上	1時間以上	1時間未満	していない
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

4 総合的な印象

- 19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う

⑤	④	③	②	①
---	---	---	---	---

5 自由設定欄 (学部独自: ex担当教員がその場で設定する質問)

20

⑤	④	③	②	①
---	---	---	---	---

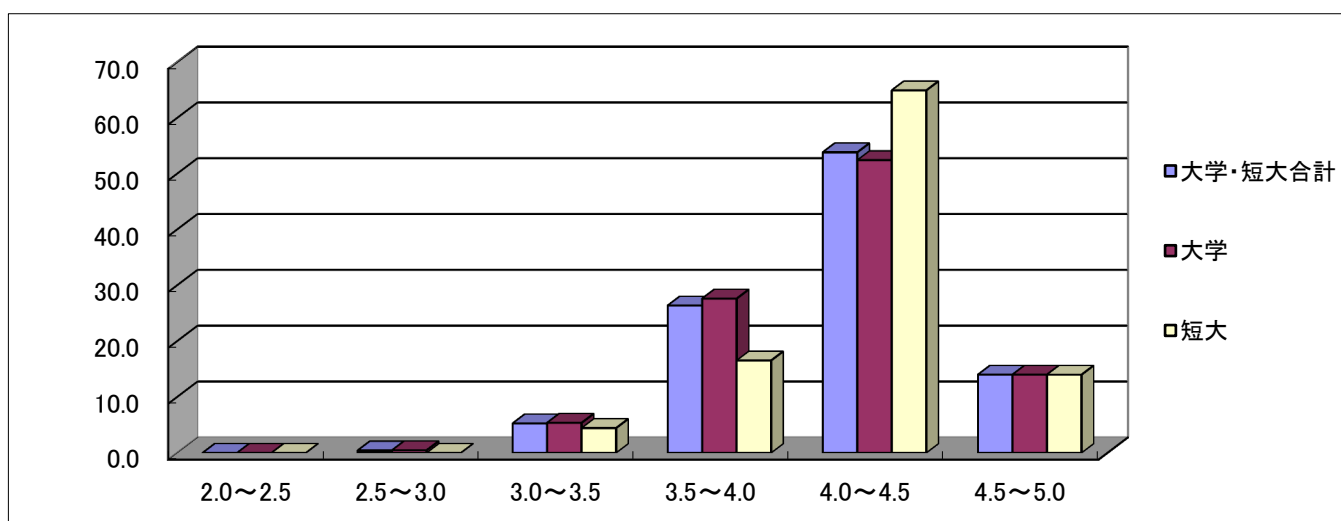
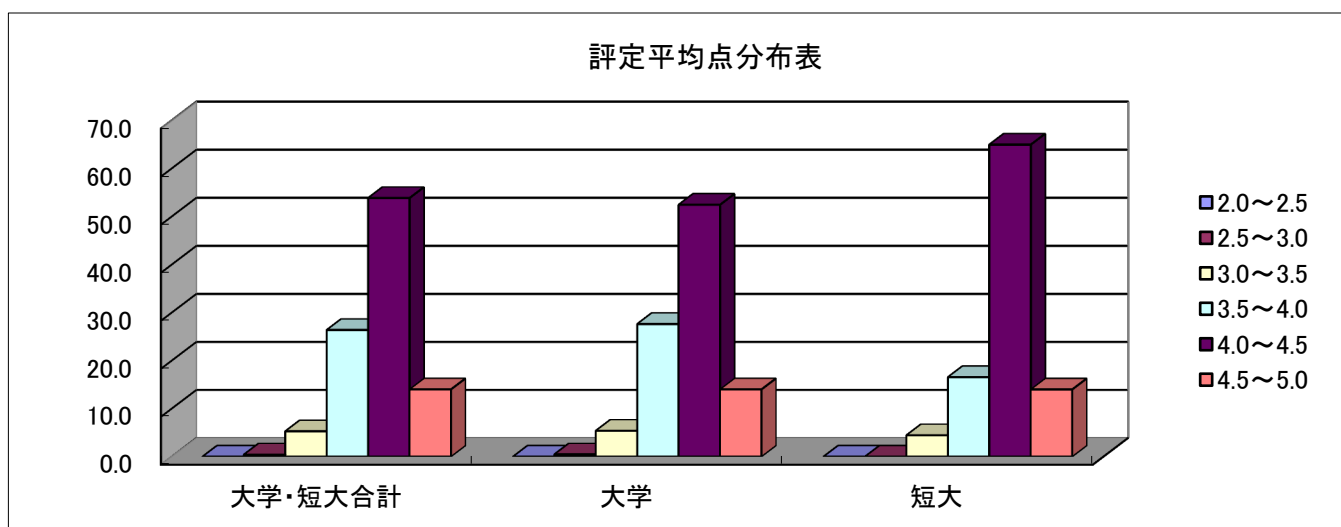
21

⑤	④	③	②	①
---	---	---	---	---

(3) 授業に関するアンケート集計結果

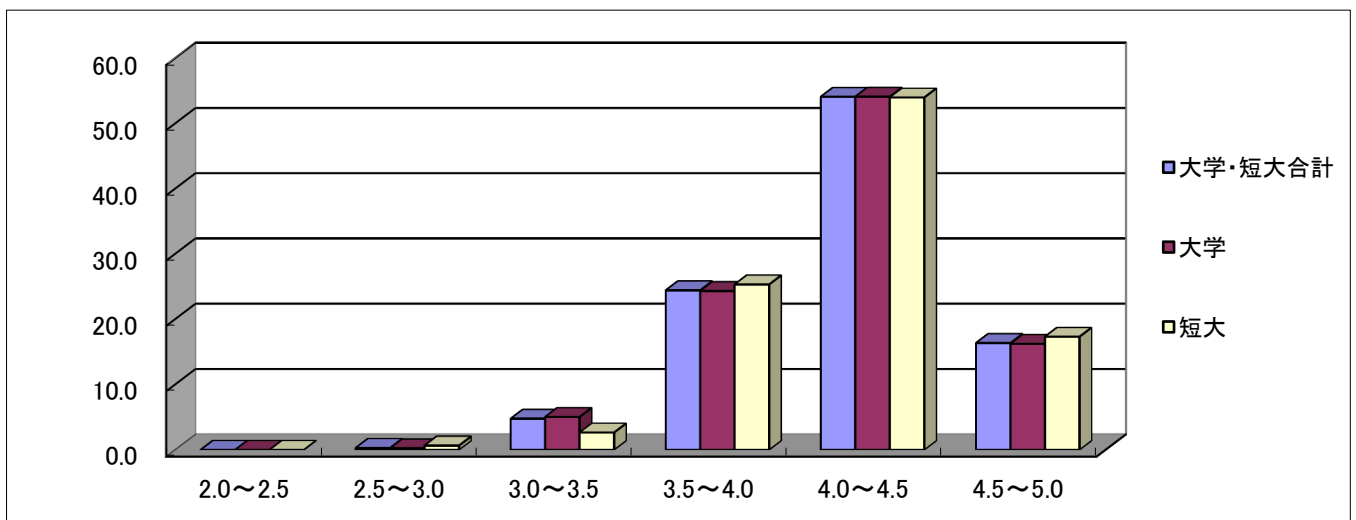
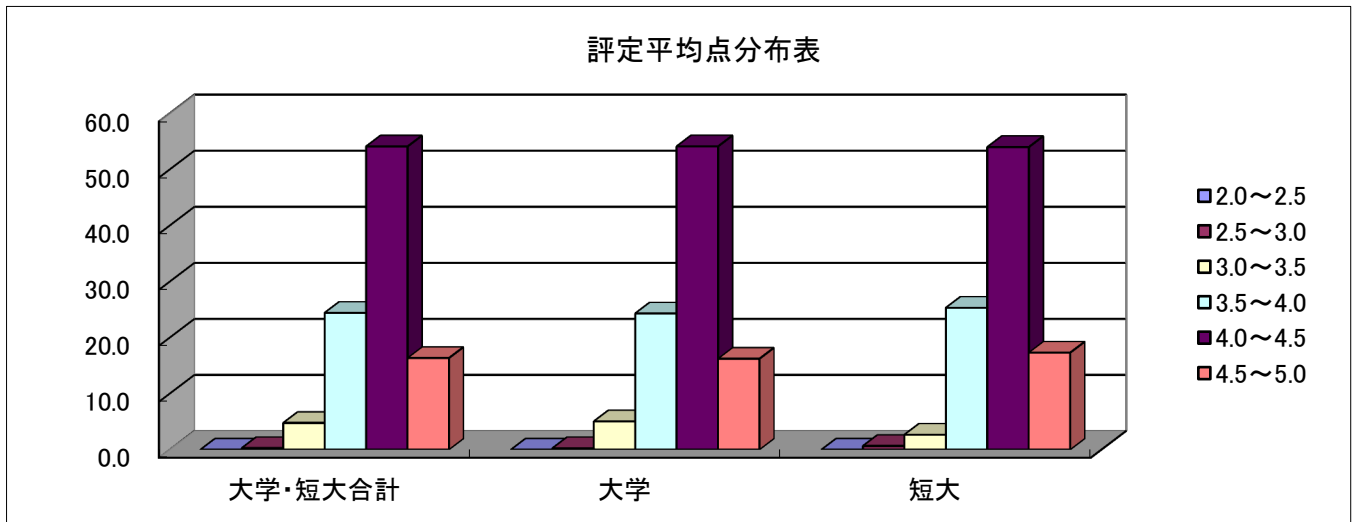
2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.5～3.0	6	0.4	6	0.5	0	0.0
3.0～3.5	74	5.3	67	5.4	7	4.5
3.5～4.0	369	26.4	343	27.6	26	16.6
4.0～4.5	753	53.9	651	52.5	102	65.0
4.5～5.0	196	14.0	174	14.0	22	14.0



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.5～3.0	4	0.3	3	0.3	1	0.7
3.0～3.5	64	4.8	60	5.1	4	2.7
3.5～4.0	327	24.4	289	24.3	38	25.3
4.0～4.5	724	54.1	643	54.1	81	54.0
4.5～5.0	219	16.4	193	16.2	26	17.3



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象科目数	実施科目数	未実施科目数
1,430	1,398	32

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
履修者数	62,806	18,865	12,295	11,182	8,758	5,987	57,087	5,719
回答者数	51,366	15,924	10,034	8,653	6,778	4,909	46,298	5,068
回答率(%)	81.79	84.41	81.61	77.38	77.39	81.99	81.10	88.62

I. 教員のこの授業の進め方について

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.30	4.31	4.33	4.13	4.35	4.30	4.28	4.43
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	4.34	4.34	4.15	4.36	4.31	4.30	4.46
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.37	4.34	4.41	4.21	4.42	4.42	4.35	4.51
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	4.10	4.15	3.91	4.19	4.14	4.09	4.22
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.08	4.05	4.12	3.93	4.13	4.11	4.06	4.20
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	4.45	4.51	4.26	4.49	4.46	4.43	4.59
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43	4.45	4.48	4.24	4.47	4.46	4.42	4.55

II. この授業の内容について

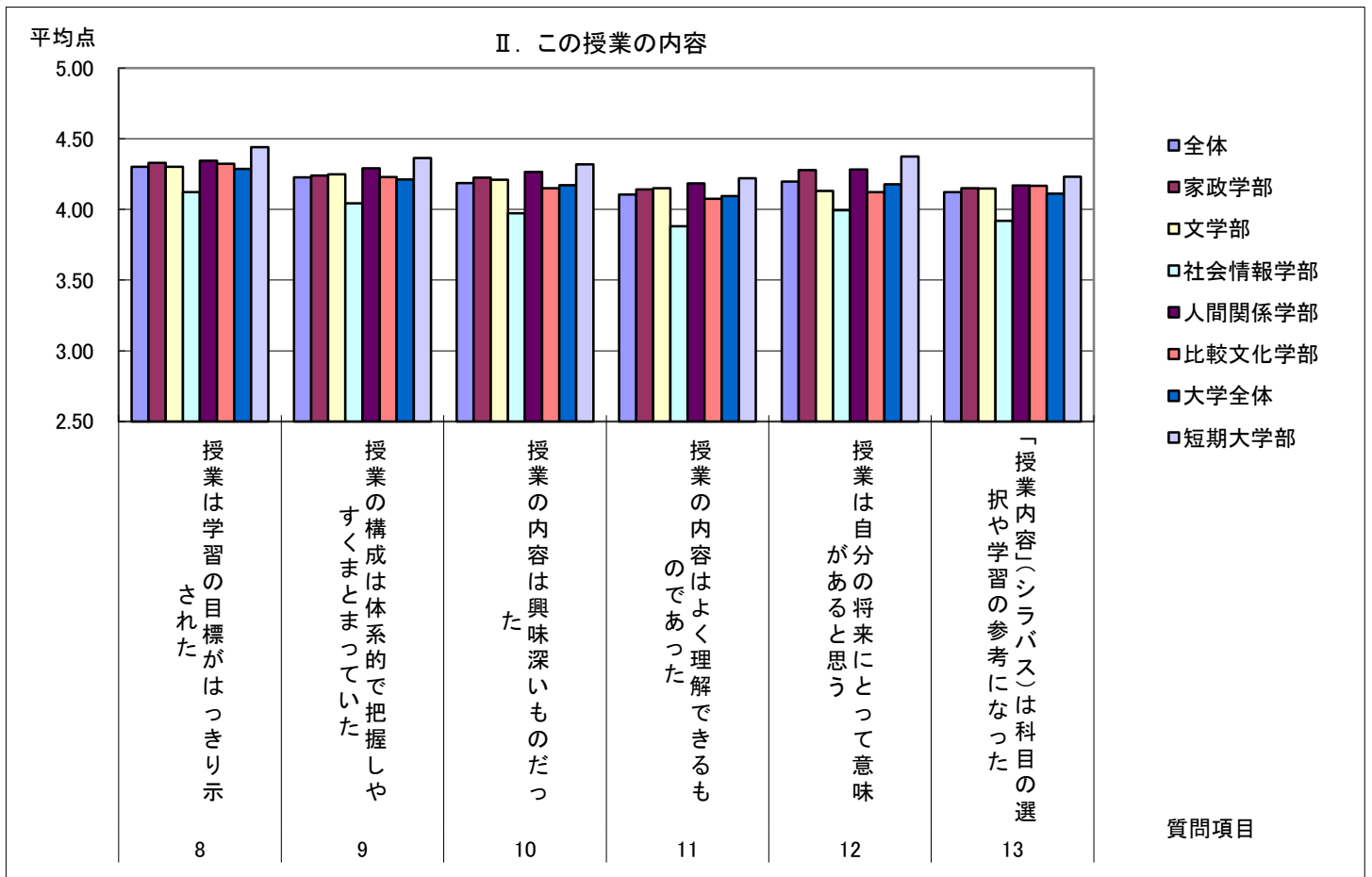
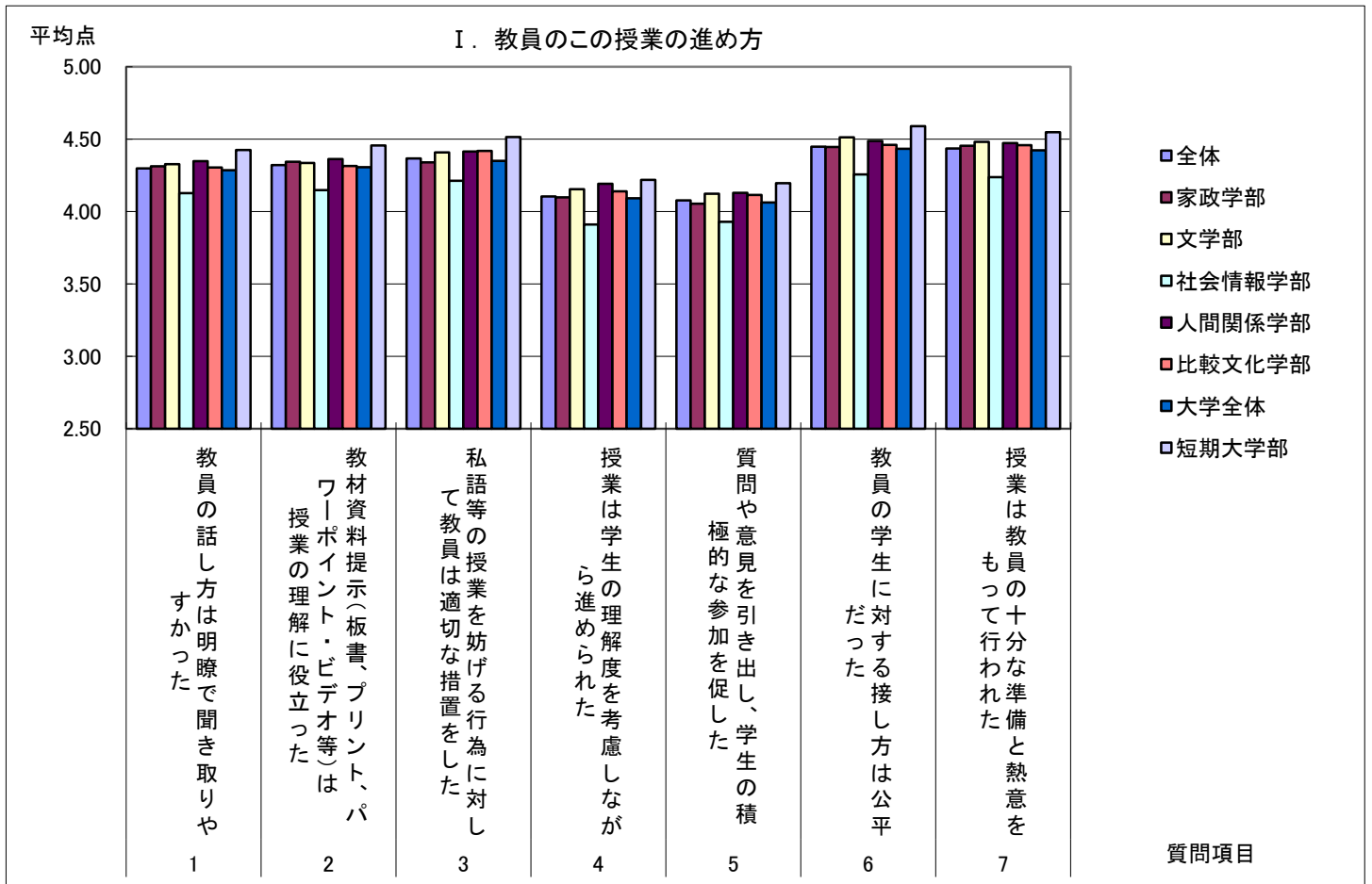
	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.30	4.33	4.30	4.12	4.35	4.32	4.29	4.44
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.23	4.24	4.25	4.04	4.29	4.23	4.21	4.36
10 授業の内容は興味深いものだった	4.19	4.22	4.21	3.97	4.27	4.15	4.17	4.32
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.11	4.14	4.15	3.88	4.18	4.08	4.09	4.22
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	4.28	4.13	3.99	4.28	4.12	4.18	4.37
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.12	4.15	4.15	3.92	4.17	4.17	4.11	4.23

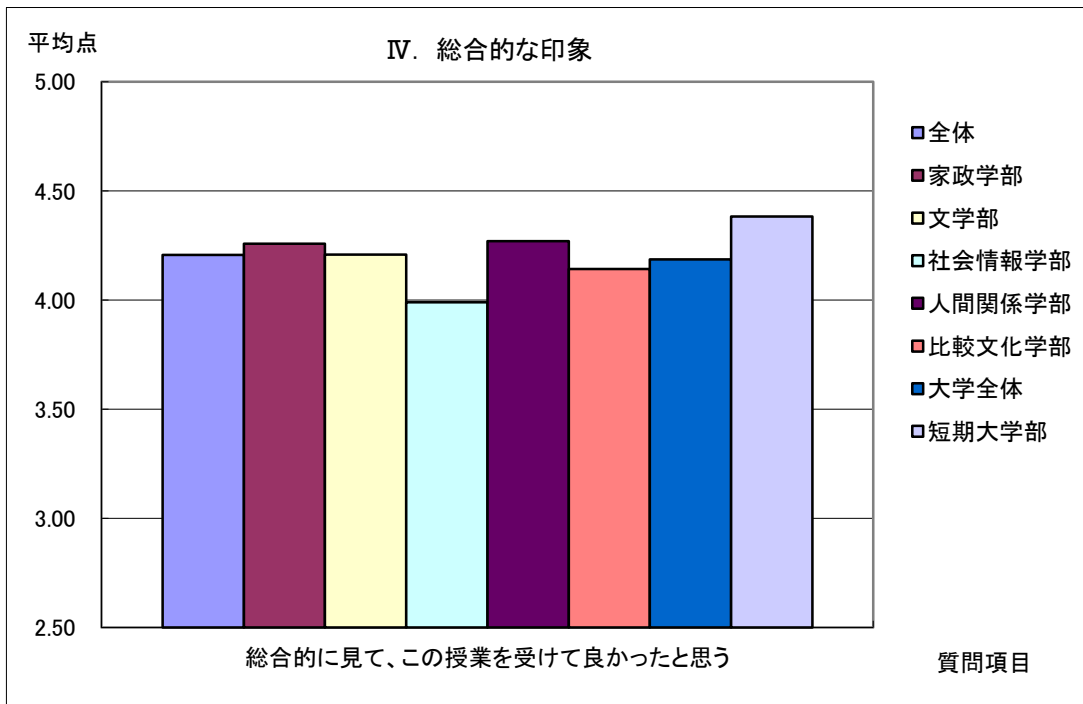
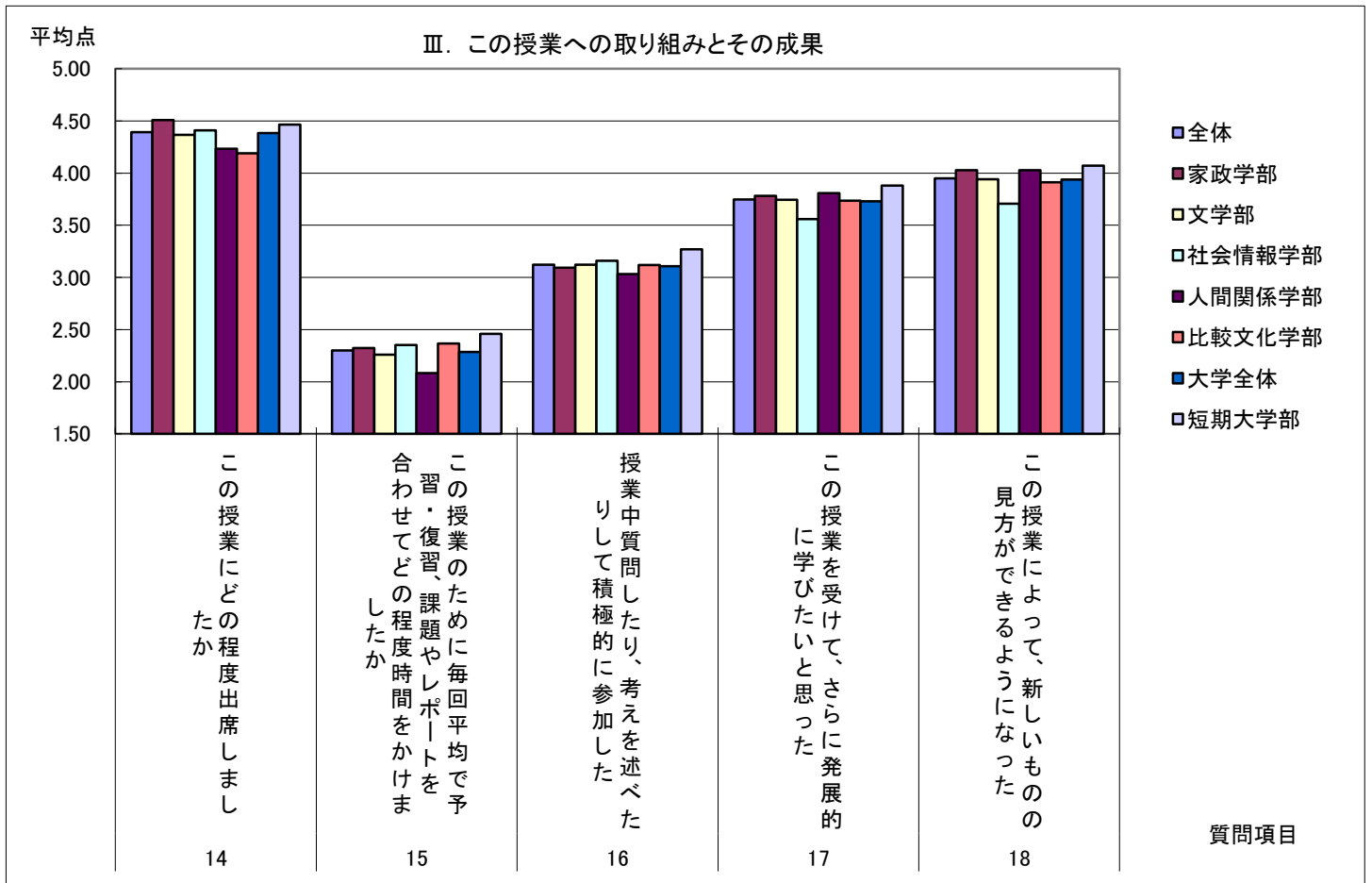
III. この授業への取り組みとその成果について

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.39	4.51	4.37	4.41	4.23	4.19	4.39	4.46
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.30	2.32	2.26	2.35	2.08	2.37	2.28	2.46
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.12	3.09	3.12	3.16	3.03	3.12	3.11	3.27
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.75	3.78	3.75	3.56	3.81	3.73	3.73	3.88
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.95	4.03	3.94	3.71	4.03	3.91	3.94	4.07

IV. 総合的な印象

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	4.26	4.21	3.99	4.27	4.14	4.19	4.38





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象 科目数	実施 科目数	未実施 科目数
1,377	1,338	39

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
履修者数	55,901	16,807	10,153	9,513	8,230	5,884	50,587	5,314
回答者数	43,032	13,650	8,029	6,540	6,016	4,439	38,674	4,358
回答率(%)	76.98	81.22	79.08	68.75	73.10	75.44	76.45	82.01

I. 教員のこの授業の進め方について

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.35	4.39	4.35	4.17	4.44	4.37	4.35	4.41
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	4.39	4.39	4.18	4.41	4.38	4.36	4.43
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.40	4.39	4.44	4.28	4.44	4.44	4.39	4.48
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.17	4.17	4.22	3.96	4.26	4.22	4.16	4.22
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.17	4.18	4.23	4.00	4.22	4.23	4.17	4.19
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.47	4.48	4.51	4.33	4.52	4.46	4.46	4.53
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	4.49	4.49	4.30	4.50	4.47	4.46	4.53

II. この授業の内容について

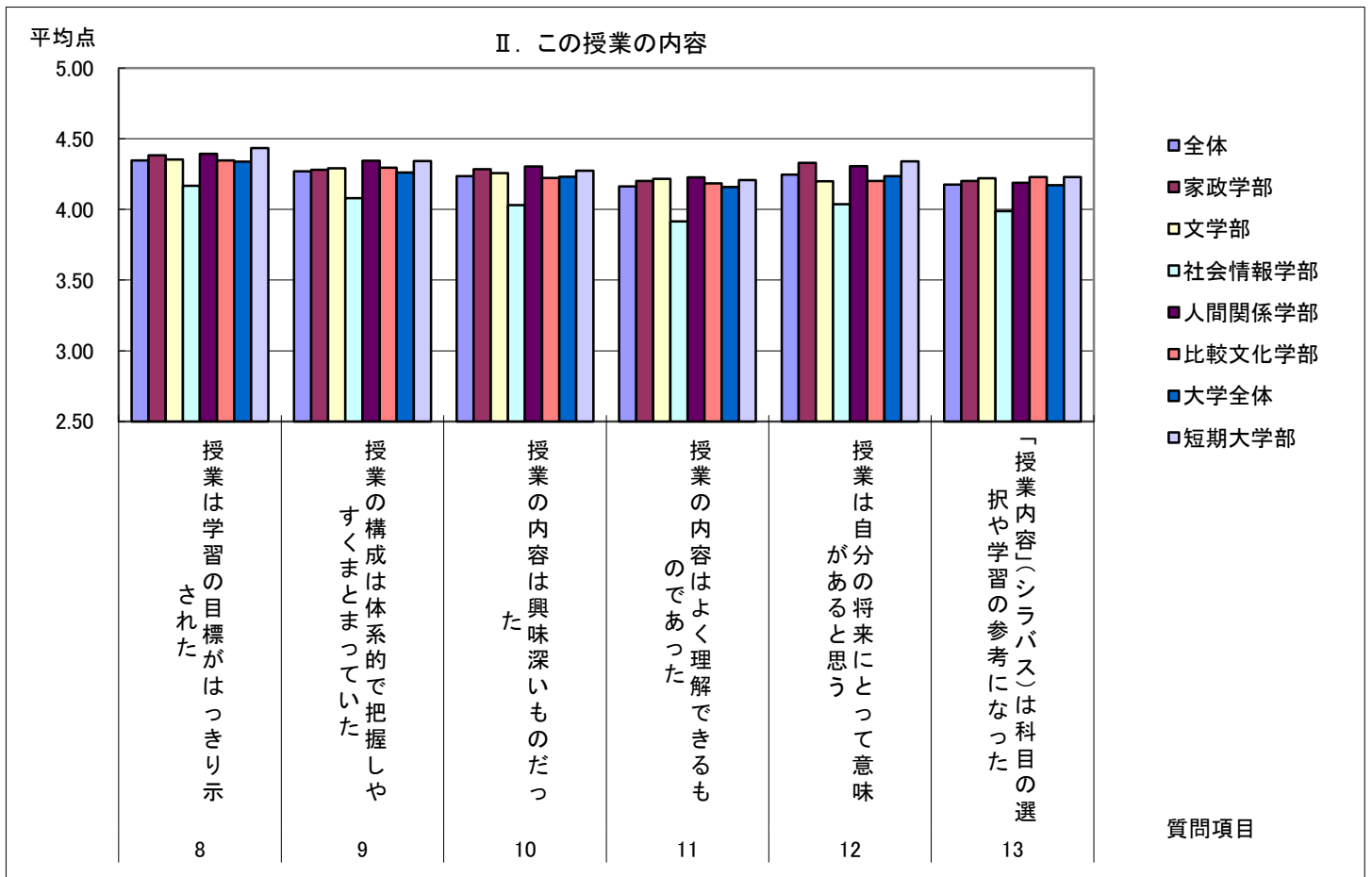
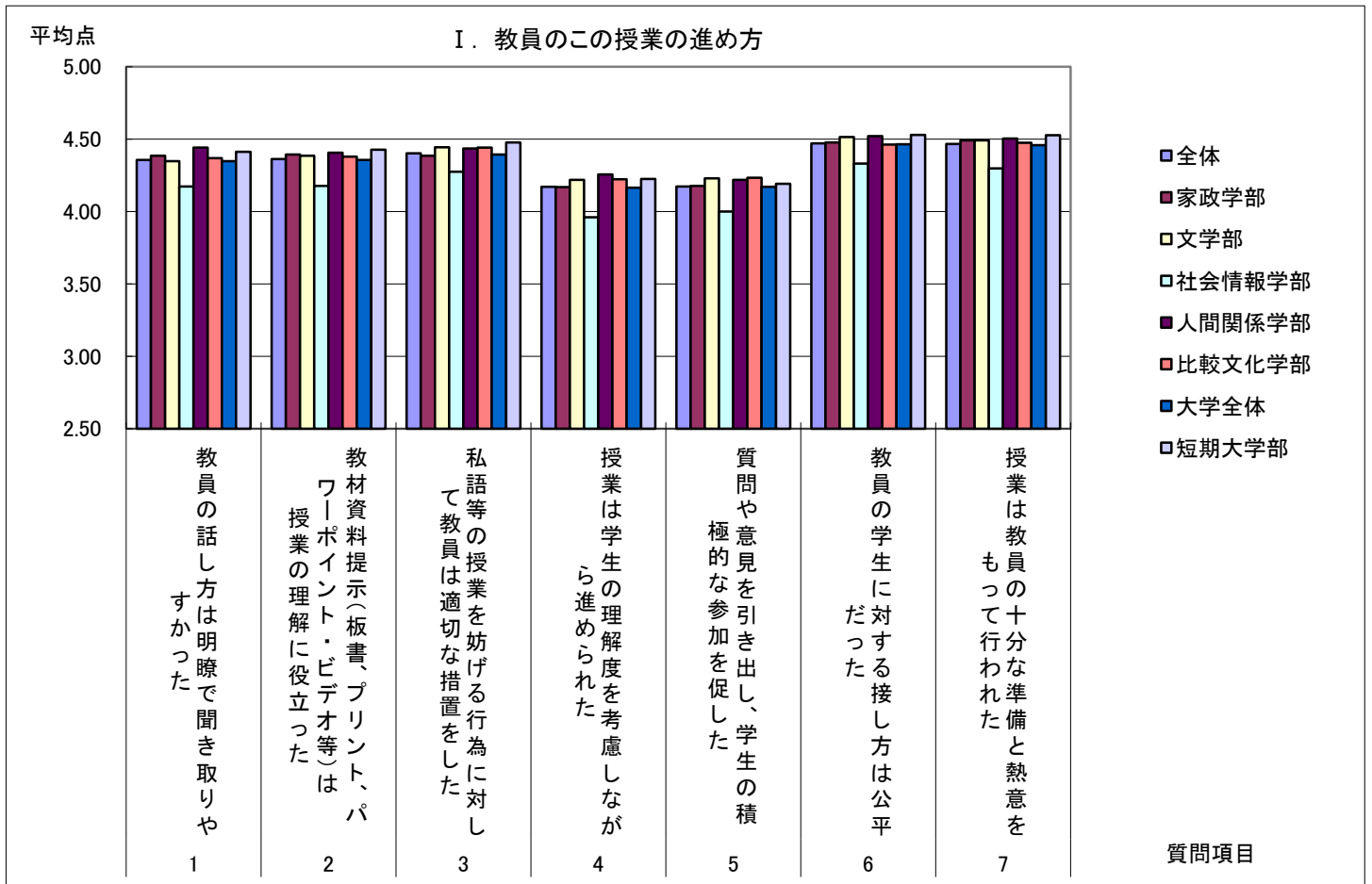
	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.35	4.38	4.35	4.17	4.39	4.35	4.34	4.43
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.27	4.28	4.29	4.08	4.34	4.29	4.26	4.34
10 授業の内容は興味深いものだった	4.24	4.28	4.26	4.03	4.30	4.22	4.23	4.27
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	4.20	4.22	3.91	4.23	4.18	4.16	4.21
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	4.33	4.20	4.04	4.30	4.20	4.23	4.34
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.18	4.20	4.22	3.99	4.19	4.23	4.17	4.23

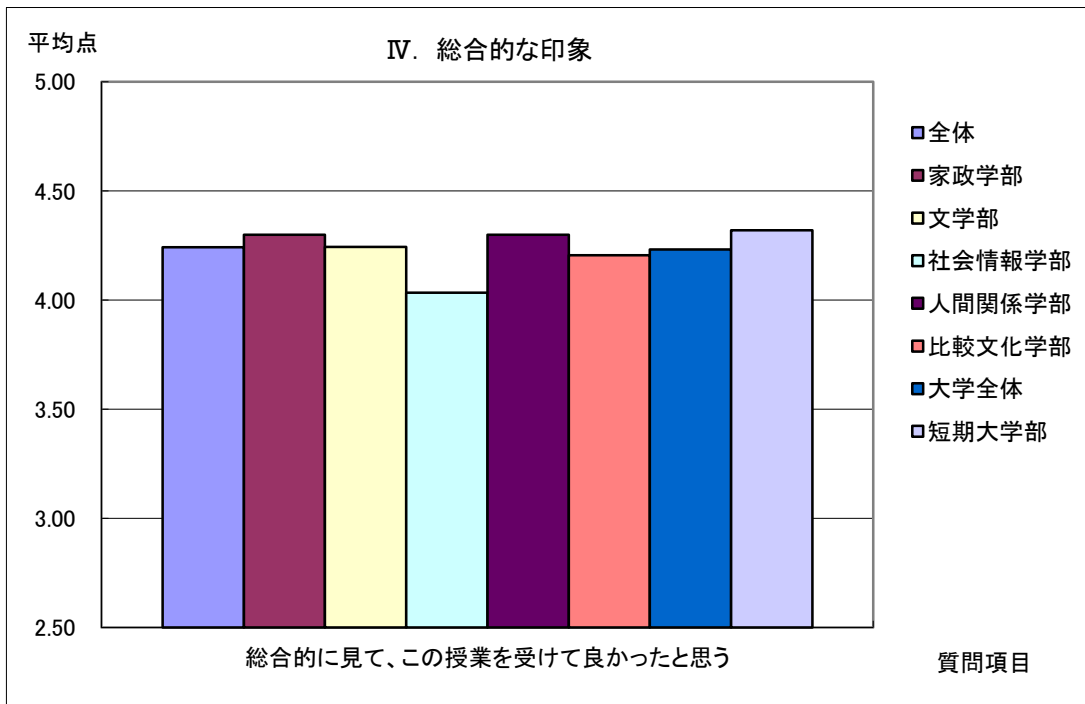
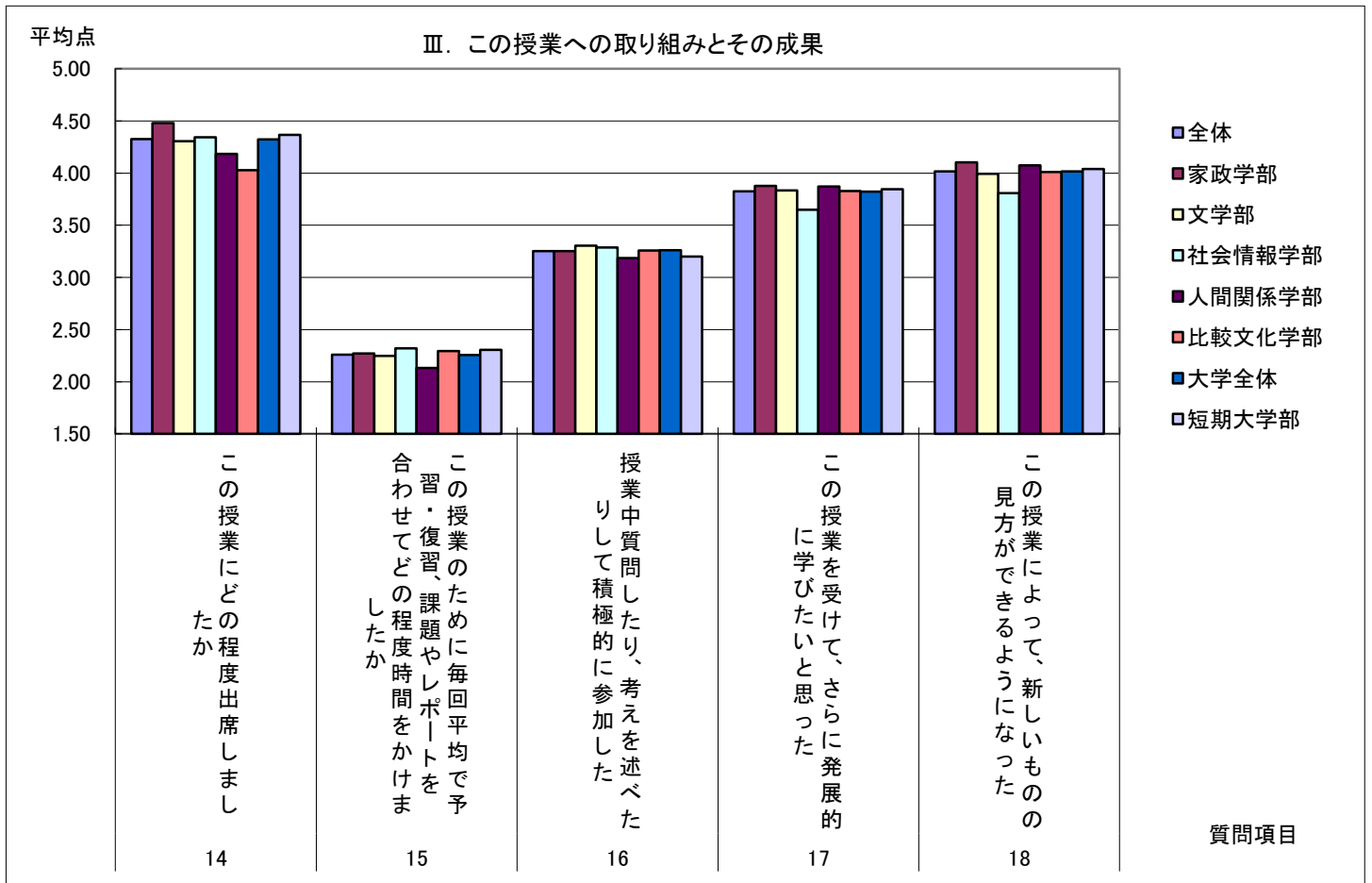
III. この授業への取り組みとその成果について

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.33	4.48	4.31	4.34	4.18	4.03	4.32	4.37
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.26	2.27	2.25	2.32	2.13	2.29	2.26	2.31
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.25	3.25	3.30	3.29	3.19	3.26	3.26	3.20
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.83	3.88	3.83	3.65	3.87	3.83	3.82	3.85
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.02	4.10	3.99	3.81	4.07	4.01	4.02	4.04

IV. 総合的な印象

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	4.30	4.24	4.03	4.30	4.21	4.23	4.32





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
	3,068	2,123	1,480	1,590	1,910	3,059	3,254	2,922	3,007	3,282	3,177
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
3,189	2,390	1,880	957	1,478	335	5,598	1,294	946	1,608	606	439

I. 教員のこの授業の進め方について		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.28	4.37	4.29	4.16	4.31	4.27	4.43	4.33	4.25	4.18	4.27
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	4.41	4.29	4.17	4.36	4.28	4.44	4.35	4.28	4.17	4.29
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.38	4.42	4.40	4.09	4.25	4.32	4.50	4.43	4.35	4.22	4.33
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	4.20	4.02	3.84	4.12	4.02	4.22	4.16	4.14	3.97	4.08
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	4.11	3.99	3.87	4.08	3.96	4.12	4.21	4.13	3.97	4.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.47	4.54	4.47	4.30	4.42	4.38	4.64	4.48	4.44	4.28	4.37
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	4.55	4.40	4.29	4.46	4.40	4.61	4.45	4.40	4.28	4.36

II. この授業の内容について		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.35	4.43	4.30	4.03	4.30	4.27	4.43	4.29	4.26	4.14	4.27
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.24	4.35	4.18	3.94	4.22	4.17	4.35	4.25	4.21	4.08	4.20
10	授業の内容は興味深いものだった	4.24	4.32	4.16	4.02	4.25	4.10	4.31	4.22	4.15	4.05	4.15
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	4.22	4.04	3.91	4.18	4.06	4.22	4.17	4.10	3.96	4.09
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	4.36	4.32	4.15	4.34	4.19	4.15	4.21	4.13	4.05	4.15
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	4.27	4.04	3.81	4.15	4.08	4.25	4.18	4.11	3.97	4.08

III. この授業への取り組みとその成果について		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	4.72	4.79	4.47	4.54	4.38	4.29	4.34	4.40	4.40	4.47
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.37	2.43	2.42	2.04	2.35	2.34	2.34	2.27	2.15	2.26	2.41
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.12	3.14	2.91	2.94	3.24	2.98	2.97	3.28	3.26	3.10	3.31
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.78	3.89	3.75	3.63	3.87	3.66	3.76	3.82	3.74	3.62	3.74
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.01	4.14	3.95	3.85	4.08	3.95	4.06	3.94	3.92	3.81	3.90

IV. 総合的な印象		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	4.36	4.26	4.11	4.30	4.15	4.33	4.18	4.13	4.07	4.17

2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
	3,068	2,123	1,480	1,590	1,910	3,059	3,254	2,922	3,007	3,282	3,177
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
3,189	2,390	1,880	957	1,478	335	5,598	1,294	946	1,608	606	439

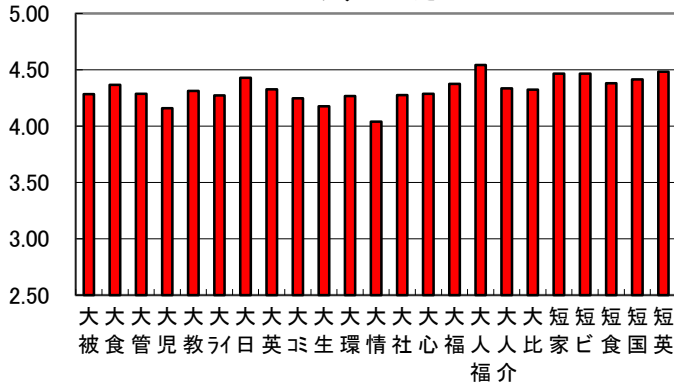
I. 教員のこの授業の進め方について		大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.04	4.28	4.29	4.37	4.54	4.33	4.32	4.47	4.47	4.38	4.41	4.48
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.07	4.29	4.37	4.45	4.47	4.28	4.34	4.49	4.50	4.42	4.38	4.54
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.13	4.37	4.45	4.47	4.48	4.30	4.42	4.50	4.58	4.51	4.54	4.58
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.79	4.10	4.13	4.30	4.37	4.21	4.14	4.24	4.24	4.19	4.17	4.35
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.86	4.02	4.11	4.07	4.34	4.24	4.09	4.13	4.27	4.16	4.18	4.47
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.19	4.44	4.52	4.57	4.55	4.32	4.48	4.65	4.59	4.57	4.54	4.57
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.17	4.42	4.48	4.57	4.55	4.36	4.47	4.59	4.61	4.51	4.49	4.56

II. この授業の内容について		大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.07	4.27	4.34	4.40	4.48	4.27	4.34	4.51	4.46	4.42	4.35	4.43
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	3.98	4.23	4.25	4.40	4.42	4.21	4.25	4.42	4.39	4.31	4.31	4.42
10	授業の内容は興味深いものだった	3.88	4.15	4.26	4.34	4.40	4.22	4.17	4.38	4.34	4.27	4.27	4.38
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.77	4.08	4.14	4.27	4.36	4.19	4.10	4.30	4.25	4.16	4.13	4.32
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.87	4.15	4.28	4.34	4.44	4.23	4.15	4.47	4.49	4.31	4.16	4.46
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.80	4.11	4.13	4.24	4.27	4.21	4.17	4.31	4.26	4.15	4.20	4.33

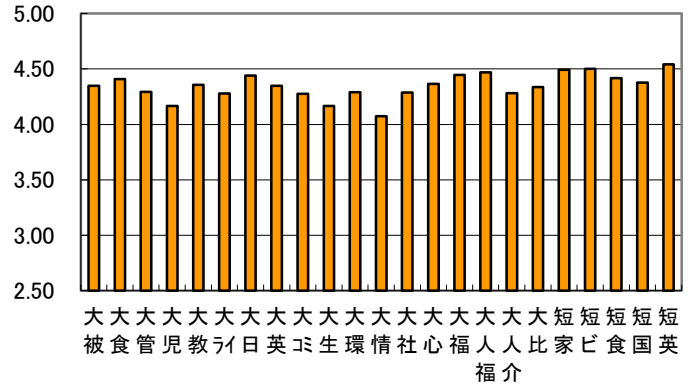
III. この授業への取り組みとその成果について		大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.43	4.10	4.17	4.45	4.38	4.33	4.24	4.47	4.52	4.53	4.32	4.30
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.37	2.03	2.07	2.27	2.08	1.94	2.33	2.48	2.05	2.67	2.41	2.61
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.14	2.89	3.03	3.02	3.11	3.61	3.06	3.15	3.23	3.41	3.01	3.60
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.41	3.67	3.78	3.86	3.98	3.96	3.74	3.94	3.90	3.85	3.70	4.08
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.55	3.92	4.00	4.10	4.18	4.10	3.93	4.20	4.04	4.03	3.93	4.14

IV. 総合的な印象		大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.89	4.16	4.27	4.39	4.38	4.29	4.17	4.50	4.45	4.31	4.24	4.41

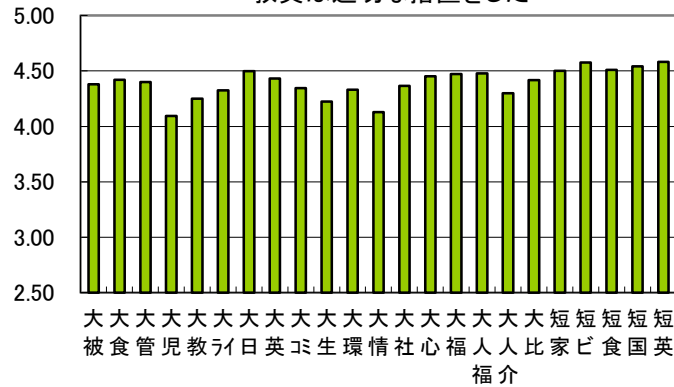
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった



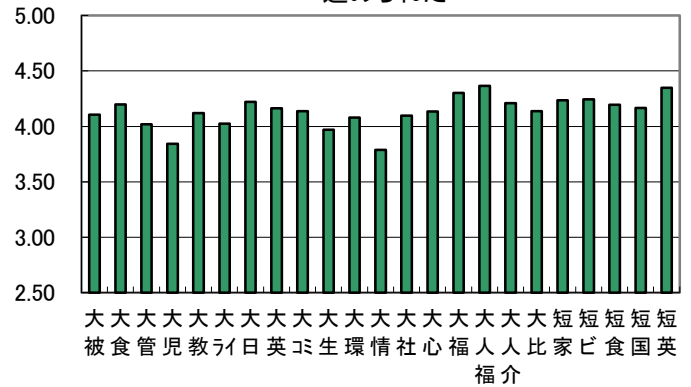
2 教材資料提示は授業の理解に役立った



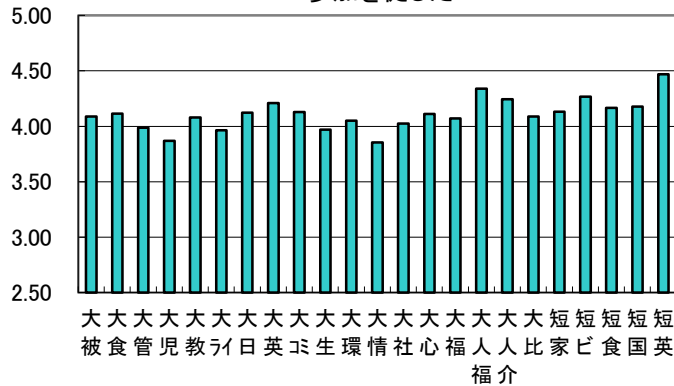
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした



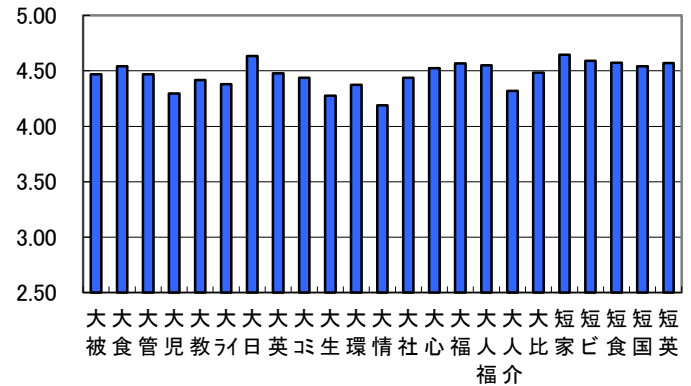
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた



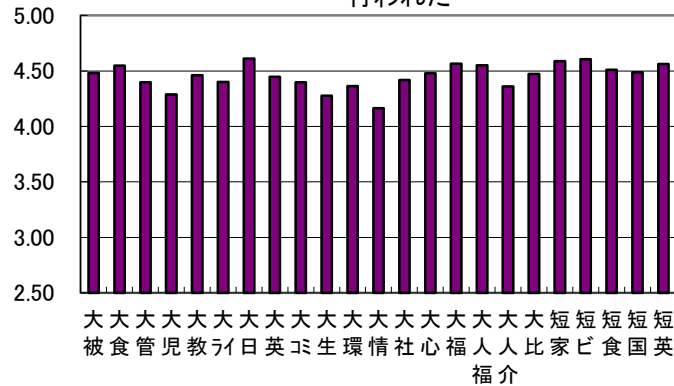
5 質問や意見を引き出し学生の積極的な参加を促した



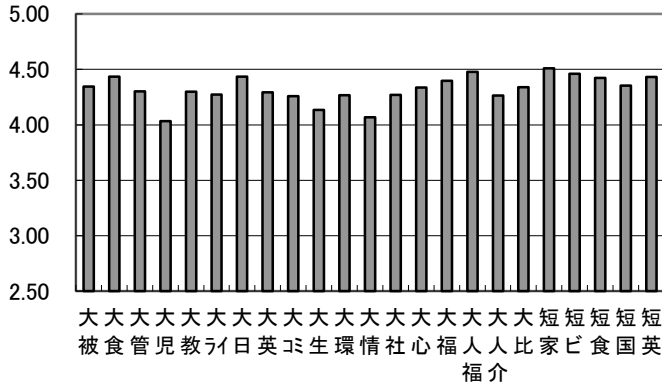
6 教員の学生に対する接し方は公平だった



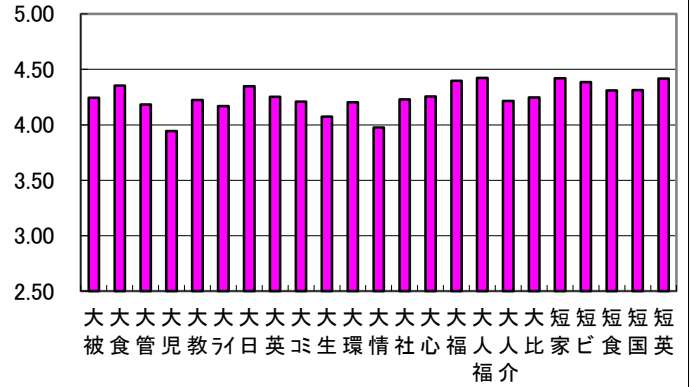
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた



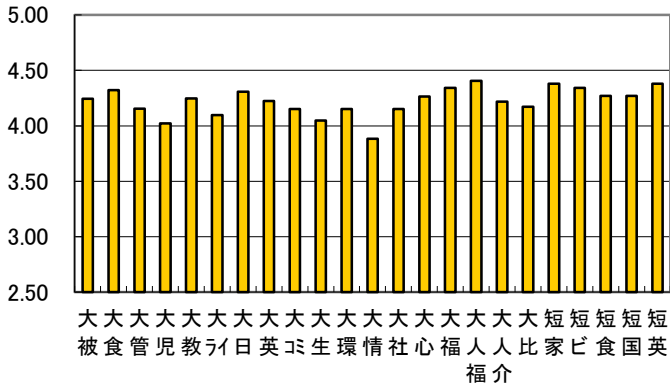
8 授業は学習の目標がはっきり示された



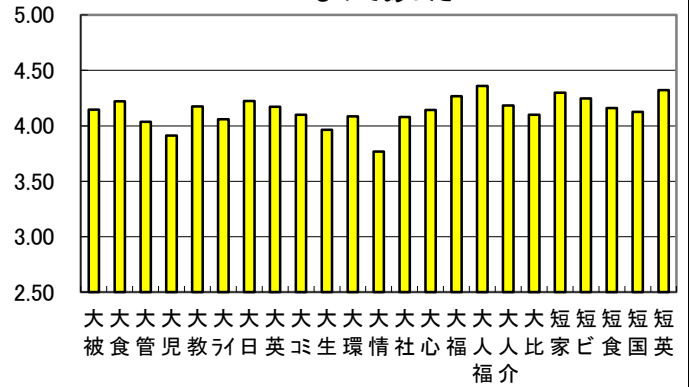
9 授業の構成は体系的で把握しやすく
まとまっていた



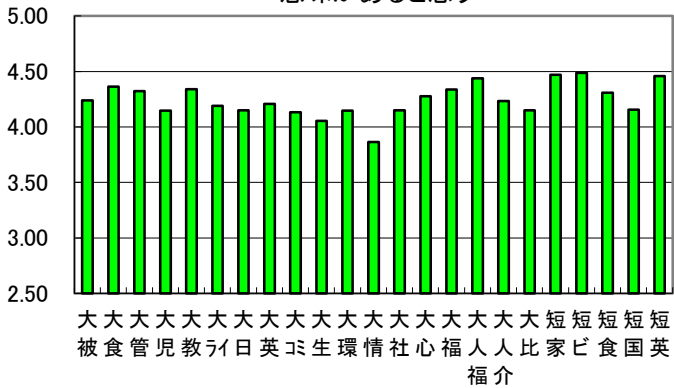
10 授業の内容は興味深いものだった



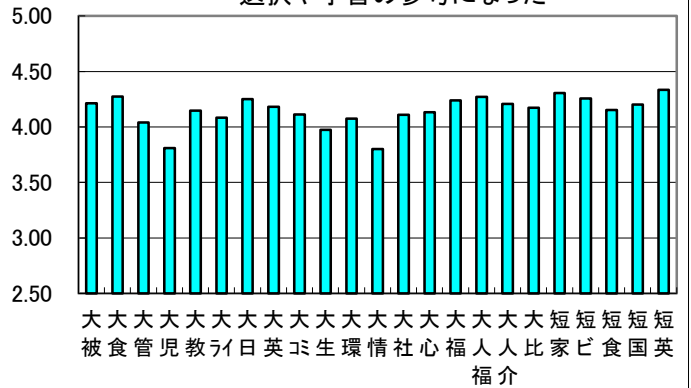
11 授業の内容はよく理解できる
ものであった



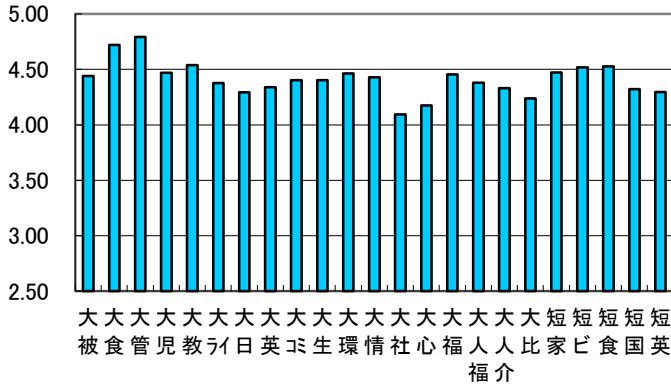
12 授業は自分の将来にとって
意味があると思う



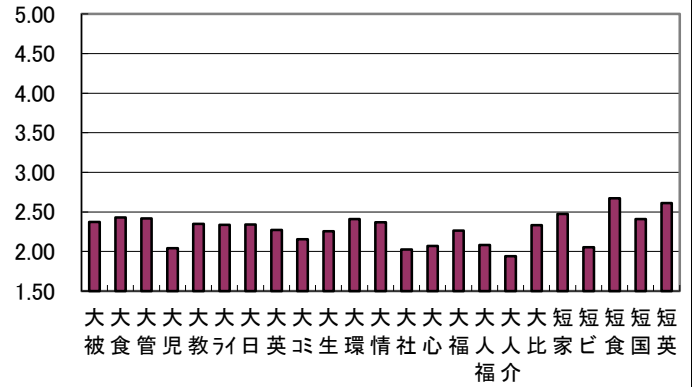
13 「授業内容」(シラバス)は科目の
選択や学習の参考になった



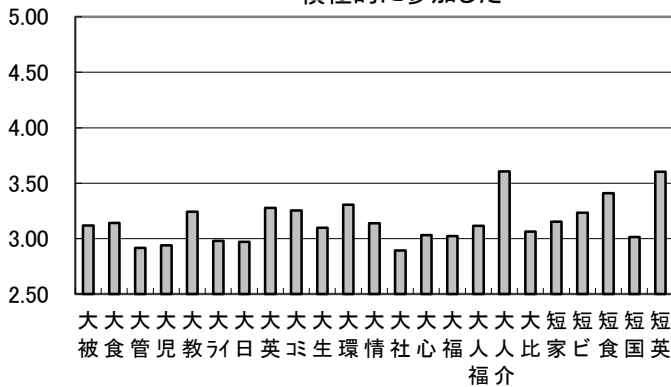
14 この授業にどの程度出席しましたか



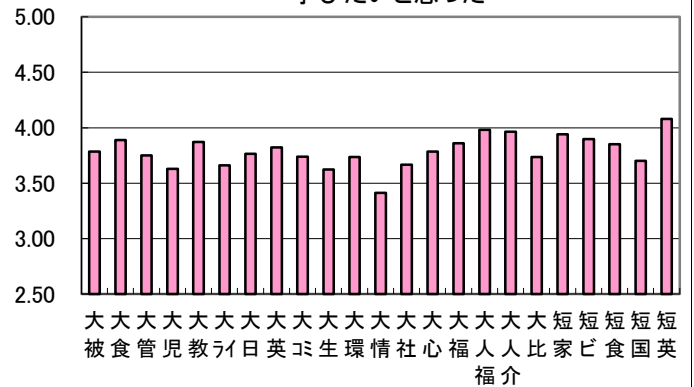
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか



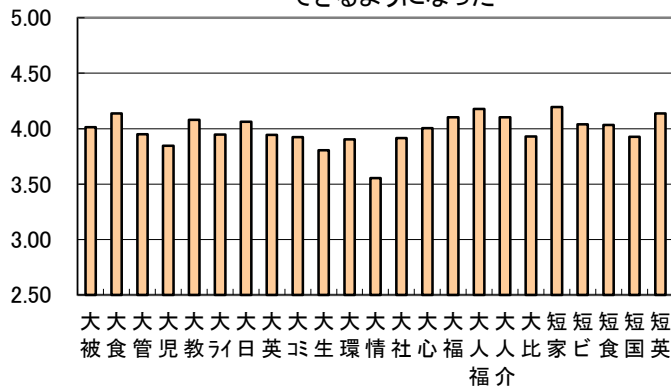
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した



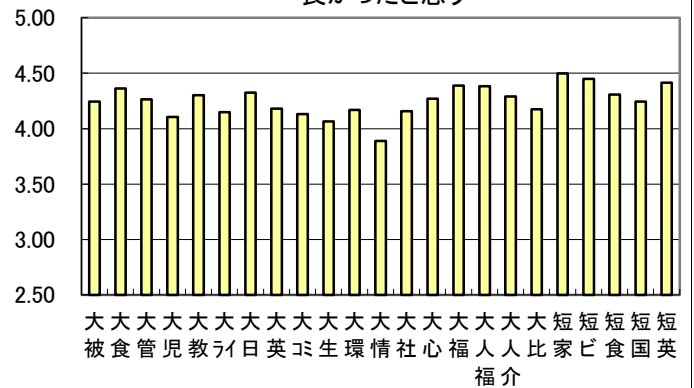
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った



18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった



19 総合的に見てこの授業を受けて良かったと思う



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
	2,606	1,874	1,312	1,445	1,712	2,402	2,739	2,560	2,314	2,463	2,373
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
2,304	1,893	2,145	996	1,143	198	4,651	1,153	821	1,339	454	423

I. 教員のこの授業の進め方について		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.31	4.42	4.40	4.34	4.39	4.37	4.39	4.44	4.29	4.26	4.26
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	4.39	4.36	4.37	4.41	4.35	4.44	4.44	4.34	4.25	4.31
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.39	4.48	4.33	4.29	4.31	4.37	4.49	4.48	4.39	4.33	4.36
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	4.24	4.09	4.14	4.21	4.17	4.18	4.30	4.20	4.04	4.14
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	4.24	4.02	4.25	4.27	4.14	4.14	4.33	4.24	4.07	4.12
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	4.54	4.47	4.47	4.45	4.47	4.58	4.53	4.46	4.38	4.41
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	4.52	4.44	4.47	4.50	4.48	4.57	4.53	4.42	4.35	4.39

II. この授業の内容について		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.38	4.45	4.36	4.29	4.36	4.36	4.38	4.41	4.33	4.23	4.26
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.25	4.33	4.26	4.20	4.29	4.25	4.29	4.38	4.25	4.15	4.21
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	4.32	4.22	4.34	4.34	4.22	4.27	4.33	4.19	4.11	4.15
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	4.24	4.13	4.20	4.27	4.15	4.20	4.31	4.18	4.02	4.11
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	4.35	4.32	4.43	4.41	4.29	4.15	4.33	4.22	4.12	4.15
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.24	4.29	4.07	4.05	4.18	4.20	4.22	4.32	4.22	4.05	4.11

III. この授業への取り組みとその成果について		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.41	4.69	4.75	4.58	4.56	4.33	4.20	4.29	4.37	4.31	4.42
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.42	2.35	2.28	2.27	2.39	2.28	2.18	2.23	2.18	2.19	2.28
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.27	3.35	3.04	3.46	3.49	3.13	2.98	3.48	3.48	3.24	3.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.84	3.98	3.79	4.00	4.03	3.76	3.72	3.99	3.85	3.67	3.79
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.06	4.20	3.97	4.16	4.20	4.04	3.96	4.13	3.97	3.87	3.95

IV. 総合的な印象		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	4.35	4.26	4.38	4.40	4.26	4.27	4.31	4.20	4.09	4.16

2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
	2,606	1,874	1,312	1,445	1,712	2,402	2,739	2,560	2,314	2,463	2,373
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
2,304	1,893	2,145	996	1,143	198	4,651	1,153	821	1,339	454	423

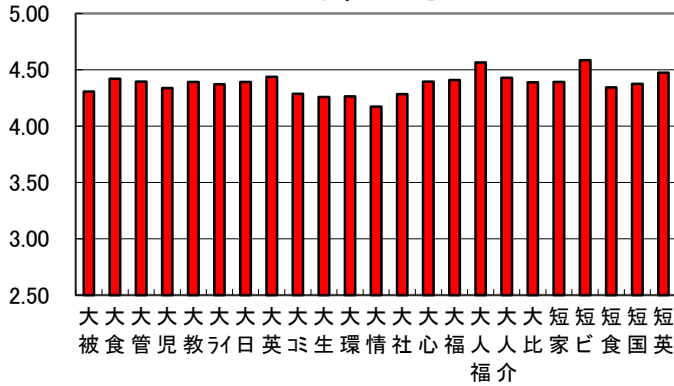
I. 教員のこの授業の進め方について		大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.17	4.28	4.40	4.41	4.57	4.43	4.39	4.39	4.59	4.34	4.37	4.48
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.15	4.29	4.40	4.37	4.45	4.39	4.40	4.40	4.60	4.36	4.39	4.52
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.25	4.40	4.43	4.35	4.48	4.41	4.46	4.47	4.58	4.44	4.45	4.57
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.90	4.12	4.21	4.19	4.38	4.32	4.25	4.18	4.38	4.20	4.10	4.38
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	4.04	4.20	4.08	4.37	4.34	4.24	4.05	4.34	4.20	4.06	4.47
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.31	4.43	4.52	4.52	4.56	4.41	4.48	4.51	4.62	4.52	4.46	4.56
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.29	4.42	4.49	4.50	4.53	4.49	4.49	4.51	4.64	4.48	4.50	4.61

II. この授業の内容について		大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.19	4.27	4.39	4.32	4.44	4.39	4.37	4.41	4.55	4.41	4.38	4.48
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.10	4.20	4.31	4.30	4.41	4.41	4.31	4.31	4.50	4.29	4.27	4.43
10	授業の内容は興味深いものだった	4.02	4.15	4.32	4.21	4.39	4.36	4.25	4.20	4.44	4.23	4.22	4.38
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.86	4.08	4.21	4.14	4.34	4.28	4.21	4.15	4.39	4.13	4.13	4.38
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.99	4.13	4.30	4.26	4.40	4.40	4.22	4.30	4.54	4.31	4.17	4.41
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.95	4.11	4.15	4.06	4.30	4.35	4.25	4.21	4.39	4.13	4.19	4.36

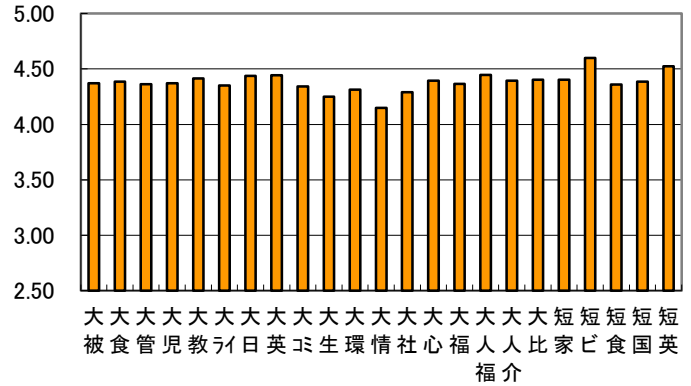
III. この授業への取り組みとその成果について		大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	4.01	4.16	4.26	4.36	4.42	4.05	4.36	4.32	4.57	4.21	4.04
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.47	2.01	2.24	1.90	2.08	2.24	2.28	2.17	1.94	2.57	2.23	2.66
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.34	2.97	3.18	2.94	3.36	3.90	3.22	2.94	3.23	3.37	3.03	3.60
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.59	3.69	3.86	3.75	4.04	4.10	3.84	3.76	3.99	3.83	3.75	4.09
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.74	3.95	4.05	3.96	4.21	4.27	4.03	4.04	4.15	3.97	3.95	4.21

IV. 総合的な印象		大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.03	4.14	4.31	4.24	4.36	4.42	4.23	4.27	4.50	4.27	4.25	4.45

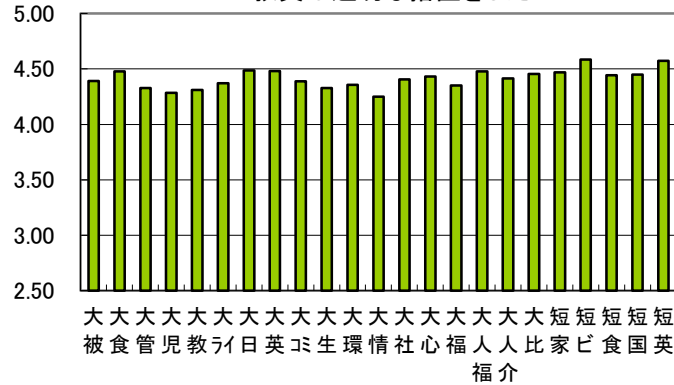
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった



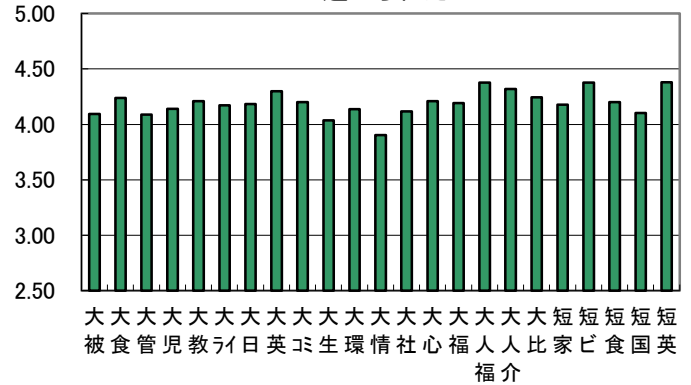
2 教材資料提示は授業の理解に役立った



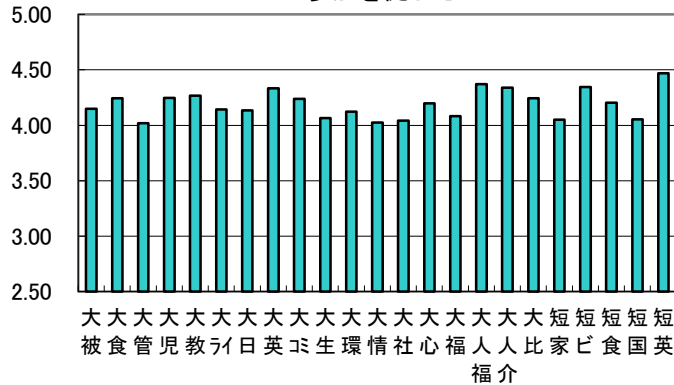
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした



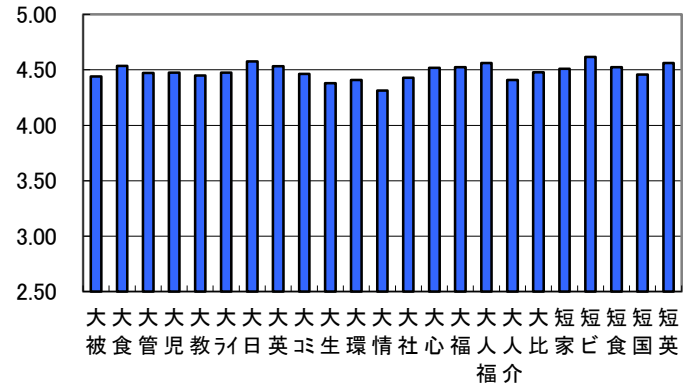
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた



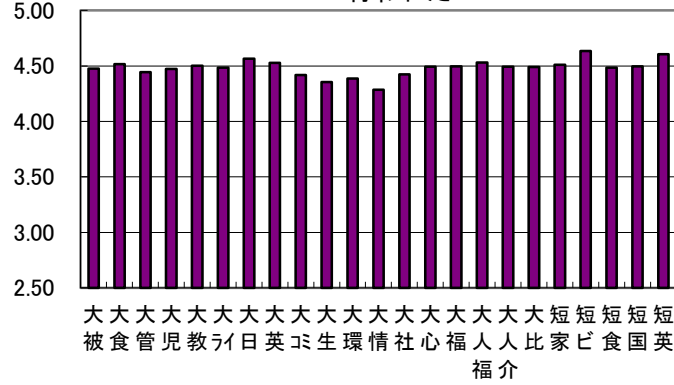
5 質問や意見を引き出し学生の積極的な参加を促した



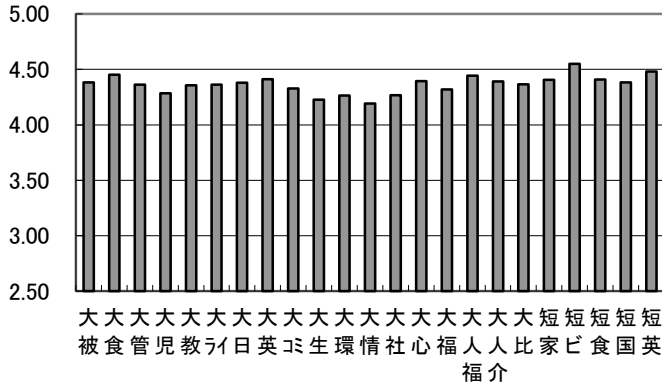
6 教員の学生に対する接し方は公平だった



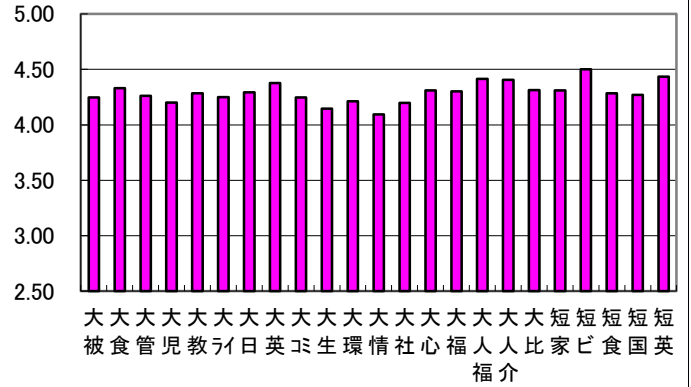
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた



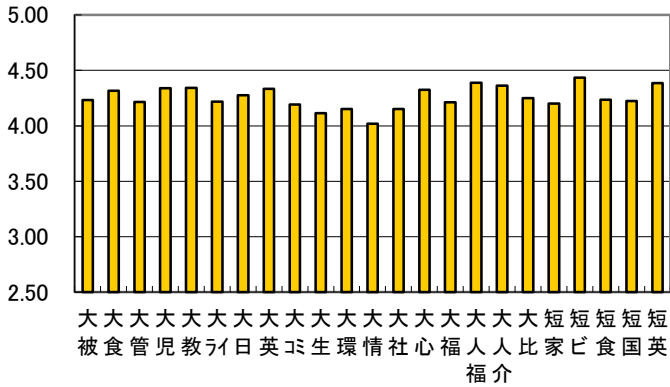
8 授業は学習の目標がはっきり示された



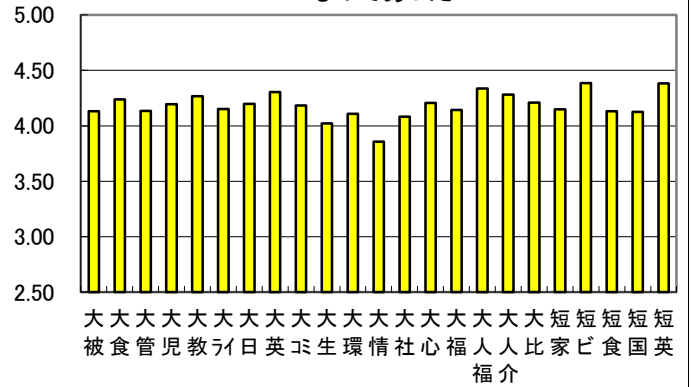
9 授業の構成は体系的で把握しやすく
まとまっていた



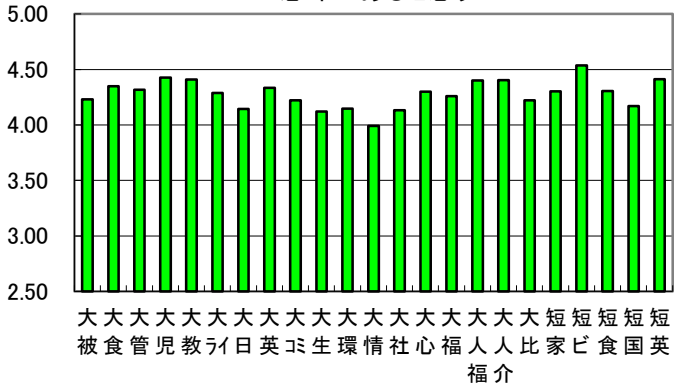
10 授業の内容は興味深いものだった



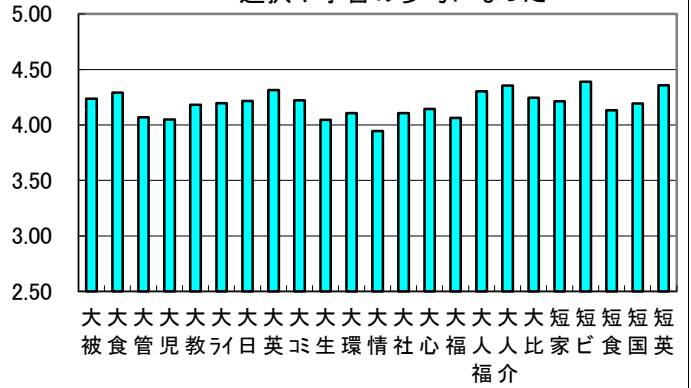
11 授業の内容はよく理解できる
ものであった



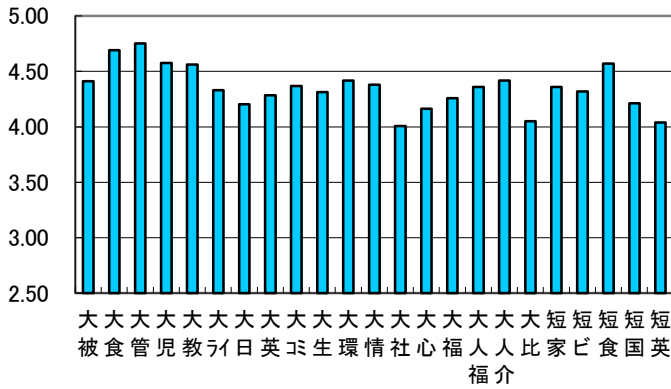
12 授業は自分の将来にとって
意味があると思う



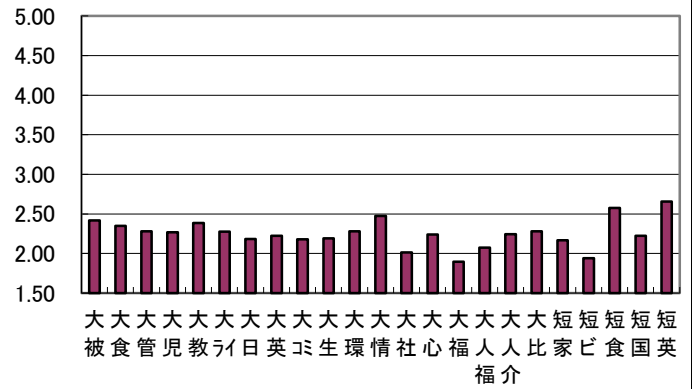
13 「授業内容」(シラバス)は科目の
選択や学習の参考になった



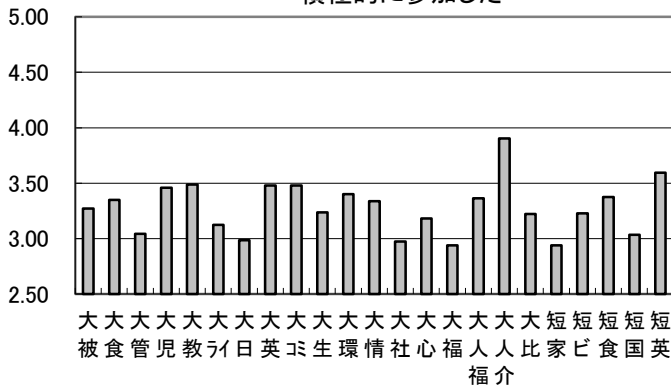
14 この授業にどの程度出席しましたか



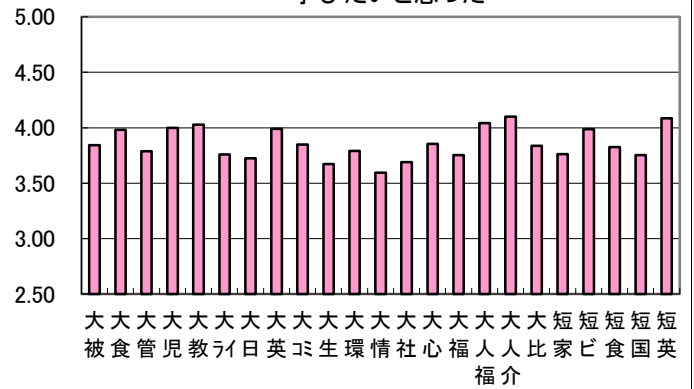
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか



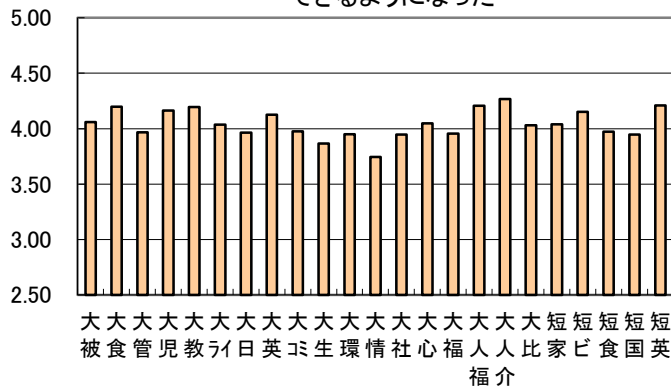
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した



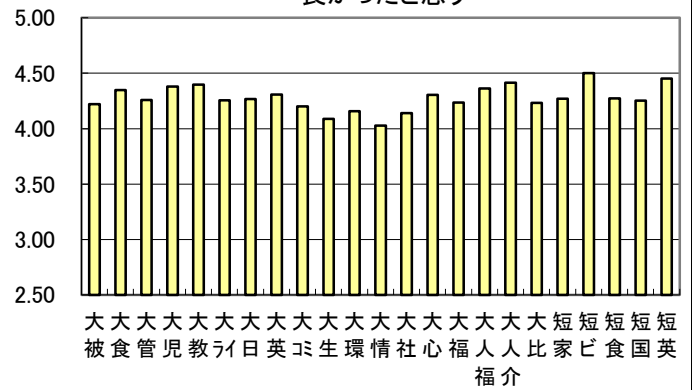
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った



18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった



19 総合的に見てこの授業を受けて良かったと思う



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(学年別)

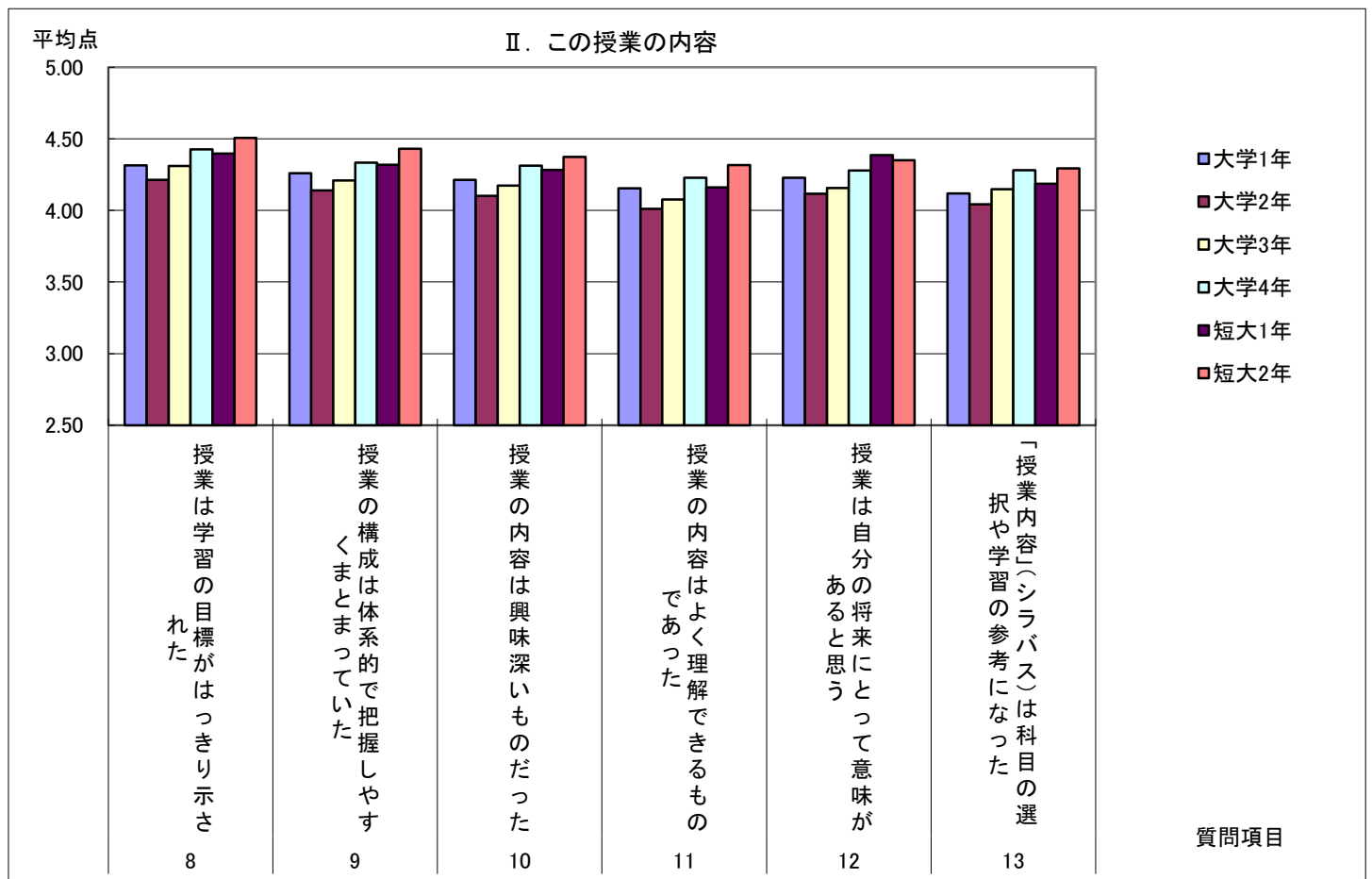
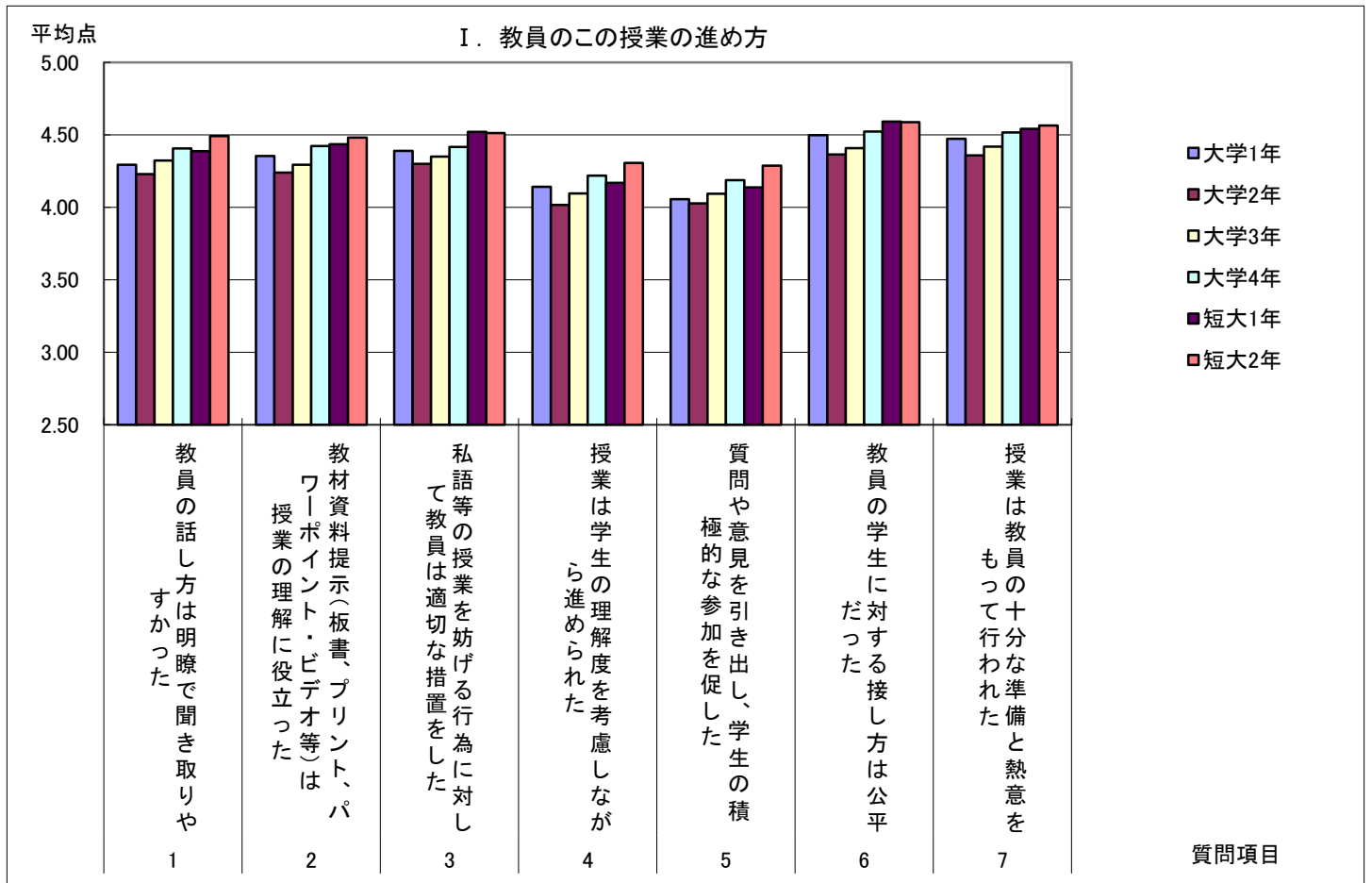
	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	16,419	15,093	10,463	2,817	3,010	1,790

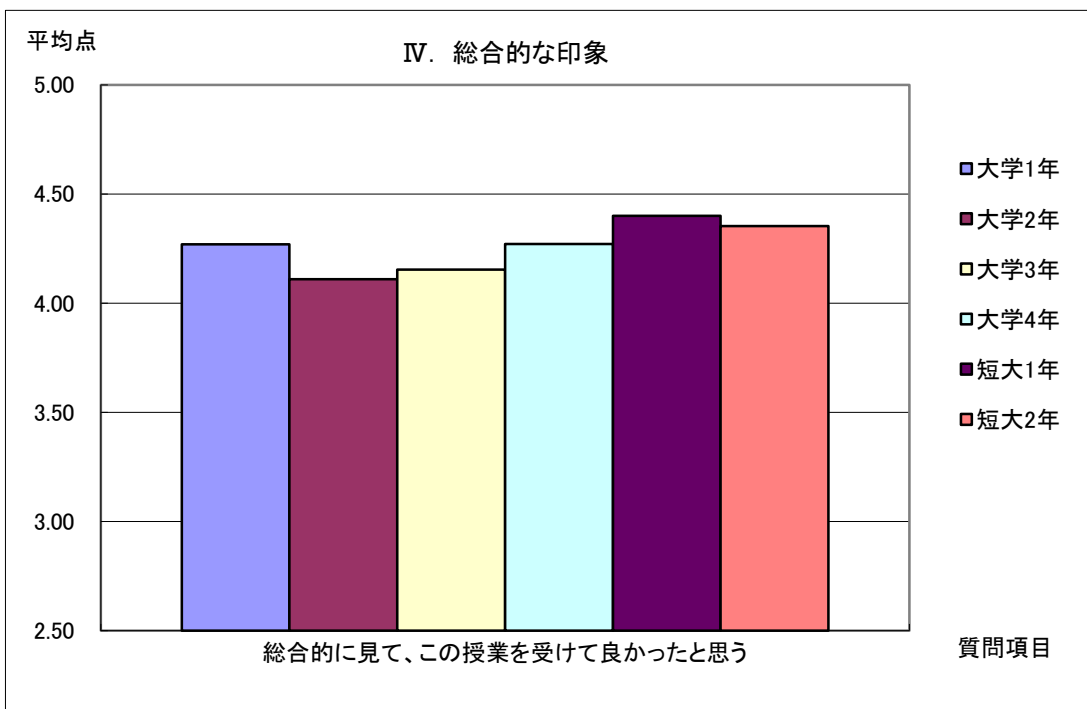
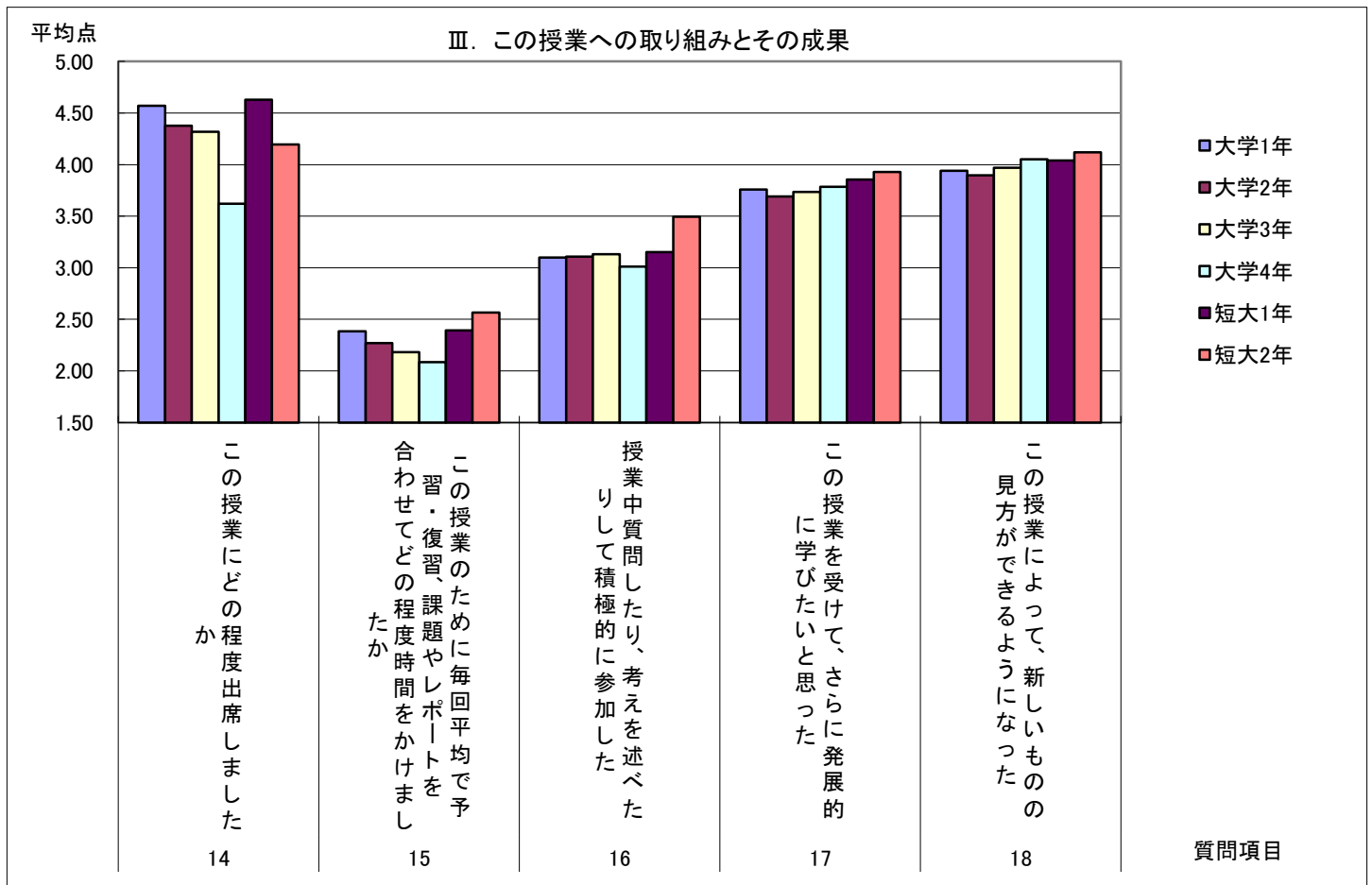
I. 教員のこの授業の進め方について		大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.29	4.23	4.32	4.41	4.39	4.49
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	4.24	4.29	4.42	4.44	4.48
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.39	4.30	4.35	4.42	4.52	4.51
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	4.01	4.10	4.22	4.17	4.31
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.06	4.03	4.09	4.19	4.14	4.29
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.50	4.36	4.41	4.52	4.59	4.59
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	4.36	4.42	4.52	4.54	4.56

II. この授業の内容について		大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.31	4.21	4.31	4.43	4.40	4.51
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.26	4.14	4.21	4.33	4.32	4.43
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	4.10	4.17	4.31	4.28	4.37
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	4.01	4.08	4.23	4.16	4.32
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	4.12	4.16	4.28	4.39	4.35
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.12	4.04	4.15	4.28	4.19	4.29

III. この授業への取り組みとその成果について		大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.57	4.38	4.32	3.62	4.63	4.20
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.38	2.27	2.18	2.09	2.39	2.57
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.10	3.11	3.13	3.01	3.15	3.49
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.76	3.69	3.73	3.78	3.85	3.93
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.94	3.90	3.97	4.05	4.04	4.12

IV. 総合的な印象		大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	4.11	4.15	4.27	4.40	4.35





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(学年別)

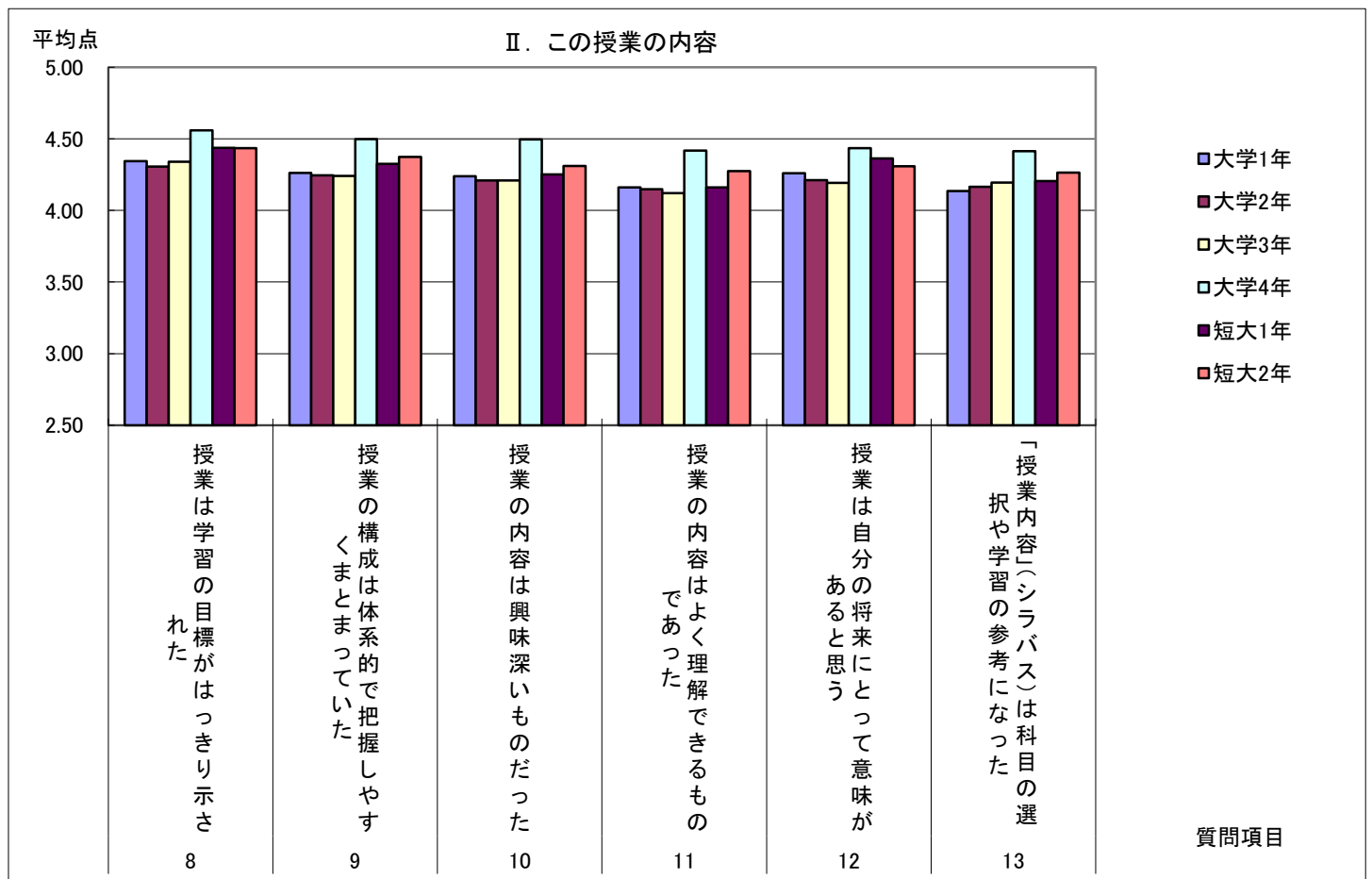
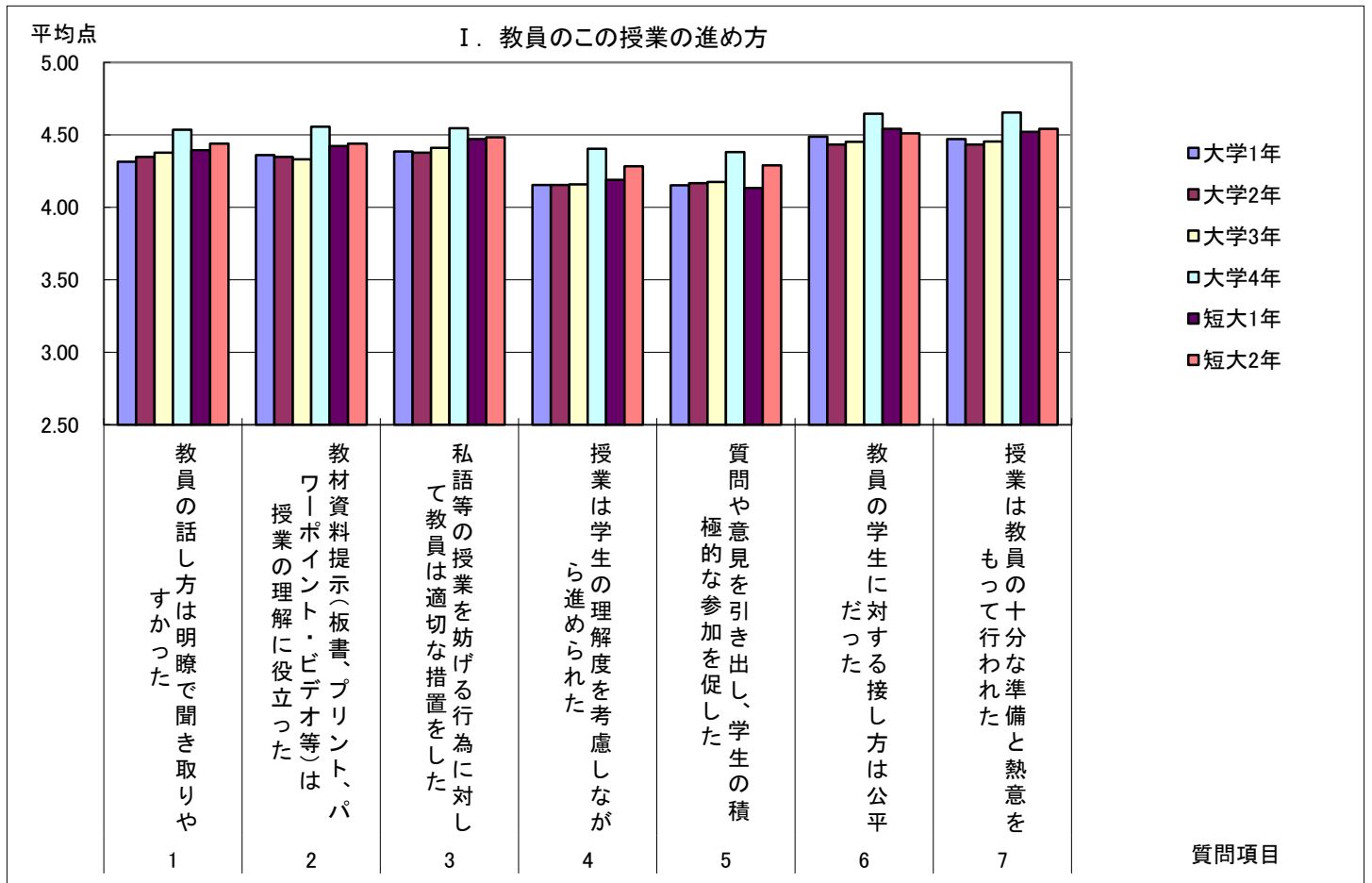
	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	14,385	12,993	8,740	1,636	2,487	1,621

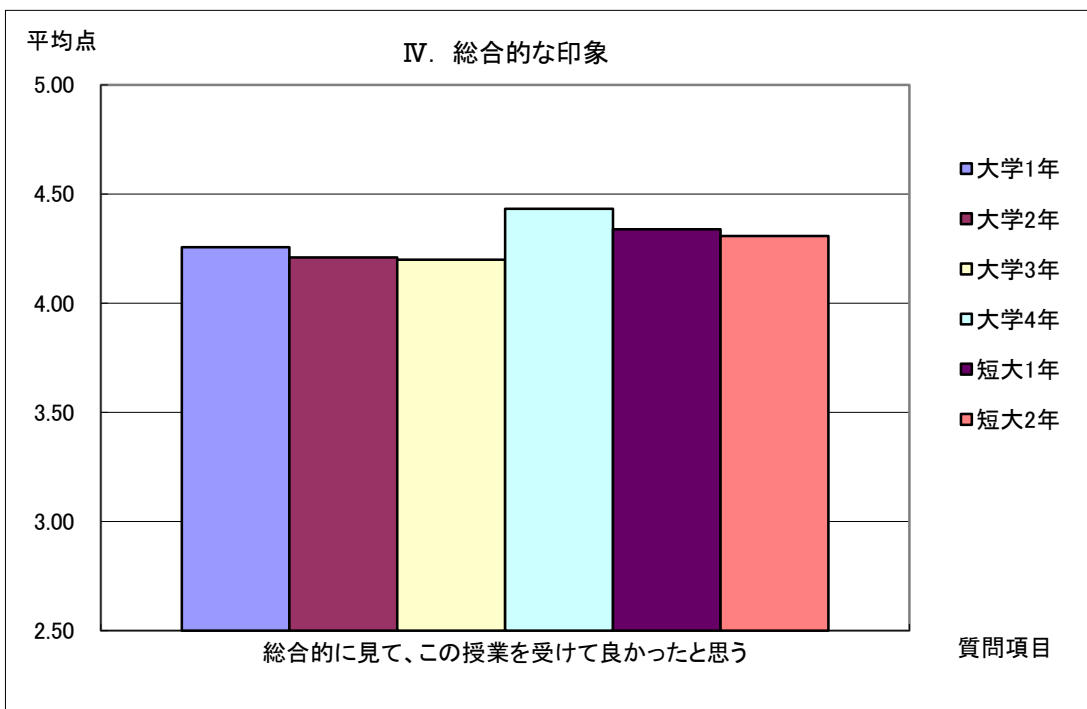
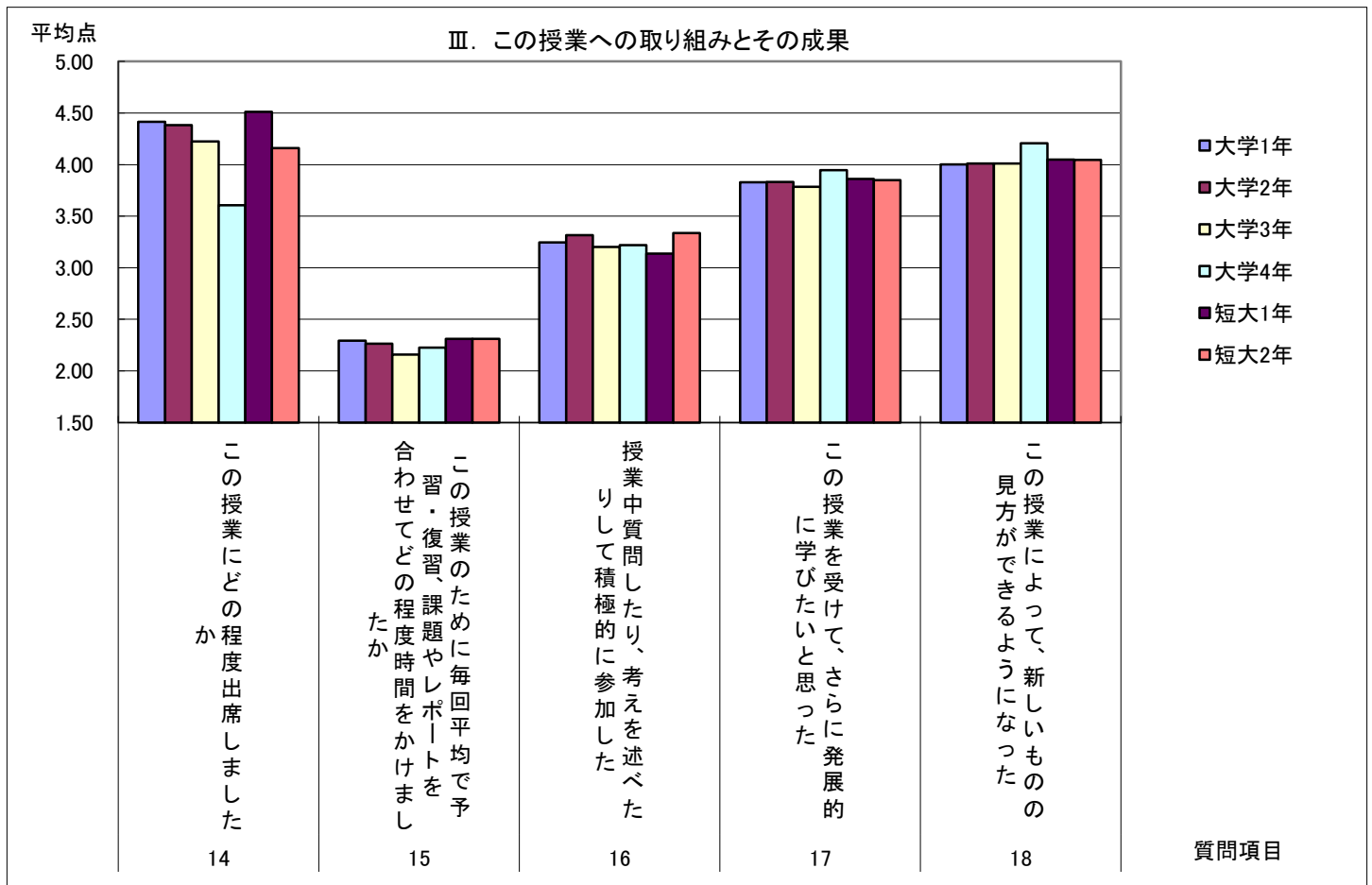
I. 教員のこの授業の進め方について		大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.31	4.35	4.38	4.54	4.39	4.44
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	4.35	4.33	4.56	4.42	4.44
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.39	4.38	4.41	4.54	4.47	4.48
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	4.15	4.16	4.40	4.19	4.28
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	4.17	4.17	4.38	4.13	4.29
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	4.43	4.45	4.65	4.54	4.51
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	4.43	4.45	4.65	4.52	4.54

II. この授業の内容について		大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.34	4.31	4.34	4.56	4.44	4.43
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.26	4.24	4.24	4.50	4.33	4.37
10	授業の内容は興味深いものだった	4.24	4.21	4.21	4.50	4.25	4.31
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	4.15	4.12	4.42	4.16	4.27
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	4.21	4.19	4.43	4.36	4.31
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.13	4.17	4.20	4.41	4.20	4.26

III. この授業への取り組みとその成果について		大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.42	4.38	4.22	3.61	4.51	4.16
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.29	2.27	2.16	2.23	2.31	2.31
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.24	3.32	3.20	3.22	3.14	3.34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.83	3.83	3.79	3.95	3.86	3.85
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	4.01	4.01	4.21	4.05	4.04

IV. 総合的な印象		大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	4.21	4.20	4.43	4.34	4.31





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)大学

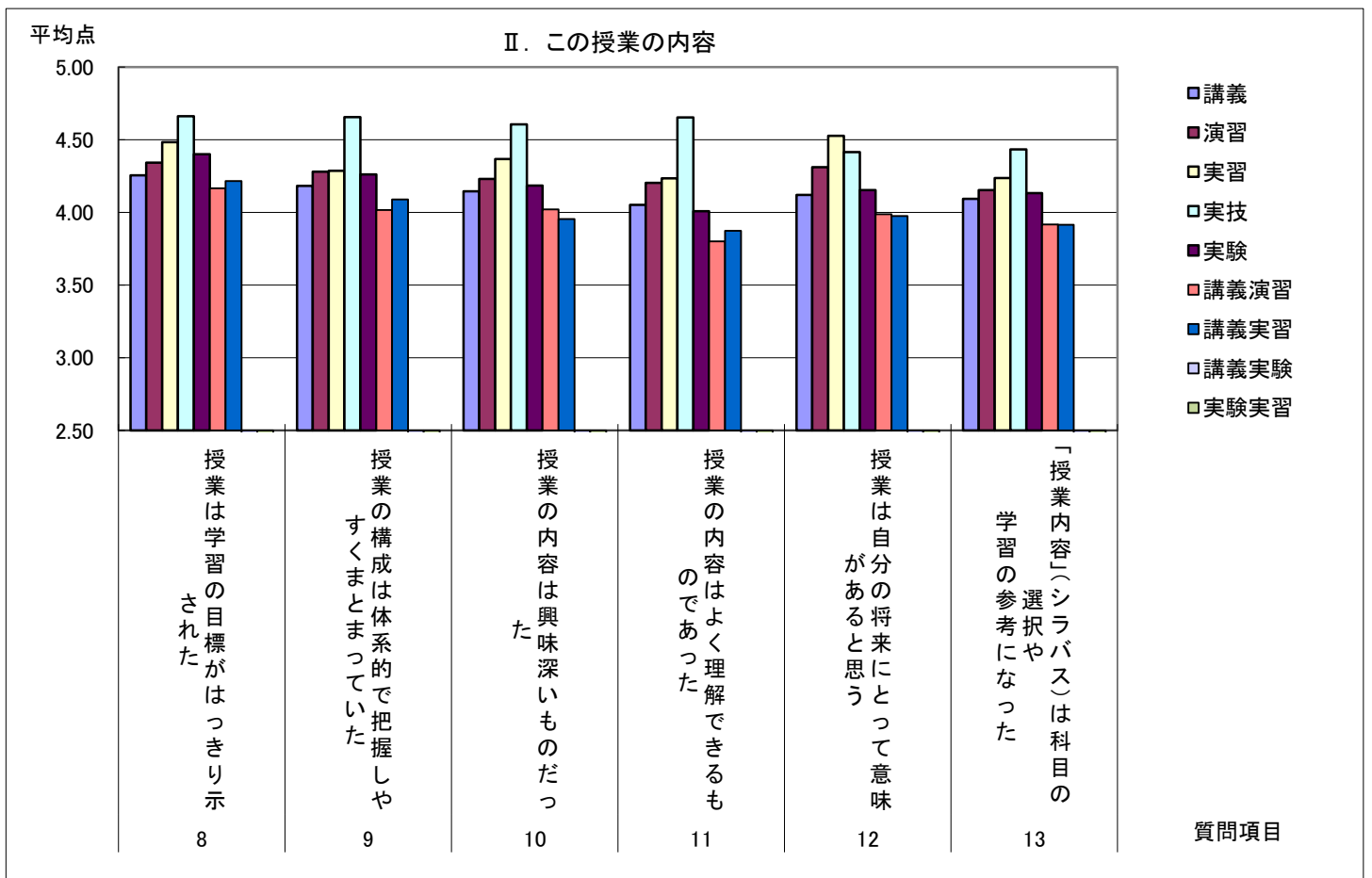
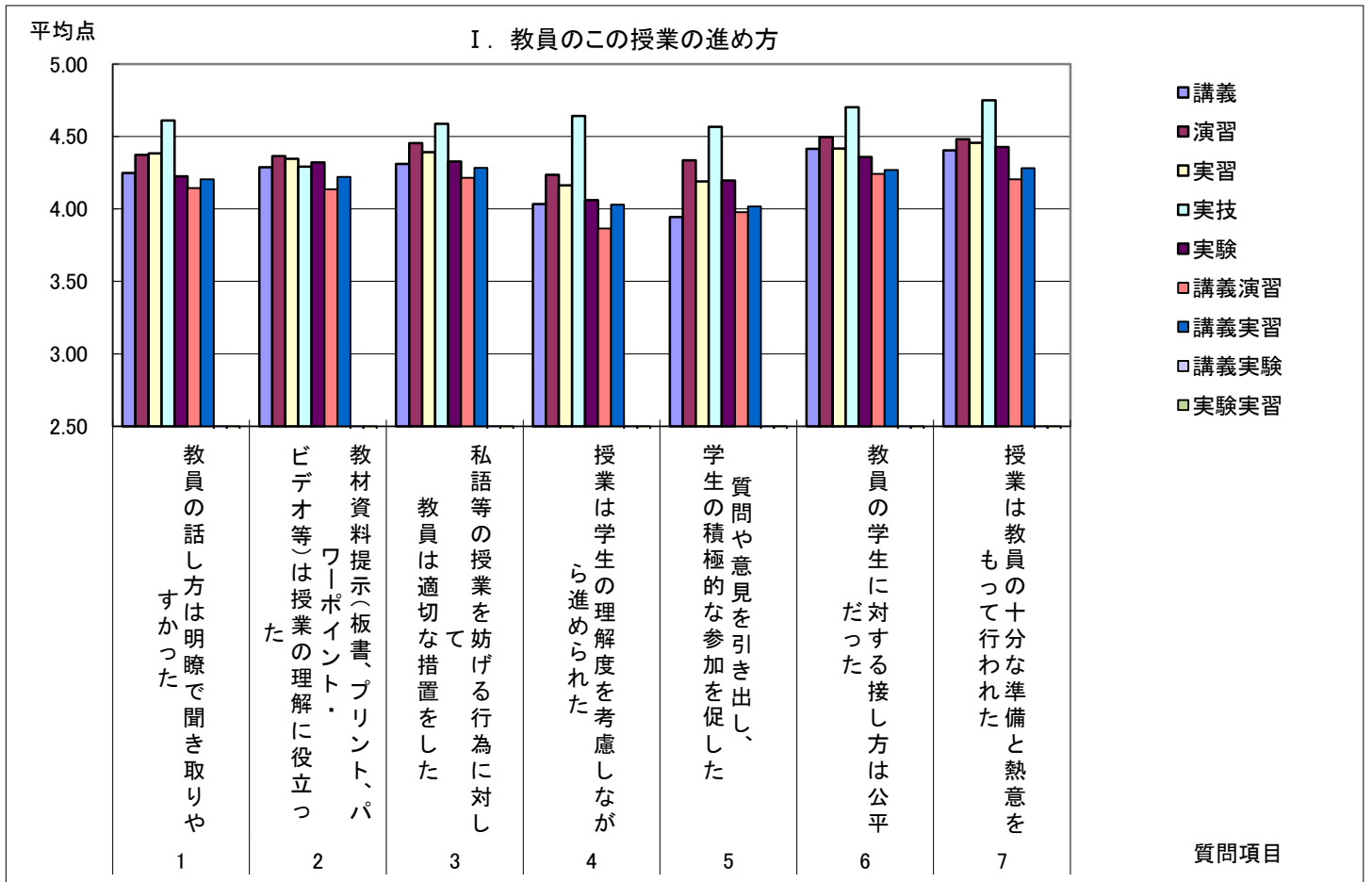
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	38,870	13,828	1,115	604	339	1,753	578	-	-
回答者数	30,615	11,996	1,005	550	315	1,350	467	-	-
回答率(%)	78.76	86.75	90.13	91.06	92.92	77.01	80.80	-	-

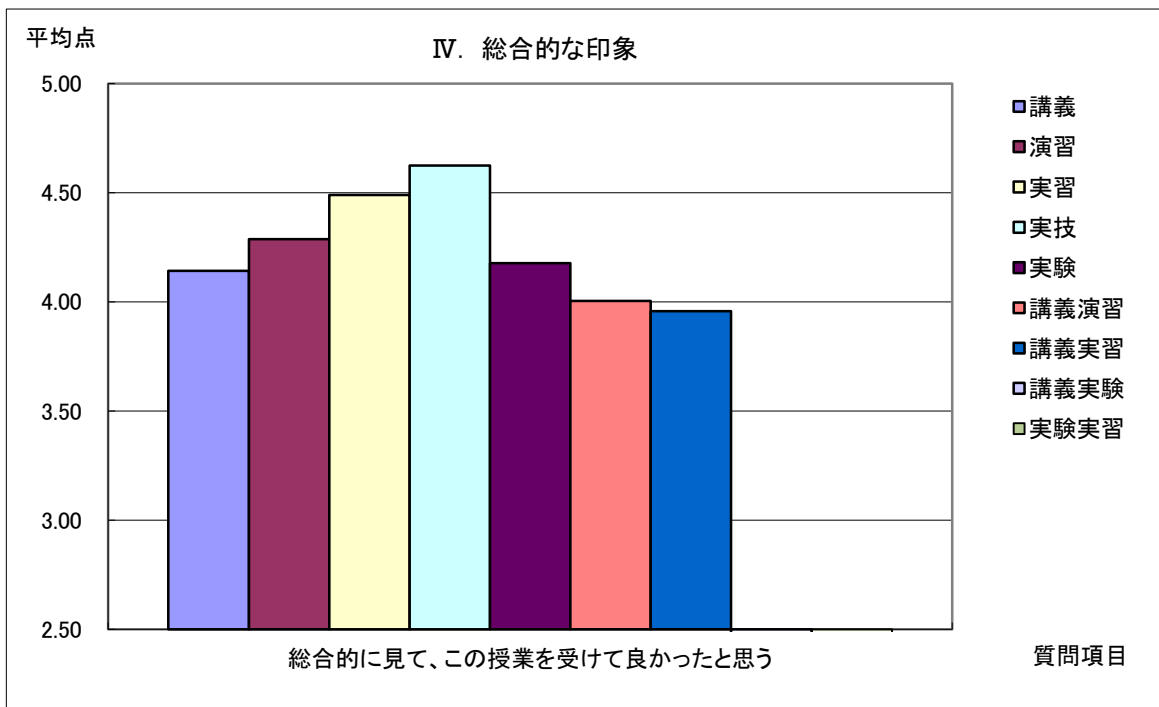
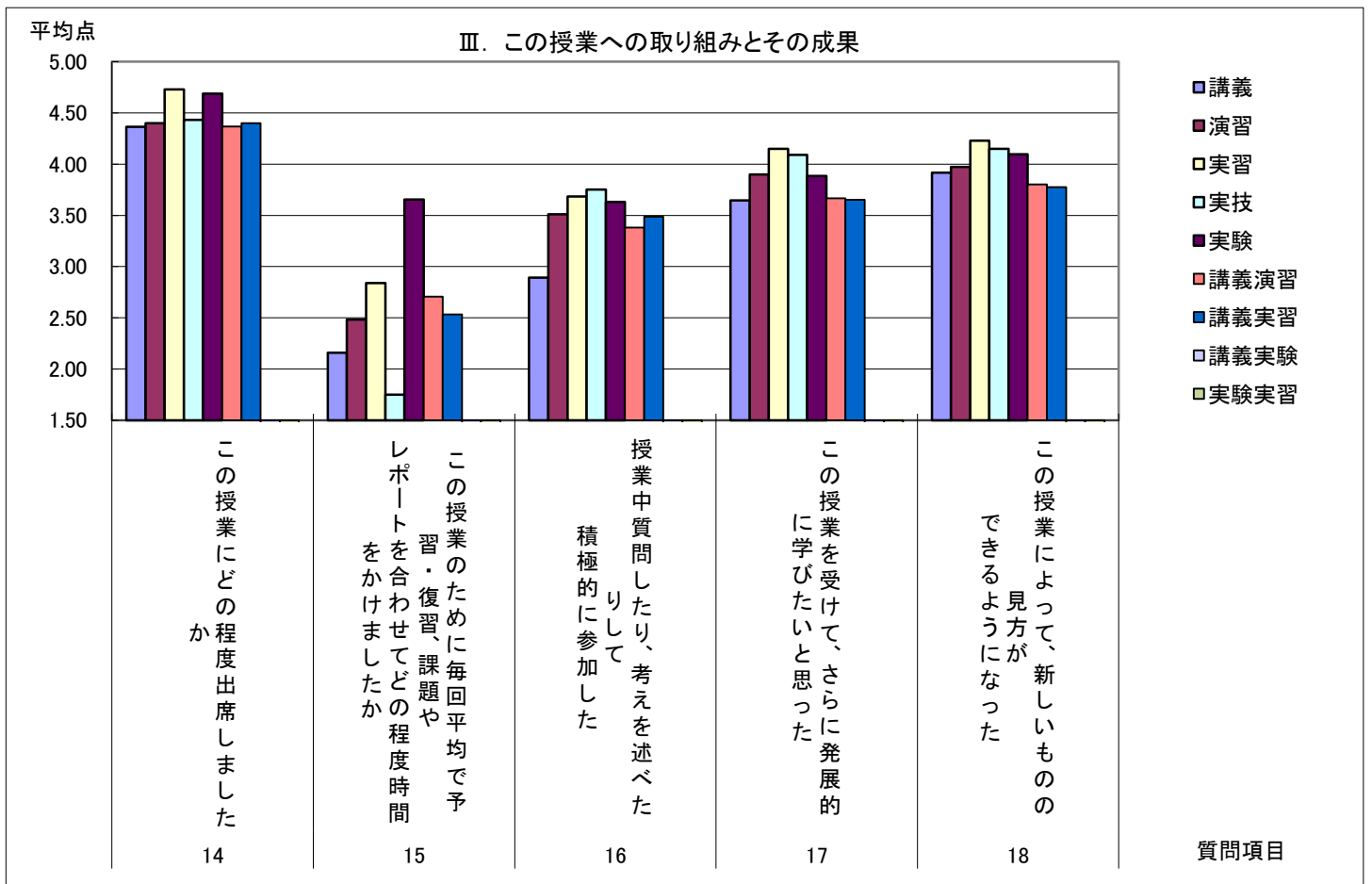
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.25	4.37	4.38	4.61	4.23	4.14	4.20	-	-
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	4.37	4.35	4.29	4.32	4.14	4.22	-	-
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.31	4.46	4.39	4.59	4.33	4.22	4.28	-	-
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.04	4.24	4.16	4.64	4.06	3.87	4.03	-	-
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.94	4.34	4.19	4.57	4.20	3.98	4.02	-	-
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.41	4.50	4.42	4.70	4.36	4.24	4.27	-	-
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	4.48	4.46	4.75	4.43	4.20	4.28	-	-

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.26	4.34	4.48	4.66	4.40	4.17	4.22	-	-
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.18	4.28	4.29	4.66	4.26	4.02	4.09	-	-
10	授業の内容は興味深いものだった	4.14	4.23	4.37	4.61	4.19	4.02	3.95	-	-
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.05	4.20	4.24	4.65	4.01	3.80	3.87	-	-
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	4.31	4.53	4.41	4.15	3.99	3.98	-	-
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	4.15	4.24	4.43	4.13	3.92	3.92	-	-

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.36	4.40	4.73	4.43	4.69	4.37	4.40	-	-
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.16	2.48	2.84	1.75	3.65	2.71	2.53	-	-
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.89	3.51	3.68	3.75	3.63	3.38	3.49	-	-
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.65	3.90	4.15	4.09	3.88	3.67	3.65	-	-
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.92	3.97	4.23	4.15	4.10	3.80	3.78	-	-

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.14	4.29	4.49	4.62	4.18	4.00	3.96	-	-





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)大学

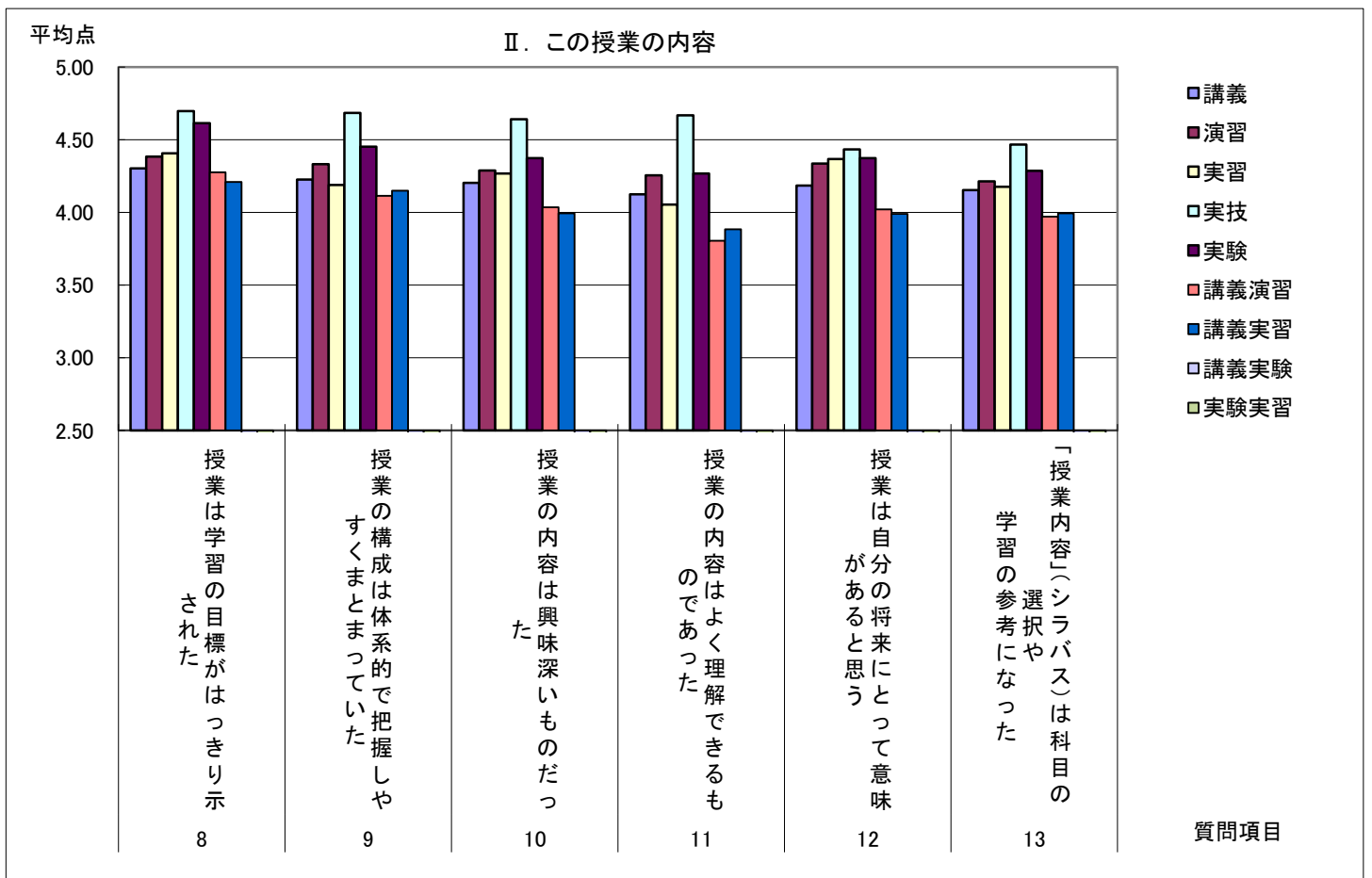
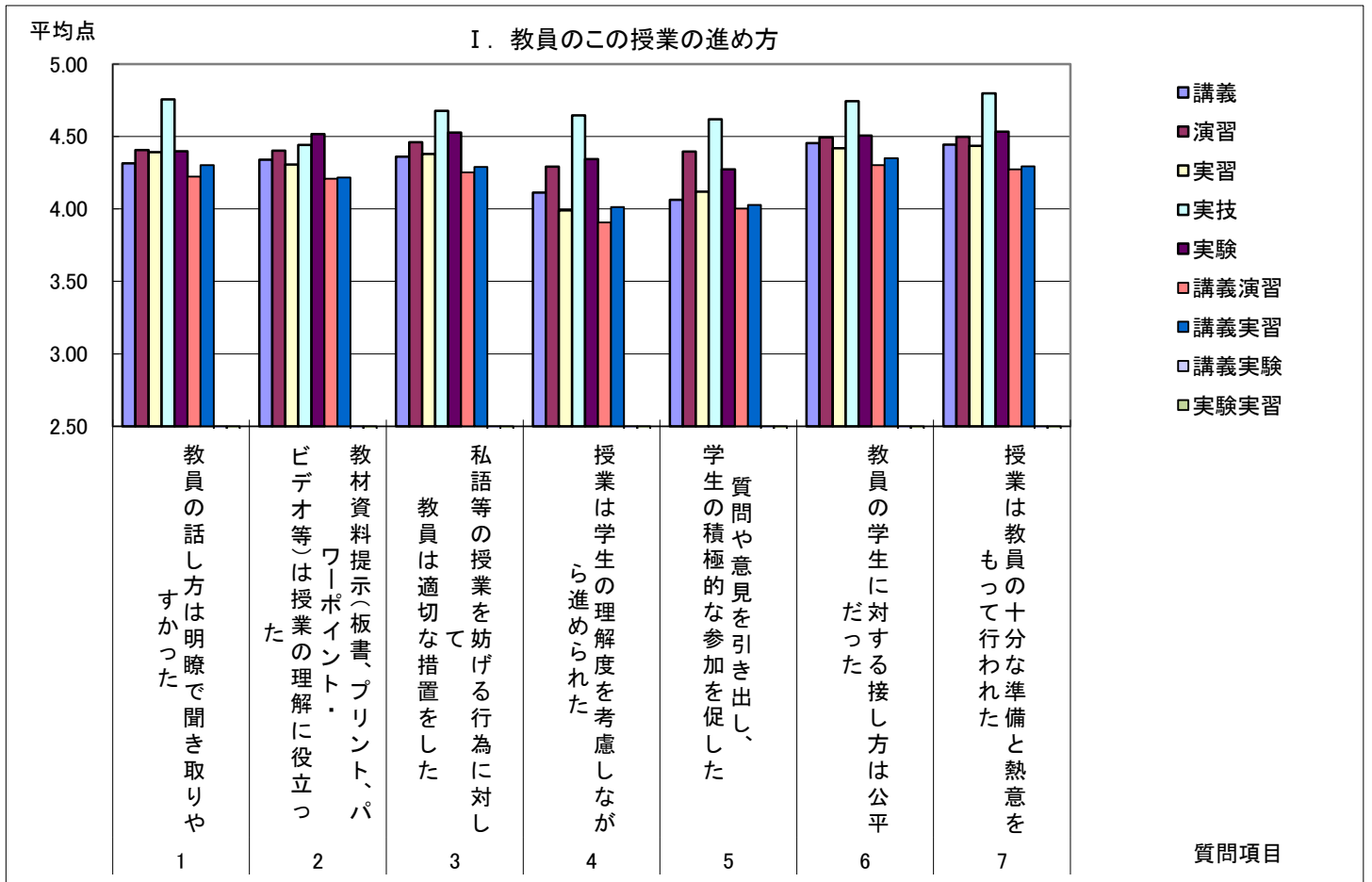
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	31,887	13,910	1,548	736	350	1,743	413	-	-
回答者数	23,482	11,313	1,383	564	332	1,286	314	-	-
回答率(%)	73.64	81.33	89.34	76.63	94.86	73.78	76.03	-	-

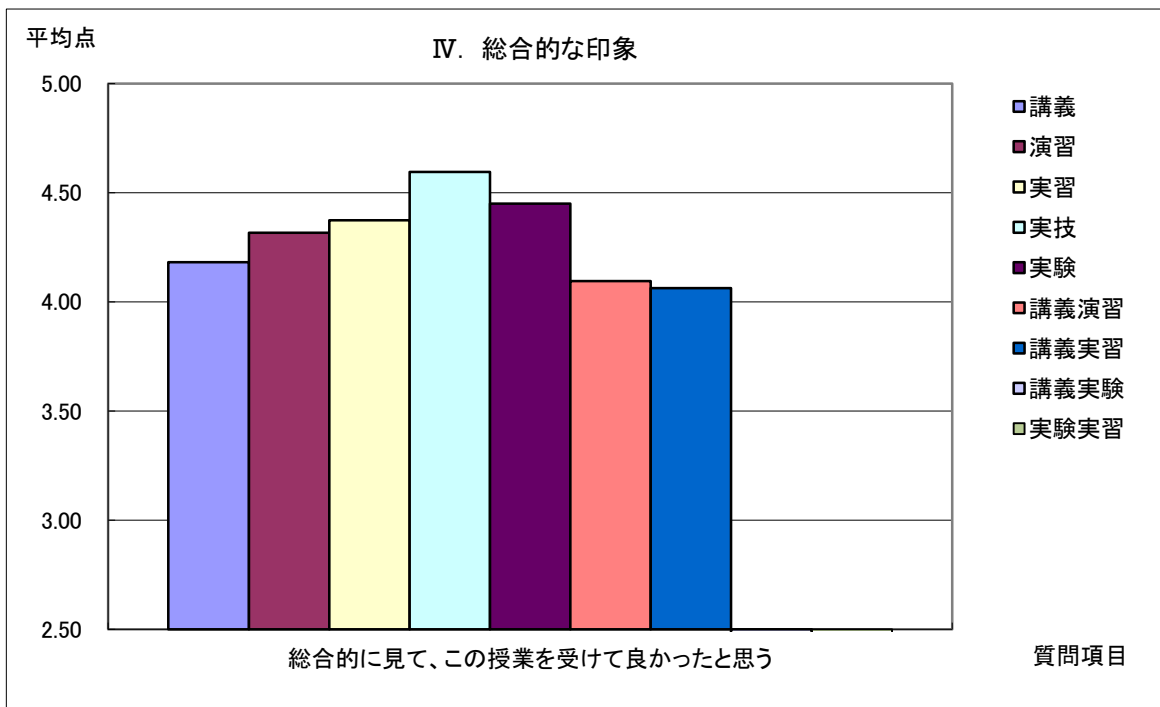
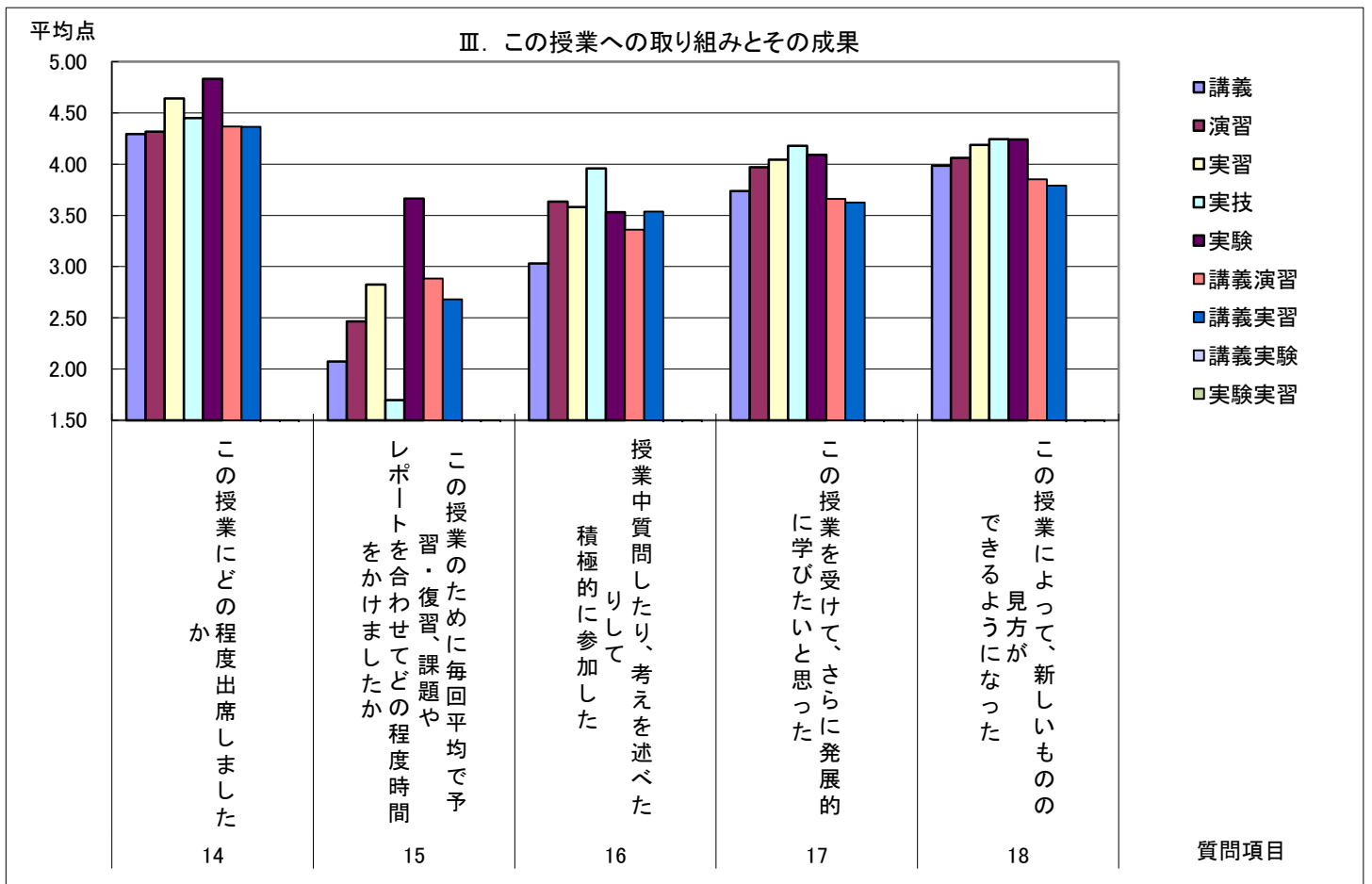
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.31	4.41	4.39	4.76	4.40	4.22	4.30	-	-
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	4.40	4.31	4.44	4.52	4.21	4.22	-	-
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.36	4.46	4.38	4.68	4.53	4.25	4.29	-	-
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	4.29	3.99	4.65	4.34	3.91	4.01	-	-
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.06	4.40	4.12	4.62	4.27	4.00	4.03	-	-
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.46	4.49	4.42	4.74	4.51	4.30	4.35	-	-
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	4.50	4.44	4.80	4.53	4.27	4.29	-	-

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.30	4.38	4.41	4.70	4.61	4.28	4.21	-	-
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.23	4.33	4.19	4.69	4.45	4.11	4.15	-	-
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	4.29	4.27	4.64	4.37	4.04	3.99	-	-
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	4.26	4.05	4.67	4.27	3.81	3.89	-	-
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.19	4.34	4.37	4.43	4.37	4.02	3.99	-	-
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	4.21	4.18	4.47	4.29	3.97	3.99	-	-

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	4.32	4.64	4.45	4.83	4.37	4.37	-	-
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.07	2.47	2.82	1.70	3.66	2.88	2.68	-	-
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	3.63	3.58	3.96	3.53	3.36	3.54	-	-
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.74	3.97	4.04	4.18	4.09	3.66	3.63	-	-
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.99	4.06	4.19	4.24	4.24	3.85	3.79	-	-

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	4.32	4.37	4.59	4.45	4.10	4.06	-	-





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)短大

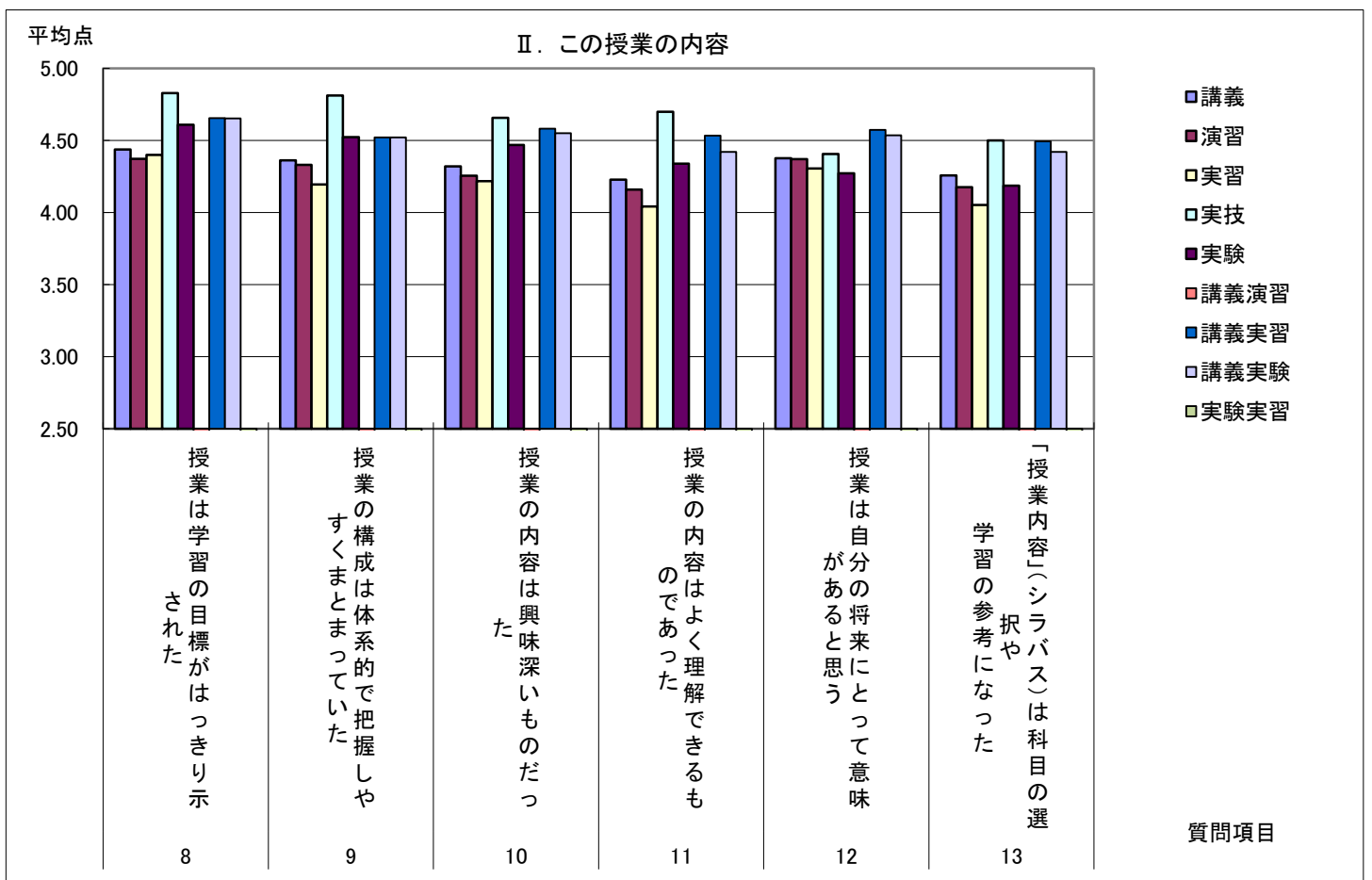
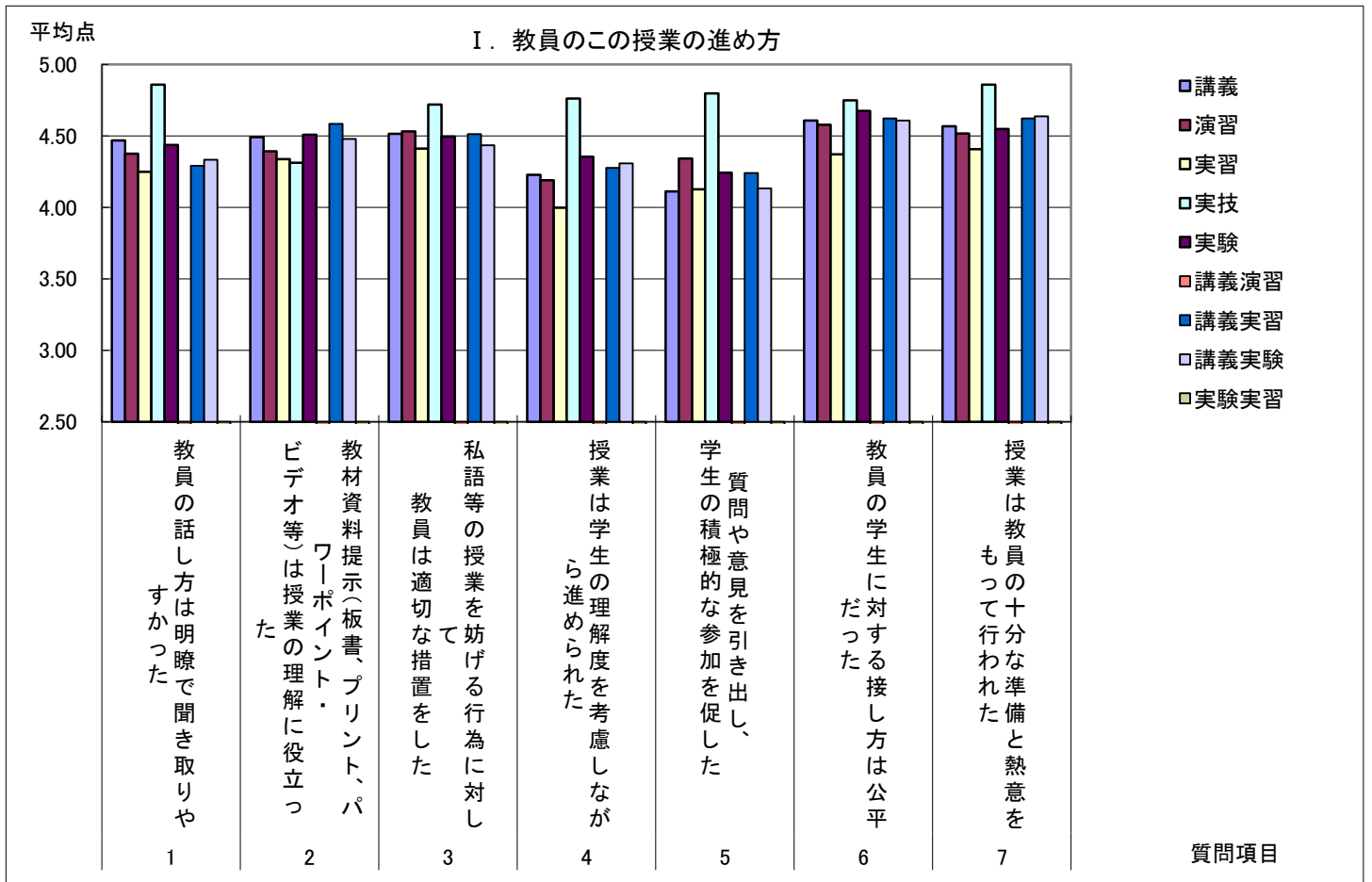
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	3,201	1,561	367	80	272	-	165	73	-
回答者数	2,822	1,381	340	64	244	-	148	69	-
回答率(%)	88.16	88.47	92.64	80.00	89.71	-	89.70	94.52	-

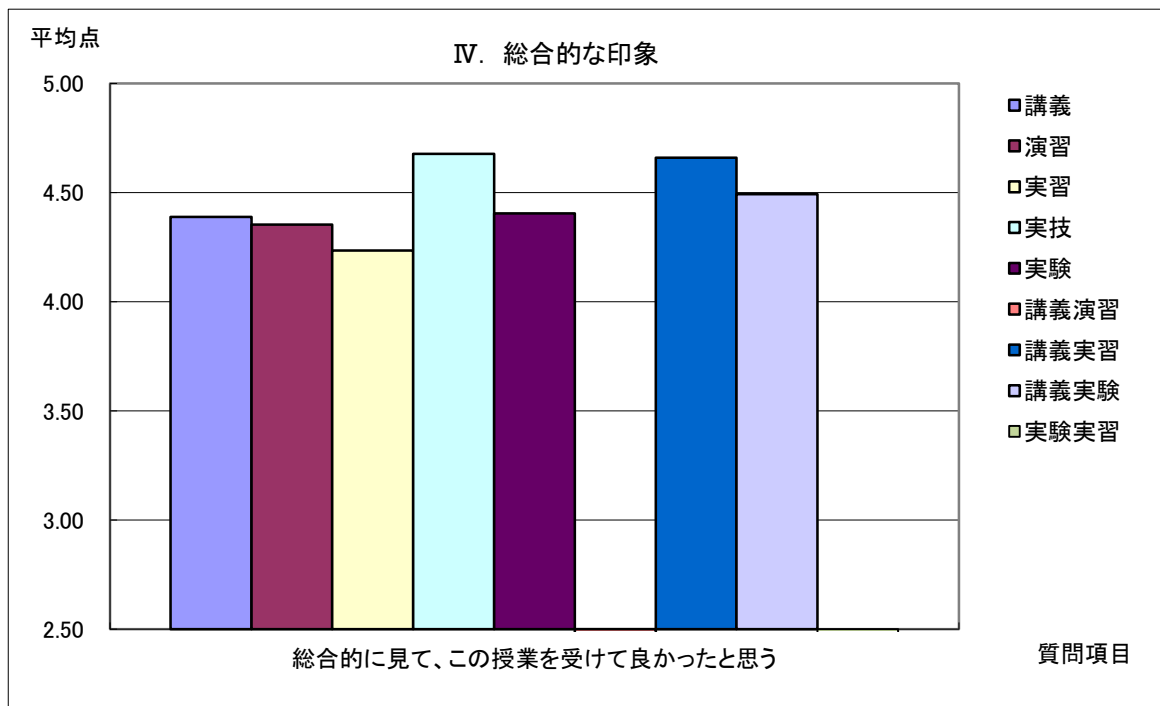
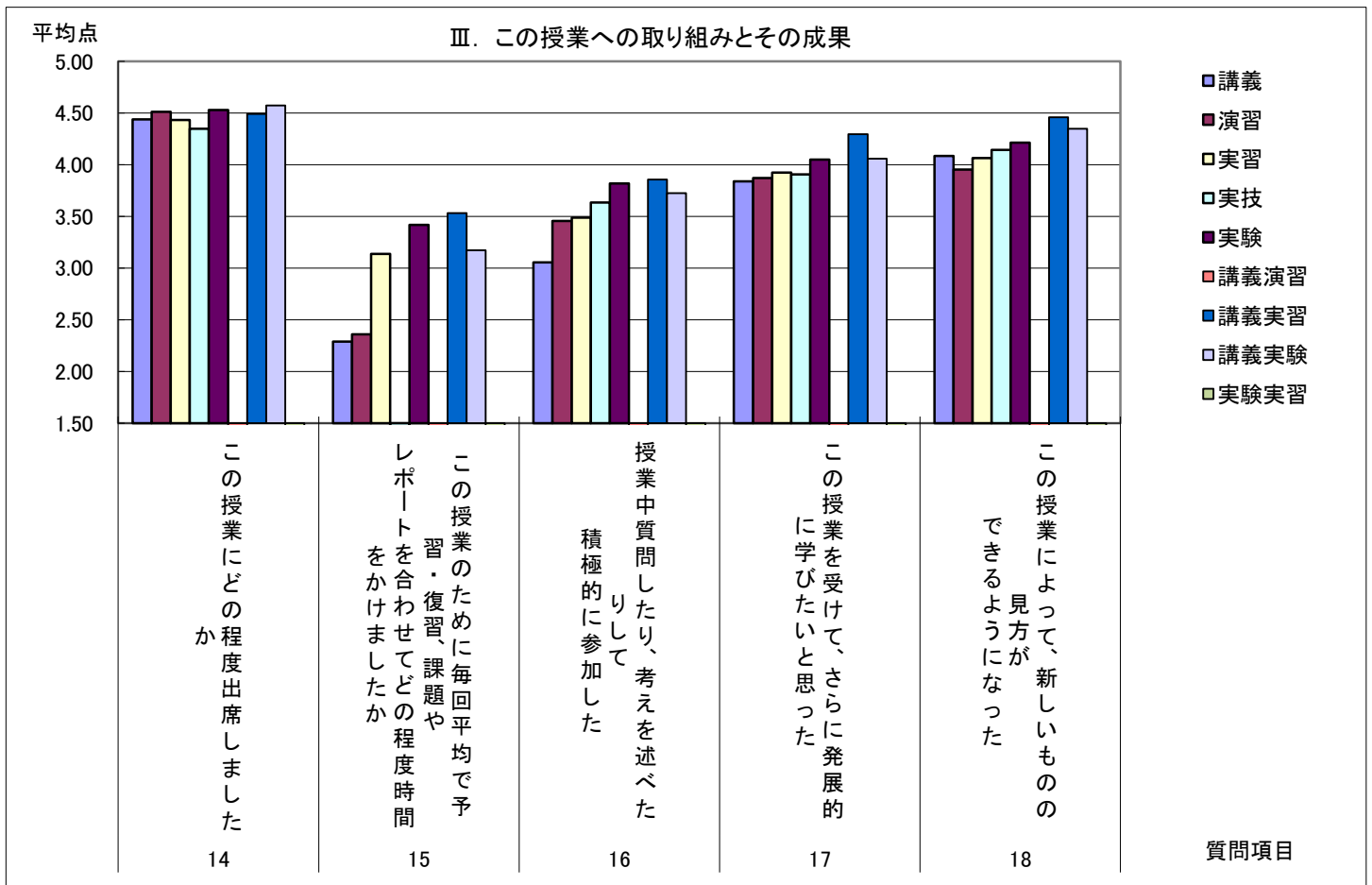
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.47	4.38	4.25	4.86	4.44	-	4.29	4.33	-
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.49	4.39	4.34	4.31	4.51	-	4.59	4.48	-
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.52	4.53	4.41	4.72	4.50	-	4.51	4.43	-
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.23	4.19	4.00	4.76	4.36	-	4.28	4.31	-
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.11	4.34	4.13	4.80	4.24	-	4.24	4.13	-
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.61	4.58	4.37	4.75	4.68	-	4.62	4.61	-
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.57	4.52	4.41	4.86	4.55	-	4.62	4.64	-

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.44	4.37	4.40	4.83	4.61	-	4.66	4.65	-
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.36	4.33	4.19	4.81	4.52	-	4.52	4.52	-
10	授業の内容は興味深いものだった	4.32	4.26	4.22	4.66	4.47	-	4.58	4.55	-
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	4.16	4.04	4.70	4.34	-	4.53	4.42	-
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	4.37	4.30	4.41	4.27	-	4.57	4.54	-
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.26	4.18	4.05	4.50	4.19	-	4.49	4.42	-

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	4.51	4.43	4.35	4.53	-	4.49	4.57	-
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.29	2.36	3.14	1.45	3.42	-	3.53	3.17	-
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.06	3.46	3.49	3.63	3.82	-	3.86	3.72	-
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.84	3.87	3.92	3.91	4.05	-	4.30	4.06	-
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.09	3.95	4.06	4.14	4.21	-	4.46	4.35	-

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	4.35	4.24	4.68	4.41	-	4.66	4.49	-





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)短大

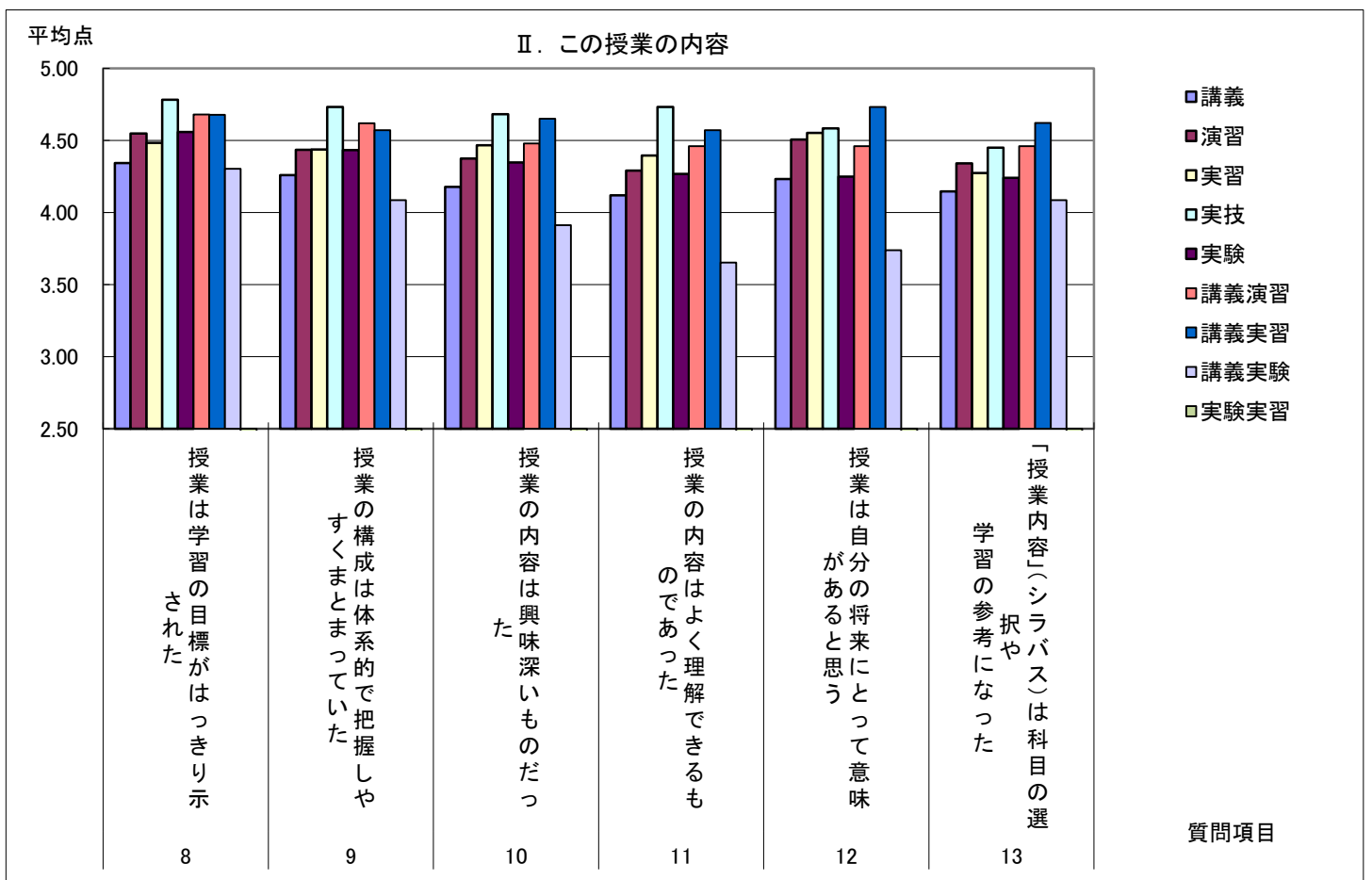
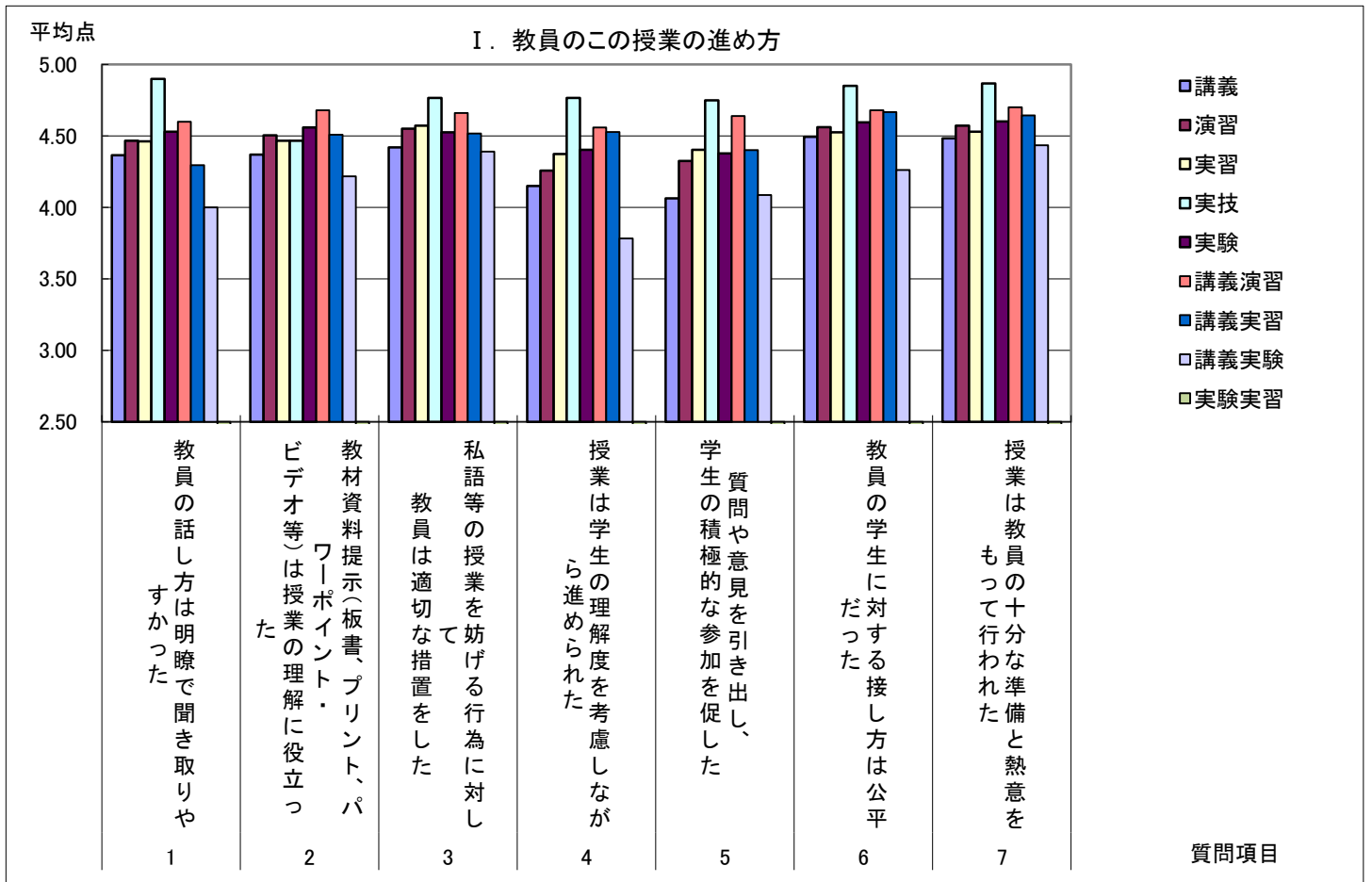
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	3,171	1,325	265	78	259	59	132	25	-
回答者数	2,527	1,127	238	60	221	50	112	23	-
回答率(%)	79.69	85.06	89.81	76.92	85.33	84.75	84.85	92.00	-

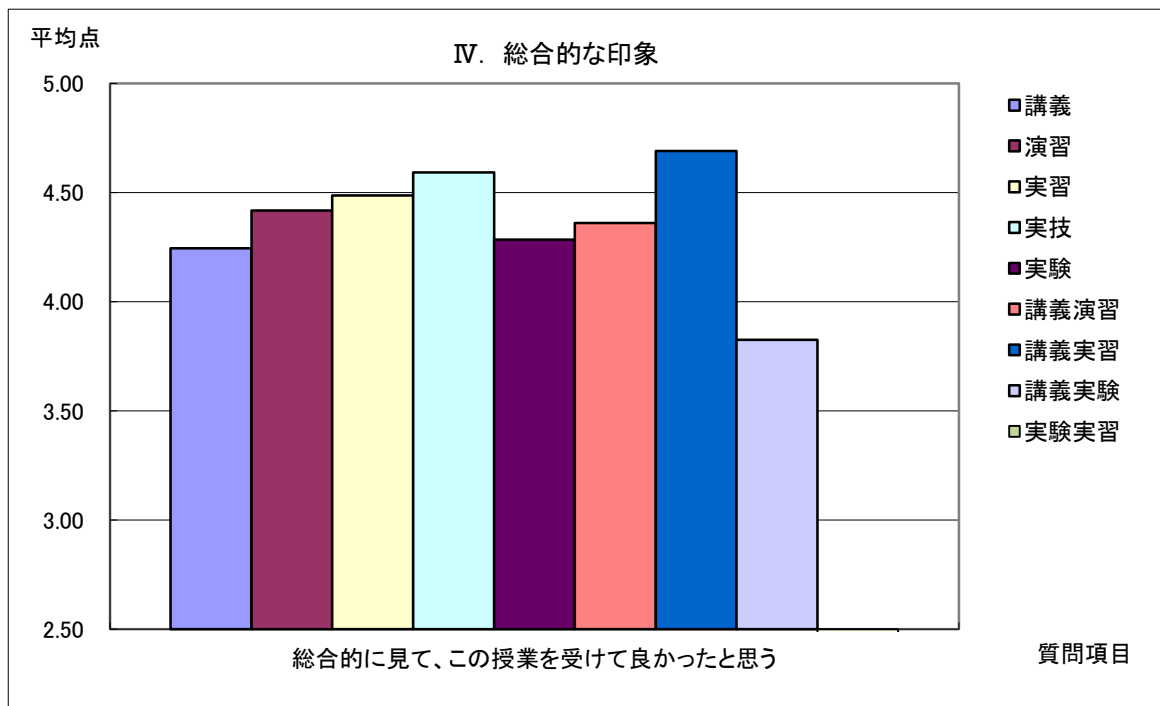
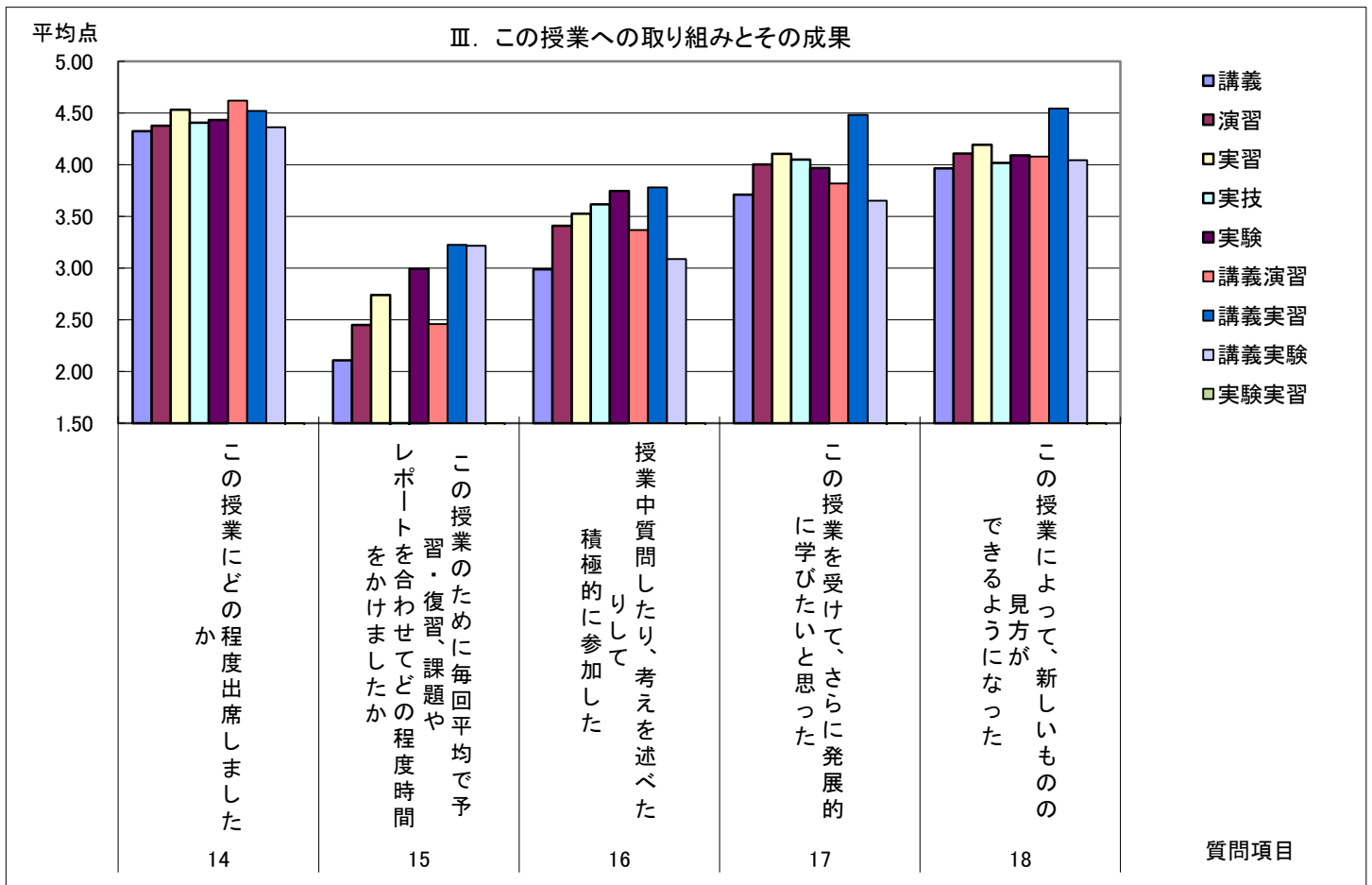
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.37	4.47	4.46	4.90	4.53	4.60	4.29	4.00	-
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	4.51	4.47	4.47	4.56	4.68	4.51	4.22	-
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.42	4.55	4.57	4.77	4.52	4.66	4.52	4.39	-
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	4.26	4.37	4.77	4.40	4.56	4.53	3.78	-
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.06	4.33	4.40	4.75	4.38	4.64	4.40	4.09	-
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	4.56	4.53	4.85	4.60	4.68	4.67	4.26	-
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	4.57	4.53	4.87	4.60	4.70	4.64	4.43	-

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.34	4.55	4.48	4.78	4.56	4.68	4.68	4.30	-
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.26	4.44	4.44	4.73	4.43	4.62	4.57	4.09	-
10	授業の内容は興味深いものだった	4.18	4.37	4.47	4.68	4.35	4.48	4.65	3.91	-
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	4.29	4.39	4.73	4.27	4.46	4.57	3.65	-
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	4.51	4.55	4.58	4.25	4.46	4.73	3.74	-
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	4.34	4.27	4.45	4.24	4.46	4.62	4.09	-

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	4.38	4.53	4.41	4.43	4.62	4.52	4.36	-
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.11	2.45	2.74	1.47	3.00	2.46	3.23	3.22	-
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.99	3.41	3.53	3.62	3.75	3.37	3.78	3.09	-
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.71	4.00	4.11	4.05	3.97	3.82	4.48	3.65	-
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.97	4.11	4.19	4.02	4.09	4.08	4.55	4.04	-

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	4.42	4.49	4.59	4.29	4.36	4.69	3.83	-





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

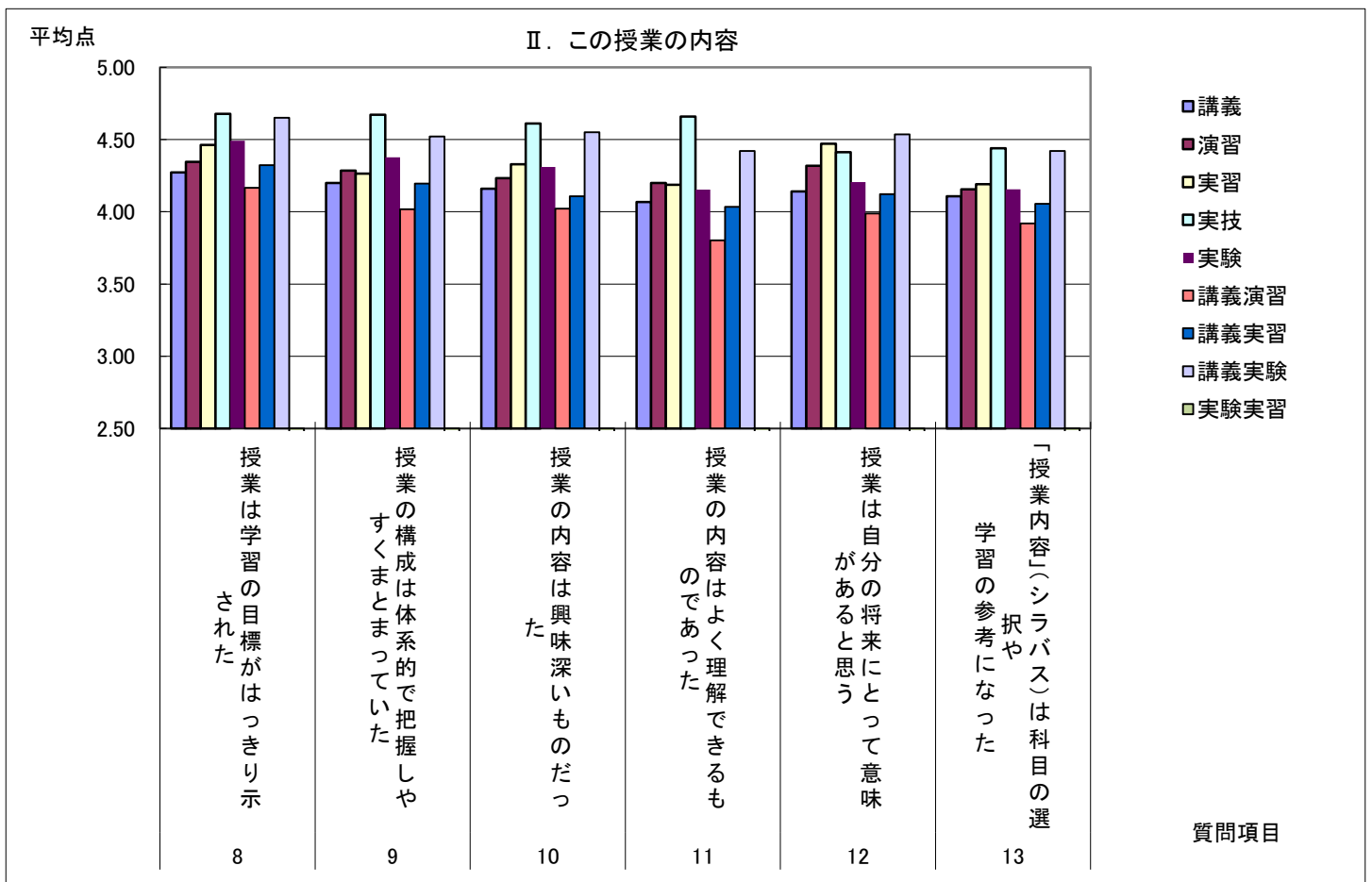
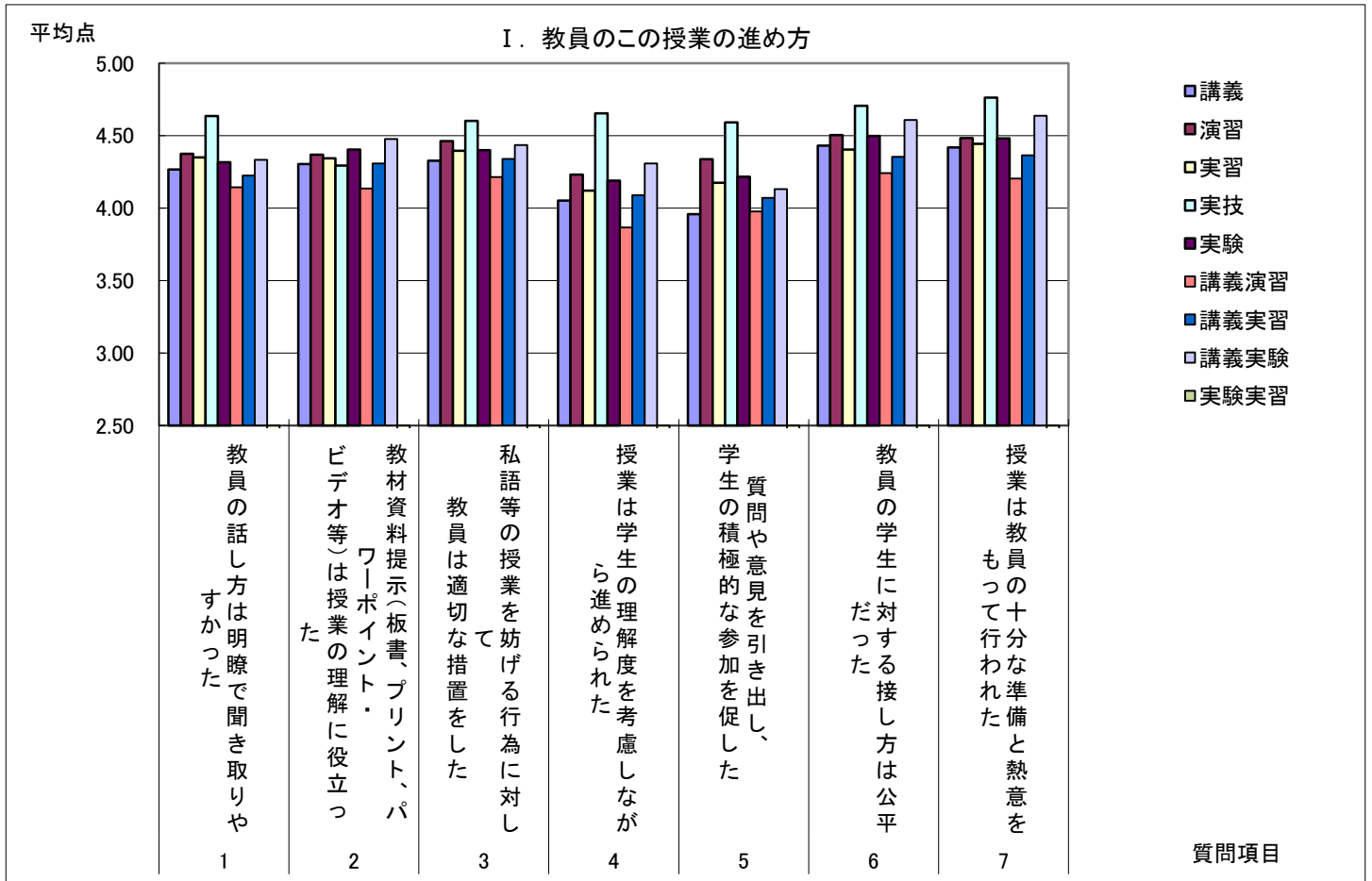
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	42,071	15,389	1,482	684	611	1,753	743	73	-
回答者数	33,437	13,377	1,345	614	559	1,350	615	69	-
回答率(%)	79.48	86.93	90.76	89.77	91.49	77.01	82.77	94.52	-

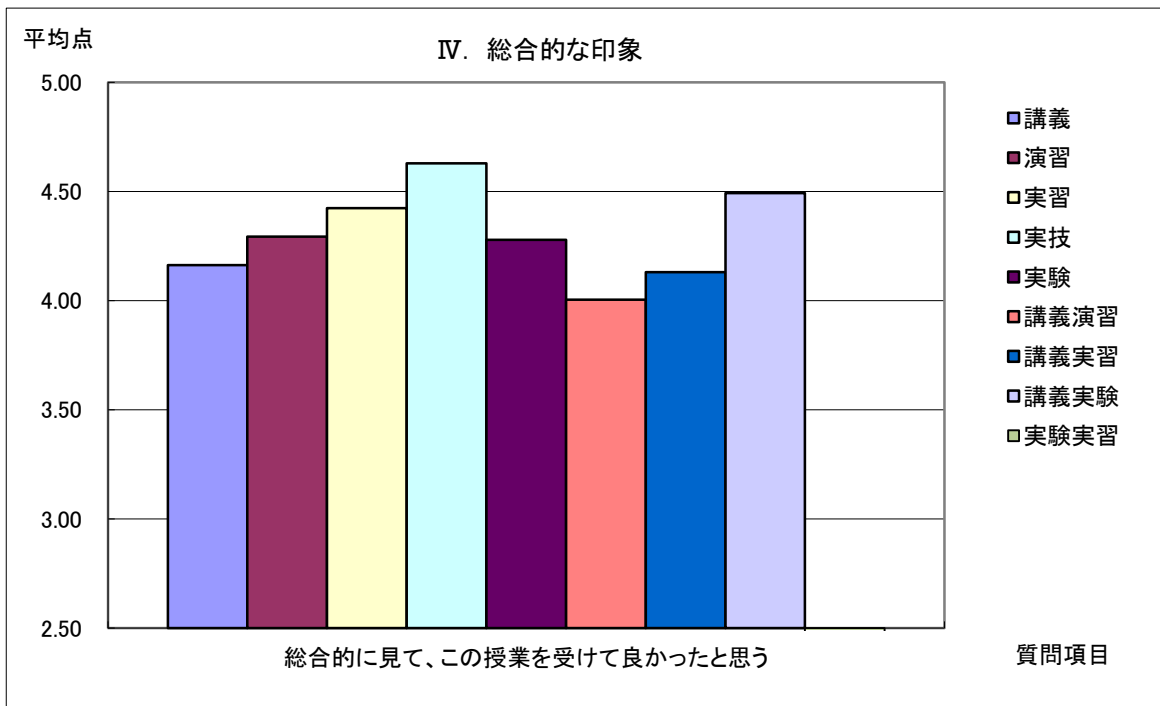
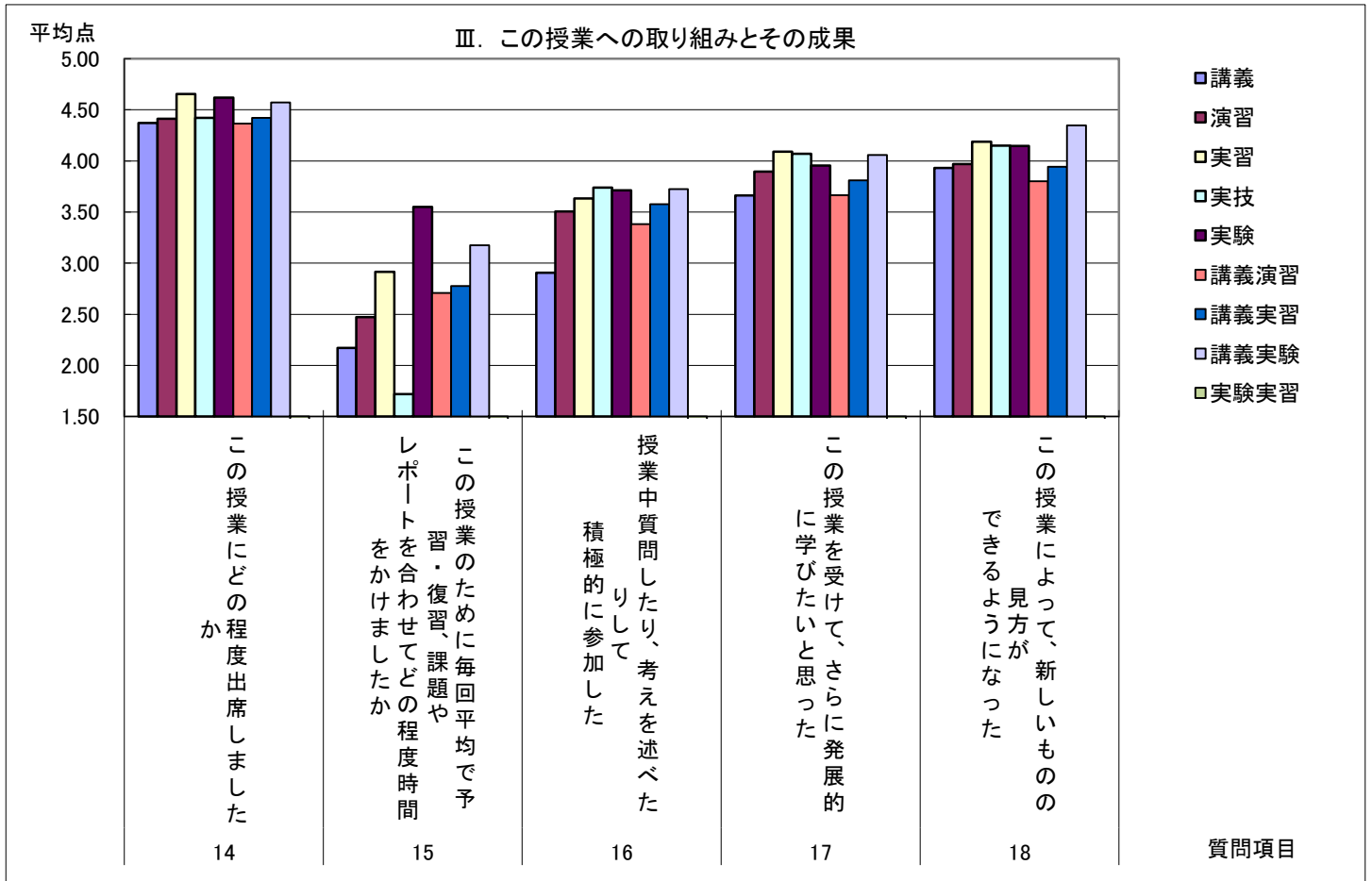
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	4.37	4.35	4.64	4.32	4.14	4.23	4.33	-
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	4.37	4.34	4.29	4.40	4.14	4.31	4.48	-
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.33	4.46	4.40	4.60	4.40	4.22	4.34	4.43	-
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	4.23	4.12	4.66	4.19	3.87	4.09	4.31	-
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.96	4.34	4.17	4.59	4.22	3.98	4.07	4.13	-
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.43	4.50	4.40	4.71	4.50	4.24	4.35	4.61	-
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	4.48	4.45	4.76	4.48	4.20	4.36	4.64	-

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.27	4.35	4.46	4.68	4.49	4.17	4.32	4.65	-
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.20	4.29	4.26	4.67	4.38	4.02	4.19	4.52	-
10	授業の内容は興味深いものだった	4.16	4.23	4.33	4.61	4.31	4.02	4.11	4.55	-
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.07	4.20	4.19	4.66	4.15	3.80	4.03	4.42	-
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.14	4.32	4.47	4.41	4.21	3.99	4.12	4.54	-
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.11	4.16	4.19	4.44	4.16	3.92	4.06	4.42	-

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	4.41	4.65	4.42	4.62	4.37	4.42	4.57	-
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.17	2.47	2.91	1.72	3.55	2.71	2.78	3.17	-
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.91	3.51	3.63	3.74	3.71	3.38	3.58	3.72	-
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.66	3.90	4.09	4.07	3.96	3.67	3.81	4.06	-
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.93	3.97	4.19	4.15	4.15	3.80	3.94	4.35	-

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	4.29	4.42	4.63	4.28	4.00	4.13	4.49	-





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

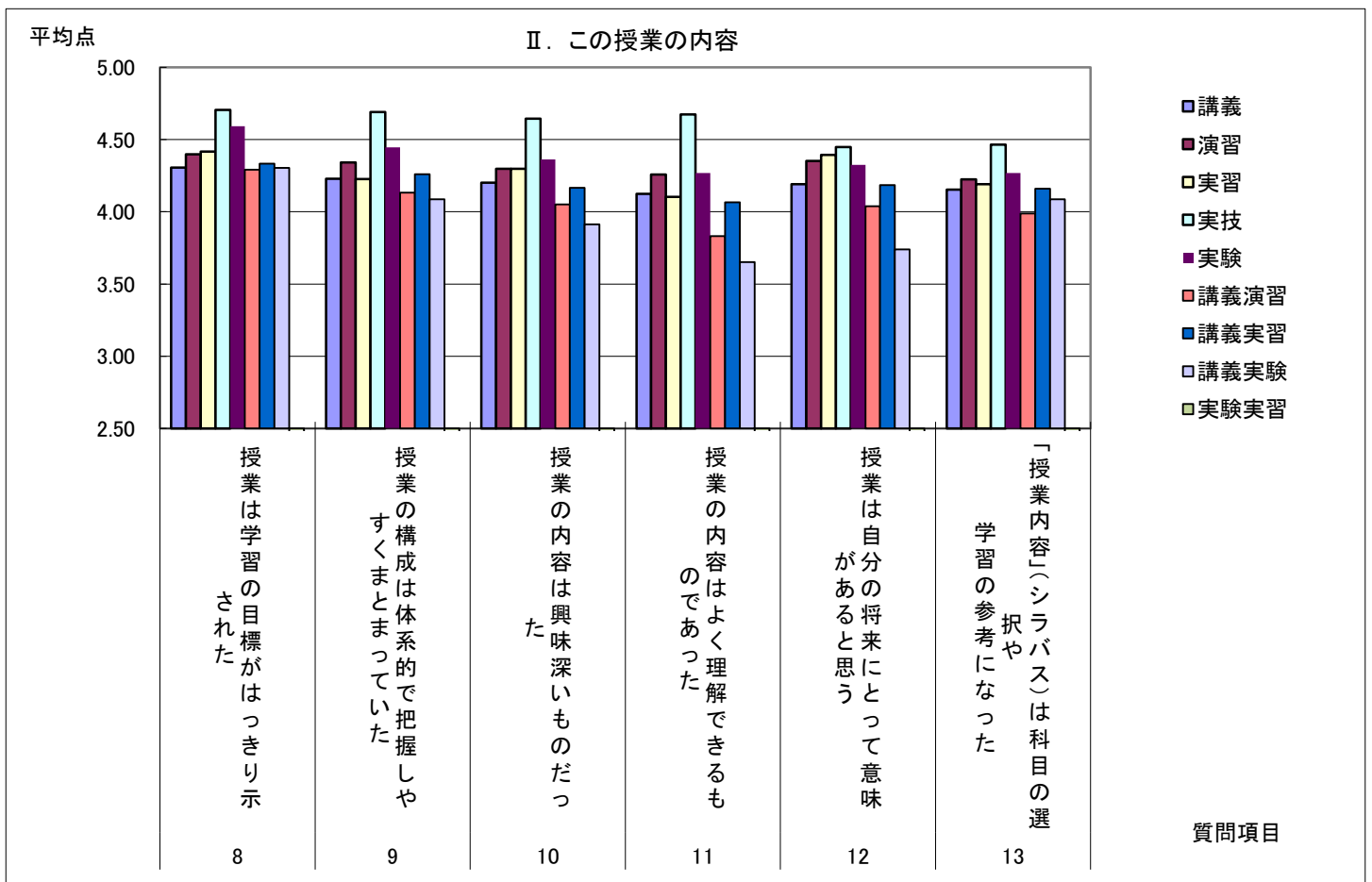
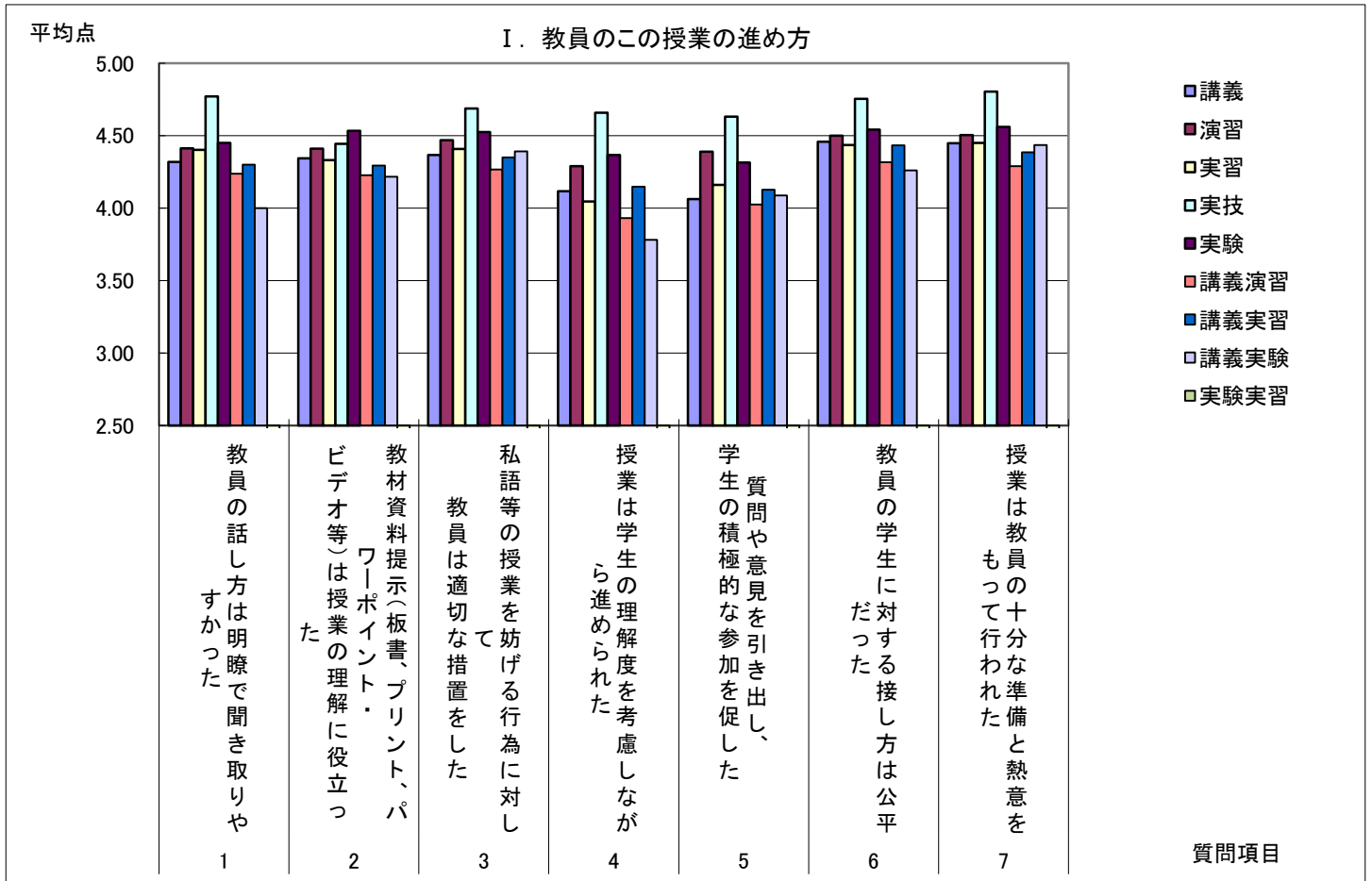
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	35,058	15,235	1,813	814	609	1,802	545	25	-
回答者数	26,009	12,440	1,621	624	553	1,336	426	23	-
回答率(%)	74.19	81.65	89.41	76.66	90.80	74.14	78.17	92.00	-

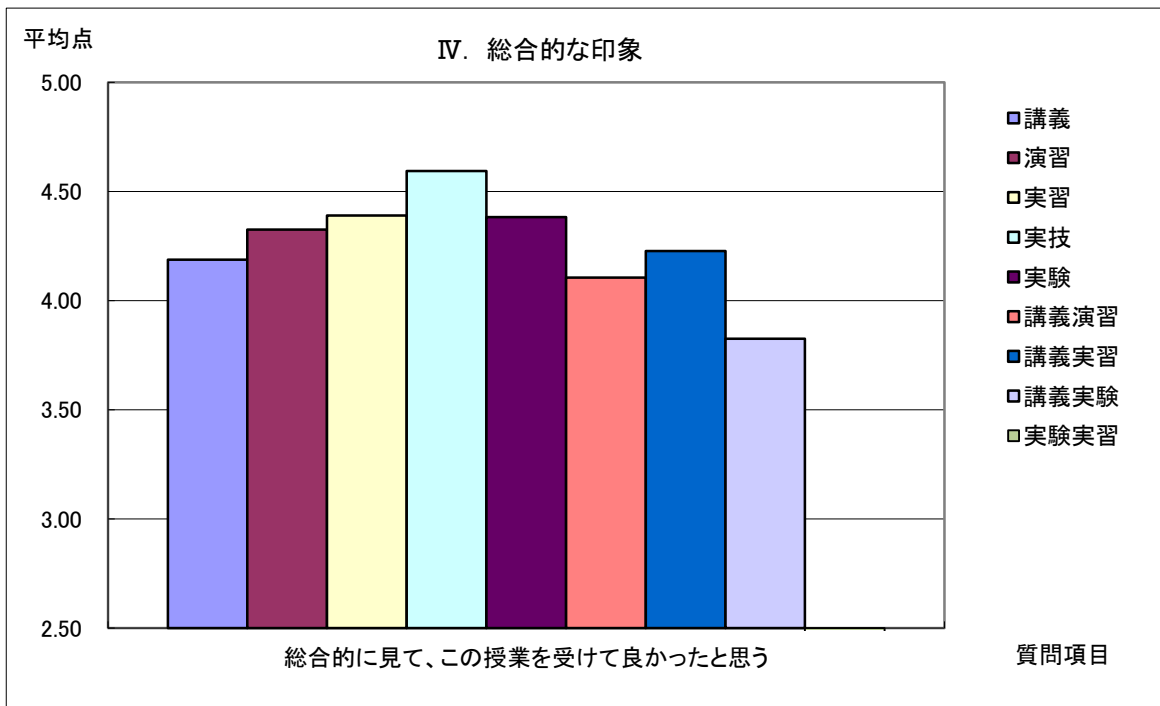
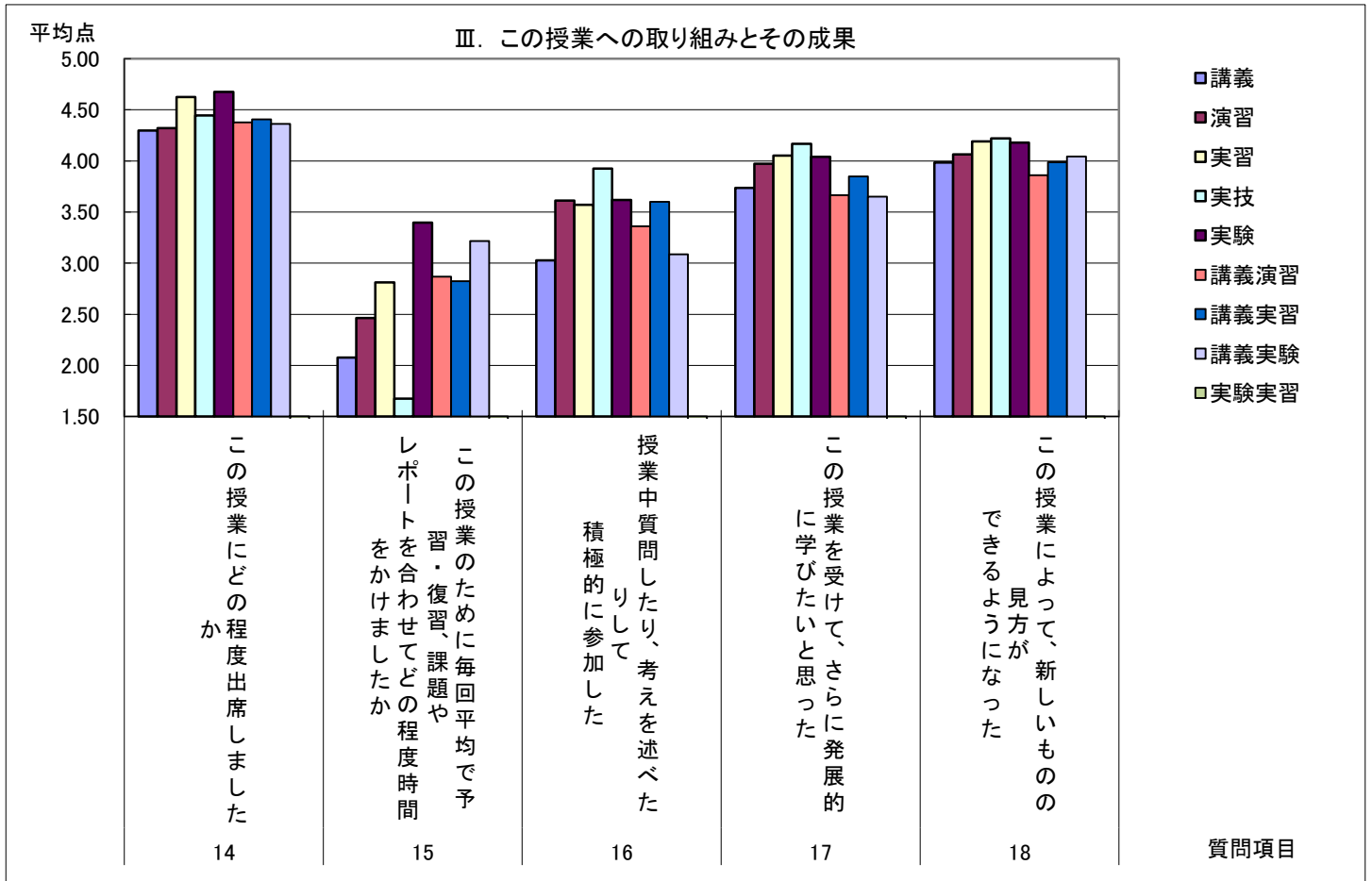
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.32	4.41	4.40	4.77	4.45	4.24	4.30	4.00	-
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	4.41	4.33	4.44	4.53	4.23	4.29	4.22	-
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.37	4.47	4.41	4.69	4.53	4.27	4.35	4.39	-
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	4.29	4.05	4.66	4.37	3.93	4.15	3.78	-
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.06	4.39	4.16	4.63	4.32	4.03	4.13	4.09	-
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.46	4.50	4.44	4.75	4.54	4.32	4.43	4.26	-
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	4.50	4.45	4.80	4.56	4.29	4.39	4.43	-

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.31	4.40	4.42	4.71	4.59	4.29	4.33	4.30	-
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.23	4.34	4.23	4.69	4.45	4.13	4.26	4.09	-
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	4.30	4.30	4.65	4.36	4.05	4.17	3.91	-
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	4.26	4.10	4.67	4.27	3.83	4.07	3.65	-
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.19	4.35	4.39	4.45	4.32	4.04	4.19	3.74	-
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	4.23	4.19	4.47	4.27	3.99	4.16	4.09	-

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	4.32	4.63	4.45	4.67	4.38	4.41	4.36	-
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.08	2.46	2.81	1.67	3.40	2.87	2.82	3.22	-
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	3.61	3.57	3.92	3.62	3.36	3.60	3.09	-
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.74	3.97	4.05	4.17	4.04	3.67	3.85	3.65	-
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	4.07	4.19	4.22	4.18	3.86	3.99	4.04	-

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	4.33	4.39	4.59	4.38	4.11	4.23	3.83	-





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

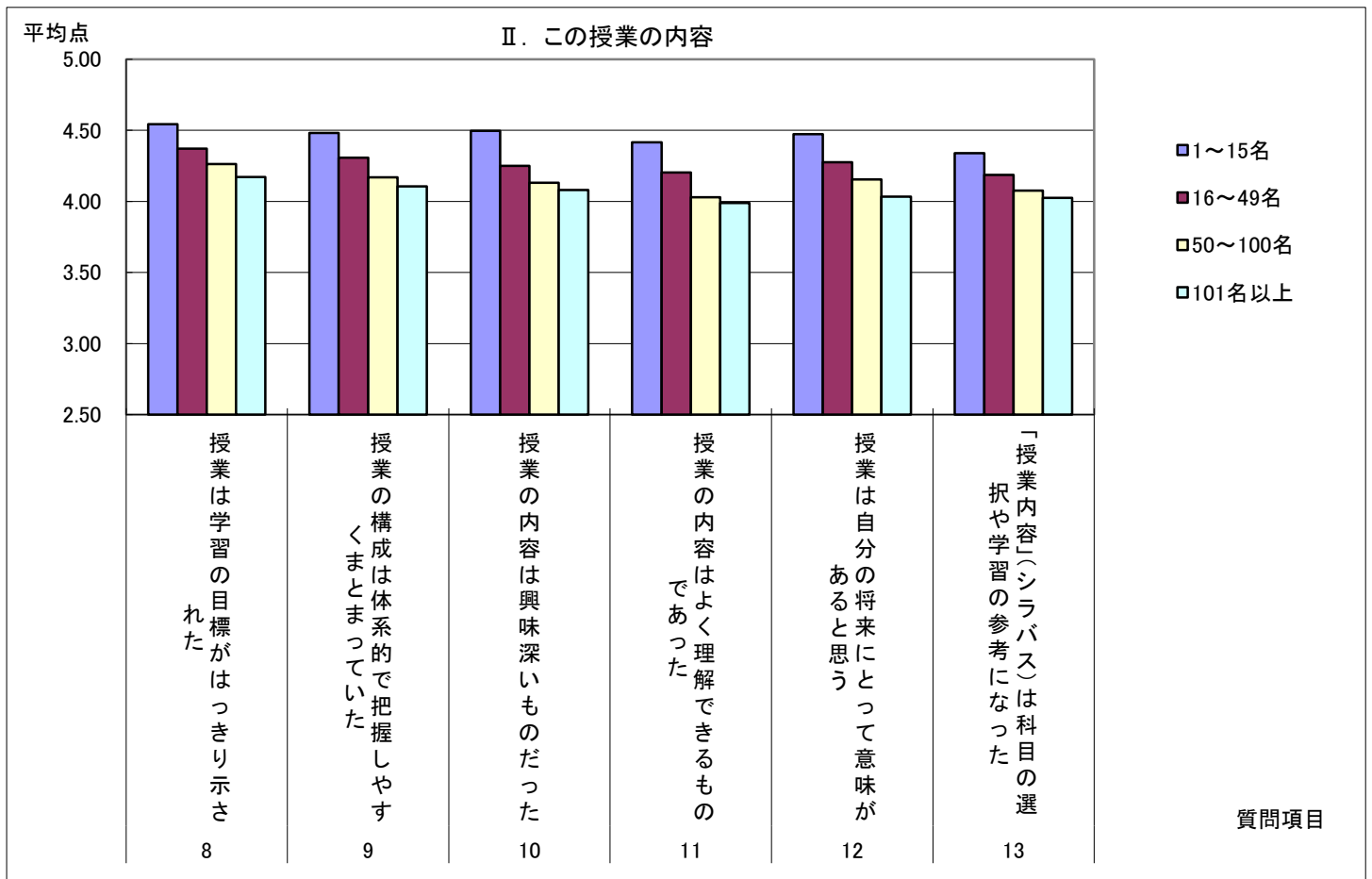
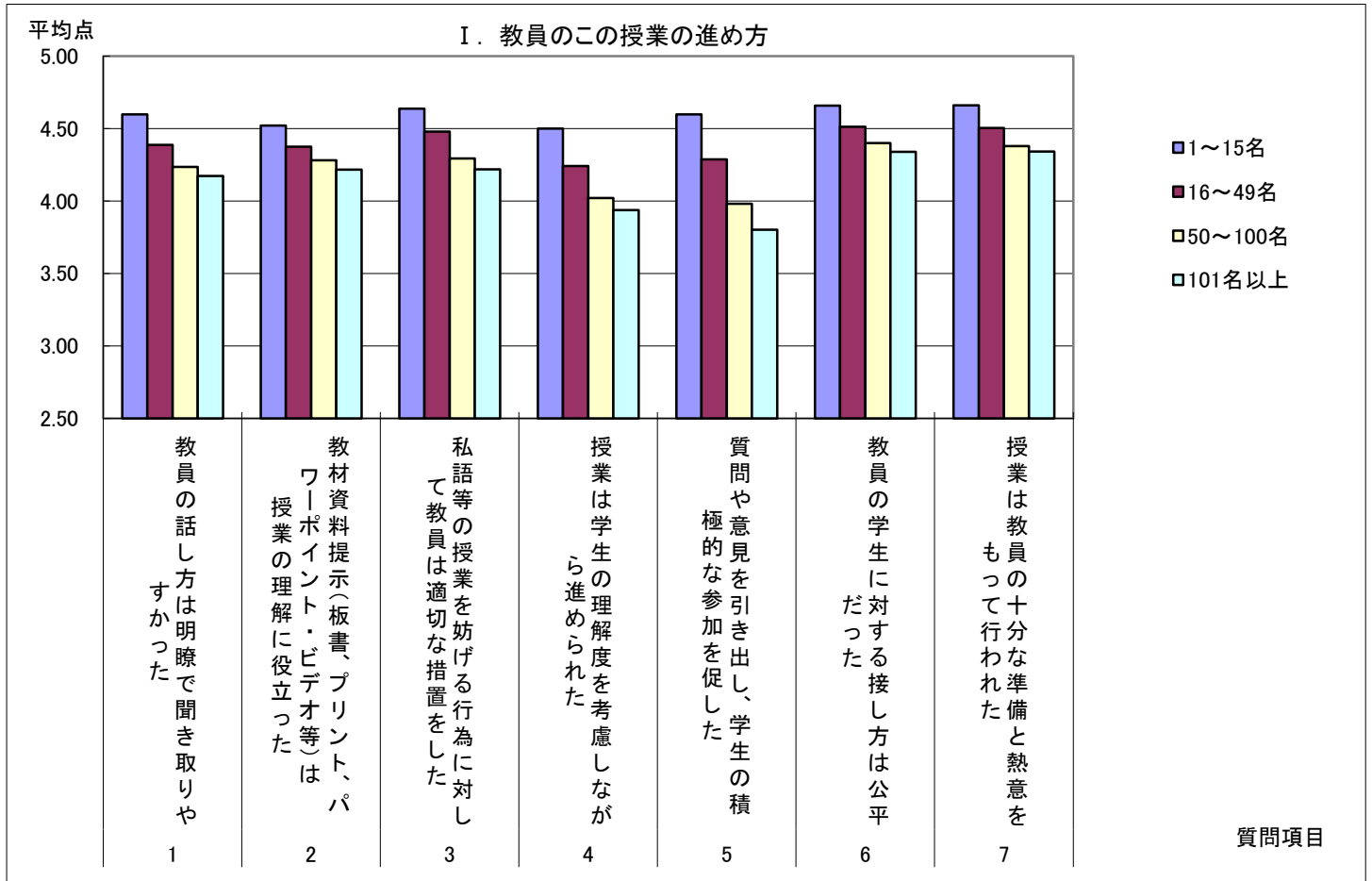
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	1,930	18,682	21,116	15,359
回答者数	1,620	15,969	16,860	11,849
回答率(%)	83.94	85.48	79.84	77.15

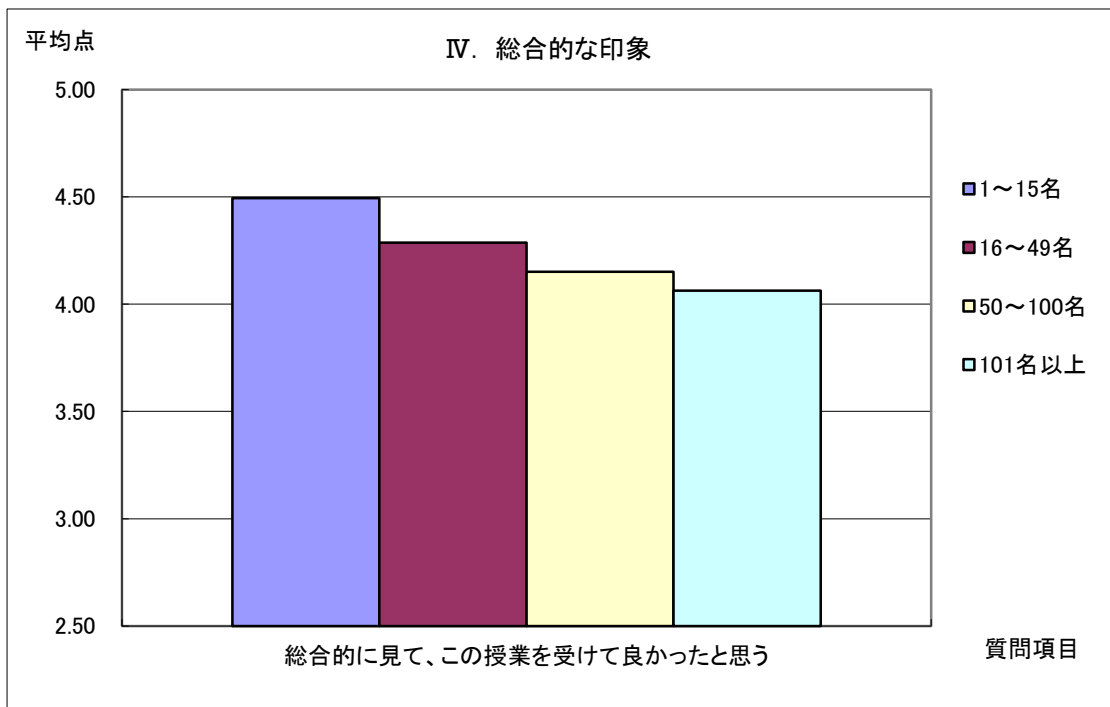
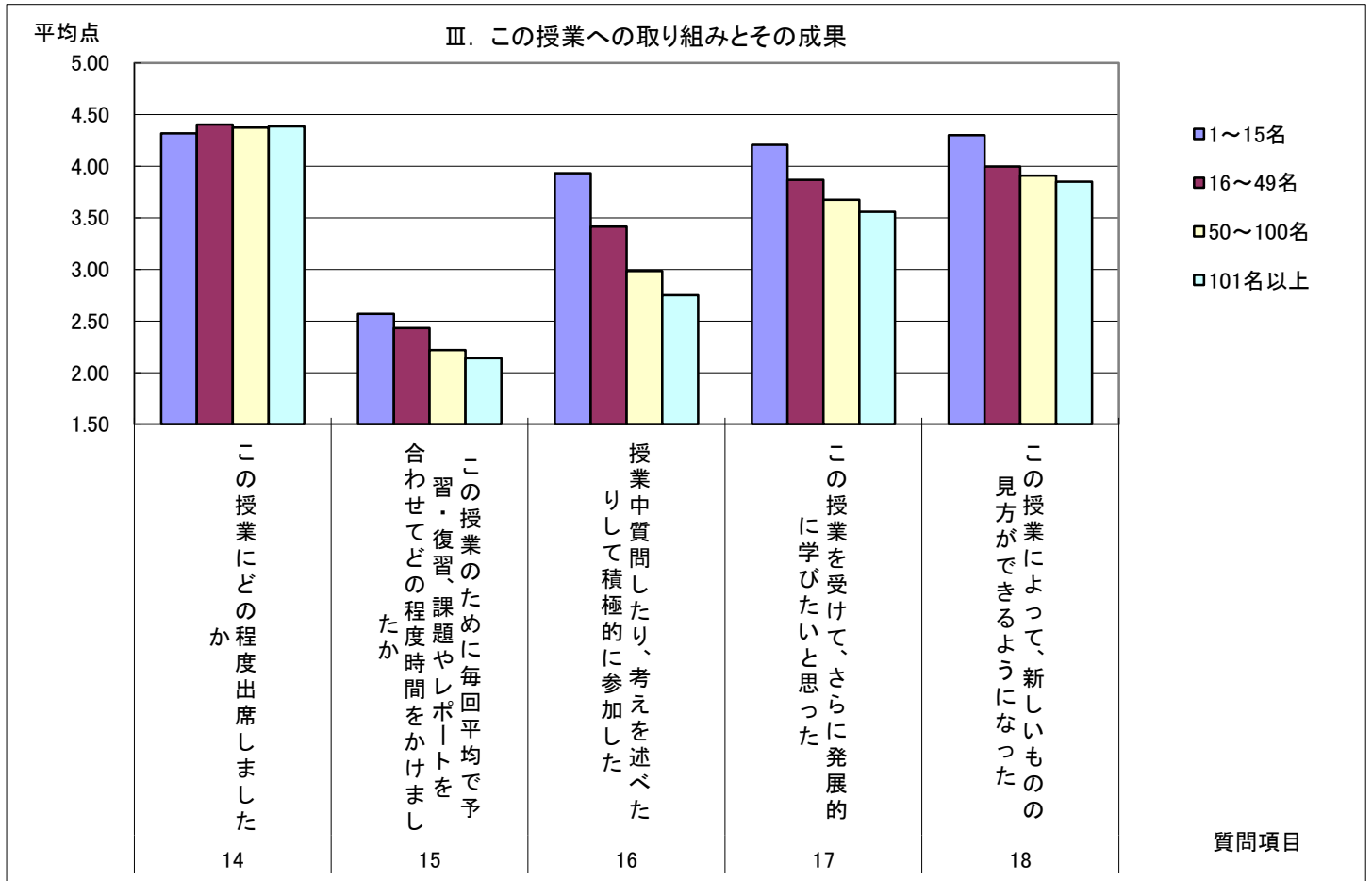
I. 教員のこの授業の進め方について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.60	4.39	4.24	4.17
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.52	4.37	4.28	4.22
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.64	4.48	4.29	4.22
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.50	4.24	4.02	3.94
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.60	4.29	3.98	3.80
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.66	4.51	4.40	4.34
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.66	4.50	4.38	4.34

II. この授業の内容について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.54	4.37	4.26	4.17
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.48	4.31	4.17	4.10
10	授業の内容は興味深いものだった	4.50	4.25	4.13	4.08
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.42	4.20	4.03	3.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.47	4.28	4.16	4.03
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.34	4.19	4.08	4.03

III. この授業への取り組みとその成果について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	4.40	4.37	4.39
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.57	2.43	2.22	2.14
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.93	3.41	2.99	2.75
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.21	3.87	3.68	3.56
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.30	4.00	3.91	3.85

IV. 総合的な印象		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.49	4.29	4.15	4.06





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

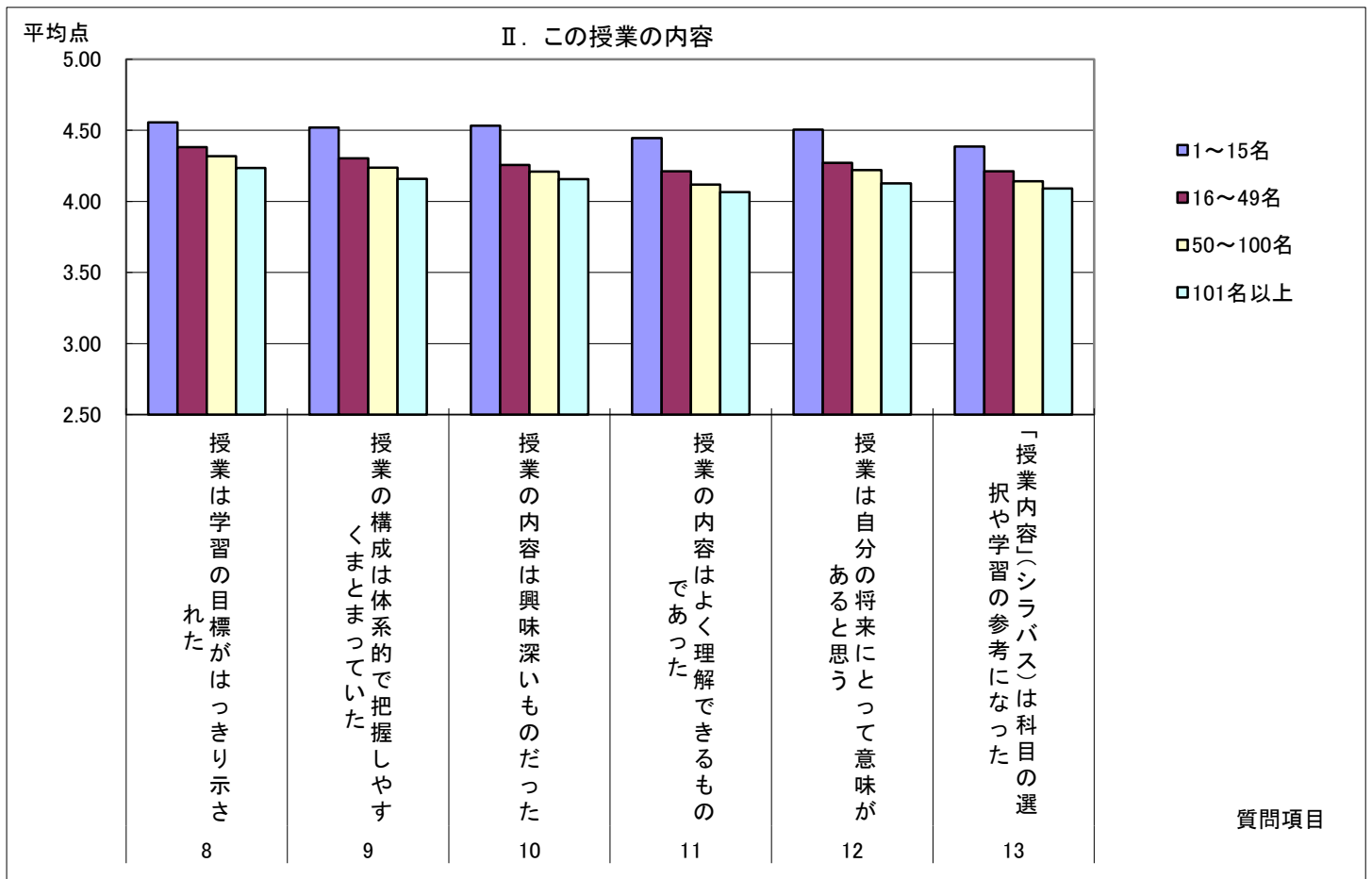
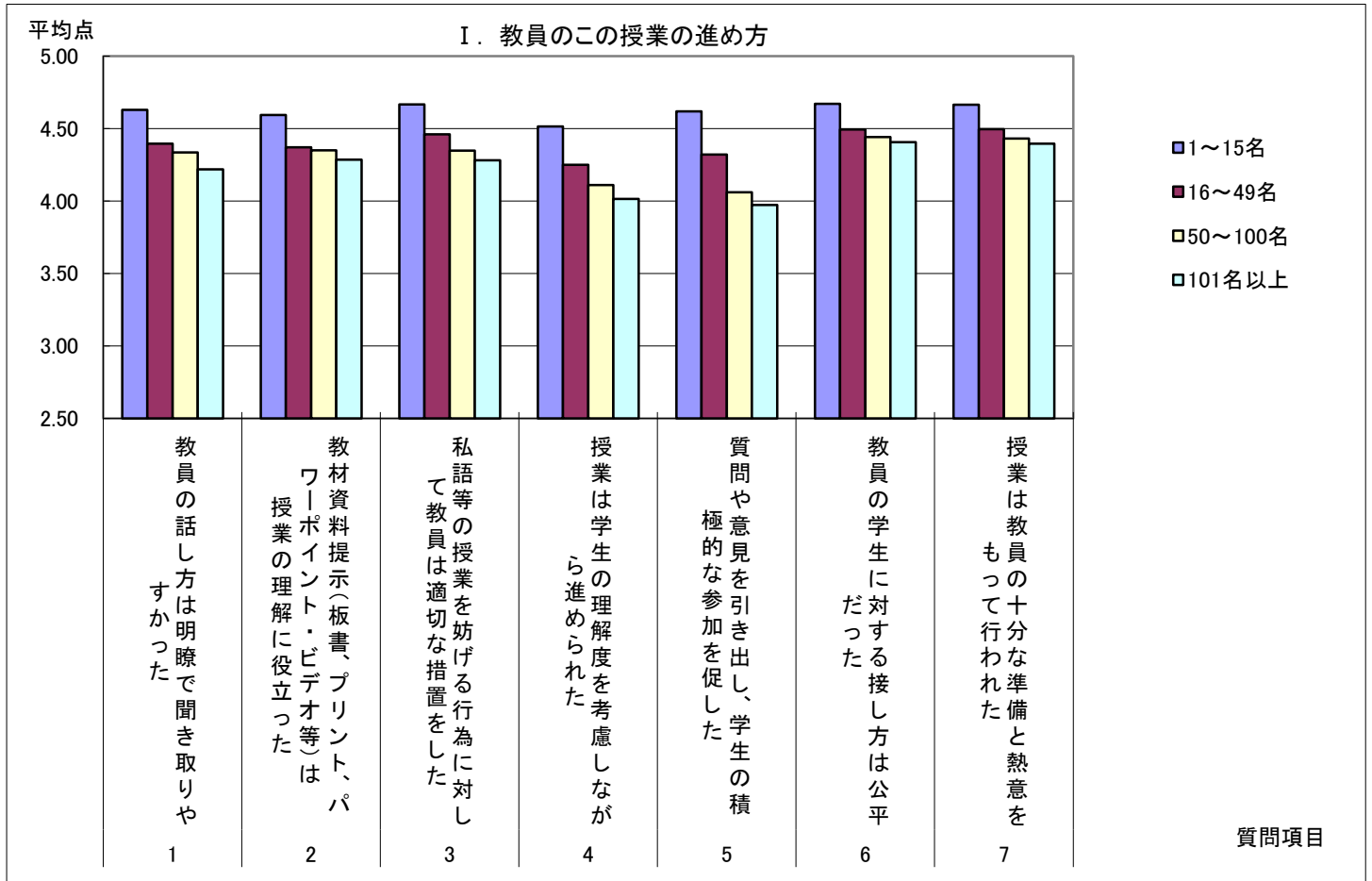
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	1,818	19,545	19,177	10,047
回答者数	1,465	15,603	14,332	7,274
回答率(%)	80.58	79.83	74.74	72.40

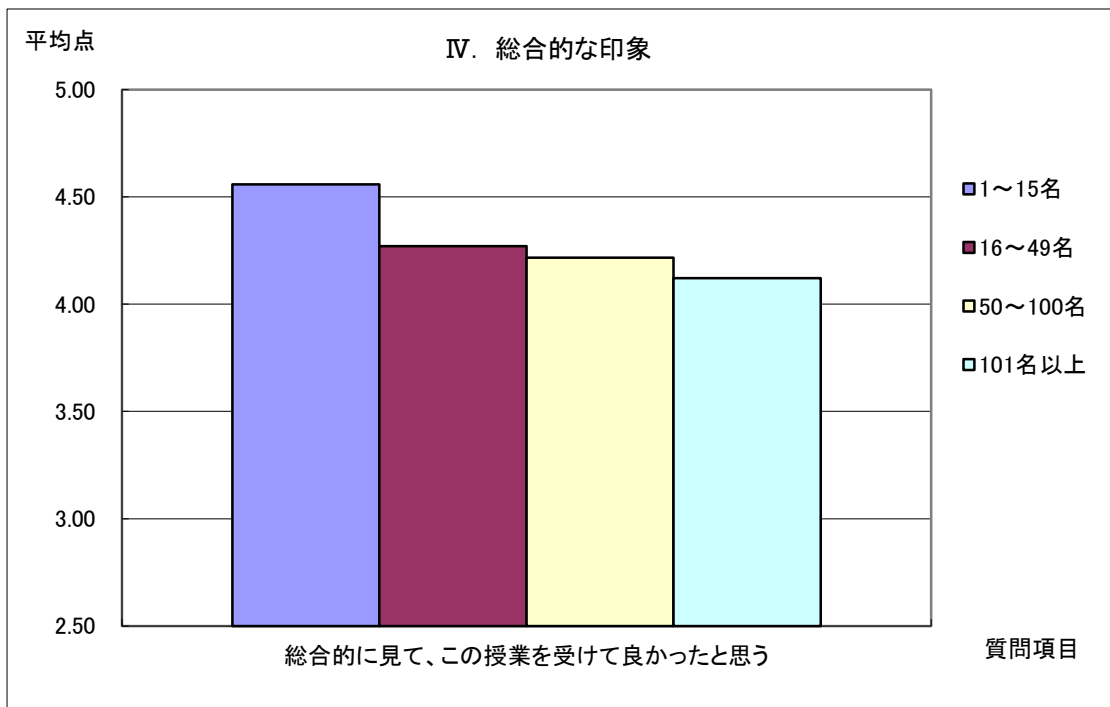
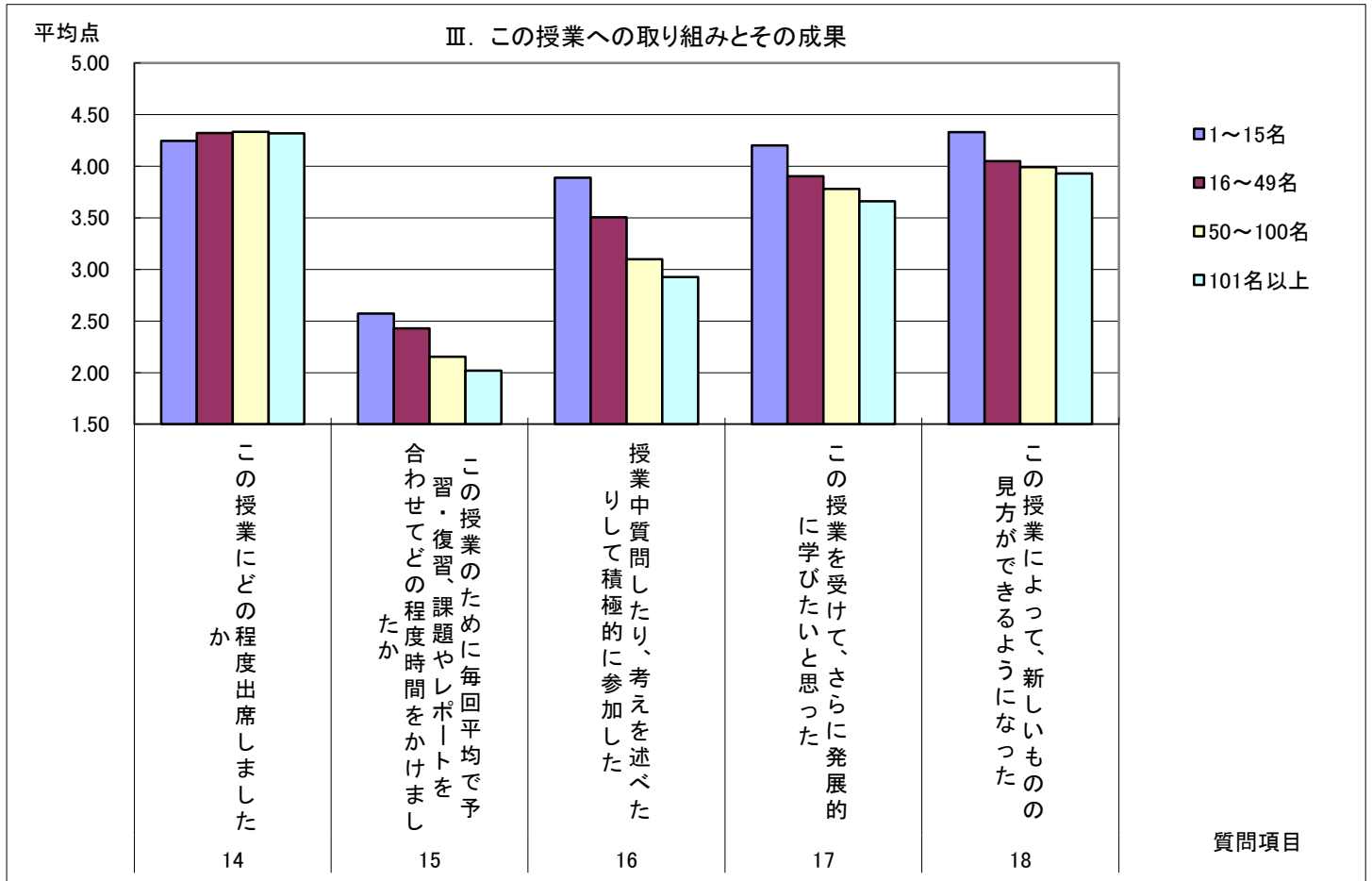
I. 教員のこの授業の進め方について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.63	4.40	4.33	4.22
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.59	4.37	4.35	4.29
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.67	4.46	4.35	4.28
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.52	4.25	4.11	4.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.62	4.32	4.06	3.97
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.67	4.49	4.44	4.41
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.66	4.49	4.43	4.40

II. この授業の内容について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.56	4.38	4.32	4.24
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.52	4.30	4.24	4.16
10	授業の内容は興味深いものだった	4.53	4.26	4.21	4.16
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.45	4.21	4.12	4.07
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	4.27	4.22	4.13
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.38	4.21	4.14	4.09

III. この授業への取り組みとその成果について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.25	4.32	4.33	4.32
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.57	2.43	2.15	2.02
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.89	3.51	3.10	2.92
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.20	3.90	3.78	3.66
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.33	4.05	3.99	3.93

IV. 総合的な印象		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.56	4.27	4.22	4.12





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

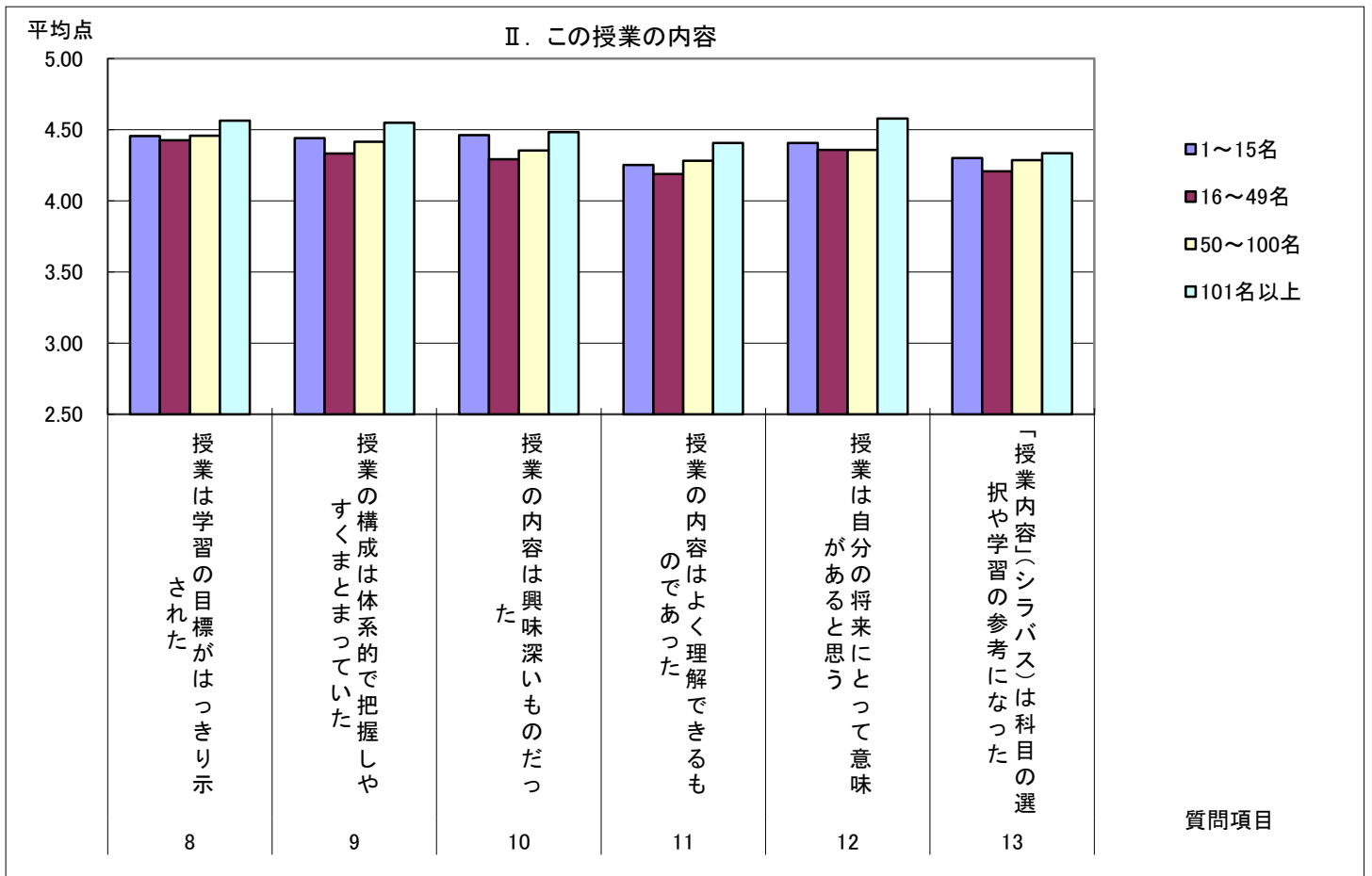
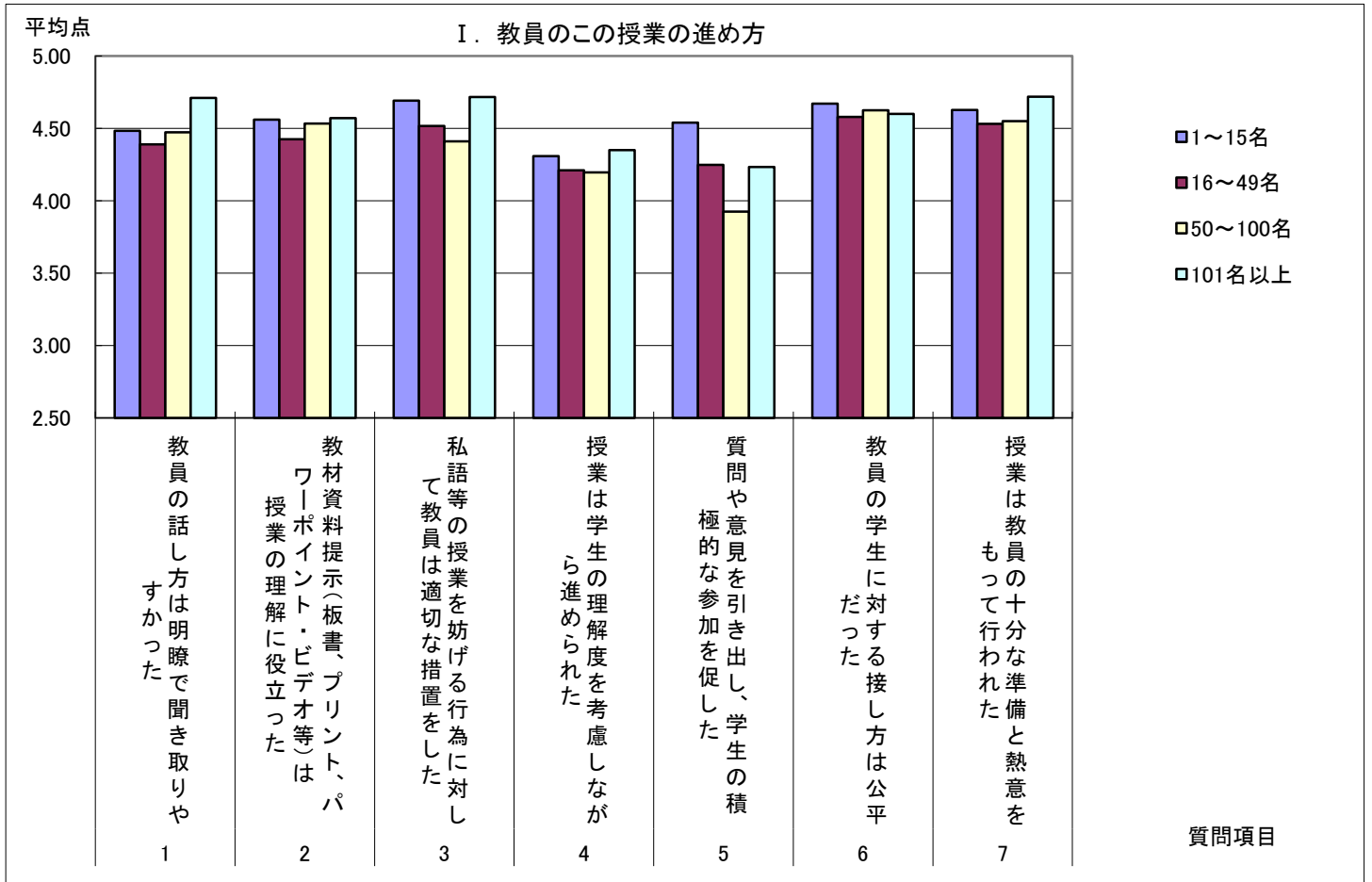
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	112	4,257	1,003	347
回答者数	91	3,780	880	317
回答率(%)	81.25	88.79	87.74	91.35

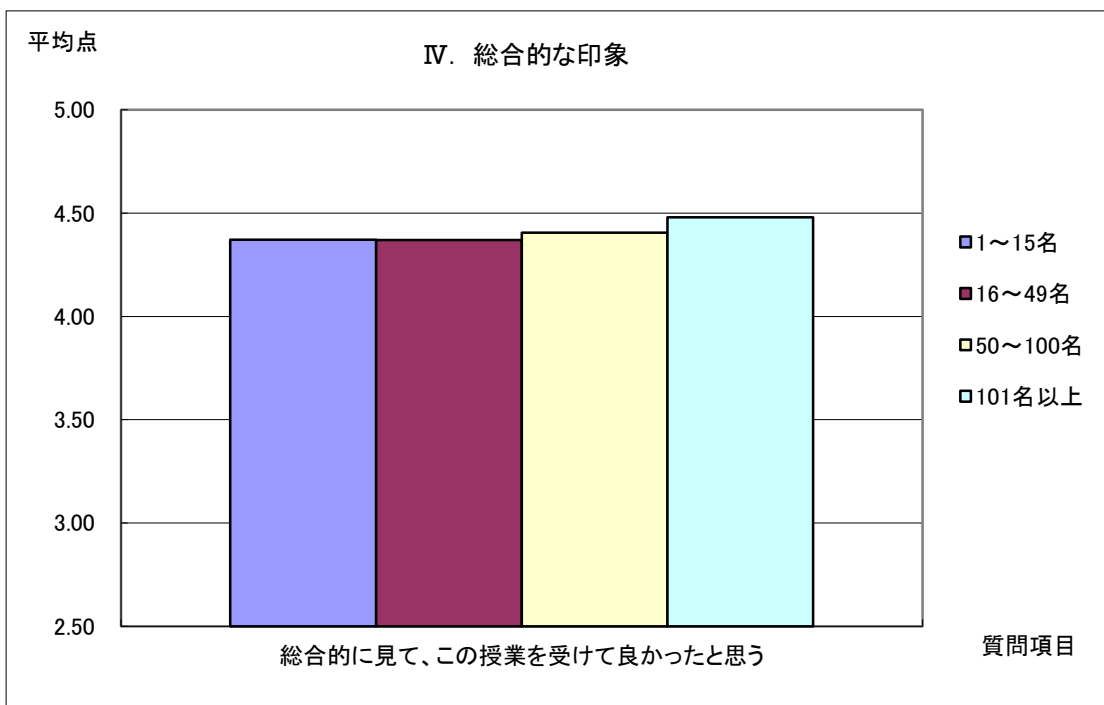
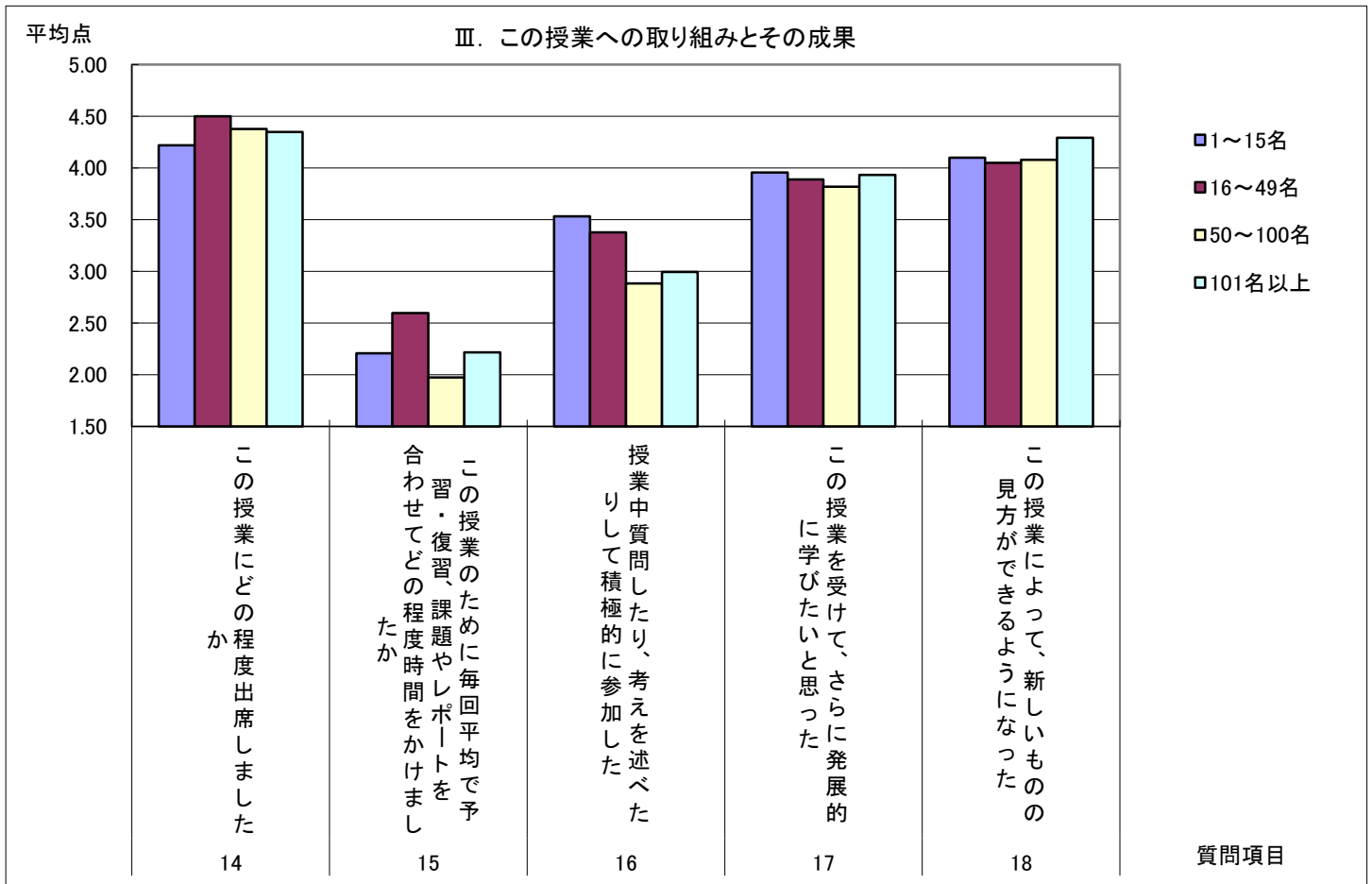
I. 教員のこの授業の進め方について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.48	4.39	4.47	4.71
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.56	4.43	4.53	4.57
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.69	4.52	4.41	4.72
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	4.21	4.20	4.35
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.54	4.25	3.92	4.23
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.67	4.58	4.63	4.60
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.63	4.53	4.55	4.72

II. この授業の内容について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.46	4.43	4.46	4.56
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.44	4.33	4.41	4.55
10	授業の内容は興味深いものだった	4.46	4.29	4.35	4.48
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.25	4.19	4.28	4.41
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.41	4.36	4.36	4.58
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.30	4.21	4.29	4.34

III. この授業への取り組みとその成果について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	4.50	4.38	4.35
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.21	2.60	1.97	2.22
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.53	3.38	2.88	2.99
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.96	3.89	3.82	3.93
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.10	4.05	4.08	4.29

IV. 総合的な印象		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	4.37	4.40	4.48





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

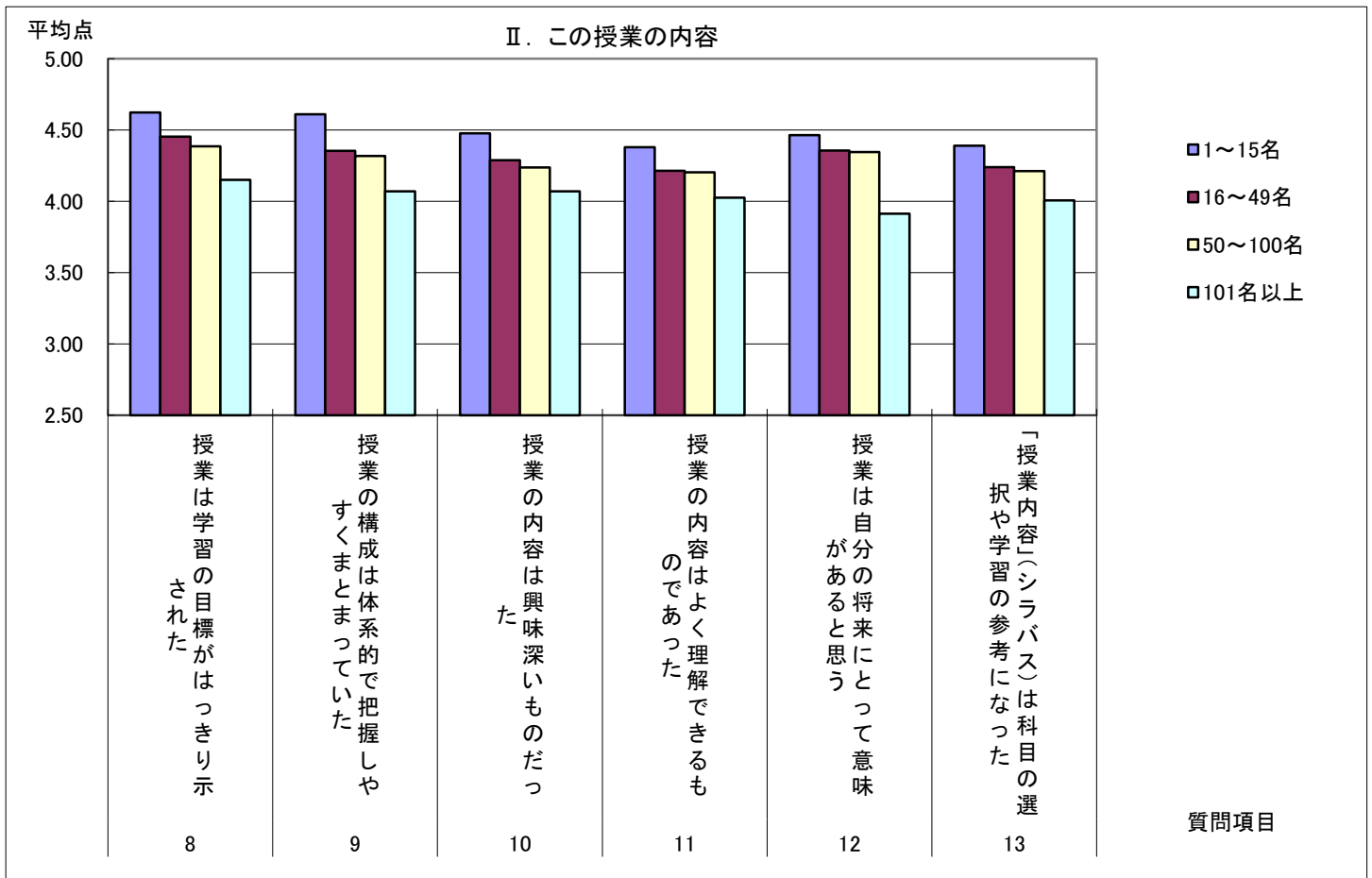
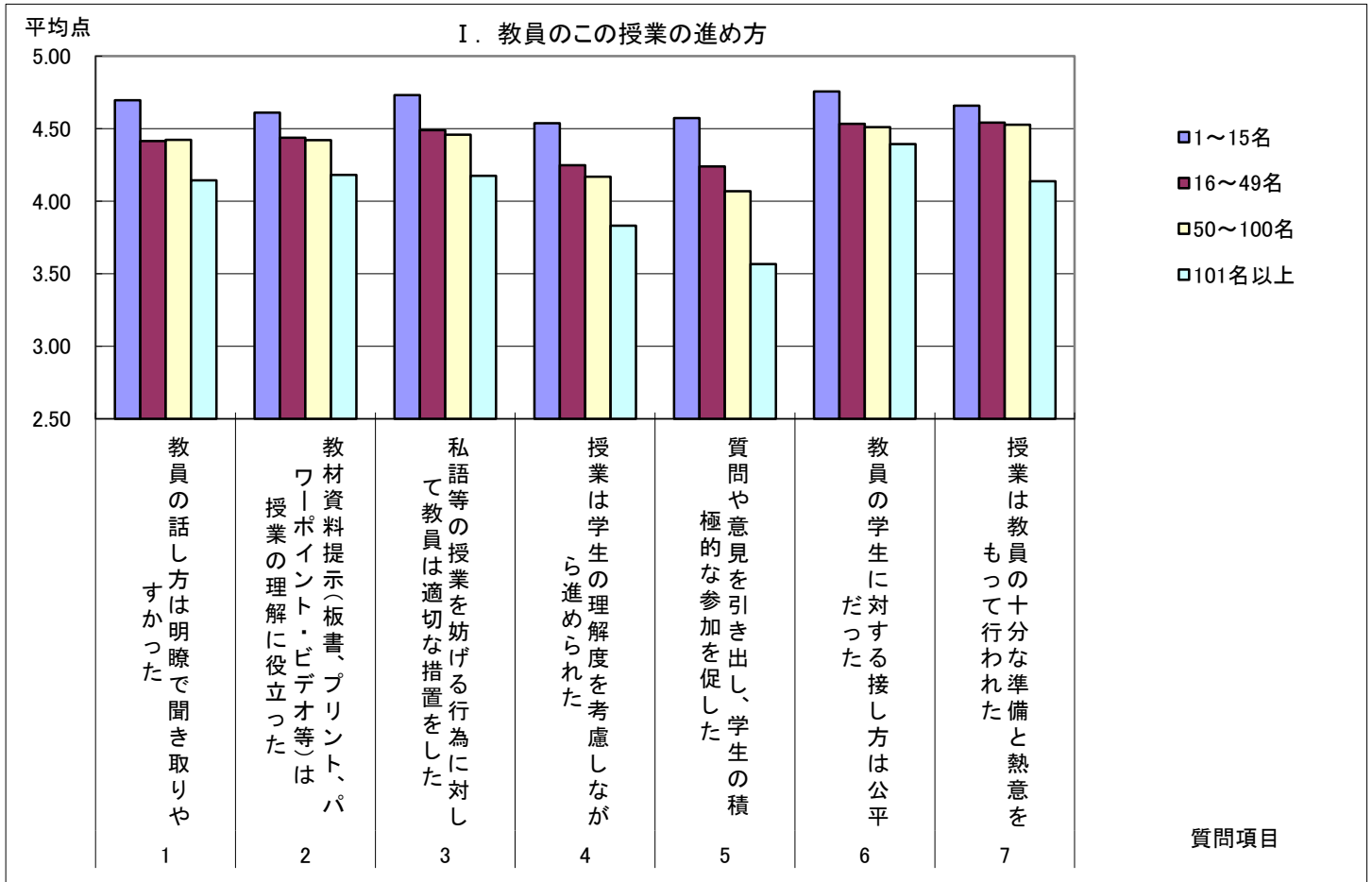
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	101	3,965	1,021	227
回答者数	82	3,316	800	160
回答率(%)	81.19	83.63	78.35	70.48

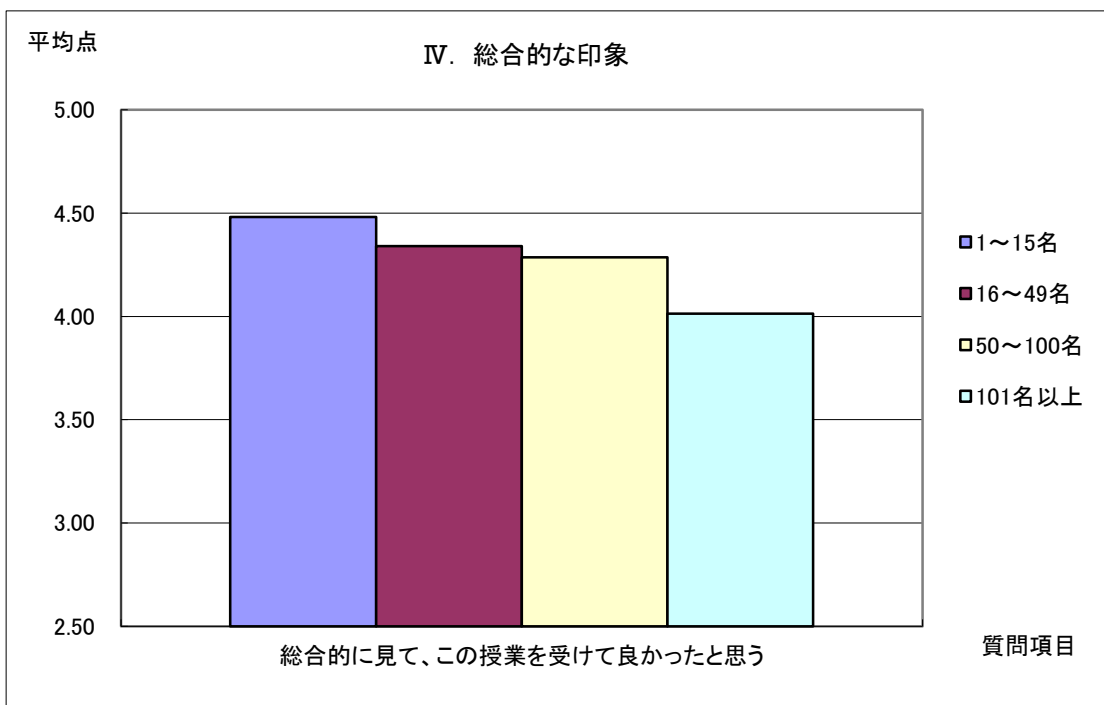
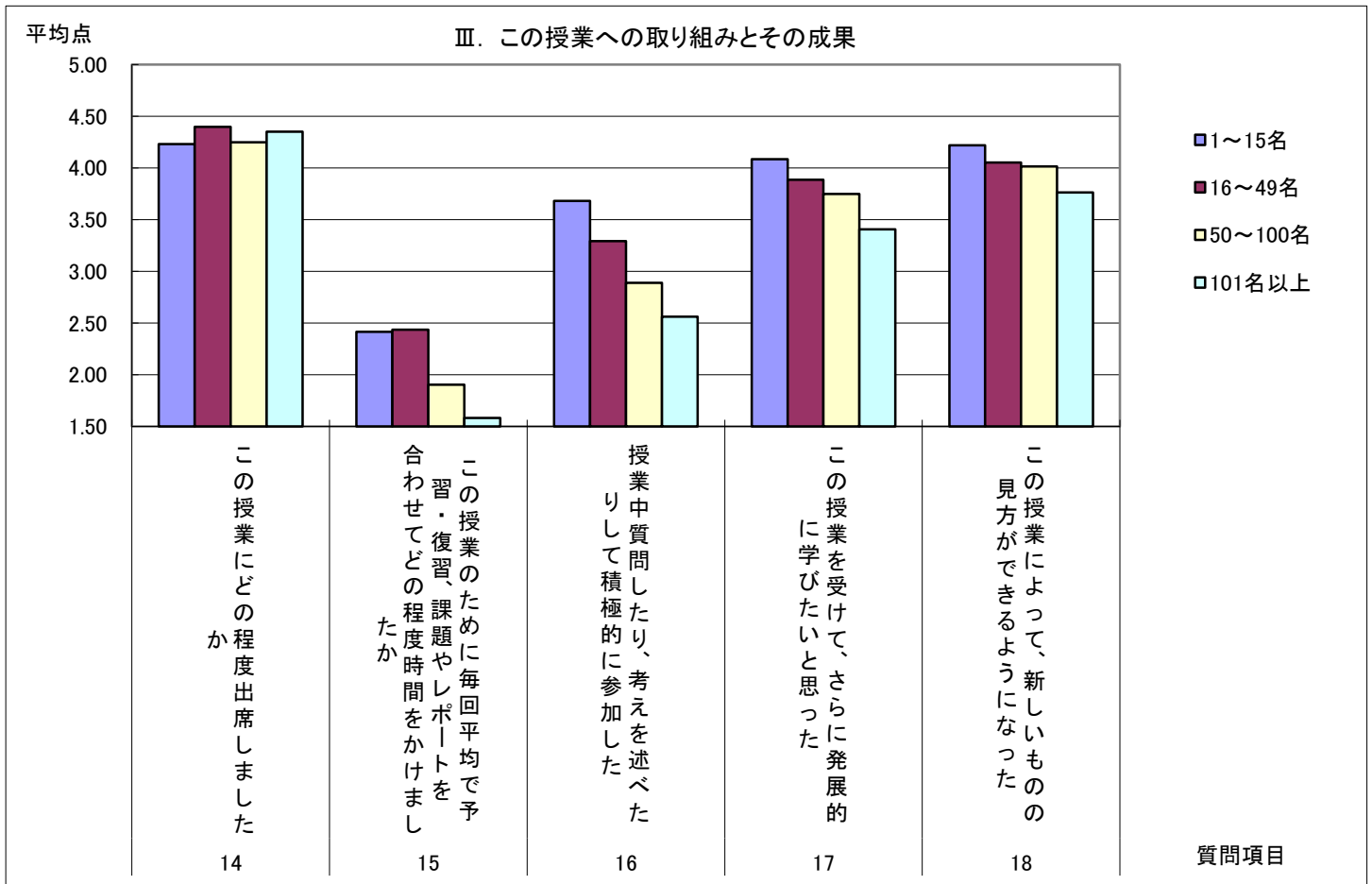
I. 教員のこの授業の進め方について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.70	4.41	4.42	4.14
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.61	4.44	4.42	4.18
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.73	4.49	4.46	4.18
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.54	4.25	4.17	3.83
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.57	4.24	4.07	3.57
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.76	4.53	4.51	4.39
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.66	4.54	4.53	4.14

II. この授業の内容について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.62	4.45	4.39	4.15
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.61	4.35	4.32	4.07
10	授業の内容は興味深いものだった	4.48	4.29	4.24	4.07
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.38	4.21	4.20	4.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.46	4.36	4.34	3.91
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.39	4.24	4.21	4.01

III. この授業への取り組みとその成果について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	4.40	4.25	4.35
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.41	2.44	1.90	1.58
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.68	3.29	2.89	2.56
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.09	3.89	3.75	3.41
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.22	4.05	4.01	3.76

IV. 総合的な印象		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.48	4.34	4.29	4.01





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

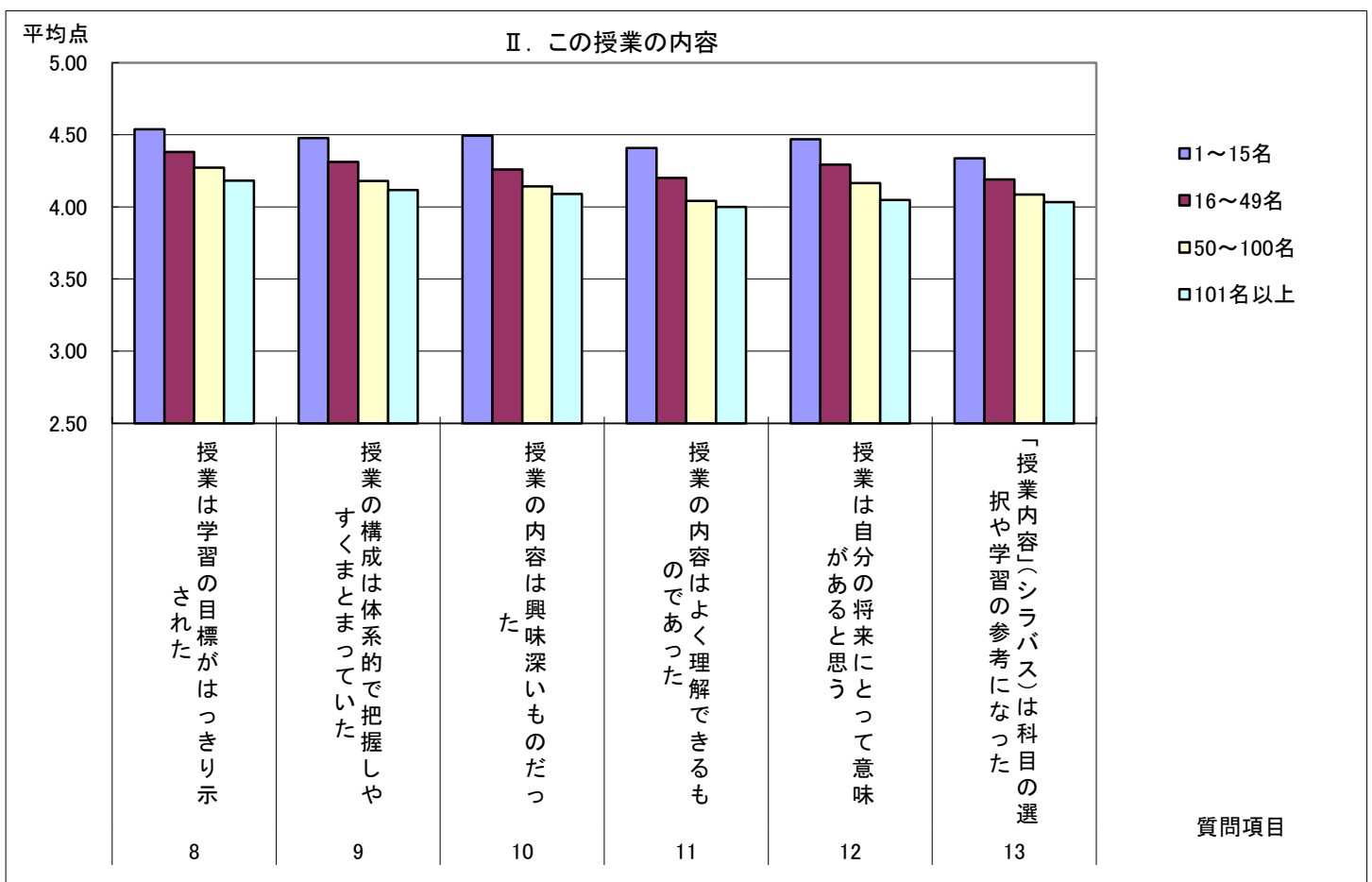
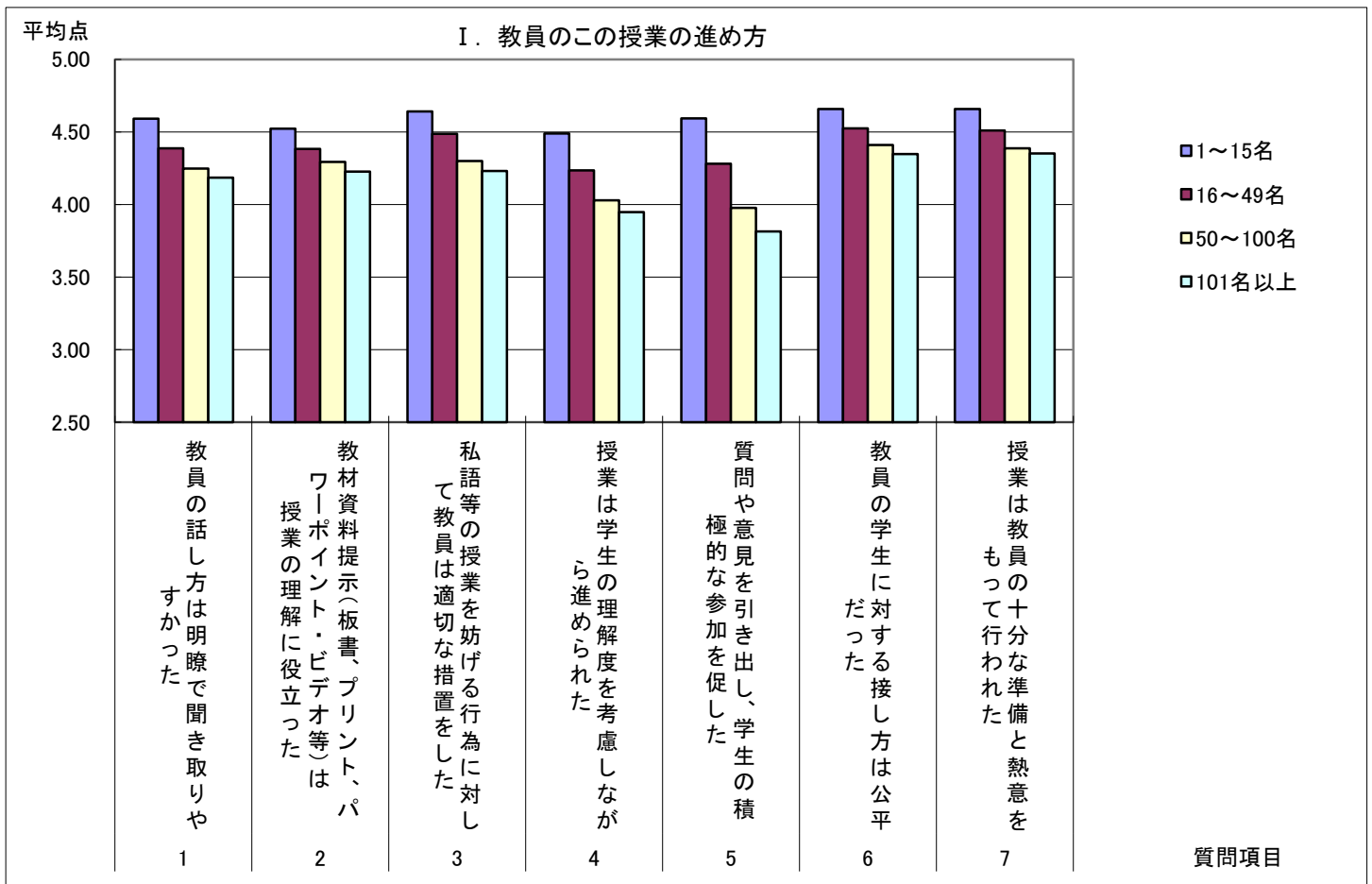
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,042	22,939	22,119	15,706
回答者数	1,711	19,749	17,740	12,166
回答率(%)	83.79	86.09	80.20	77.46

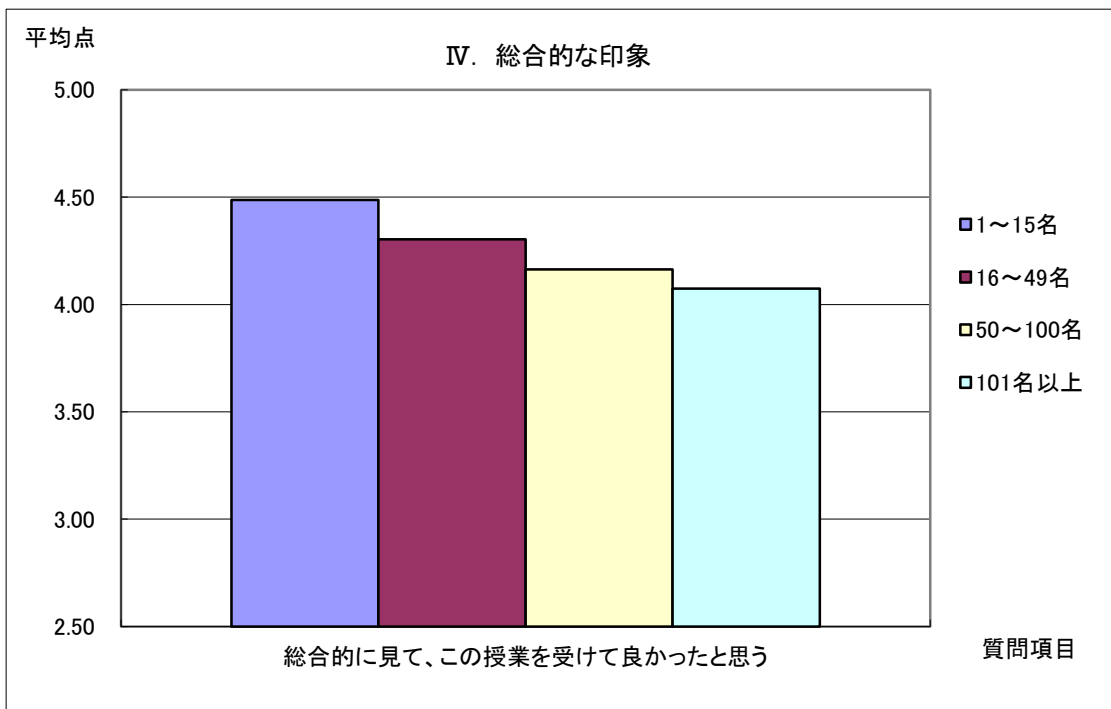
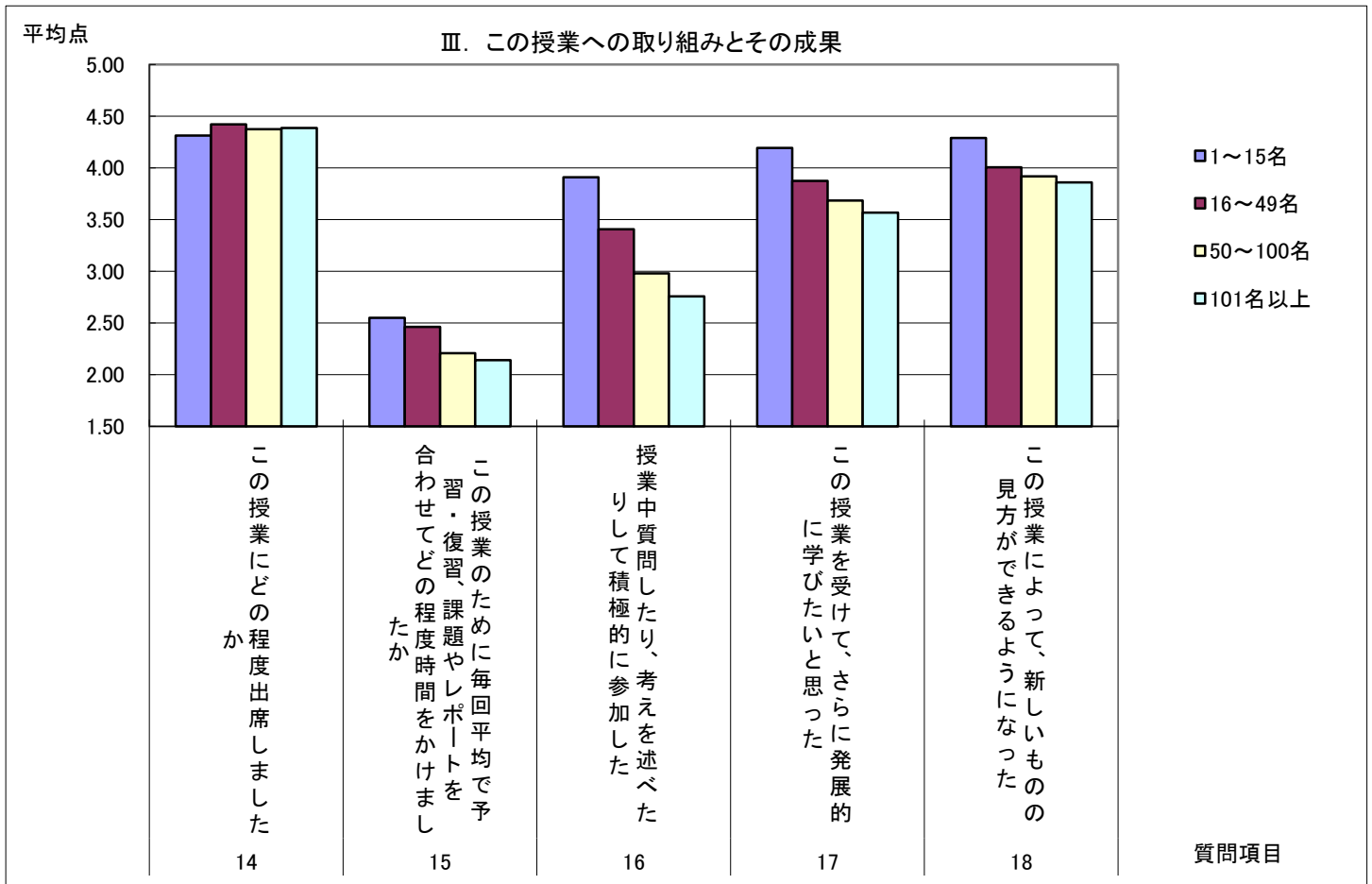
I. 教員のこの授業の進め方について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.59	4.39	4.25	4.19
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.52	4.38	4.29	4.23
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.64	4.49	4.30	4.23
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.49	4.24	4.03	3.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.59	4.28	3.98	3.81
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.66	4.53	4.41	4.35
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.66	4.51	4.39	4.35

II. この授業の内容について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.54	4.38	4.27	4.18
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.48	4.31	4.18	4.12
10	授業の内容は興味深いものだった	4.50	4.26	4.14	4.09
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.41	4.20	4.04	4.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.47	4.29	4.17	4.05
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.34	4.19	4.09	4.03

III. この授業への取り組みとその成果について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.31	4.42	4.37	4.38
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.55	2.46	2.21	2.14
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.91	3.41	2.98	2.76
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.19	3.87	3.68	3.57
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.29	4.01	3.92	3.86

IV. 総合的な印象		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.49	4.30	4.16	4.07





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

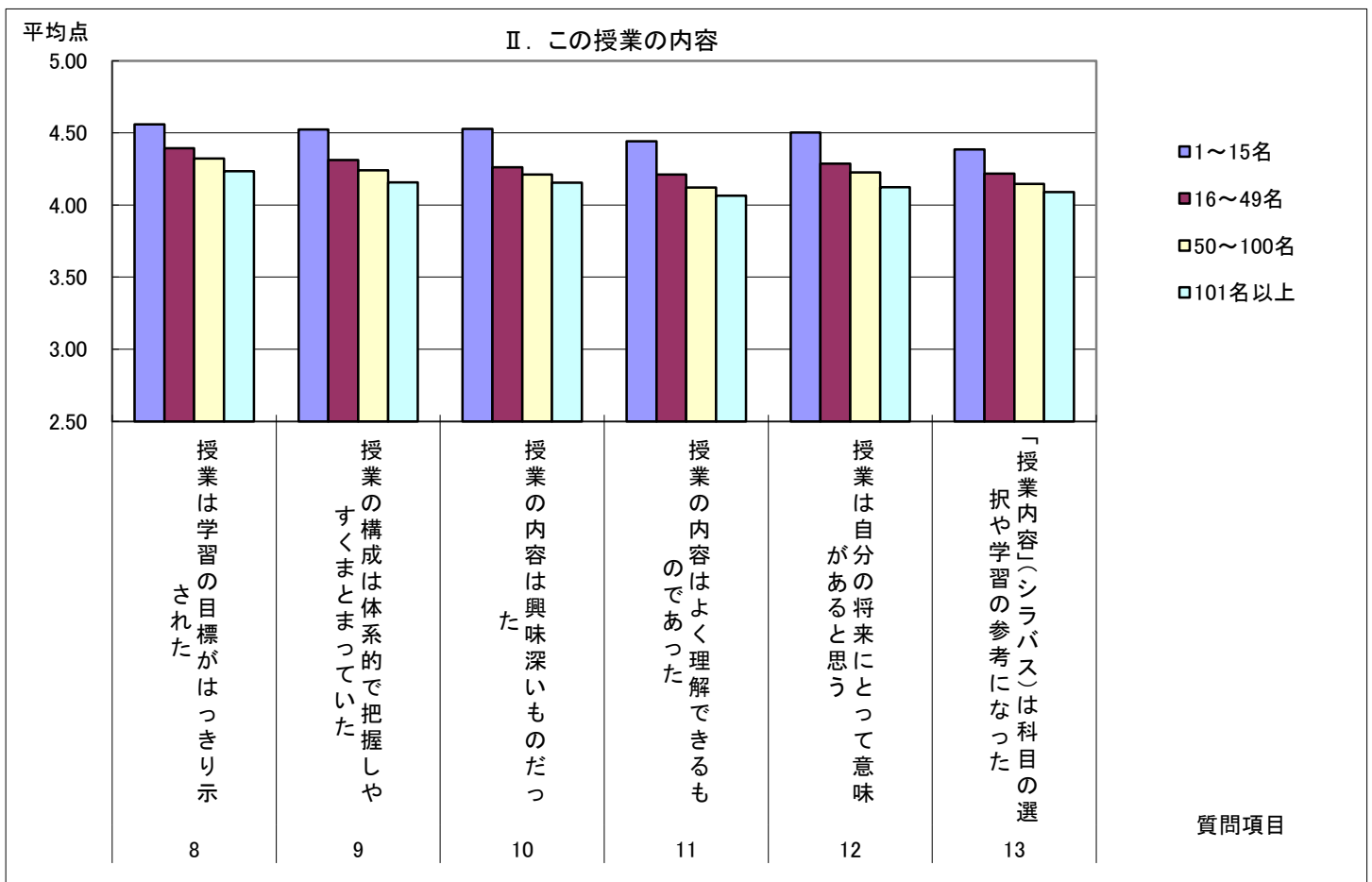
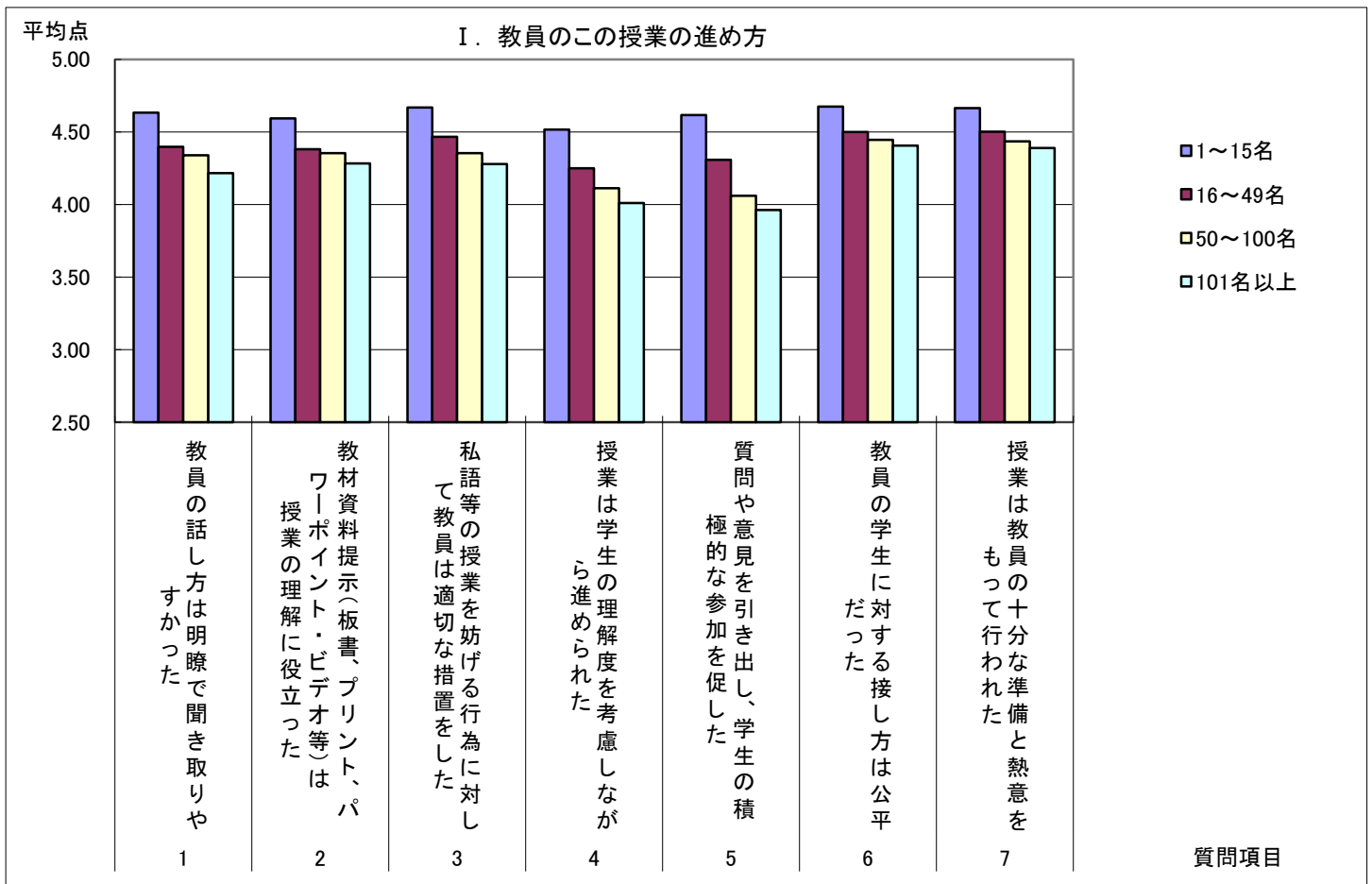
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	1,919	23,510	20,198	10,274
回答者数	1,547	18,919	15,132	7,434
回答率(%)	80.61	80.47	74.92	72.36

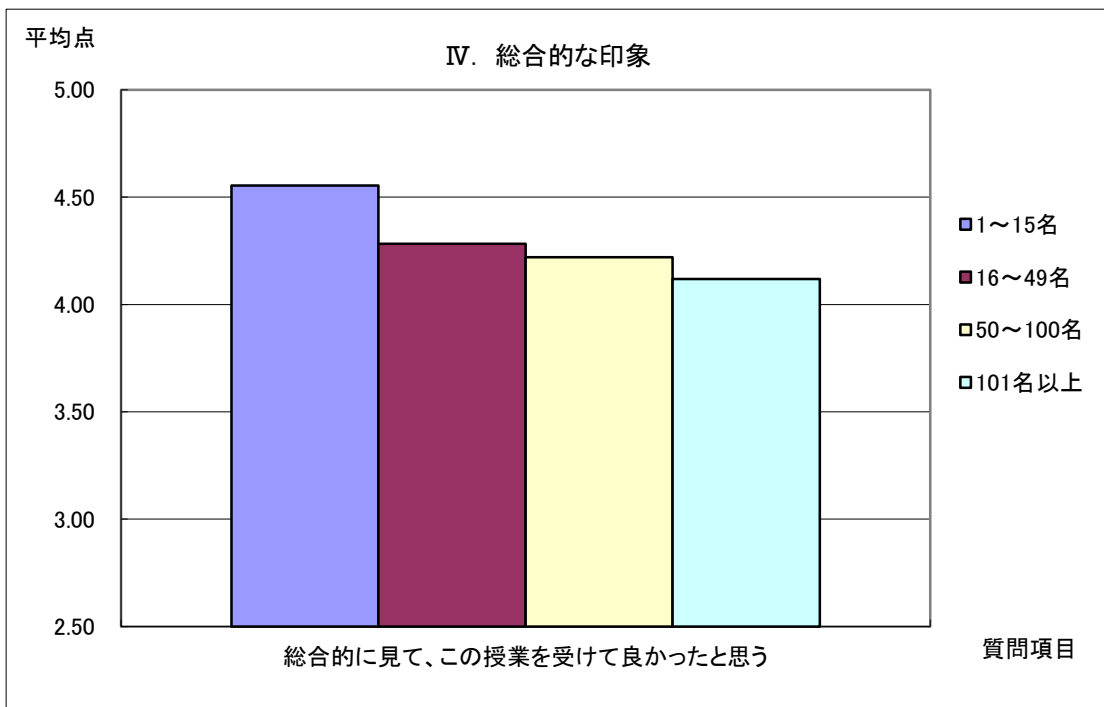
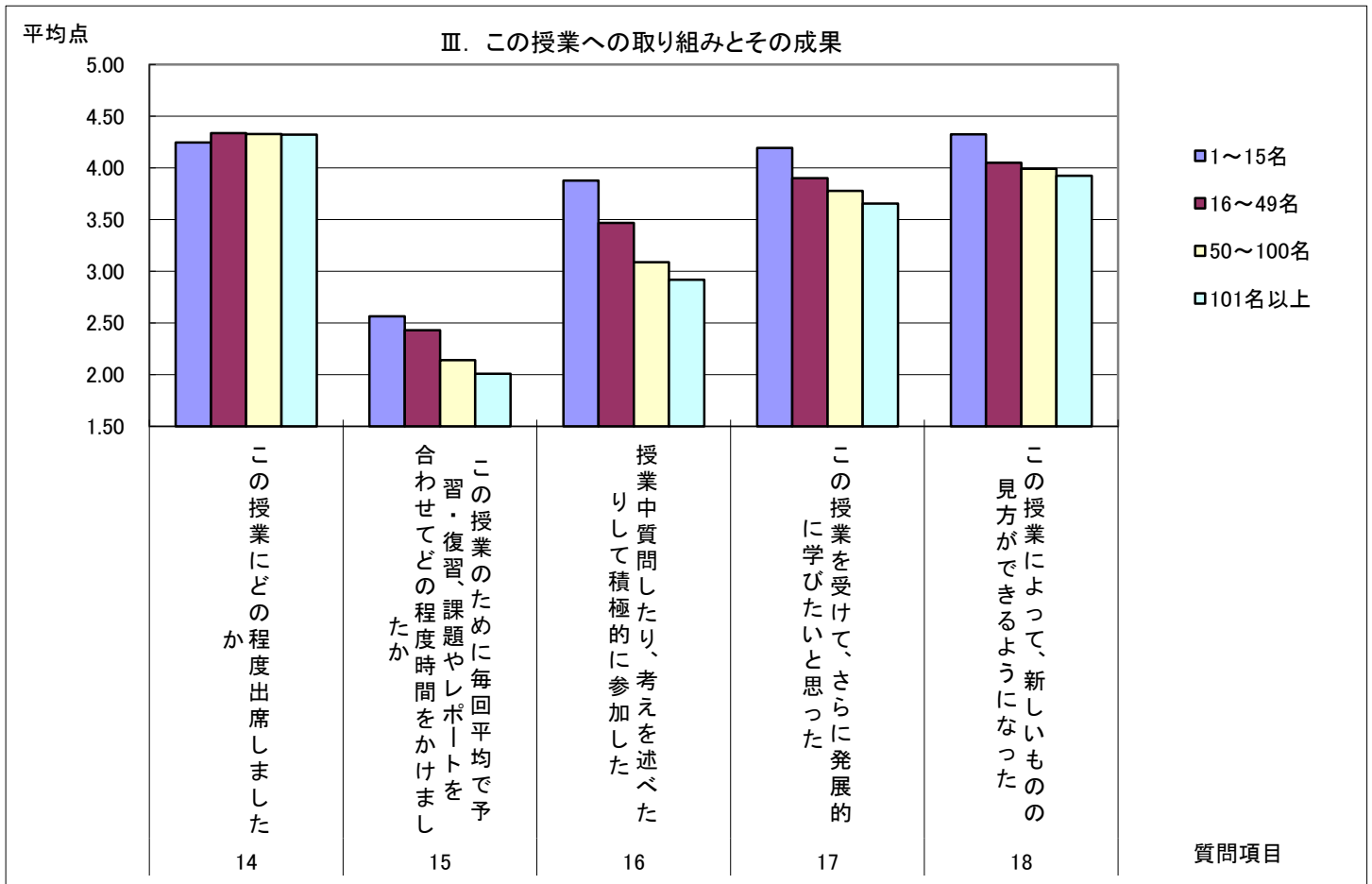
I. 教員のこの授業の進め方について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.63	4.40	4.34	4.22
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.59	4.38	4.35	4.28
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.67	4.47	4.35	4.28
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.52	4.25	4.11	4.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.62	4.31	4.06	3.96
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.67	4.50	4.45	4.41
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.66	4.50	4.44	4.39

II. この授業の内容について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.56	4.39	4.32	4.23
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.52	4.31	4.24	4.16
10	授業の内容は興味深いものだった	4.53	4.26	4.21	4.16
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.44	4.21	4.12	4.06
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.50	4.29	4.23	4.12
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.39	4.22	4.15	4.09

III. この授業への取り組みとその成果について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	4.34	4.33	4.32
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.56	2.43	2.14	2.01
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.88	3.47	3.09	2.92
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.19	3.90	3.78	3.65
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.32	4.05	3.99	3.92

IV. 総合的な印象		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.55	4.28	4.22	4.12





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(専任・兼任別)

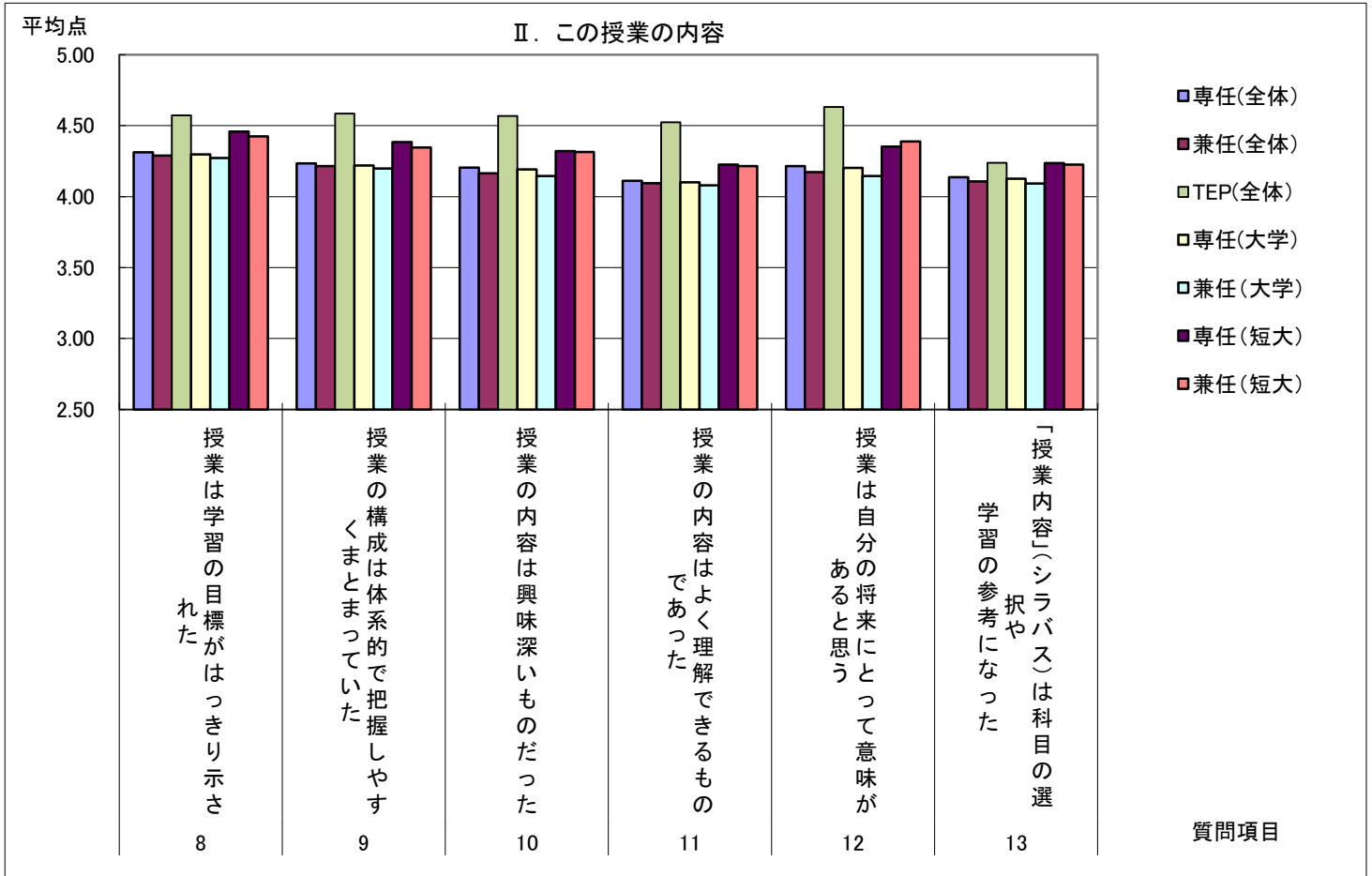
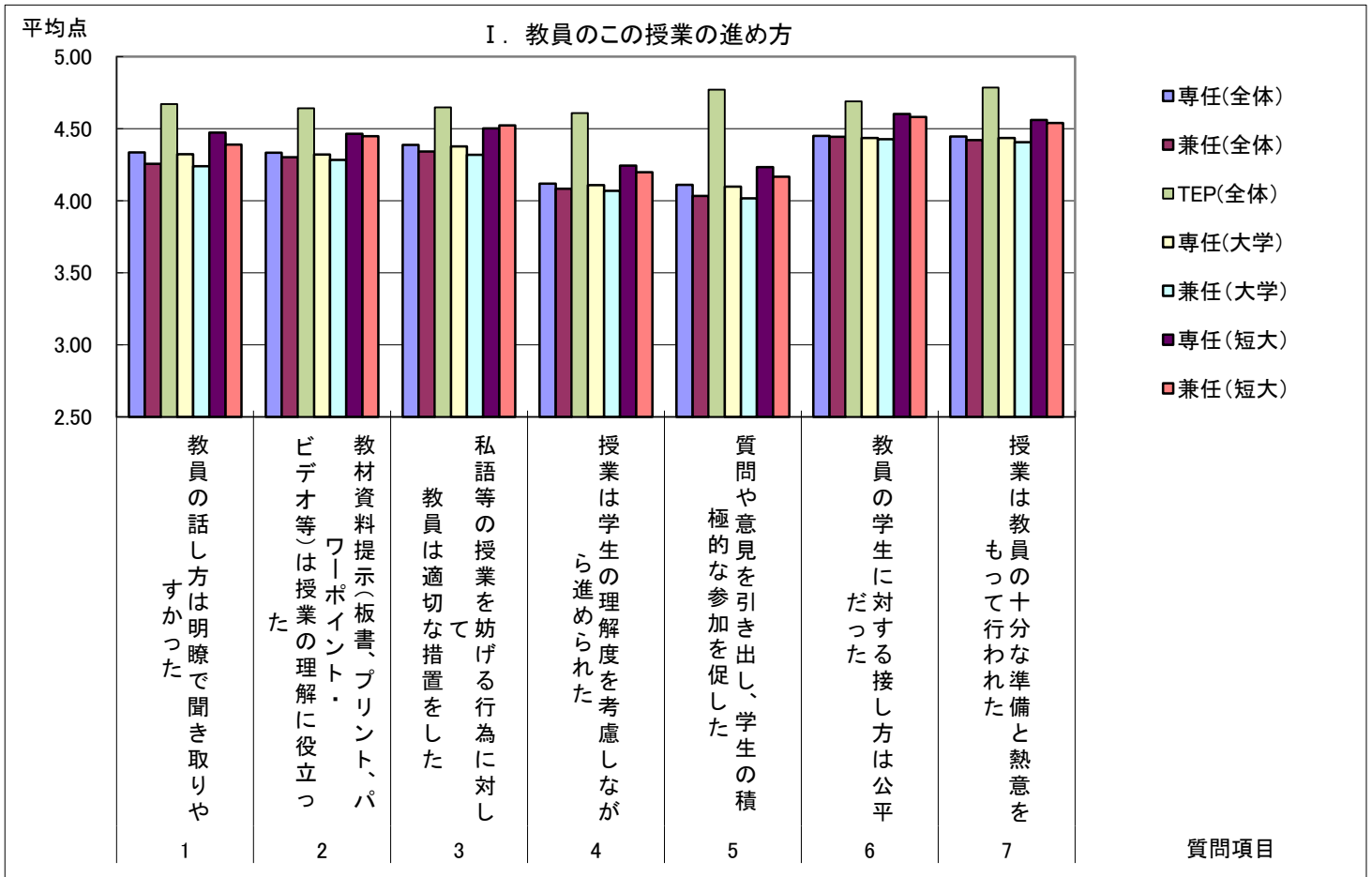
	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	31,107	31,302	397	28,572	28,118	2,535	3,184
回答者数	25,771	25,289	306	23,562	22,430	2,209	2,859
回答率(%)	82.85	80.79	77.08	82.47	79.77	87.14	89.79

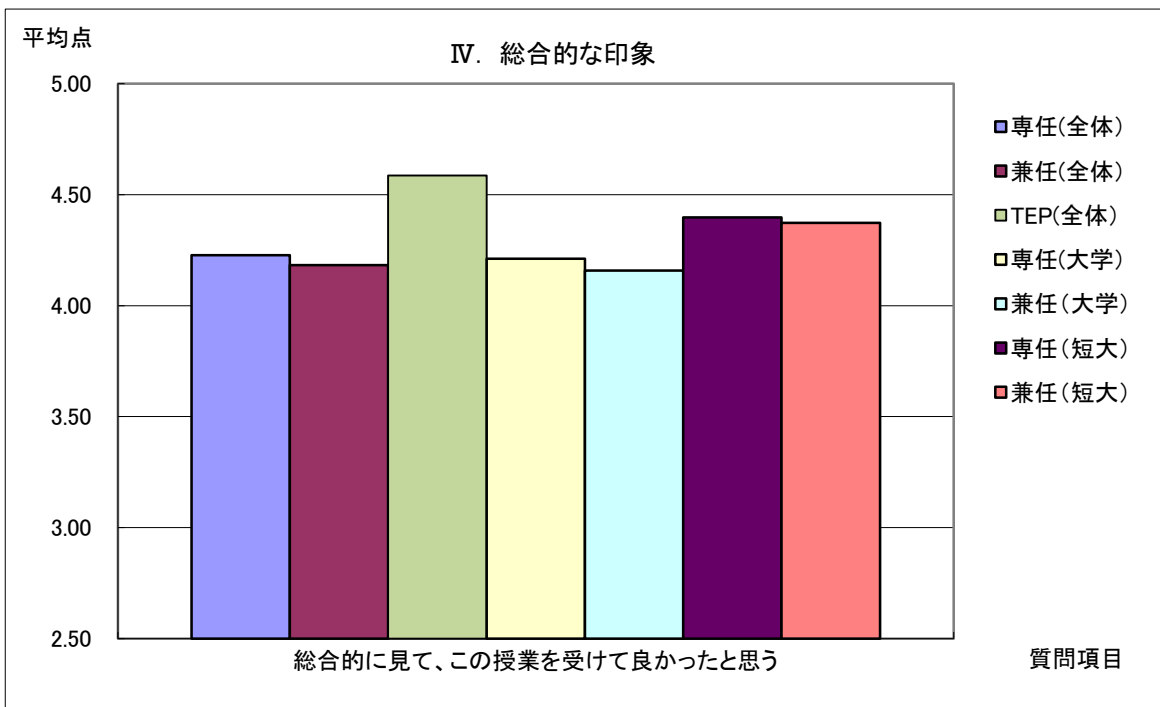
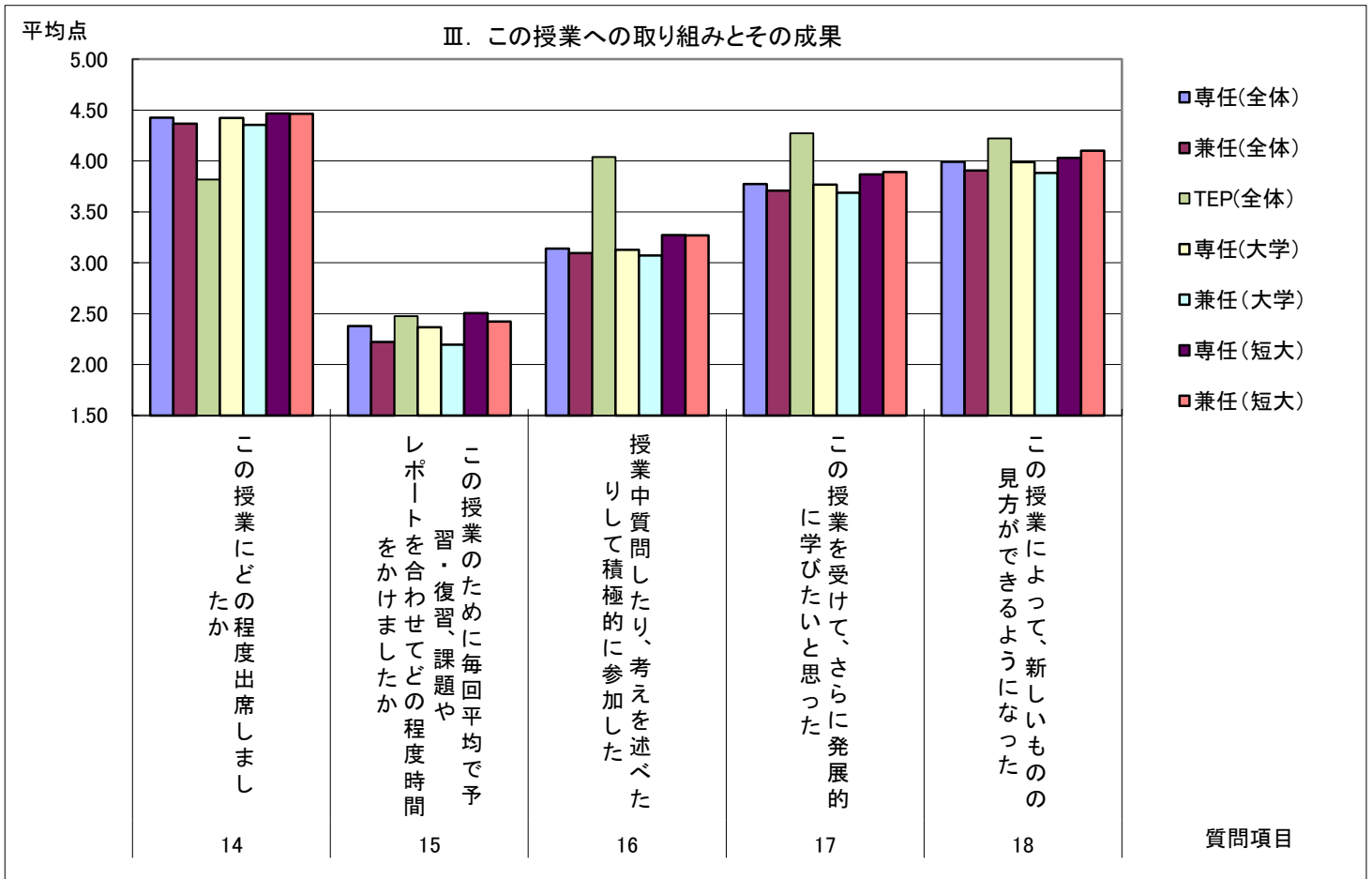
I. 教員のこの授業の進め方について		専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.34	4.26	4.67	4.32	4.24	4.47	4.39
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	4.30	4.64	4.32	4.28	4.46	4.45
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.39	4.34	4.65	4.38	4.32	4.50	4.52
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	4.08	4.61	4.11	4.07	4.24	4.20
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.11	4.03	4.77	4.10	4.02	4.23	4.17
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	4.44	4.69	4.43	4.43	4.60	4.58
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	4.42	4.78	4.43	4.41	4.56	4.54

II. この授業の内容について		専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.31	4.29	4.57	4.30	4.27	4.46	4.43
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.23	4.22	4.58	4.22	4.20	4.38	4.35
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	4.16	4.57	4.19	4.15	4.32	4.31
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.11	4.10	4.52	4.10	4.08	4.22	4.22
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	4.17	4.63	4.20	4.14	4.35	4.39
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.14	4.11	4.24	4.13	4.09	4.24	4.23

III. この授業への取り組みとその成果について		専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.43	4.37	3.82	4.42	4.35	4.47	4.46
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.38	2.22	2.48	2.37	2.20	2.51	2.42
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.14	3.09	4.04	3.13	3.07	3.27	3.27
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.77	3.71	4.27	3.77	3.69	3.87	3.89
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.99	3.91	4.22	3.99	3.88	4.03	4.10

IV. 総合的な印象		専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	4.18	4.59	4.21	4.16	4.40	4.37





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(専任・兼任別)

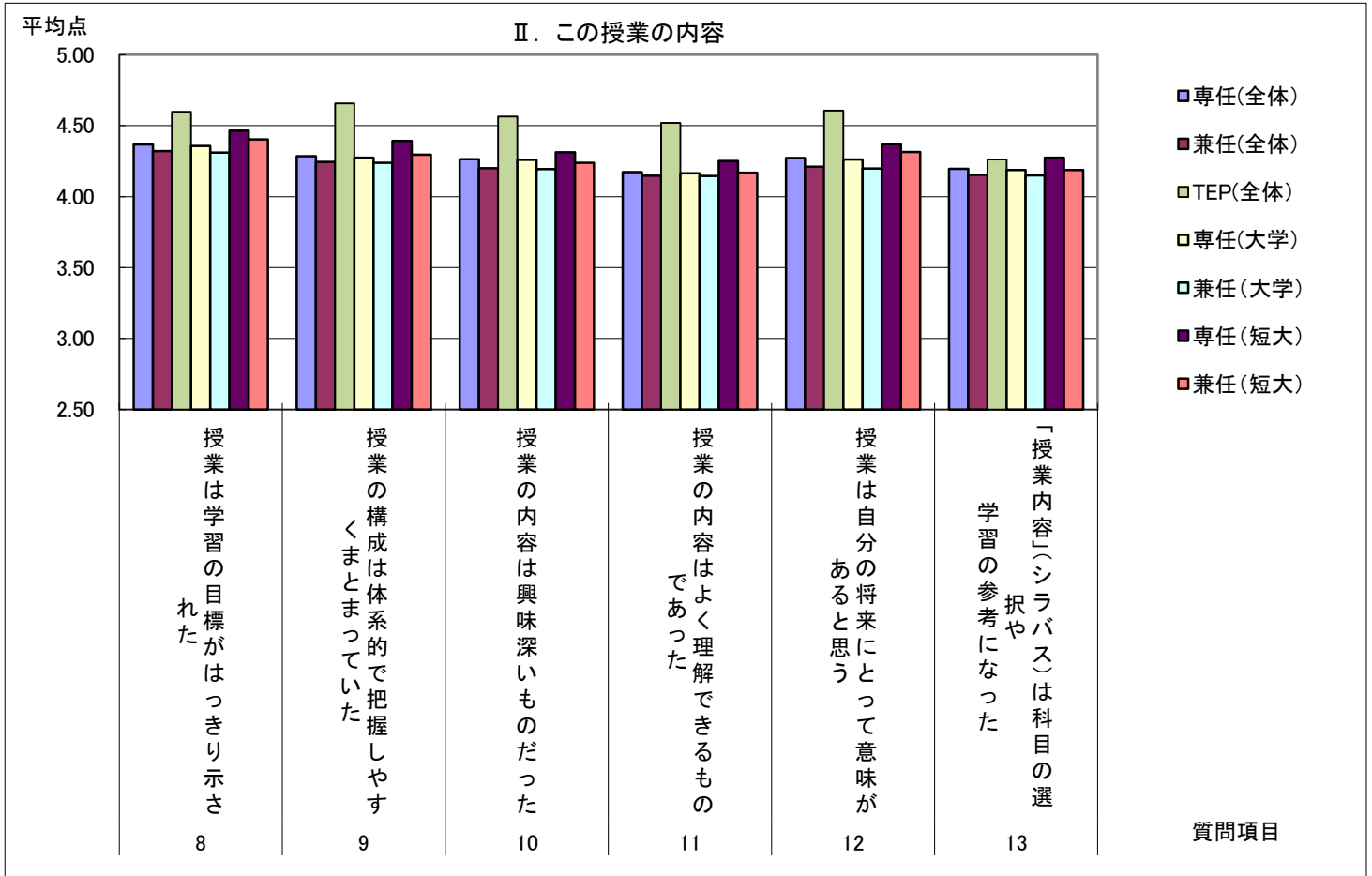
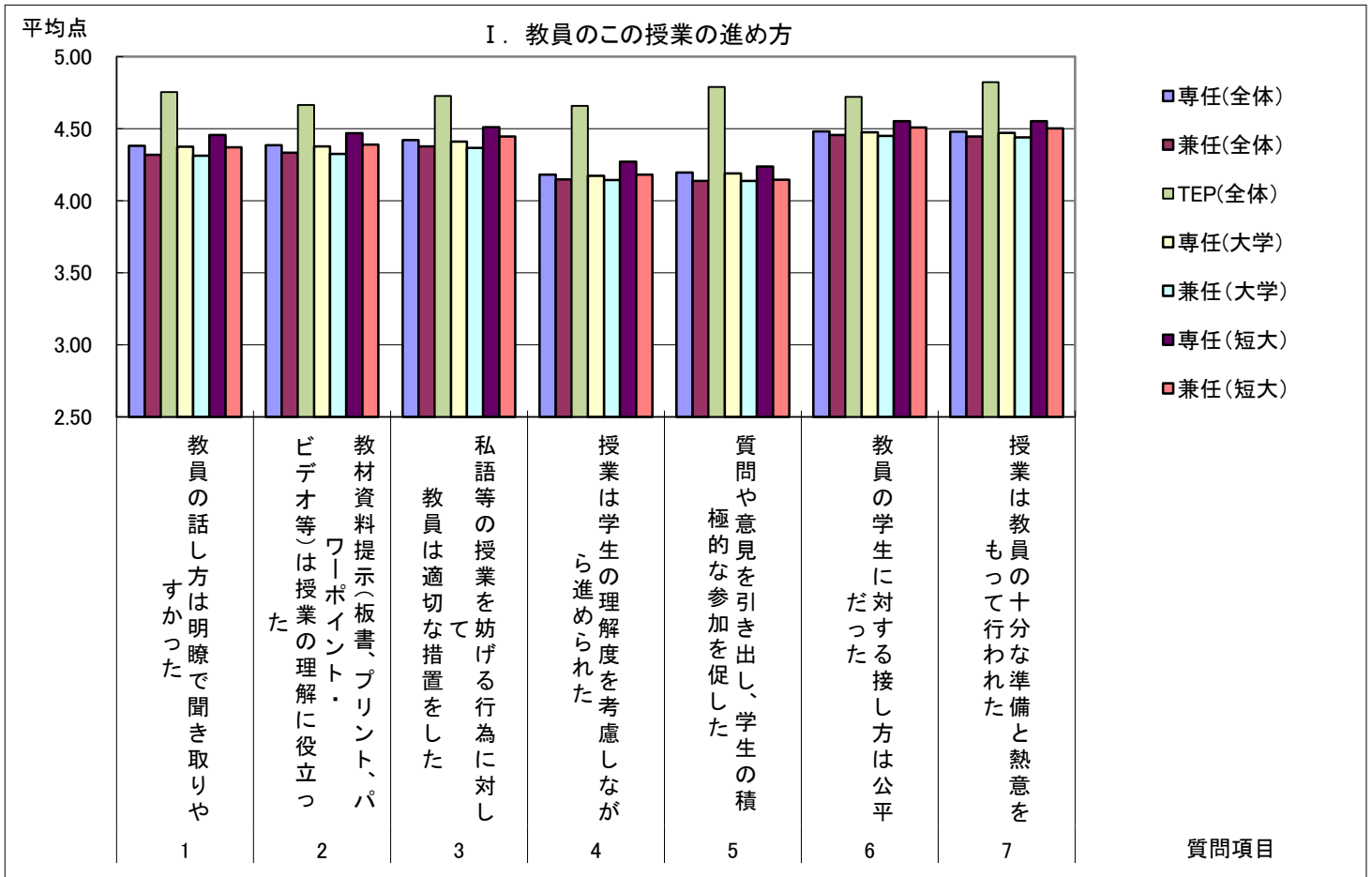
	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	29,412	26,078	411	26,885	23,291	2,527	2,787
回答者数	22,681	20,062	289	20,586	17,799	2,095	2,263
回答率(%)	77.11	76.93	70.32	76.57	76.42	82.90	81.20

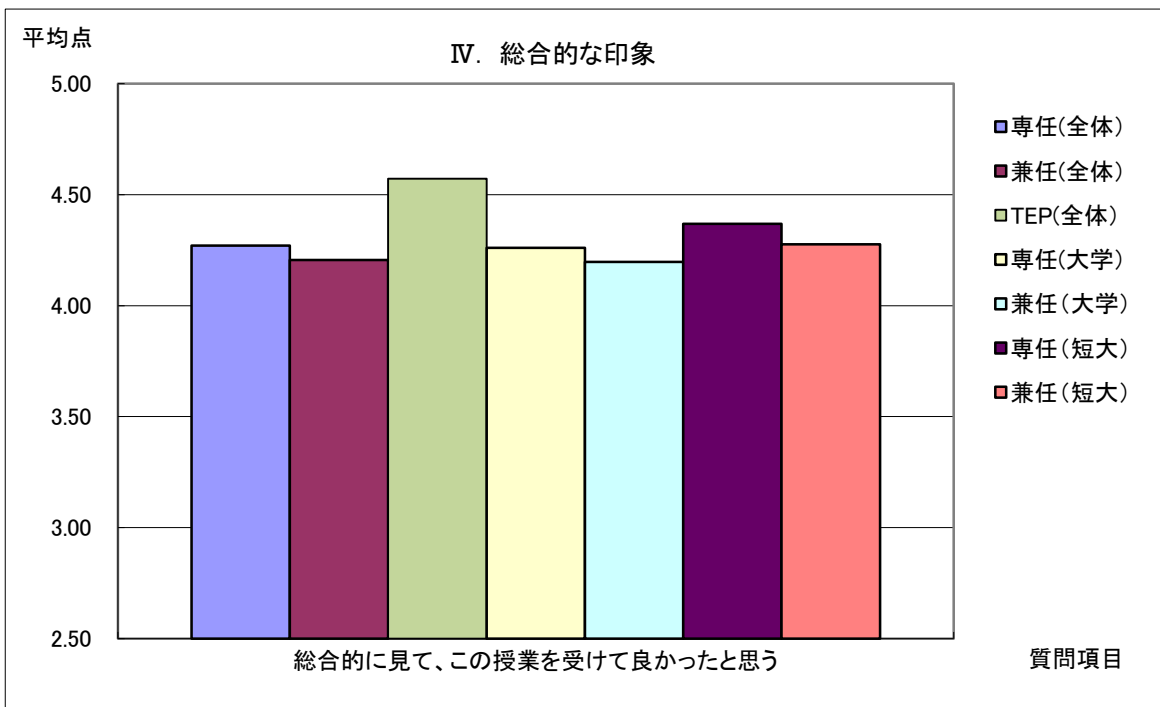
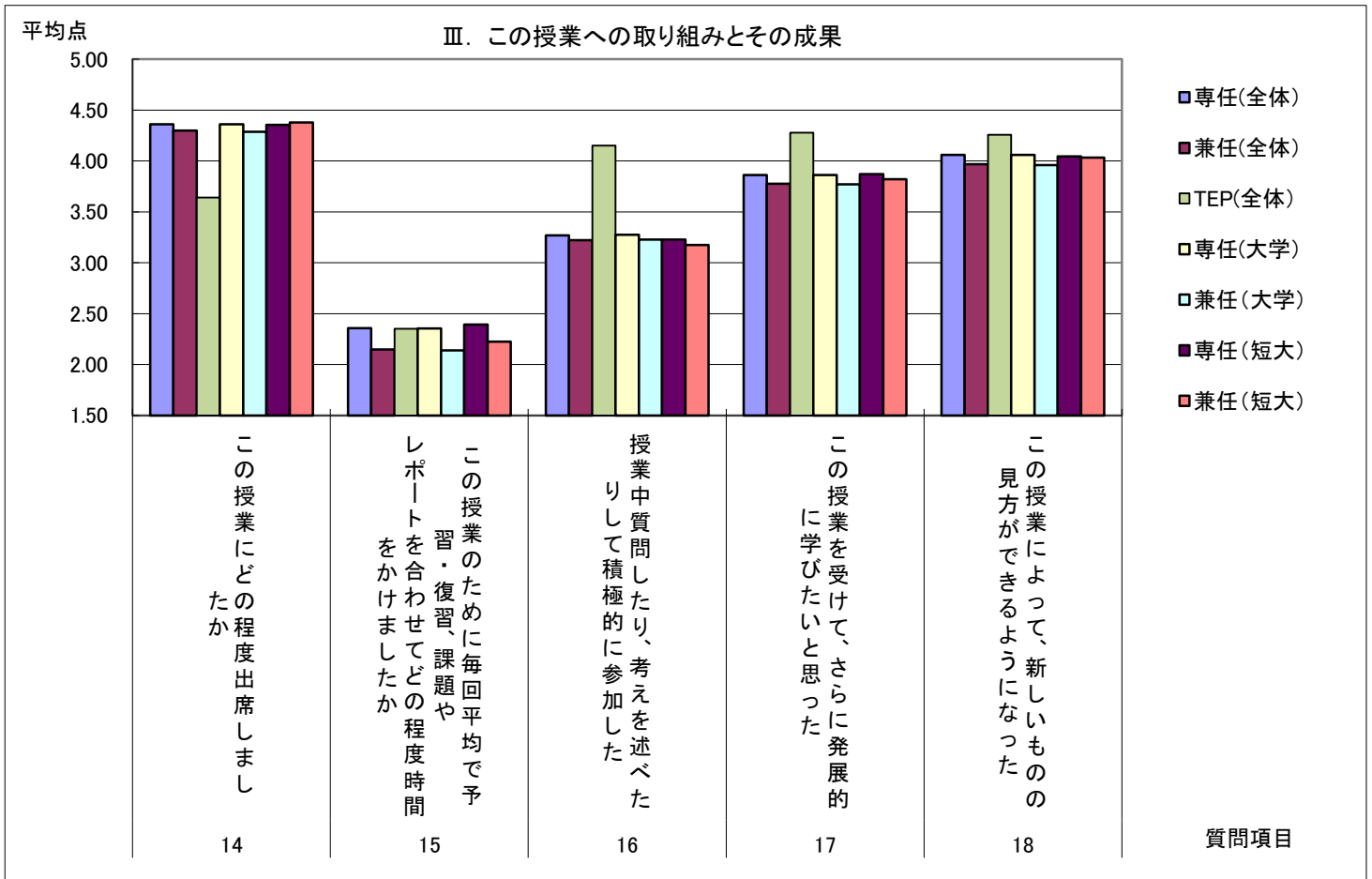
I. 教員のこの授業の進め方について		専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	4.32	4.75	4.37	4.31	4.46	4.37
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.38	4.33	4.66	4.38	4.33	4.47	4.39
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.42	4.38	4.73	4.41	4.37	4.51	4.45
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.18	4.15	4.66	4.17	4.14	4.27	4.18
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.19	4.14	4.79	4.19	4.14	4.24	4.15
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.48	4.46	4.72	4.47	4.45	4.55	4.51
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	4.45	4.82	4.47	4.44	4.55	4.50

II. この授業の内容について		専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.37	4.32	4.60	4.36	4.31	4.46	4.40
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.29	4.24	4.66	4.27	4.24	4.39	4.29
10	授業の内容は興味深いものだった	4.26	4.20	4.56	4.26	4.19	4.31	4.24
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.17	4.15	4.52	4.16	4.15	4.25	4.17
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	4.21	4.61	4.26	4.20	4.37	4.31
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.20	4.15	4.26	4.19	4.15	4.27	4.19

III. この授業への取り組みとその成果について		専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.36	4.30	3.64	4.36	4.29	4.35	4.38
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.36	2.15	2.35	2.35	2.14	2.39	2.22
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.27	3.22	4.15	3.27	3.23	3.23	3.17
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.86	3.78	4.28	3.86	3.77	3.87	3.82
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.06	3.97	4.26	4.06	3.96	4.05	4.03

IV. 総合的な印象		専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	4.21	4.57	4.26	4.20	4.37	4.28





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

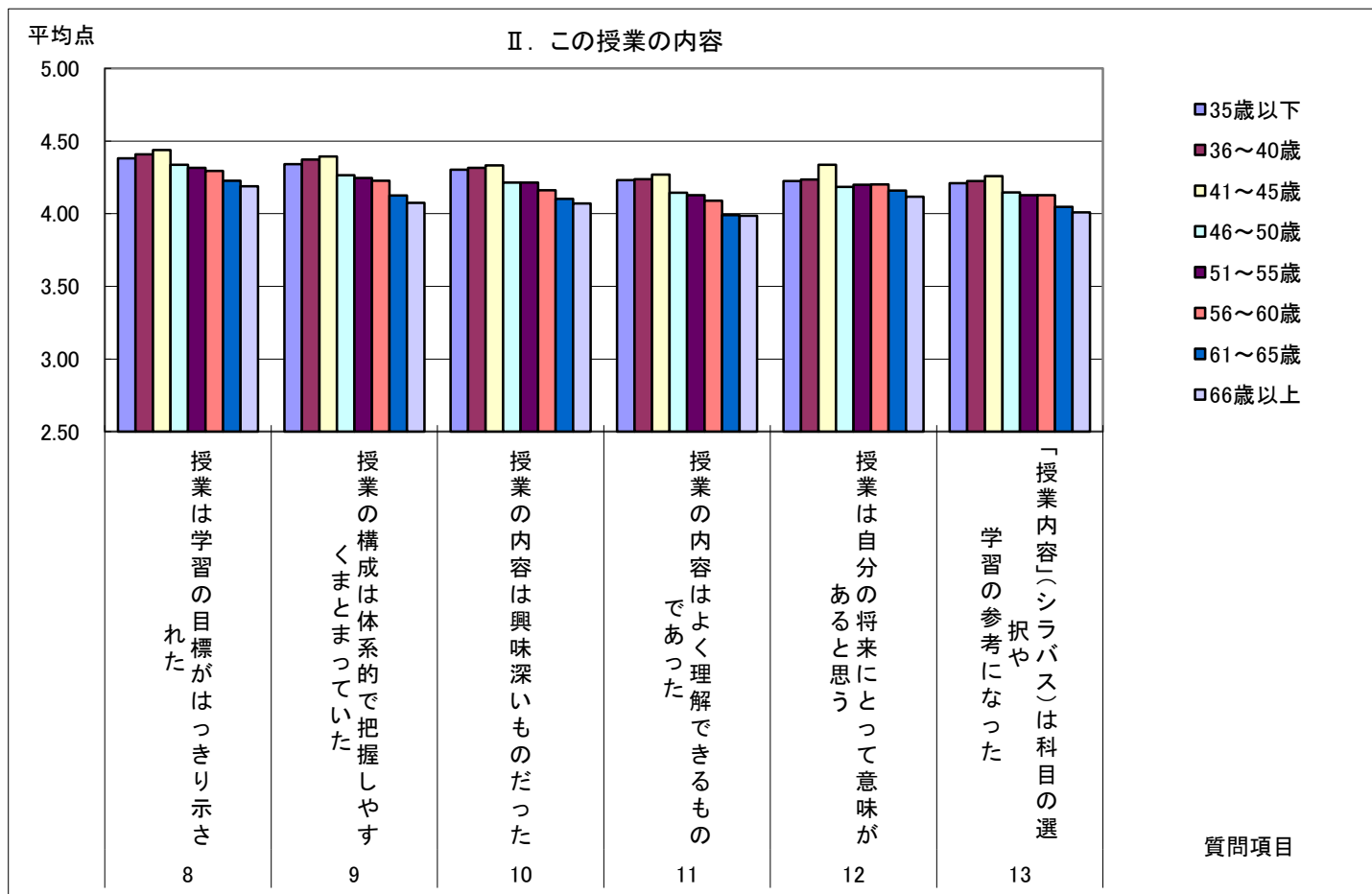
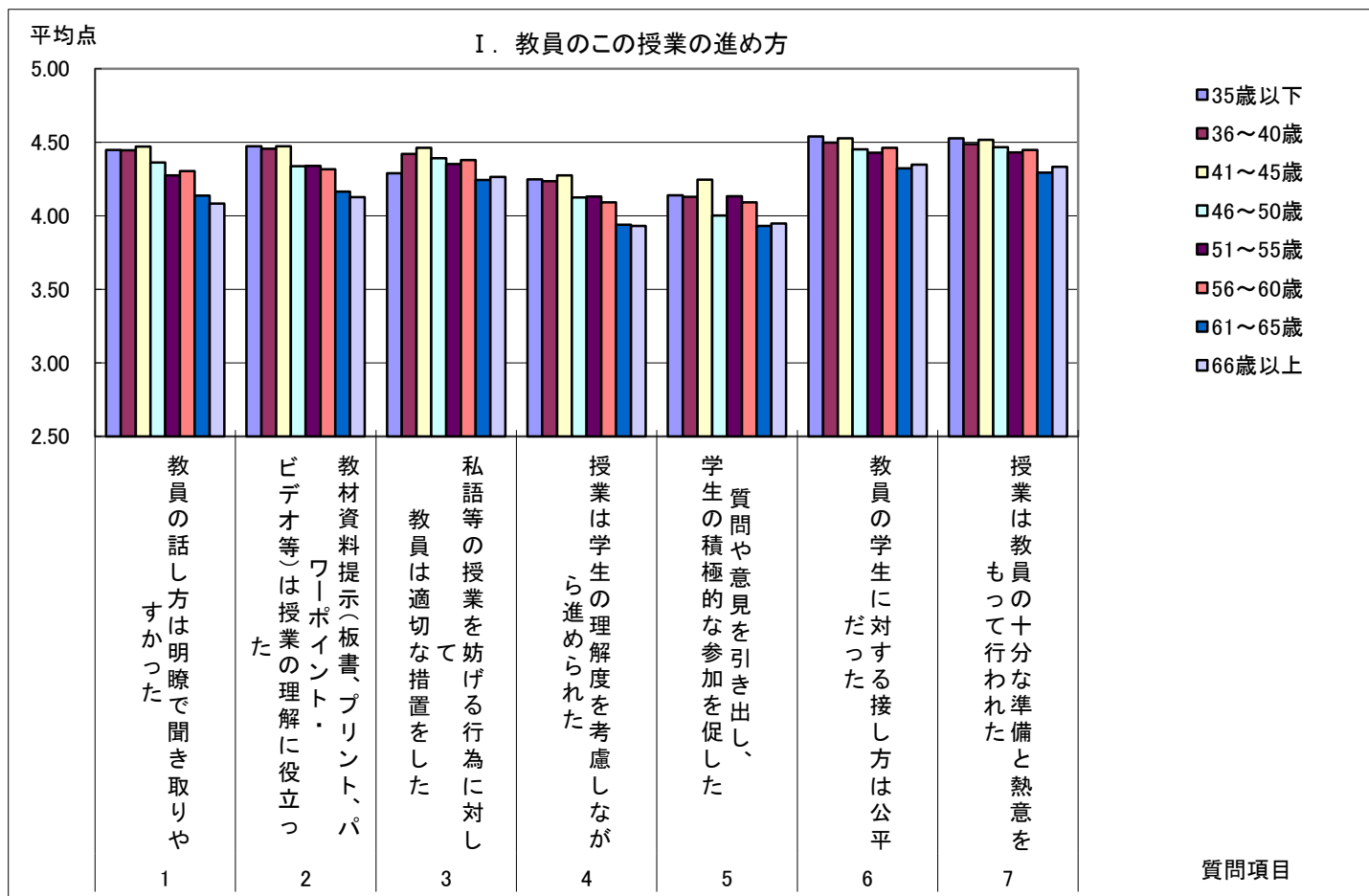
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,792	4,331	6,691	7,806	8,184	11,300	7,586	9,397
回答者数	1,494	3,463	5,382	6,310	6,542	9,373	5,979	7,755
回答率(%)	83.37	79.96	80.44	80.84	79.94	82.95	78.82	82.53

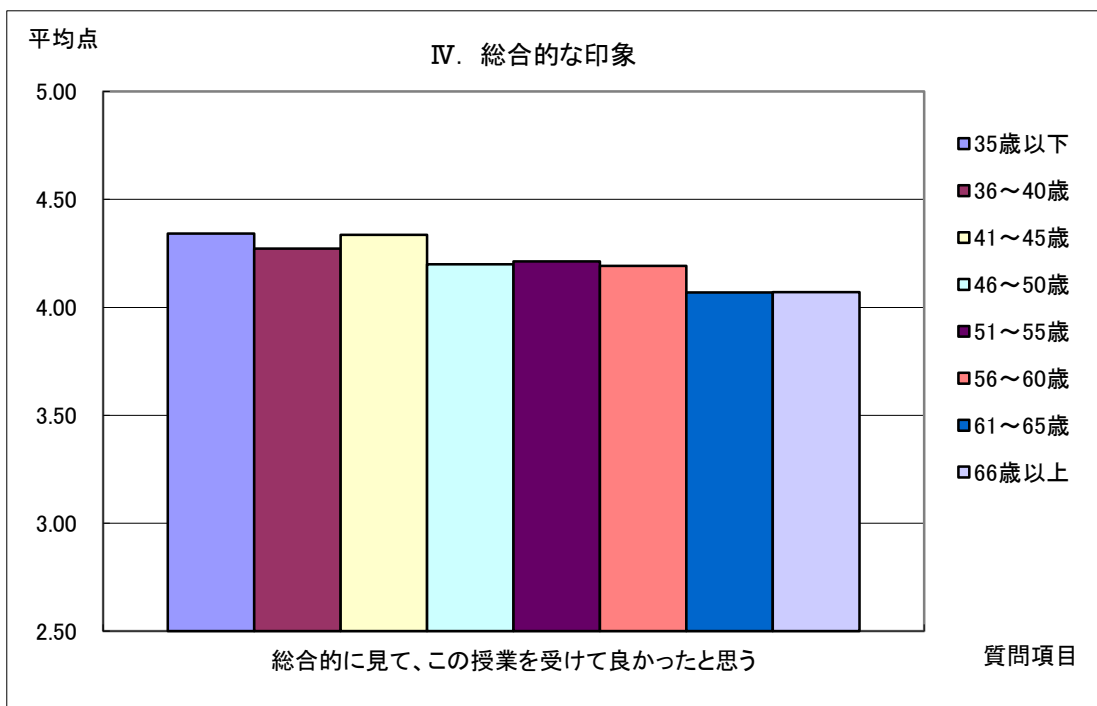
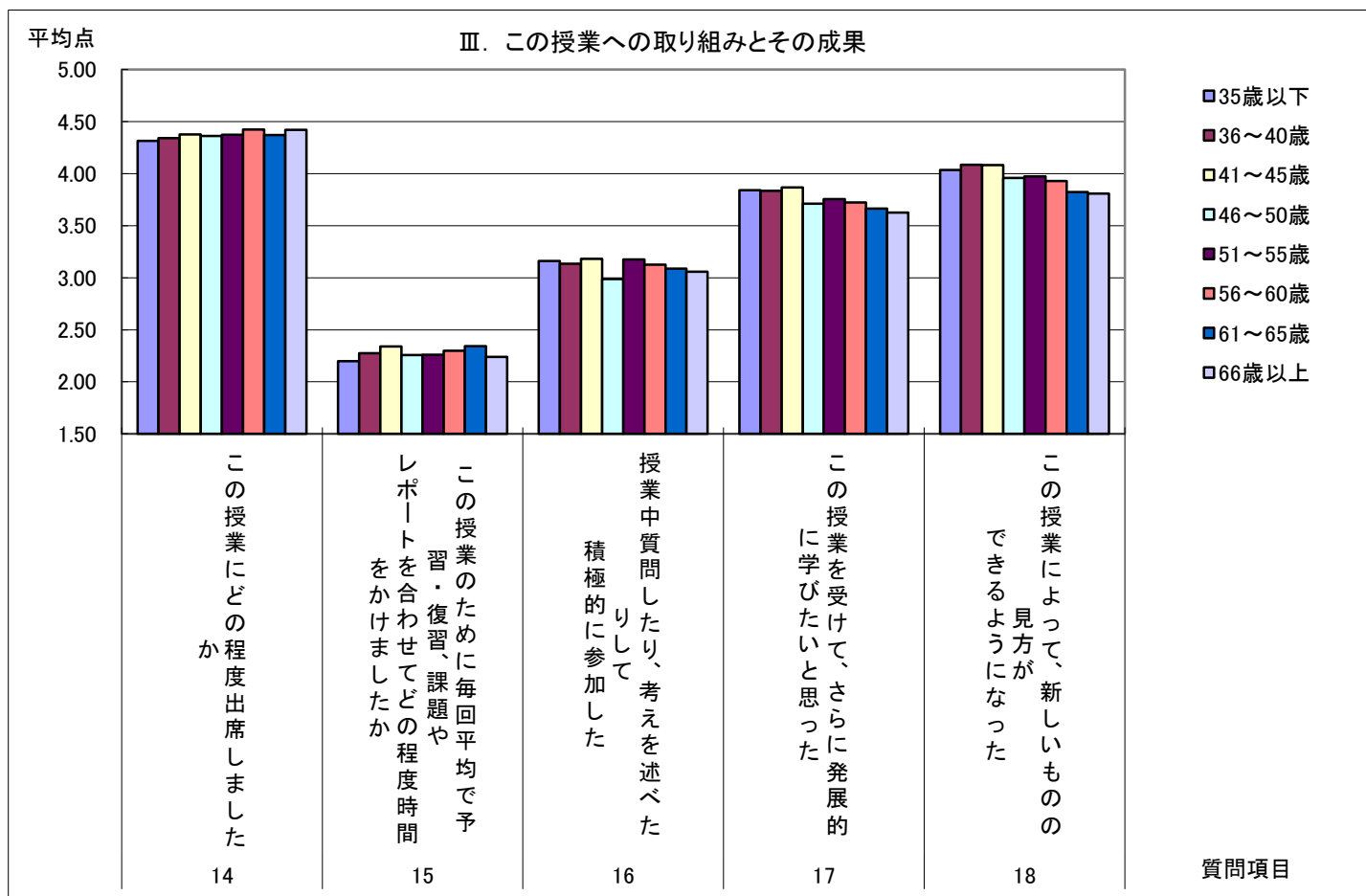
I. 教員のこの授業の進め方について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.45	4.45	4.47	4.36	4.27	4.30	4.14	4.08
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.47	4.46	4.47	4.34	4.34	4.32	4.16	4.13
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.29	4.42	4.46	4.39	4.35	4.38	4.24	4.26
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.25	4.24	4.27	4.12	4.13	4.09	3.94	3.93
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	4.13	4.25	4.00	4.13	4.09	3.93	3.95
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.54	4.50	4.53	4.45	4.43	4.46	4.32	4.35
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	4.49	4.52	4.47	4.43	4.45	4.29	4.33

II. この授業の内容について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.38	4.40	4.43	4.32	4.31	4.29	4.19	4.14
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.34	4.36	4.39	4.24	4.24	4.22	4.08	4.03
10	授業の内容は興味深いものだった	4.30	4.31	4.33	4.20	4.22	4.15	4.06	4.03
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	4.23	4.27	4.13	4.13	4.08	3.94	3.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	4.22	4.33	4.17	4.19	4.19	4.11	4.07
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	4.22	4.26	4.13	4.13	4.12	4.01	3.97

III. この授業への取り組みとその成果について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	4.34	4.38	4.36	4.37	4.42	4.37	4.42
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.20	2.28	2.34	2.26	2.26	2.30	2.34	2.24
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.16	3.13	3.18	2.99	3.17	3.13	3.09	3.06
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.84	3.84	3.87	3.71	3.76	3.72	3.66	3.63
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.03	4.09	4.08	3.96	3.97	3.93	3.82	3.81

IV. 総合的な印象		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.34	4.27	4.34	4.20	4.21	4.19	4.07	4.07





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

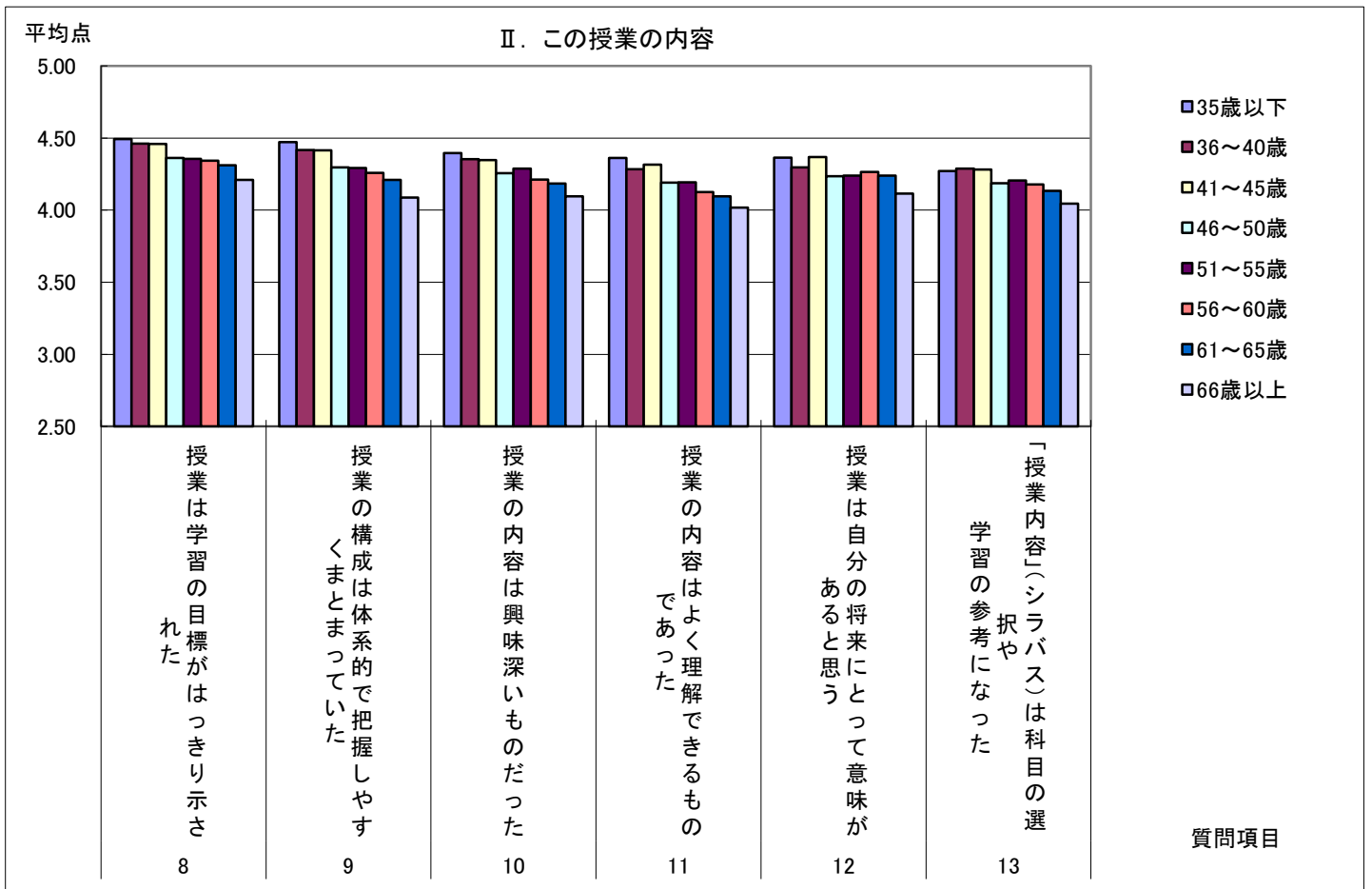
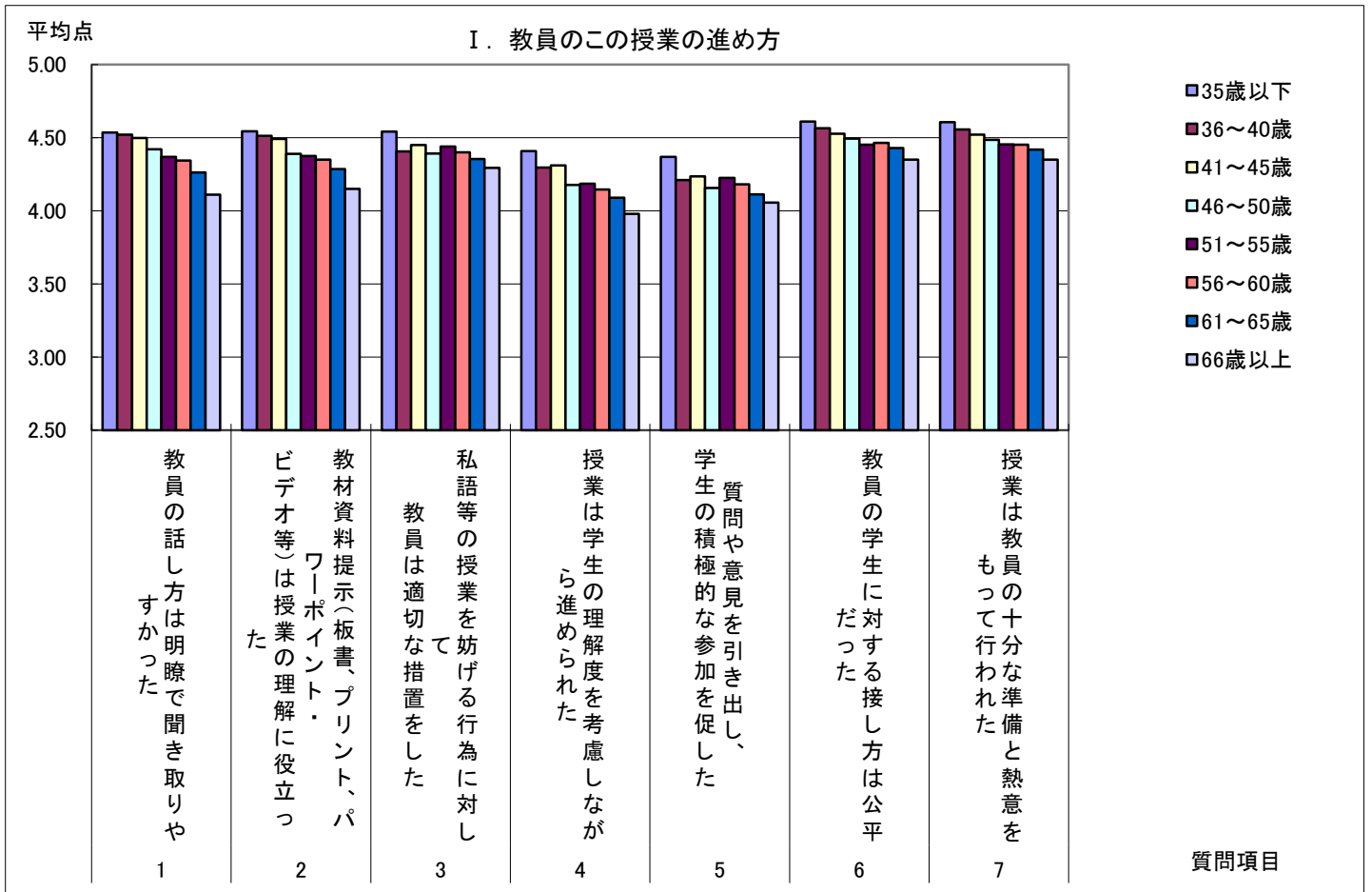
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	2,031	4,214	6,693	7,002	6,352	8,848	6,461	8,986
回答者数	1,596	3,058	5,134	5,313	4,900	6,932	4,899	6,842
回答率(%)	78.58	72.57	76.71	75.88	77.14	78.35	75.82	76.14

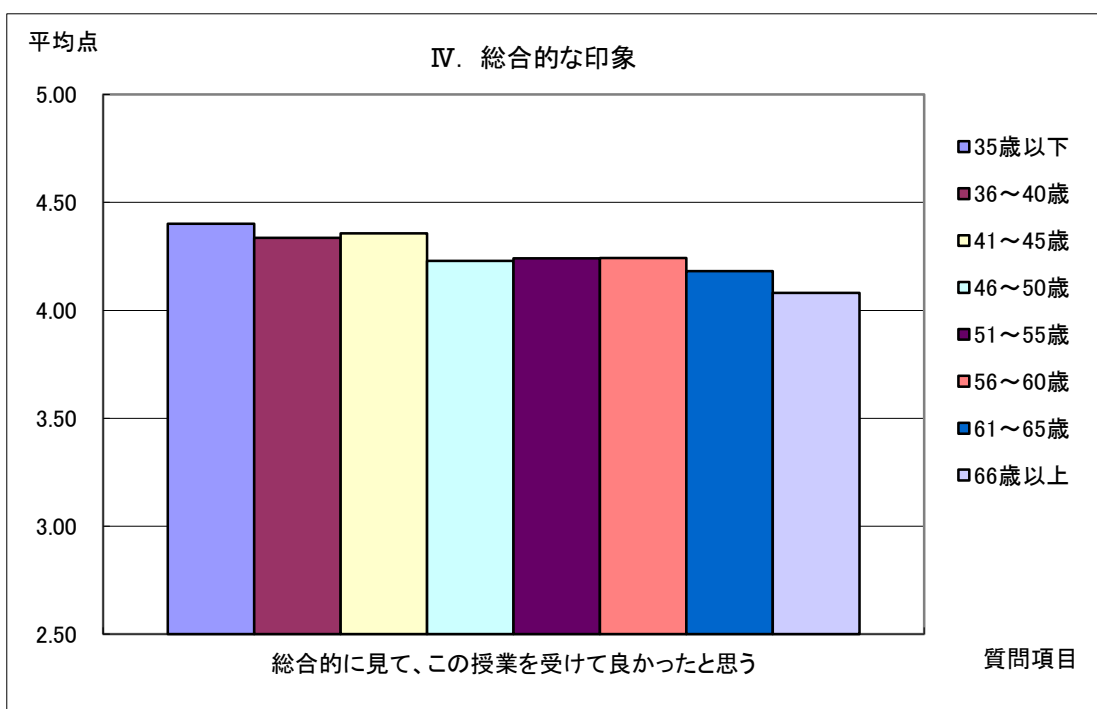
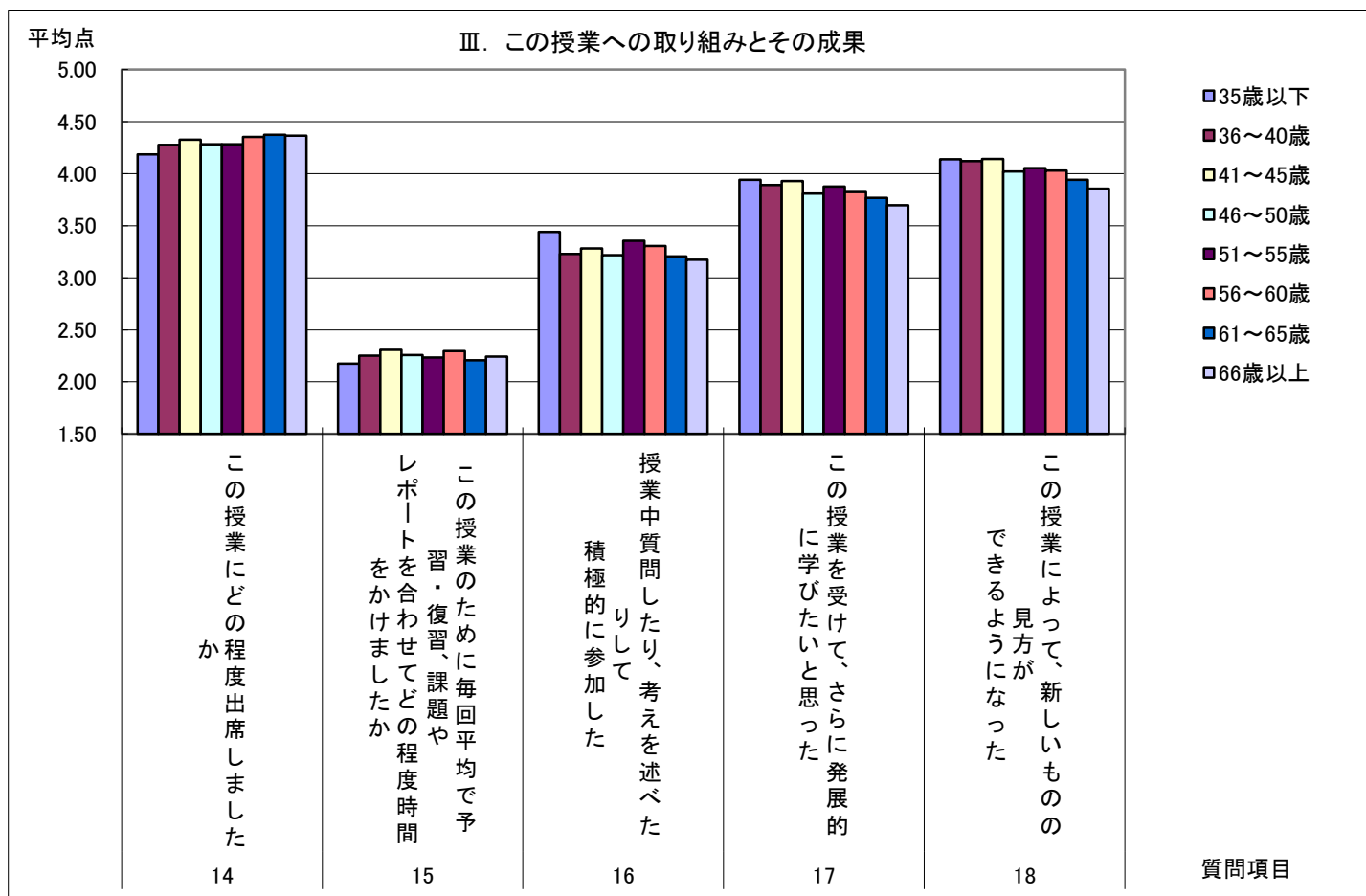
I. 教員のこの授業の進め方について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.54	4.52	4.50	4.42	4.37	4.34	4.26	4.11
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.54	4.51	4.49	4.39	4.38	4.35	4.29	4.15
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.54	4.41	4.45	4.39	4.44	4.40	4.35	4.29
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.41	4.30	4.31	4.18	4.19	4.15	4.09	3.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.37	4.21	4.24	4.16	4.23	4.18	4.11	4.06
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.61	4.57	4.53	4.49	4.45	4.46	4.43	4.35
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.61	4.56	4.52	4.49	4.45	4.45	4.42	4.35

II. この授業の内容について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.49	4.47	4.45	4.34	4.34	4.34	4.30	4.18
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.47	4.42	4.41	4.27	4.28	4.26	4.19	4.06
10	授業の内容は興味深いものだった	4.40	4.37	4.34	4.24	4.28	4.22	4.16	4.07
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.36	4.29	4.31	4.17	4.18	4.14	4.07	3.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	4.31	4.36	4.22	4.22	4.27	4.21	4.08
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.27	4.29	4.28	4.17	4.20	4.18	4.12	4.02

III. この授業への取り組みとその成果について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	4.28	4.33	4.28	4.28	4.35	4.37	4.37
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.17	2.25	2.31	2.26	2.23	2.30	2.21	2.24
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.44	3.23	3.28	3.22	3.36	3.30	3.21	3.17
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.94	3.89	3.93	3.81	3.88	3.82	3.77	3.70
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.14	4.12	4.14	4.02	4.05	4.03	3.94	3.86

IV. 総合的な印象		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	4.34	4.36	4.23	4.24	4.24	4.18	4.08





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

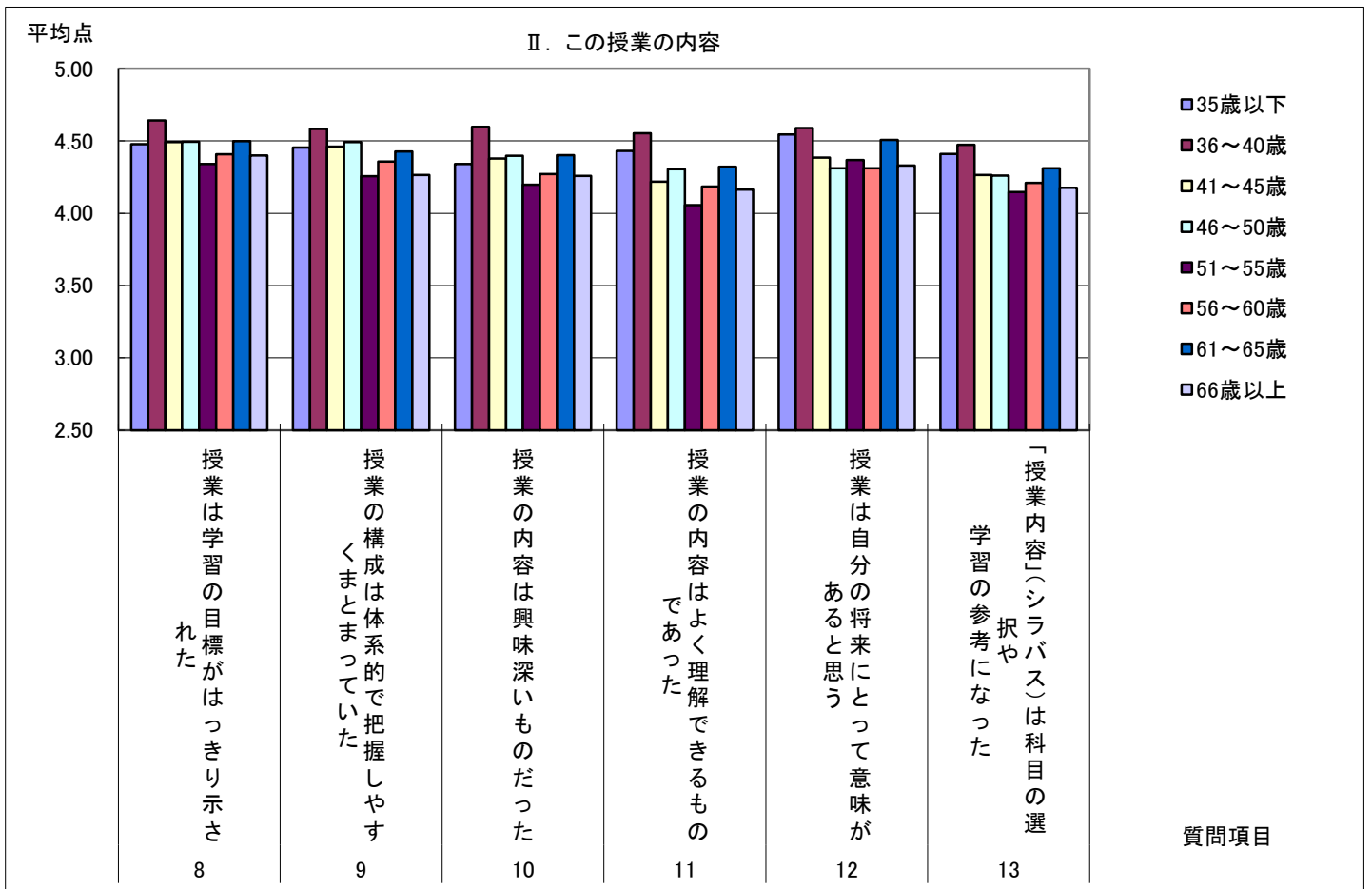
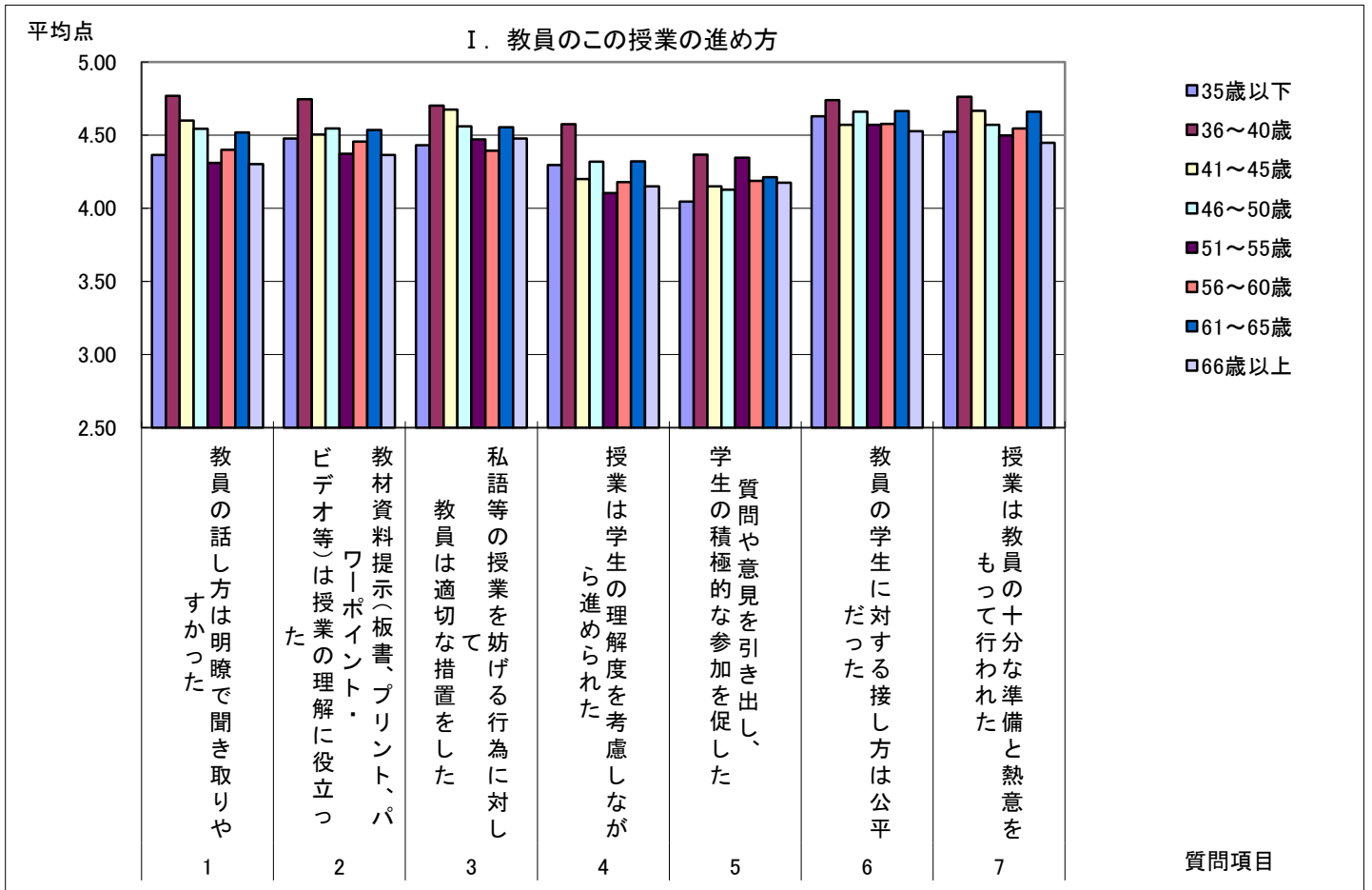
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	48	145	511	774	590	777	979	1,895
回答者数	44	134	470	674	511	674	881	1,680
回答率(%)	91.67	92.41	91.98	87.08	86.61	86.74	89.99	88.65

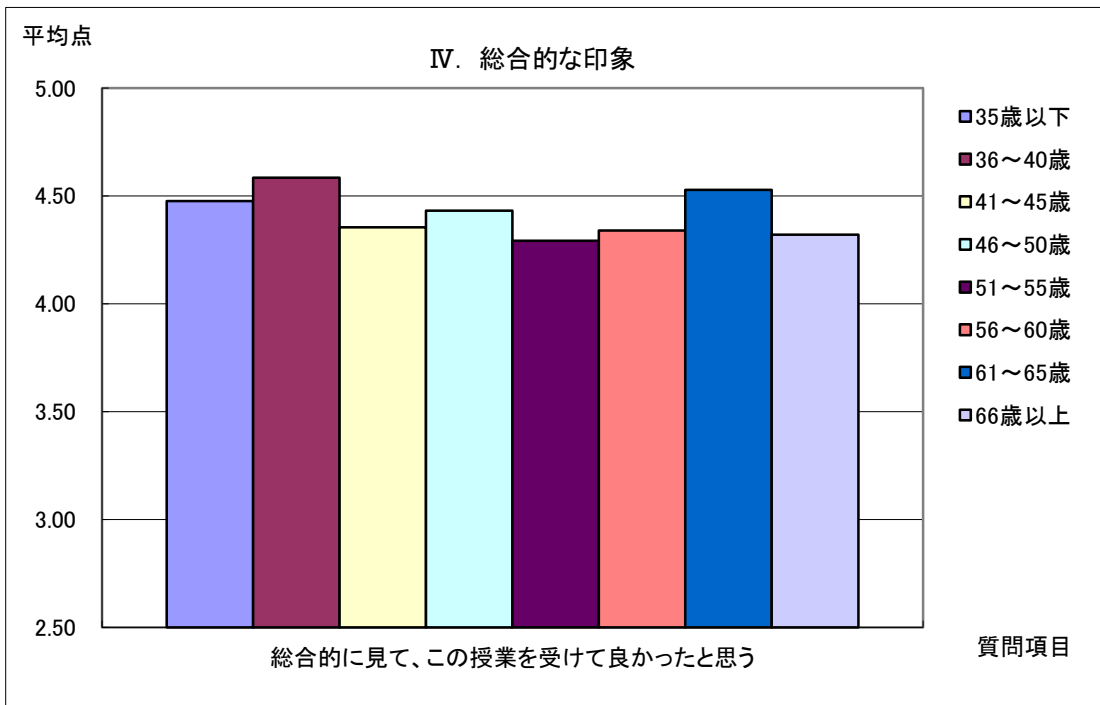
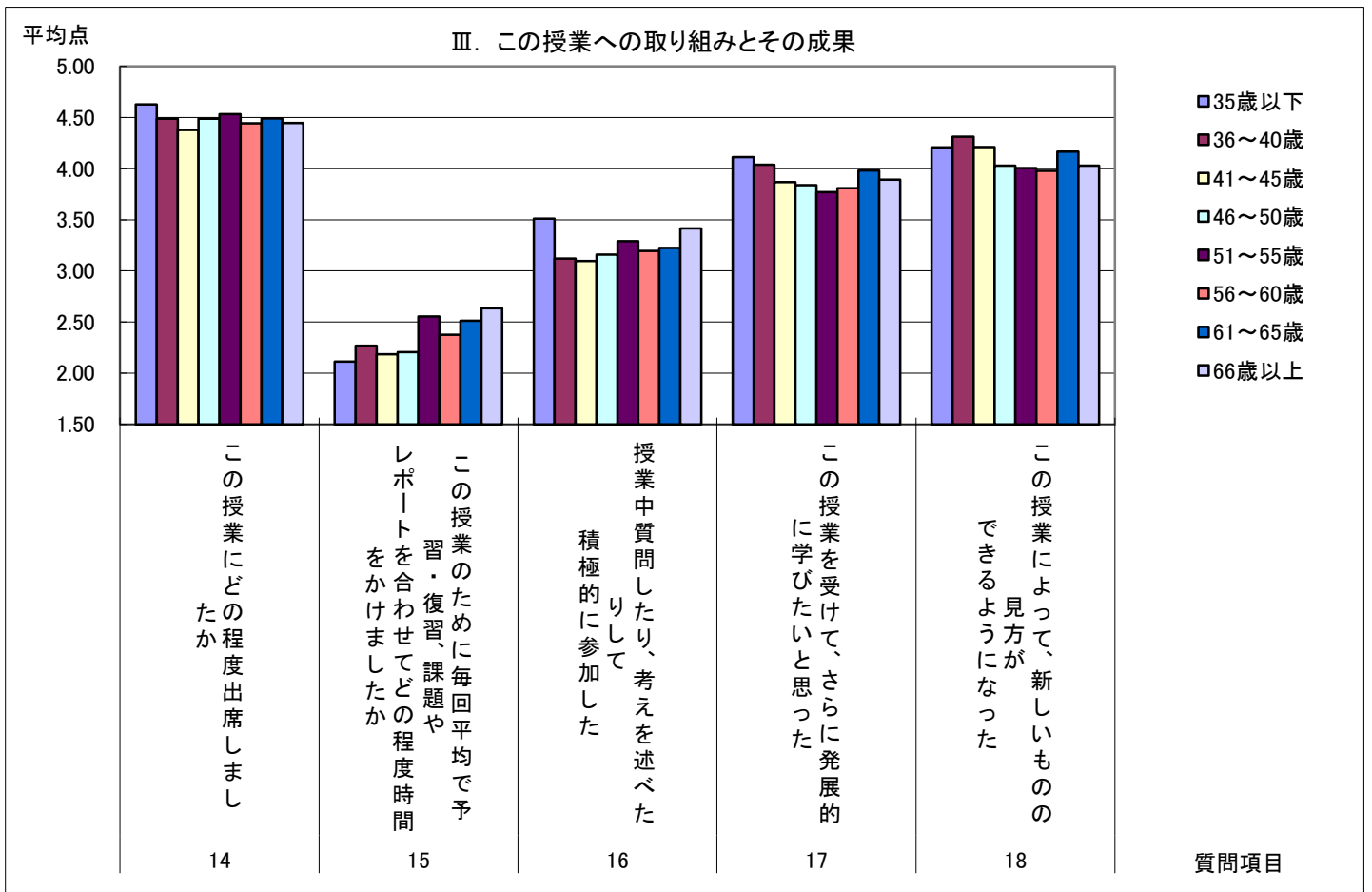
I. 教員のこの授業の進め方について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.36	4.77	4.60	4.54	4.31	4.40	4.52	4.30
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.48	4.75	4.50	4.54	4.37	4.46	4.54	4.36
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.43	4.70	4.67	4.56	4.47	4.39	4.55	4.48
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.30	4.57	4.20	4.32	4.10	4.18	4.32	4.15
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	4.37	4.15	4.13	4.35	4.19	4.21	4.17
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.63	4.74	4.57	4.66	4.57	4.58	4.66	4.53
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	4.76	4.67	4.57	4.50	4.54	4.66	4.45

II. この授業の内容について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.48	4.64	4.49	4.49	4.34	4.41	4.50	4.40
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.45	4.58	4.46	4.49	4.26	4.36	4.43	4.26
10	授業の内容は興味深いものだった	4.34	4.60	4.38	4.40	4.20	4.27	4.40	4.26
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.43	4.55	4.22	4.31	4.06	4.18	4.32	4.16
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.55	4.59	4.39	4.31	4.37	4.31	4.51	4.33
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.41	4.47	4.26	4.26	4.15	4.21	4.31	4.17

III. この授業への取り組みとその成果について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.63	4.49	4.38	4.49	4.53	4.44	4.49	4.45
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.11	2.27	2.18	2.21	2.55	2.38	2.51	2.64
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.51	3.12	3.10	3.16	3.29	3.19	3.23	3.42
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.11	4.04	3.87	3.84	3.77	3.81	3.98	3.89
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.21	4.31	4.21	4.03	4.00	3.98	4.16	4.03

IV. 総合的な印象		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.48	4.58	4.35	4.43	4.29	4.34	4.53	4.32





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

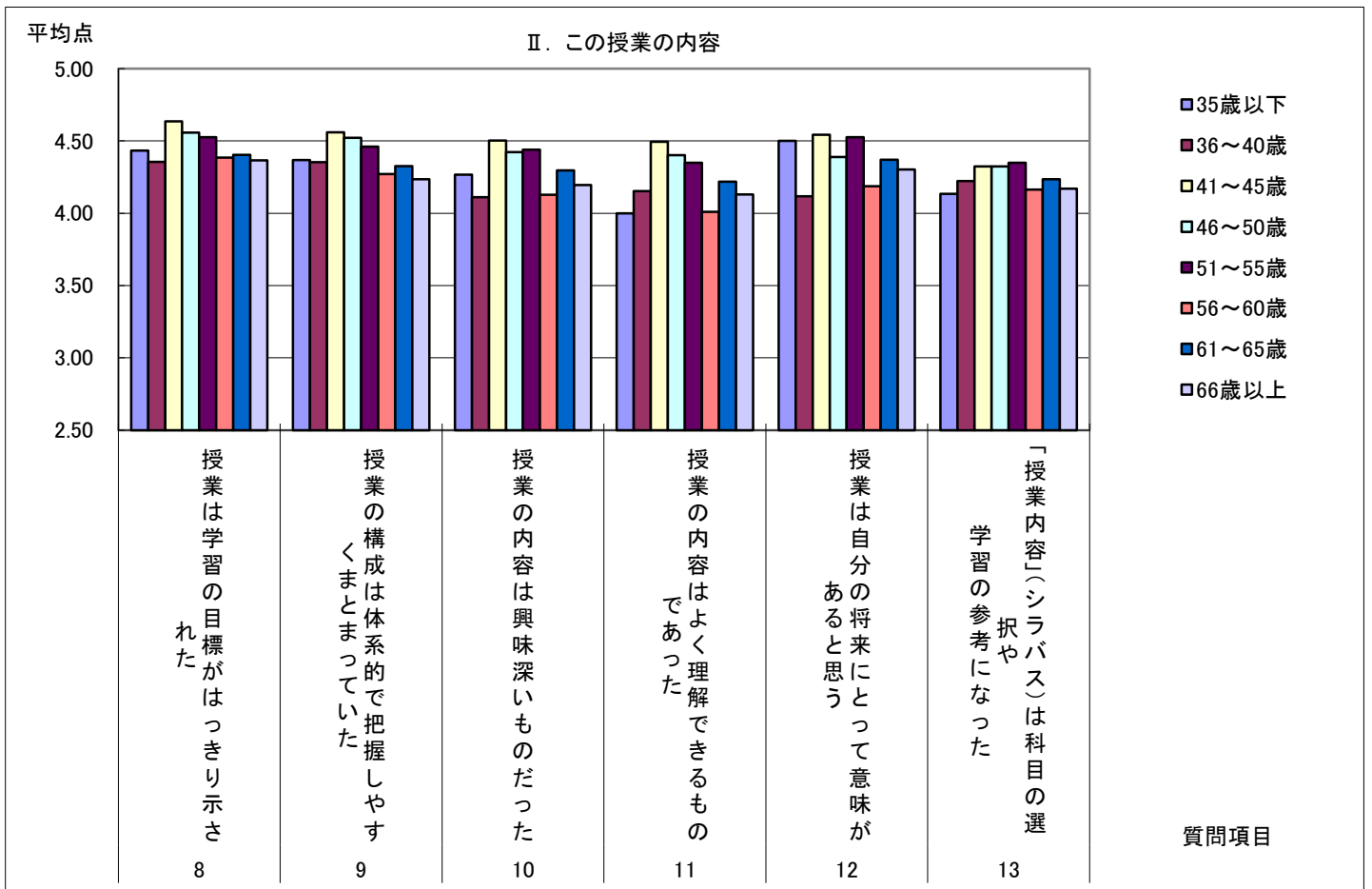
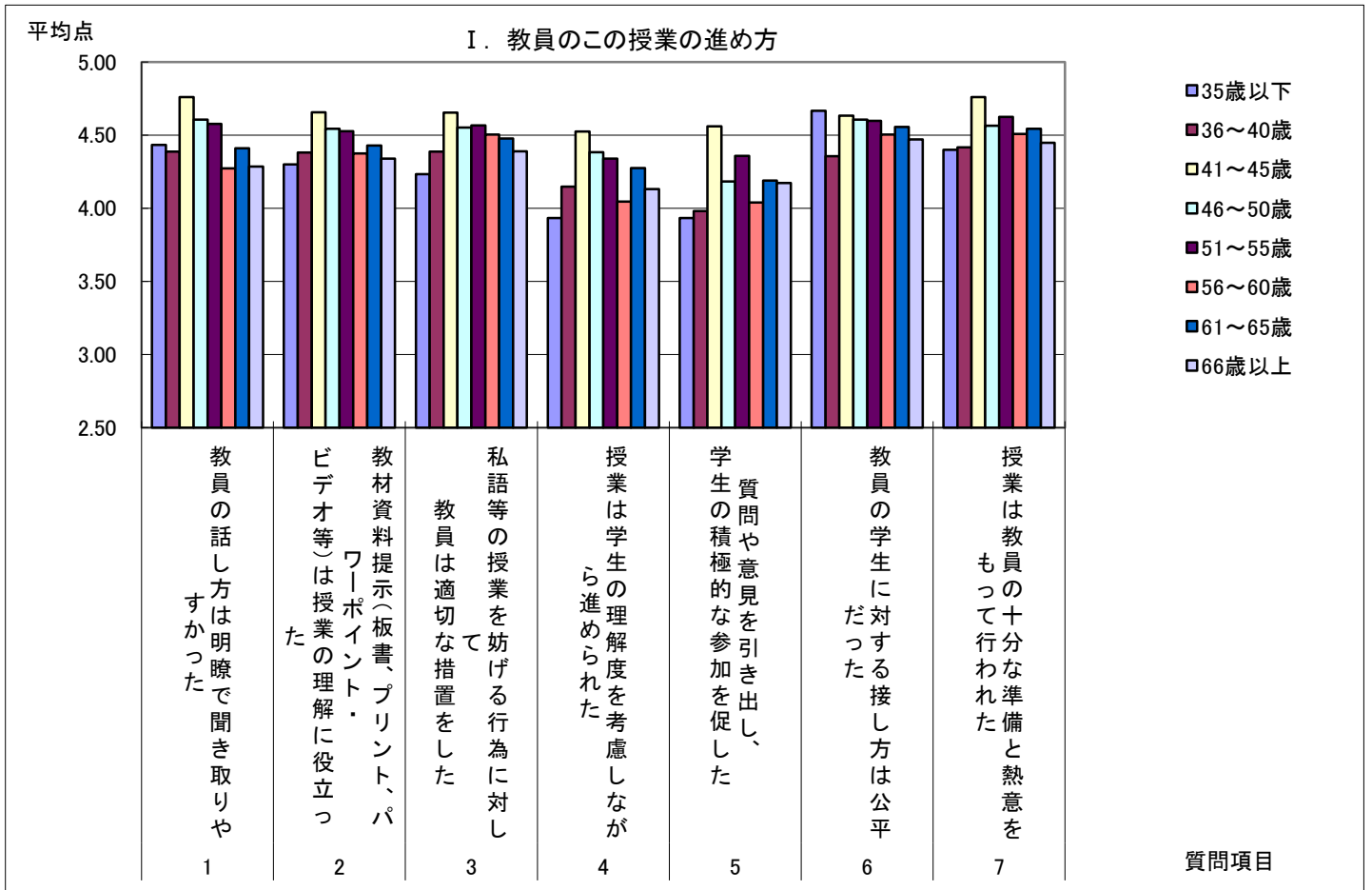
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	34	200	357	660	501	811	1,110	1,641
回答者数	30	163	288	539	383	650	922	1,383
回答率(%)	88.24	81.50	80.67	81.67	76.45	80.15	83.06	84.28

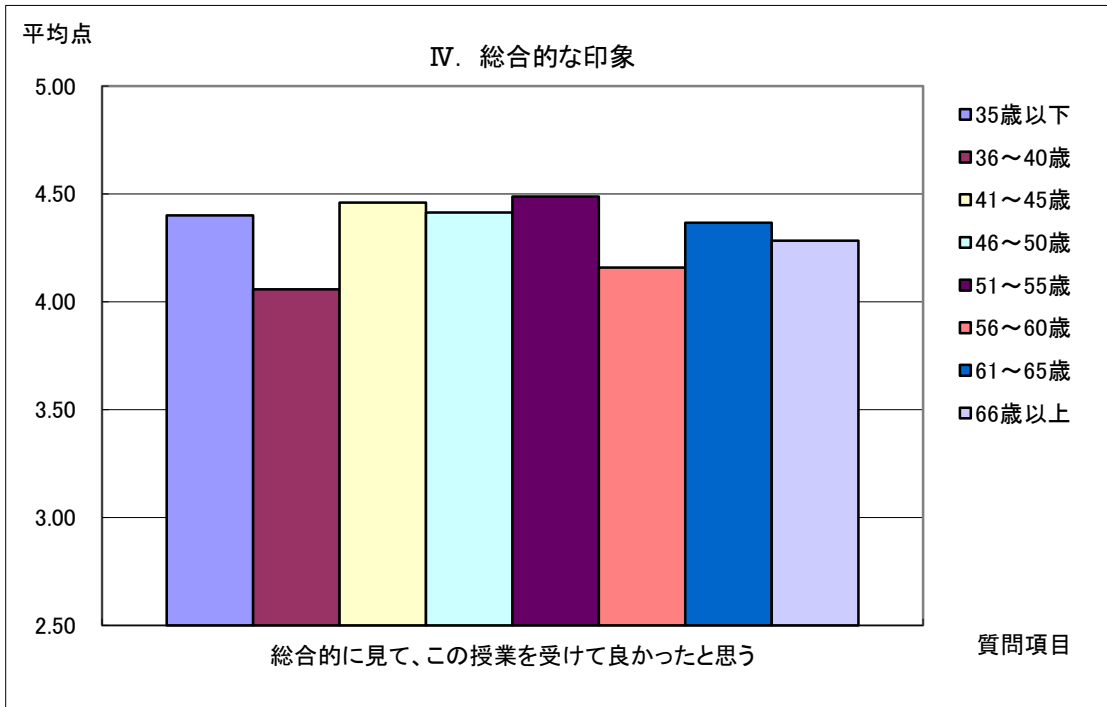
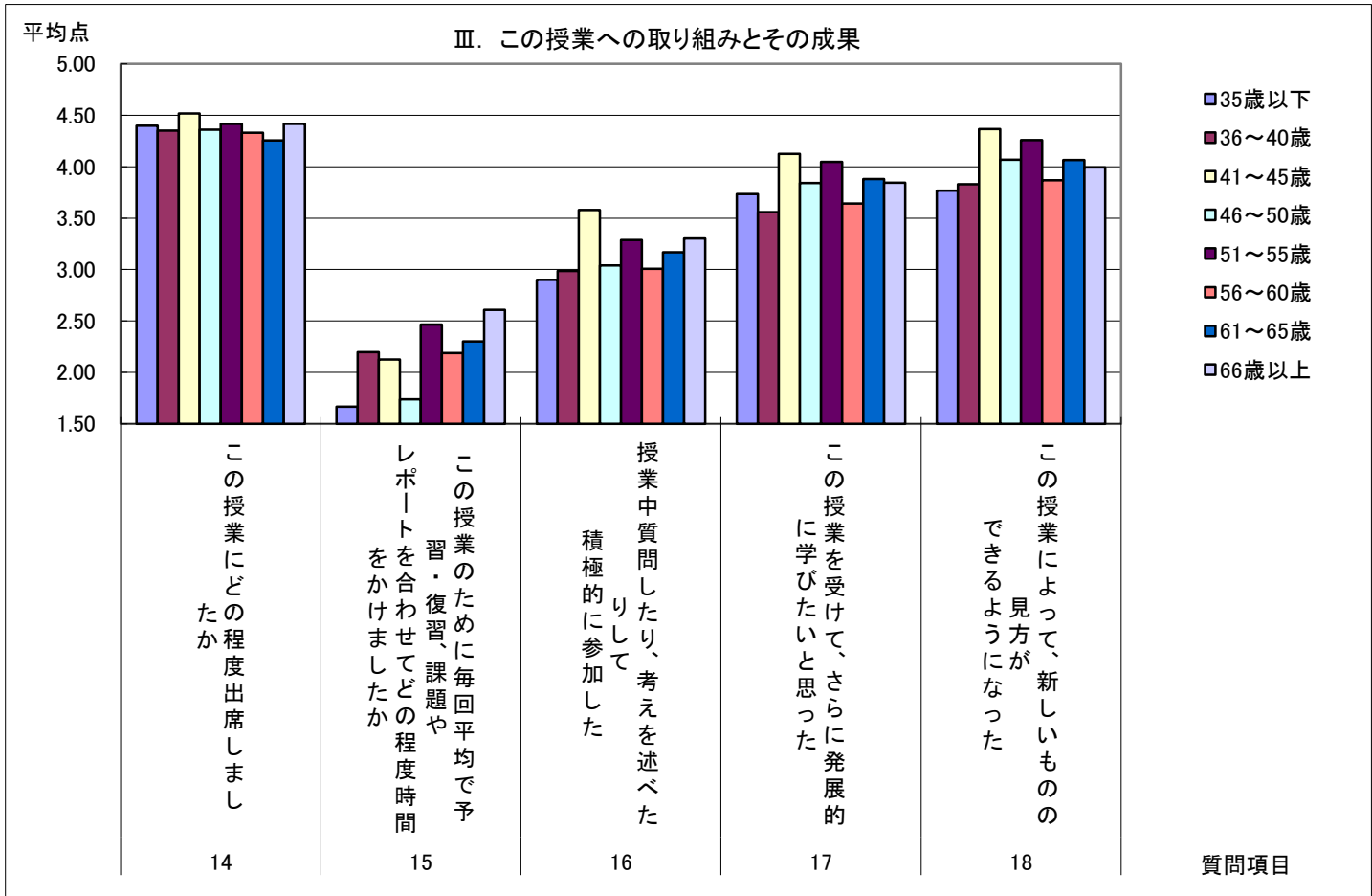
I. 教員のこの授業の進め方について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.43	4.39	4.76	4.60	4.58	4.27	4.41	4.29
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	4.38	4.66	4.54	4.53	4.37	4.43	4.34
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.23	4.39	4.65	4.55	4.57	4.50	4.48	4.39
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.93	4.15	4.52	4.38	4.34	4.04	4.28	4.13
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	3.98	4.56	4.18	4.36	4.04	4.19	4.17
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.67	4.36	4.63	4.60	4.60	4.50	4.56	4.47
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	4.42	4.76	4.56	4.62	4.51	4.54	4.45

II. この授業の内容について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.43	4.36	4.64	4.56	4.52	4.39	4.40	4.37
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.37	4.35	4.56	4.52	4.46	4.27	4.33	4.24
10	授業の内容は興味深いものだった	4.27	4.11	4.50	4.42	4.44	4.13	4.30	4.19
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.00	4.15	4.49	4.40	4.35	4.01	4.22	4.13
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.50	4.12	4.54	4.39	4.53	4.19	4.37	4.30
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.13	4.22	4.32	4.32	4.35	4.16	4.23	4.17

III. この授業への取り組みとその成果について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.40	4.35	4.52	4.36	4.42	4.33	4.26	4.42
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.67	2.20	2.13	1.74	2.47	2.19	2.30	2.61
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.90	2.99	3.58	3.04	3.29	3.01	3.17	3.30
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.73	3.56	4.13	3.84	4.05	3.64	3.88	3.84
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.77	3.83	4.37	4.07	4.26	3.87	4.07	3.99

IV. 総合的な印象		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	4.06	4.46	4.41	4.49	4.16	4.37	4.28





2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

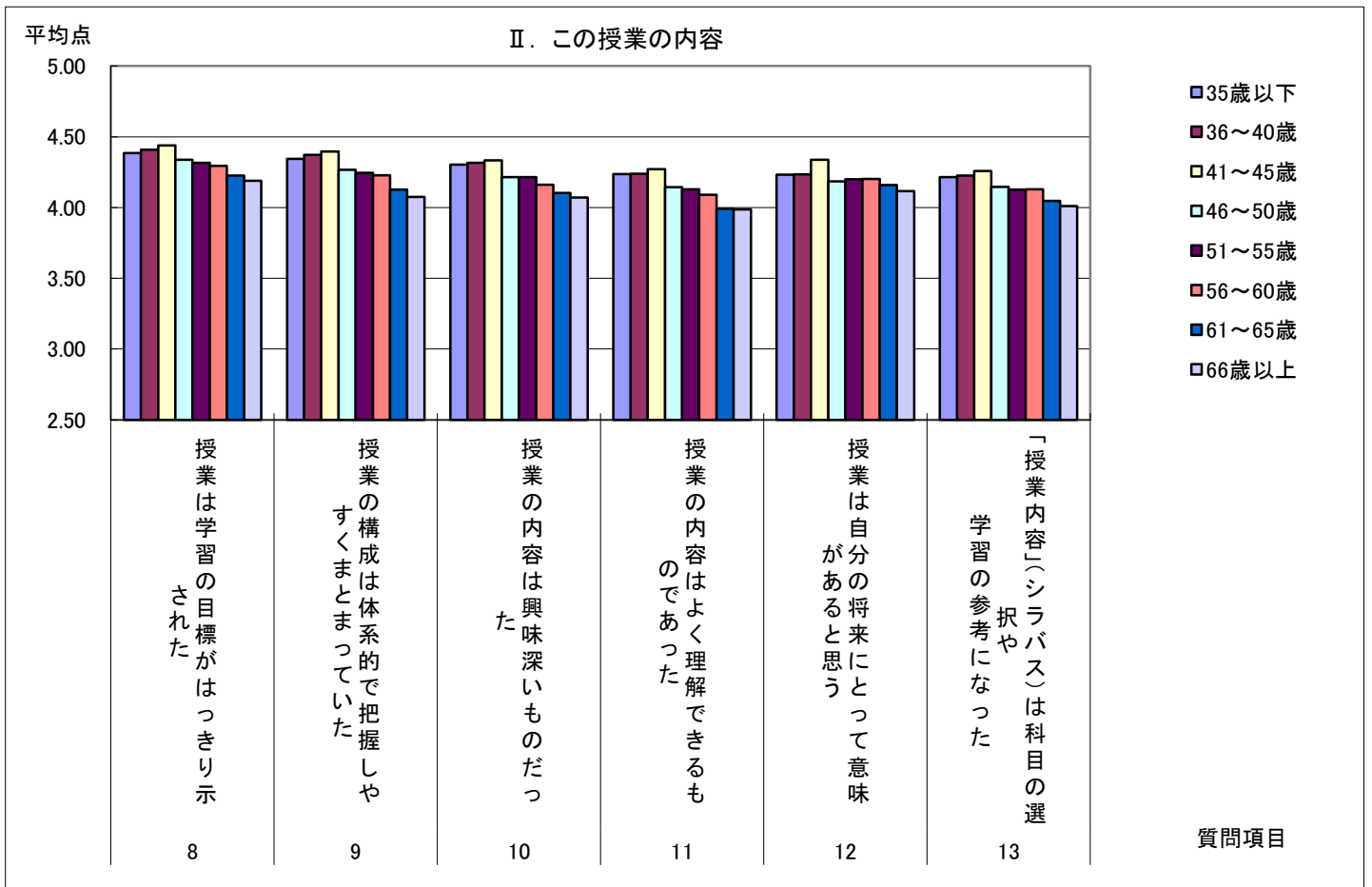
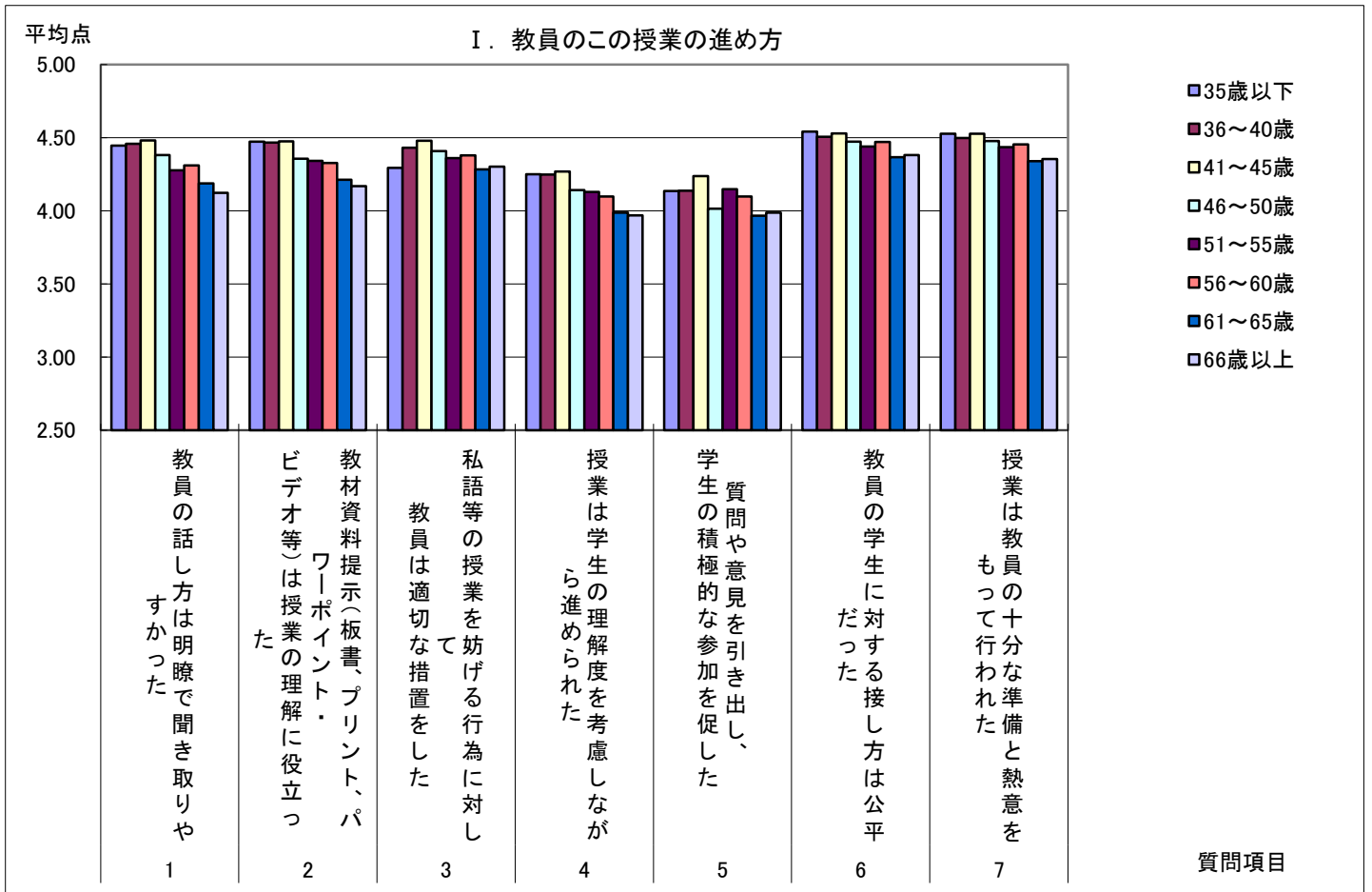
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,840	4,476	7,202	8,580	8,774	12,077	8,565	11,292
回答者数	1,538	3,597	5,852	6,984	7,053	10,047	6,860	9,435
回答率(%)	83.59	80.36	81.26	81.40	80.39	83.19	80.09	83.55

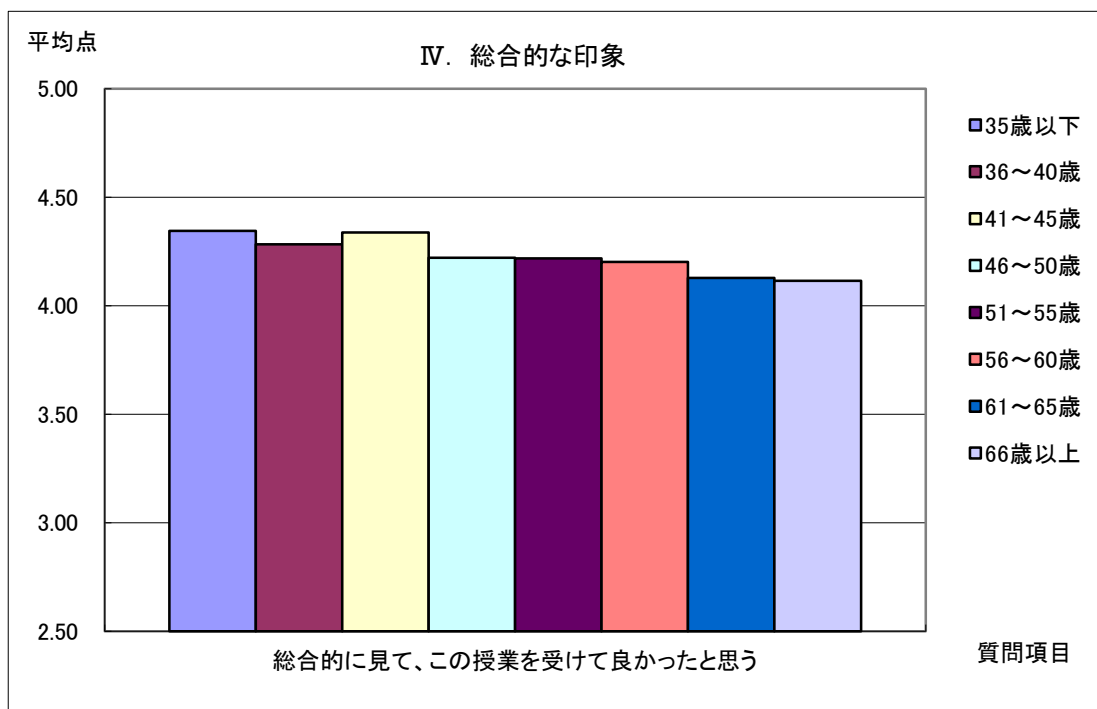
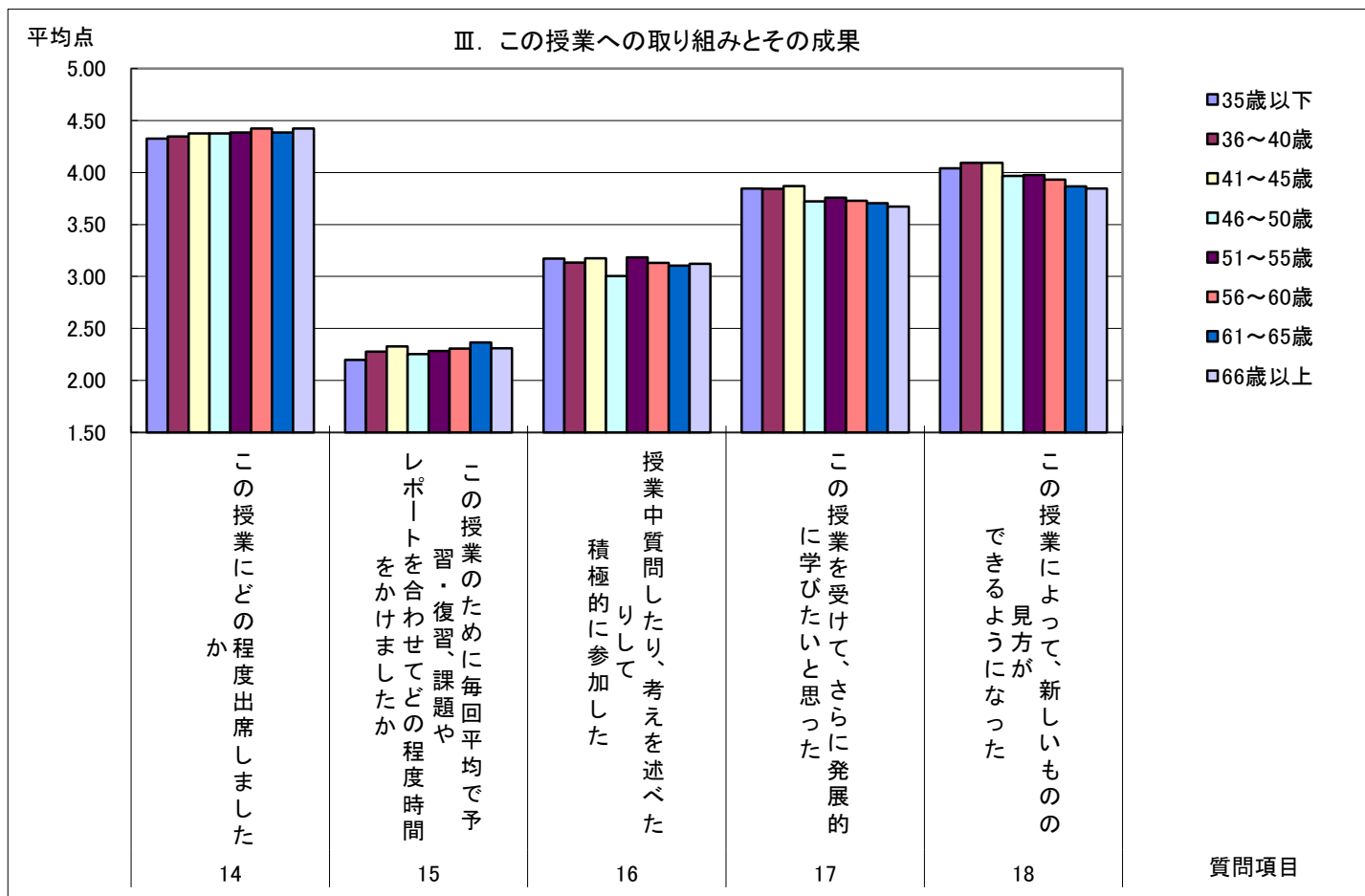
I. 教員のこの授業の進め方について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.45	4.46	4.48	4.38	4.28	4.31	4.19	4.12
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.47	4.47	4.48	4.36	4.34	4.33	4.21	4.17
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.29	4.43	4.48	4.41	4.36	4.38	4.28	4.30
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.25	4.25	4.27	4.14	4.13	4.10	3.99	3.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	4.14	4.24	4.01	4.15	4.10	3.97	3.99
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.54	4.51	4.53	4.47	4.44	4.47	4.37	4.38
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	4.50	4.53	4.48	4.44	4.45	4.34	4.35

II. この授業の内容について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.39	4.41	4.44	4.34	4.32	4.29	4.23	4.19
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.34	4.37	4.39	4.27	4.25	4.23	4.13	4.08
10	授業の内容は興味深いものだった	4.30	4.32	4.33	4.21	4.22	4.16	4.10	4.07
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.24	4.24	4.27	4.14	4.13	4.09	3.99	3.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	4.23	4.34	4.18	4.20	4.20	4.16	4.12
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.22	4.23	4.26	4.15	4.13	4.13	4.05	4.01

III. この授業への取り組みとその成果について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	4.35	4.38	4.37	4.38	4.42	4.39	4.42
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.20	2.28	2.33	2.25	2.28	2.31	2.37	2.31
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.17	3.13	3.18	3.00	3.18	3.13	3.10	3.12
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.85	3.84	3.87	3.72	3.76	3.73	3.71	3.67
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.04	4.09	4.09	3.97	3.97	3.93	3.87	3.85

IV. 総合的な印象		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.34	4.28	4.34	4.22	4.22	4.20	4.13	4.12





2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

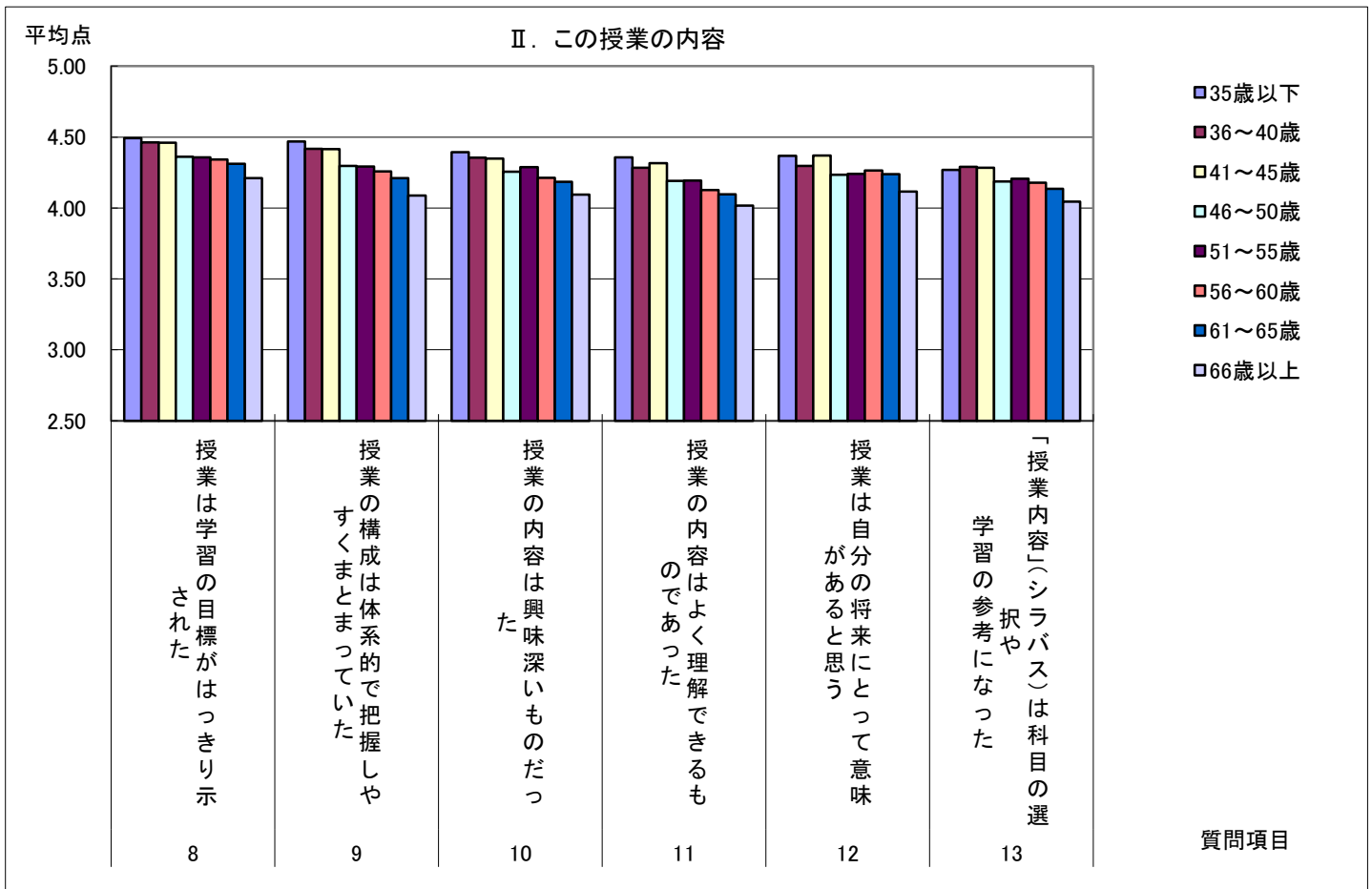
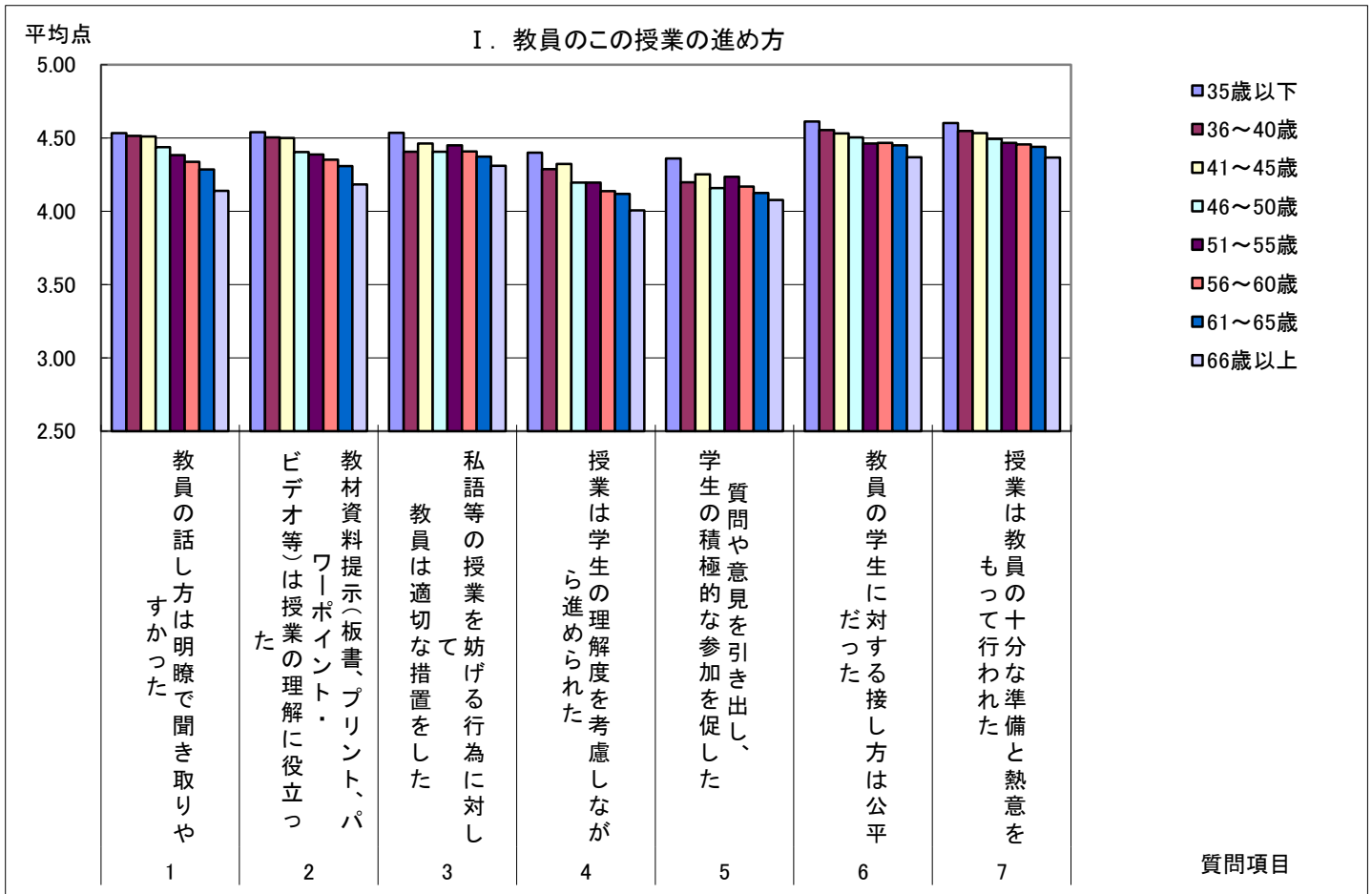
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	2,065	4,414	7,050	7,662	6,853	9,659	7,571	10,627
回答者数	1,626	3,221	5,422	5,852	5,283	7,582	5,821	8,225
回答率(%)	78.74	72.97	76.91	76.38	77.09	78.50	76.89	77.40

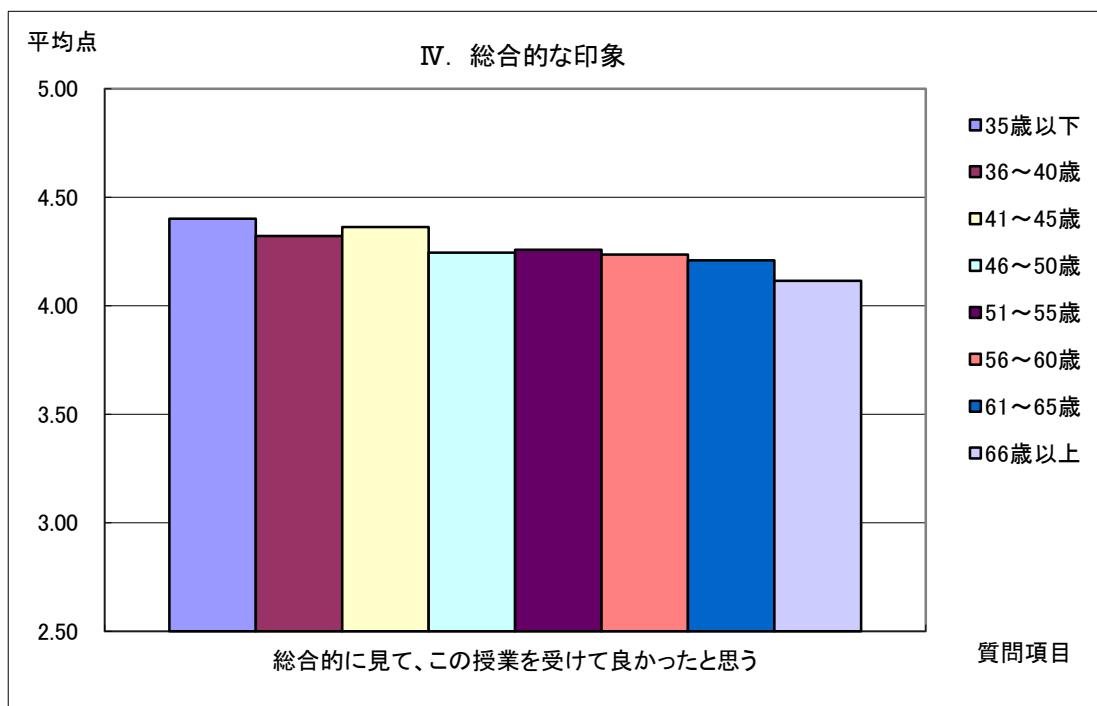
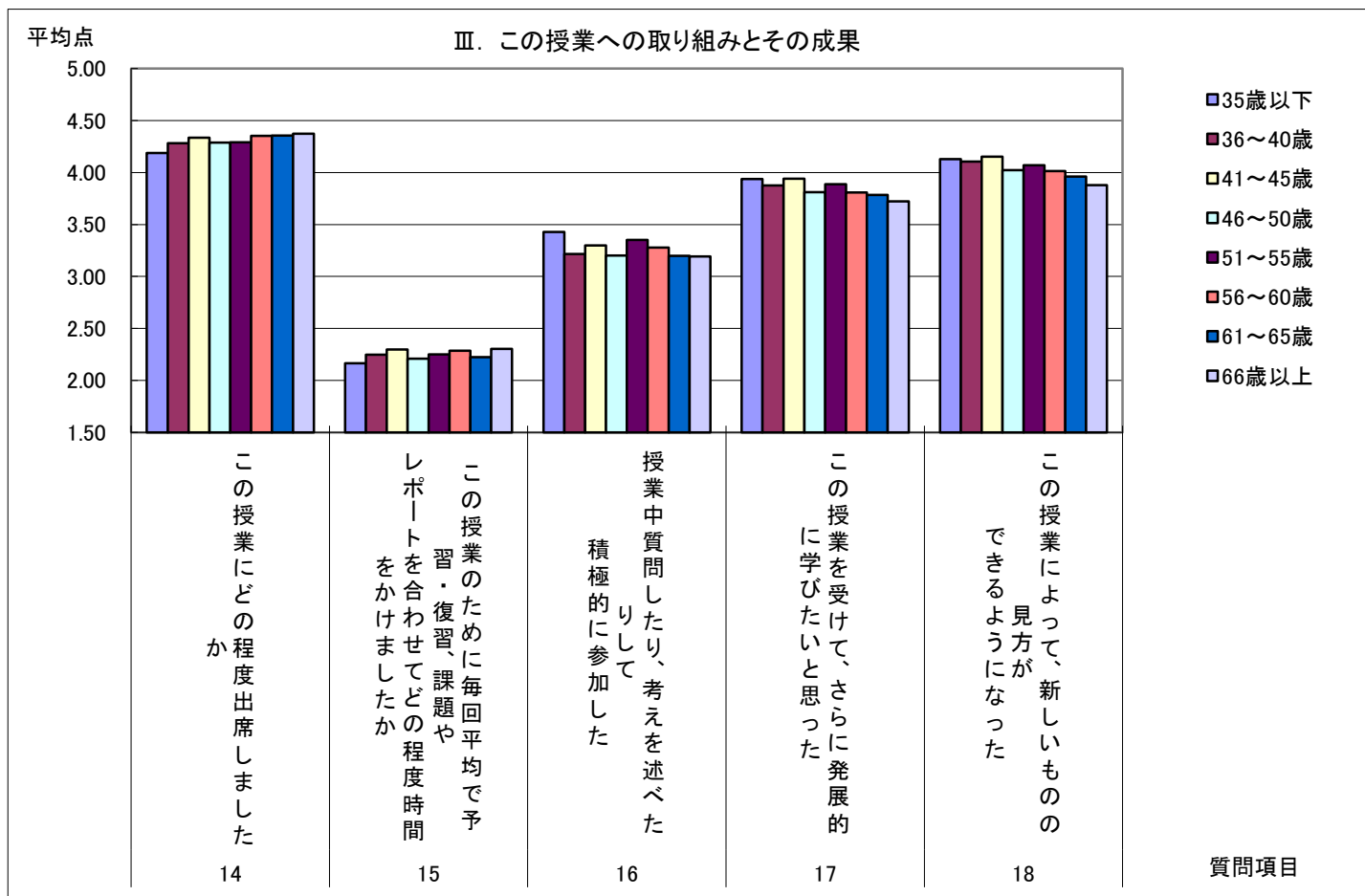
I. 教員のこの授業の進め方について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.53	4.51	4.51	4.44	4.38	4.34	4.29	4.14
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.54	4.51	4.50	4.40	4.39	4.35	4.31	4.18
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.54	4.41	4.46	4.41	4.45	4.41	4.37	4.31
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.40	4.29	4.32	4.20	4.20	4.14	4.12	4.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.36	4.20	4.25	4.16	4.24	4.17	4.13	4.08
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.61	4.56	4.53	4.50	4.46	4.47	4.45	4.37
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.60	4.55	4.53	4.49	4.47	4.46	4.44	4.37

II. この授業の内容について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.49	4.46	4.46	4.36	4.36	4.34	4.31	4.21
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.47	4.42	4.42	4.30	4.29	4.26	4.21	4.09
10	授業の内容は興味深いものだった	4.39	4.35	4.35	4.26	4.29	4.21	4.18	4.10
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.36	4.28	4.32	4.19	4.19	4.13	4.10	4.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	4.30	4.37	4.24	4.24	4.26	4.24	4.12
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.27	4.29	4.28	4.19	4.21	4.18	4.13	4.04

III. この授業への取り組みとその成果について		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	4.28	4.34	4.29	4.29	4.35	4.35	4.37
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.17	2.25	2.30	2.21	2.25	2.29	2.22	2.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.43	3.22	3.30	3.20	3.35	3.28	3.20	3.19
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.94	3.88	3.94	3.81	3.89	3.81	3.79	3.72
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.13	4.10	4.15	4.02	4.07	4.01	3.96	3.88

IV. 総合的な印象		35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	4.32	4.36	4.25	4.26	4.24	4.21	4.12





2 各学部の平成30年度FD活動の概要報告

(1) 家政学部

1. 平成30年度家政学部FD委員会構成

委員長：中島 永晶(被服学科) 委員：川口 美喜子 小林 実夏(食物学科) 金田 卓也(児童学科)
宮田 安彦 藤井 直子(ライフデザイン学科)
大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会：青江 誠一郎(家政学部長)

2. 授業に関するアンケートについて

家政学部FD委員会では、過年度と同様に前後期2回の「授業に関するアンケート(何れもマークシート両面1枚で質問項目は同じ)」を実施した。

昨年度と文言が大きく異なる質問項目は、「【質問3-15】この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか。」「【自由記入欄】には授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。」の2点である。

専任教員は原則として前後期各々で3科目ずつ、非常勤教員は全科目を実施対象とした。なお、実施期間は、前期が7月2日(月)から、7月21日(土)まで、後期が11月26日(月)から12月15日(土)までとした。

以下、「授業に関するアンケート」調査の実施とその集計、結果などの概況を記しておく。

① 前後期実施状況

延履修者数/延回答者数前期：27943名/23451名 同後期：240807名/20096名

② 「調査カテゴリーⅠ. 先生のこの授業進め方について(Q1~Q7)」回答結果(5段階評価)の概要

このカテゴリーにおける平均点は、前期4.30 後期4.34となった。前年度は、前期4.28 後期4.30だったので、スコアの上昇を見ることが出来た。全ての質問項目において4.00以上、また、設問別で見ると、「Q6 教員の学生に対する接し方は公平だった」や、「Q7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた」については、平均点が前後期共に4.40以上と非常に高い評価を得ることが出来た。

③ 「調査カテゴリーⅡ. この授業の内容について(Q8~Q13)」回答結果(5段階評価)の概要

このカテゴリーにおける平均点は、前期4.21 後期4.25だった。前年度は、前期4.18 後期4.21だったので、こちらもスコアの上昇を見ることが出来た。上記②同様に設問別で見ると、全ての設問が4.00以上あり、「Q8 授業は学習の目標がはっきり示された」が、前期4.35 後期4.30と高い評価となった。

④ 「調査カテゴリーⅢ. この授業への取り組みとその成果について(Q14~Q18)」回答結果(5段階評価)の概要

このカテゴリーの平均点は、前期3.54 後期3.58であり、昨年度前期3.45 後期3.48からスコアの上昇がみられたものの、相対的に低スコアとなった。また、設問別で見ると、「Q15 この授業のために毎回予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか」が、前期2.33 後期2.30と過年度同様に全設問の中でも低いスコアとなった。今年度からQ15の文言を変え、スコアの変化を期待したものの改善までには至らなかった。

⑤ 「調査カテゴリーⅣ. 総合的な印象について(Q19)」回答結果(5段階評価)の概要

この設問に対する平均点は、前期 4.24 後期 4.26 となり、概ね高い満足度で推移したことがわかった。ただし前年度スコアも、前期 4.22 後期 4.21 だったため、スコアの上昇は見られたものの大きな変化を読み取ることが出来なかったとも言えよう。

3. 学部内全専任教員の FD 報告

今年度は後期授業アンケート結果が返却された後、以下に記した、A～C の 3 項目について、一人当たりの記述全体が 43 字×15 行以内で記名入報告文の作成を依頼した。3 月末日までに各教員から、FD 報告文が提出された。

家政学部では現状、解析結果を学部全体で共通のアクションへ繋げることなどを実施していないが、提出された報告文によって普遍的な事例などが意識共有されているものと捉えている。

- A. 今年度の授業アンケート実施科目(前後期)のうち 1 科目を選択し、その結果を踏まえた、次年度以降の改善構想について記して下さい。
- B. 今年度の授業アンケート(前後期)のうち自由記述欄に記された結果の中で、特に印象的だった内容や多数見受けられた傾向などについて有ればご紹介下さい。
- C. 今年度を実施した授業アンケート(前後期)に関して、特にお気づきの点や意見等があれば記して下さい。

4. 本年度の FD 委員会における主な報告・審議事項

平成 30 年度は、必要に応じて電子メールによる意見交換、稟議等を実施した。特に大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会からの依頼事項として、私立大学等改革総合支援事業選定に関する案件について各学科内で議論した結果をフィードバックしてもらうことなどを主たる用件として実施した。

また過年度と同じく、平成 30 年 5 月 12 日(土)に授業担当者懇談会、続いて 6 月 2 日(土)に 父母・教員懇談会を開催した。

更に、平成 31 年 1 月 7 日(月)に開催された大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会の主催する、FD 研修会へ出席した。

以上については、平成 30 年度家政学部 FD 活動報告書を参照されたい。

以上

(2) 文学部

今年度の文学部 FD 委員会の活動は、基本的に前年度の活動を継承したものであった。その主たる仕事は年に2回の「授業アンケート」実施と回答結果分析、「公開授業」の実施、「FD 活動報告書」の作成である。

1) 「授業に関するアンケート」の実施

アンケートの実施期間を、前期は7月2日(月)～7月21日(土)、後期は11月26日(月)～12月15日(土)とし、専任教員は前期3科目後期3科目、千代田3学部の兼任教員は半期最大4科目で実施し、前後期に偏りがある場合も認めた。

受講者数1桁の授業での実施はデータとしてあまり意味をなさないので、なるべく2桁以上のクラスで行った。

前年度には625だった実施科目が、今年度は1097と大幅に増えた。回答率に関しては、実施科目の大幅な増加にもかかわらず、ほぼ前年度並みである。昨年度から、日本文学科が「基礎ゼミ I, II」、コミュニケーション文化学科が「1年次ゼミ」「2年次ゼミ」という少人数クラスでのアンケート実施を試みており、この点も昨年並みの高い回答率の要因であろう。一方、教養科目の回答者数の増加は、大人数クラスでのアンケートを実施するという当初の考えを踏襲した実施科目の結果とみることができる。

「Ⅰ. 教員の授業の進め方について」に含まれる7項目は常に高い数値を示しており、安定した評価を得ていることが判る。しかも前期は若干下がったが、後期は大きく数値が上昇している。例年問題視されている「⑥先生の学生に対する接し方は公平だった」と「⑦授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた」が全7項目の中で最高値を示しているにも拘わらず、「④授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」と「⑤質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」が常に低い数値を示している。④⑤の項目については昨年度の報告書で、大学全体のデータであるが、少人数クラスで高いことが示された。この数値が、学生の参加や学生との対話を重視する授業の形態が、さらに追求されなければならないことを意味していることは間違いない。そして上記のデータは、それが少人数クラスの場合に望ましい結果を出していることを示している。

「Ⅱ. この授業の内容について」は、例年比較的高い数値を安定して保っている。今年度は前年度と比べて前期が微減し、後期に数値が大幅に上昇している。学生の質や傾向は年ごとに変化し、毎年学生のレベルを見極めつつ授業内容を調整するという経験は、本学の教員であれば大方が経験しているところであろう。前期よりも後期の授業の評価が高くなるという傾向は、一年間授業を展開していく中で学生の当年のレベルに合わせていく努力が実を結んだとも分析できる。

「Ⅲ. (あなたの) この授業への取り組みとその成果について」は、前年度並であり、他項と比べて例年著しく低い。ポイントの低さが集中しているのが⑮と⑯であることも例年通りである。しかし、平成28年度からの数値の変化を見て行くと、「⑮自習時間」は、

前期：2.03→2.17→2.31 後期：2.07→2.17→2.26

と大幅に増加しており、「⑯質問等、積極的な授業への参加」については、

前期：3.07→3.26→3.25 後期：3.17→3.26→3.40

となり、特に後期は以前の水準を大幅に上回った。manaba などを利用した事前課題や授業後の確認テストなどがやりやすくなったことにより、学生の課外学修の時間は増えているように感じられる。上記のような課外学修の増加は、大講義で行えば、多くの場合学生の義務的な「学習」時間を増やすことにつながるであろう。しかしゼミ形式のような少人数授業で、教員とのきめ細かな応答がなされれば、義務的な「学習」を自主的な「学修」へと変えていくことも可能なのではないか。学生との対話の中でこそ、学生の興味の有りようと学び

とをすり合わせる事が可能であろう。「質問・参加」という項目もそのような授業の中ではじめて質問項目として意味を持つはずである。

「Ⅳ. 学生の総合的な印象」は、いずれも4点台を超えている。前期は前年度より微減したが、後期は上昇した。まずまずの評価を受けているといえるだろう。

2) 公開授業の実施

公開授業は、例年通り前・後期2週間ずつ、計4週間を用いて実施された。授業担当者は3学科からそれぞれ3名ずつ、計9名が選出されて任務に当たった。

【日本文学科】

前期：天野みどり 「日本語学概説」6月22日(金)4時限
倉田 実 「中古文学講義」6月27日(水)1時限
後期：小井土守敏 「語学・文学講読Ⅱ」11月6日(火)3時限

【英文学科】

前期：石川 千暁 「米文学(特論)」6月26日(火)2時限
吉川 信 「英米文化(特論)」6月26日(火)4時限
後期：早川友里子 「英文学(現代)」11月5日(月)3時限

【コミュニケーション文化学科】

前期：吉田 光浩 「2年次ゼミⅠ」6月19日(火)3時限
森岡 修一 「国際教育論」6月20日(水)2時限
後期：田中 東子 「メディア・コミュニケーションⅡ」11月30日(金)5時限

3) その他の活動

以下の懇談会を実施した。

授業担当者懇談会 平成30年5月12日(土)

保証人懇談会 平成30年6月2日(土)

その他、各学科で独自のFD活動を行った。「平成30年度文学部FD報告書」に詳細がある。

(3) 社会情報学部

社会情報学部では学生による授業評価を平成 11 年度より開始し、平成 14 年度からはFD委員会を発足させた。今年度は 17 年目にあたり、昨年度までの活動を継続しつつ、学部のキャンパス移転にともなう新しい課題にも取り組んだ。

1) 授業公開

授業公開は、自由な参観とアンケートの任意提出という従来からの方針に沿って実施した。具体的には、授業公開を実施するにあたって、公開科目の担当者と参観希望教員との個別的な調整に委ねることとした。参観後に提出するアンケート用紙として、参観した授業に対する意見・感想を述べる「ご意見・感想用紙」と、授業公開に参観したか否かを尋ねる「授業公開参観確認アンケート」を用意し、前者の提出は任意、後者の提出は必須とした。アンケートの結果から、常勤の教員の参加率は4分の1弱であることが分かった。参加数が減少傾向にあるため、その原因を明らかにするとともに、参加率を高める改善が今後求められる。

2) 障害のある学生に対する授業での対応についての情報共有

障害者差別解消法の制定にともない、本学全体での組織的取り組みが実施されているが、授業における対応は教員相互の間でも情報が共有されていない。FD委員会では一昨年、昨年度と聴覚障害のある学生の状況を把握し、対応を検討している。今年度も対応策を継続審議することを確認した。

3) 新入生のプロファイリング調査（PROGテスト）の実施

社会情報学部FD委員会では昨年度に引き続き、新入生のPROG（Progress Report on Generic Skills）テストを実施した。PROGテストはジェネリックスキルを測定するもので、リクルートと河合塾が共同開発したものである。PROGテストにはリテラシー（認知能力：学力）とコンピテンシー（非認知能力：勤勉性・協調性・コミュニケーション能力・精神的安定性等）の2つの測定項目がある。2016年のPROGテスト実施大学は7女子大学を含め202校（132,281名）で、本学の短大でも実施している。リテラシーは学力との相関が高い指標であるが、今回も昨年度と同様、コンピテンシーの指標のみを評価した。

昨年度はPROG受験を年間計画に組み込んでいなかったため、受験率は3割強にとどまったが、今年度はガイダンス期間中に受験日を組み込み、社会情報学部の1年生全員を対象として、367名中357名（97.3%）の受験率を得ることができた。

なお、昨年度のPROGテストについては、今年度6月のFD研究会において、ご担当いただいた情報専攻の小野茂FD委員より、分析結果のプレゼンテーションがあった。千代田キャンパスへの移転後初の新入生のデータということもあり、多くの学部教員が参加し、学生の傾向の変化についての関心を共有した。

4) 入学時の学生生活調査・卒業時の学生生活調査の質問項目の見直し

学部の多摩キャンパスから千代田キャンパスへの移転にともない、入学時ならびに卒業時の学生生活調査の質問項目をアップデートする必要性が生じたため、今年度のFD委員会にて見直しを行った。

5) 特定枠プロジェクトの公募

特定枠プロジェクトを4月から5月にかけて学部内で公募し、次の研究を助成対象とした。

研究テーマ「成績不振学生への自動課題実施システムの有効性とその評価」

研究代表者：松田晃一 共同研究者：永田雅人

6) 私立大学等改革総合支援事業選定に向けた対応策の検討

私立大学等改革総合支援事業の設問において、全専任教員が全学的なFD活動に参加していることが問われているため、FD講演会の内容を記録したDVDを各教員が借りることにより、欠席者も事後フォローできる体制を整えつつある。まずはトータルでの参加者数の増加をはかるため、DVDの視聴を学部教授会などで呼びかけた。また、私立大学等改革総合支援事業への対応策として、学部FDもしくは学科FDへの参加者名簿を提出する必要がある、社会情報学部では学科ではなく学部単位で、平成31年度の6月もしくは7月の教授会終了後に学部全教員が参加するFDを行ってはどうかと協議した。同様に、私立大学等改革総合支援事業の設問において、学生を交えたFD活動も求められているため、平成31年度には教員と学生がともにFD活動を実施できる場を設けられるよう準備を進めている。

以上のとおり、これまでの活動成果（上記1～3）を継承しながら、さらなる課題（上記4～6）にも向き合いながらFD活動を実施した。

なお、今年度は、文書協議による委員会開催を含め、計9回にわたって定例の委員会を開催した。また、必要に応じて電子メールによる意見交換もおこなった。FD委員会で話し合われた主な報告事項および審議事項については、社会情報学部のFD活動報告書を参照されたい。

(4) 人間関係学部

平成30年度においても、昨年度と同じく教育内容の向上のために下記のような取り組みを行った。

1) 学部FD研修会の実施

障害学生支援委員会との連携により、「多摩の教育をよりよくするためには」という研修を実施した(平成30年12月7日)。研修会の内容と参加者の意見については、学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

2) 学生による授業評価

平成30年度においても、前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。アンケートの結果に対しては、全教員が改善に向けたコメントを付してその内容を公表している。なお、今年度より、学生の出席状況を問う項目とのクロス集計を5つの項目で実施し、より詳細な分析結果を教員にフィードバックした。

3) 授業改善を図る制度的取組としての学生代表者との意見交換

教育の質の更なる向上に向けて、今年度初めての試みとして、授業改善について学生代表者との意見交換を行った(平成31年1月11日(金))。

4) 保護者懇談会の実施と参加者のアンケート

平成30年度においても、前期(6月2日:千代田キャンパス)・後期(10月20日:多摩キャンパス)の年2回、父母懇談会を実施した。懇談会の実施後には保護者から出された質問、意見、そしてそれに対する大学の改善策を集約して、教員全員が共有できるように工夫しており、またそれらの内容を学部FD報告書の中でも公開している。

5) オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。本報告書の中でも、今年度のオフィスアワーを振り返った各教員の所感と今後の取り組みの内容が掲載されている。

6) 各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためにはFD委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD活動の一層の充実を図っている。

7) 各学科・専攻におけるFD活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、本報告書の中でも各学科におけるFD活動の内容を具体的に紹介しているが、そこで述

べられた内容を各教員が参考にしながら、今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

8) クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。本報告書の中でも各教員が1年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

(5) 比較文化学部

1 平成30年度の「授業に関するアンケート」実施とその結果の取り扱いの流れ

a) 「授業に関するアンケート」という鏡

比較文化学部には、通年、半期あわせて前期授業 152 コマ、後期授業 168 コマ（共に、3 年ゼミの比較文化演習と、4 年ゼミの比較文化セミナーを含む）が開講されている（比較文化学部所属教員が担当しているクラス数なので、他学部クラスも含む）。それらの授業は、授業を受ける学生の側からは、どのように見えているのだろうか。

比較文化学部 FD 委員会は、平成 30 年度に前期と後期 2 回の「授業に関するアンケート」を行なった。2 回とも同じ質問、同じ形式（マークシート両面 1 枚、1 種類）のアンケートである。

以下、「授業に関するアンケート」調査の実施とその集計、結果の取り扱いなどの作業の流れを記録しておく。

b) 実施時期と実施クラス数

アンケートは、前期は 2018 年 6 月 22 日(金)～7 月 12 日(木)の期間に、167 のクラスで実施した。後期は 2018 年 11 月 26 日(月)～12 月 15 日(土)の期間に、166 のクラスで実施した。いずれも 90 分授業時間中の約 20 分を使って行われた。

c) 専任、非常勤とも 3 年ゼミ、4 年ゼミを除く全クラスでアンケート

大学の授業は文科系でも講義、演習、語学授業等々形態がさまざまであるし、各クラスの受講者数もさまざまである。私たちの学部でも「授業」といっても、受講者数は数名から 200 名まで、クラスの規模に大きな差がある。しかしいまはその形態と受講生の多様については深く考えずアンケートを実施することにした。

専任教員は基本的にそれぞれ 3・4 年ゼミを除く担当の全クラスで、非常勤教員も担当する全クラスで、アンケートを実施した。

それぞれの授業担当の教員がアンケート用紙の配布、回収を行った。

d) 実施科目の履修者数、有効回答数

実施科目の履修者数は、前期 21,352 名である。うち、有効回答者数は 17,494 名（回答率 81.93%）であった。他方後期の実施科目の履修者数は 19,057 名である。うち、有効回答者数は 14,881 名（回答率 78.094%）であった。

e) 集計、電子テキスト化

このマークシート回答の集計処理は外部の業者に委託した。①各クラス別の集計結果と②全クラス平均評定平均結果、「自由記入欄」に書かれた③学生の文章（手書き）は、基本的に学生の文章のまま電子テキスト化した。これ以外にも次にあげる項目による分析データ、比較文化学部全体の 2 種類のデータ、評定平均度数分布データを得た。

授業方法別（講義・演習・講義演習）／区分別（外国語・教養・専門）／クラスサイズ別／言語別／学生のマークによる所属学科別／学生のマークによる学年別／担当教員の所属別／担当教員の年齢別

f) アンケート結果の伝達

集計結果①および②と「自由記入欄」の文章③はそれぞれのクラスの担当教員本人に渡した（非常勤講師には郵送した）。

g) 教員の感想

「授業に関するアンケート」結果（①②③）を受け取った全教員に、その「評価」について担当クラス毎に感想を書いてもらうことにした。記名して、FD委員会に提出してもらった。

h) 口頭報告

前期のアンケート結果は例年、父母懇談会において保護者へ資料を配布し口頭で説明しているが、本年は父母懇談会が実施されなかったため、行っていない。

以上が、平成30年度の「授業に関するアンケート」実施とその結果の取り扱いの流れである。

2 掲載したアンケートについて

昨年度までは教員別に、総合的な評点と、学生の自由記述欄の記述（昨年度はFDに資すると判断したもの3つを上限として選んだ）、そしてアンケートに対する教員の感想を掲載していた。だが、自由記述欄の記述の掲載について、FD委員が選択するには負担がかかること（選択せずに全て掲載していた時もあったが、あまりにも無責任なコメントも多く、ある程度の選択は避けられないと考えた）、そして基本的に自由記述欄の内容は担当教員が真摯に受けとめるべきであること、などを鑑みて今年度は自由記述欄の記述の掲載は見送った。

その代わりとして、「評定平均点度数分布表」と専門科目・言語別のアンケート集計結果を掲載した。参考にいただければ幸いである。

(6) 短期大学部

1. 本年度の短期大学部 FD 委員会の構成と活動方針

短期大学部の FD 委員会は、家政科 3 専攻から各 1 名、国文科、英文科から各 1 名の計 5 名の委員によって構成されている。短期大学部は当委員会を中心に、平成 30 年度は、昨年度に引き続き、以下の項目を中心に FD 活動を行った。

- (1) 授業に関するアンケート
- (2) オフィス・アワー
- (3) 保証人との懇談会
- (4) ホームページ
- (5) 授業公開
- (6) 学習支援活動
- (7) 短期大学部主催の FD 講演会、FD 研修会
- (8) 満足度調査

2. 平成 30 年度の FD 活動の概要

活動の詳細は平成 30 年度短期大学部 FD 活動報告書第 16 号に掲載した。

(1) 授業に関するアンケートについて

本年度も、FD 活動の基幹として、短期大学部開講科目について、「授業に関するアンケート」を実施した。専任教員の実施科目数は、前期、後期各 3 科目とした。

アンケートは、例年通り、前期は 6 月下旬から 7 月中旬の 3 週間、後期は 11 月下旬から 12 月中旬の 3 週間に行った。内容については、昨年度と同様、全学共通の無記名方式アンケート用紙を使用した。アンケートは、19 の質問、各教員による自由設定質問、受講者の自由記入欄から構成されている。短期大学部全体としては、前期は合計 159 科目について、履修者総数 5,715 名中 5,069 名、後期は合計 168 科目について、履修者総数 6,004 名中 4,901 名の回答を得た。全カテゴリーの平均値は、前期 4.18、後期 4.13 で、昨年の前期 4.04・後期の 4.14 と比して、前期がかなり上回った。

(2) オフィス・アワーについて

本年度も、各学科・専攻の専任教員が、各自オフィス・アワーを設定し、学生の学習支援、生活支援、進路指導などに取り組んだ。4 月のガイダンス時に、各科専攻で一覧表を学生に配布し、またホームページやシラバスにも掲載して、周知に努めた。また、他の時間帯にも、可能な限りの対応を行い、E メールも活用した。

(3) 保証人との懇談会について

千鳥会主催の短期大学部父母教員懇談会は、6 月 2 日（土）に開催され、各学科・専攻で、学生に対する学習面、生活面での指導の状況や、就職事情などを説明し、個別の懇談を行った。各学科・専攻で、秋に、それぞれ独自の企画で懇談会を開催した。

(4) ホームページについて

ホームページは、短期大学部各学科専攻が、学科の理念や教育内容について外部へ発信する手段となるものであり、本学進学を目指す高校生にとって重要な情報源となるものである。昨年の全面的リニューアルの実施により、利便性の向上があり、また随時更新も可能となったため、今年度は大妻学院 110 周年行事に合わせて、動画などの全面更新を行った。

内容としては、各学科専攻が、学外研修、資格試験や、コンテスト、ホームカミング他の行事開催など、様々な形での学習支援活動についての報告を行い、全体として大妻での学びの魅力の PR となったと考えられる。

(5) 授業公開について

本年度は、11、12月に短期大学部はすべての学科専攻が授業公開を実施した。また実施後は、公開された授業のどのような点が参考になったか、学科内での授業間の連携をどのように深めるかなどについての検討が行われた。

(6) 学習支援活動について

入学前の学習や生活において多様な背景を持つ学生が集う短期大学部では、個々の学生の特質やおかれた状況を考慮した、柔軟かつ積極的な支援を行ってきた。本年度も、各学科専攻において、その特長を生かして、学外研修、資格試験受験、また学会活動参加などの面での支援を実施した。また個々の学生に対しては、クラス指導主任や授業担当者が、学習や生活面での問題解決のためのアドバイスをを行った。

(7) 短期大学部 FD 委員会主催の講演会、研修会について

特徴の異なる5つの学科専攻から成る短期大学部では、共通テーマで授業改善の研修を行うのは困難であるが、大学を取り巻く社会、そして世界の情勢について理解を深め、授業に反映させることは学科・専攻の相違を超えて重要と判断された。

今年度は、11月15日に「校外授業の意義と課題」と題して、FD委員長、榎本教授による講演が行われ、千代田区内の様々な歴史遺産、文化遺産を見学し、施設を活用することが、学科を問わず、大妻での学びをいかに深める可能性があるかが、実例をもって大変説得的に語られた。内容は、交流会でさらに深められた。

また、2月14日には、「授業改善を学生とともに考える」と題して、FD研修会が行われ、各学科専攻から2名ずつ、計10名の自発参加の学生と、学部長、学科長、専攻主任他計15名の教員、4名の事務職員が参加した。まず、各学科専攻に分かれて、学生が授業の良かったと考える点について、さらに学生の自習意欲向上について意見を聞いて、各学科の教員が報告した後、意見交流を行った。榎本FD委員長の司会進行で、和やかな雰囲気の中、貴重な意見が引き出され、学科間の交流も深まった。

(8) 満足度調査について

今年度も、11月に学部長室主催で、卒業年次生に対して、本学の授業、事務手続き、設備など、学生生活全般にわたる満足度のアンケート調査が行われた。いずれの項目に関しても前年度より向上が見られたが、改善の余地はあると考えられる。

3月25日には、もう一度調査が行われる。

3 人間文化研究科の平成30年度FD活動

大妻女子大学大学院人間文化研究科FD委員会は、平成28年度～平成30年度の3年計画で、大学院におけるFD活動の実施計画を策定した。この実施計画にもとづき、個々の具体的なFD活動を実施してきたので、その実情を以下の通り報告し、今後の活動に繋げたい。

(1) 平成28年～30年度大妻女子大学大学院FD実施計画

1. 基本方針

大学院FD委員会の協議のもと、院生の入学から修士課程修了ならびに博士後期課程修了までの全学習・研究過程を視野におさめながら、より質の高い教育ならびに研究指導の実践を目指して、大学院における教育力を高める。よって、大妻女子大学全学の教育力向上に貢献する。

① FD活動の目標

大学院FD活動の目標を次のように定める。

- ① 学部・短大FDと大学院FDの連携のもとで、学部の入学・卒業から大学院入学・修了までを展望したFD活動を実施する。
- ② 教育活動に有益なFDを実施することに努め、教員が協力しやすい状況をつくり、全員の参加を目指す。
- ③ 教員対象のFDにとどまらず、職員や院生の協力・連携を基盤とした、全体的なFDに取り組む。
- ④ 個々のプログラム内容の充実に努め、その成果に関する情報を集積し、関係者の間での共有化を進める。

② FD活動の計画

大学院FD活動の計画は次の通りとする。

- ① 「大学院進学意識に関するアンケート」
- ② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」
- ③ 「大学院修了に際しての意見の収集・アンケート」
平成28年度のアンケートを用いて実施する。回収率の向上を目指す。
- ④ 院生・教員懇談会の実施
開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとする。懇談会の結果、院生からもたらされた意見・要望については、その都度、取りまとめて、FD委員会に報告する。
- ⑤ 学会発表の奨励に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑥ 学内発表会の奨励・支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑦ 院生論文集発行の支援に関する活動
「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」を掲載誌とし、編集事務局の援助を受けながら発行していく。
- ⑧ 他大学との各種連携の活性化に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑨ 就職支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。アンケートの希望が多かった大学院生の就職支援体制の充実に努める。
- ⑩ 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

・千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

⑪ 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

・専攻・専修内の授業間の整合性の検証やスリム化を視野に入れた教育・研究体制のあり方について検討する。

・大学院の組織の見直し（特に博士後期課程）を検討する。

⑫ その他の活動

大学院生室の有効活用の検討など

(2) FD 活動の実施状況

以下、3つのアンケート調査を実施した。なお、①と②については、平成28年度からWebを利用して調査した。

① 「大学院進学意識に関するアンケート」

大学院修士課程入学者を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で、11月に実施した。その結果については、「Ⅲ. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」

全大学院生を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で、11月に実施した。その結果については、「Ⅳ. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

③ 「大学院修了に際しての意見の収集・アンケート」

平成31年3月修了予定の院生に対しては、大学院における今後の進路指導の課題に鑑み、就職先の実態を把握することを中心とした。その結果は、Ⅷ.「就職支援に関する活動」欄のとおりである。

(3) 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）

(3)-1 はじめに

大妻女子大学大学院人間文化研究科は平成22年4月（2010年）に改組して以来、9年目を迎えた。本年度も「大学院FD活動実施計画」に基づき、各種の活動を実施してきたが、これまでの活動との比較を考慮して、前年度とほぼ同様の内容で「大学院進学意識に関するアンケート」ならびに「大学院の研究・教育に関する意見の収集」を実施した。前者は修士1年生を対象に、後者は大学院生全員を対象に実施しているが、以下に両調査の結果の概要を大学院のFD活動を継続的に考察するための資料として提示する。なお、大学院の在学生在が少ないため、専攻、専修や在学年を答えると回答者が特定される懸念があることから、今年度より修士1年生向けアンケートでは、「専攻、学年」の質問を削除、全大学院生向けのアンケートでは所属する課程のみを聞くこととし、尚且つその回答を必須とはしないこととした。

(3)-2 調査の目的ならびに方法

平成30年度の大学院修士課程1年生はアンケート実施時には18名であった。新入の修士課程1年生を対象とする「大学院進学意識に関するアンケート」の目的は、大学院進学にあたっての経緯や動機について把握し、いかにして多くの学生が集まる魅力的な大学院をつくるかの参考にすることにある。一方、「大学院の研究・教育に関する意見の収集」は、全大学院生を対象に授業内容、履修環境、事務体制に対して点数による客観的評価と自由記述による意見を集約し、授業方法の改善、カリキュラムの構成、設備の整備など、教育改革に反映させることを目的としている。

平成25年度より回答を、「非常にそう思う；5点」から「まったくそう思わない；1点」までの5段階評価を採用した。評価点は、平均点と最高点、最低点を算出し、また、専攻別の平均点も算出していた。ただし

前述したように今年度から「専攻」は問わないことにしたため算出した平均点は回答者全員の平均点ということになる。アンケートの実施方法は、Web 上で行い、教育支援グループがメールで個別にアンケートページの URL を配付した。大学院生は、指定された URL にアクセスし、Web 上で回答を行った。

(3)-3 調査の対象・時期・回収の状況

「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関する意見の収集」とも次の要領に基づいて実施した。

(ア) 調査の対象：「大学院進学意識に関するアンケート」は平成 30 年度人間文化研究科各専攻修士 1 年生 18 名を対象とし、「大学院の研究・教育に関する意見の収集」は、全大学院生 53 名（休学者を除く）を対象とした。

(イ) 調査の期間：平成 30 年 11 月 1 日～11 月 30 日

(ウ) 回収の状況：過去 8 年間と今年度の 1 年生の回答者数と回収率を表 1 に示した。今年度「大学院進学意識に関するアンケート」の回収率は 66.7%であった。対象大学院生の絶対数が少ないが、アンケート調査を参考にし本学の大学院のさらなる充実を図りたい。

表 1 大学院進学意識に関するアンケート（新入学者）

対象者	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
新入学者	33	26	22	19	20	19	22	24	18
回答者	22	18	11	11	13	15	16	19	12
回答率(%)	66.7	69.2	50.0	57.9	65.0	78.9	72.7	79.2	66.7

(3)-4 大学院への進学の動機について

「本学大学院への進学を志望するに当たって、その動機に係る 1～12 項目に対してどの程度重視しましたか」の問いに対する結果を表 2 に示した。「非常に重視した」5 点、「かなり重視した」4 点、「どちらとも言えない」3 点、「あまり重視しなかった」2 点、「ほとんど重視しなかった」1 点とし、「まったく考えたことがない」0 点として平均点を算出した。

表 2 大学院進学にあたって重視した動機項目の順位

		平均点数（5～1点評価）						
		H24 (n=11)	H25 (n=11)	H26 (n=15)	H27 (n=14)	H28 (n=16)	H29 (n=19)	H30 (n=12)
1	将来、研究職・臨床職に就きたいこと	3.9	4.3	2.9	3.3	3.7	3.9	2.9
2	専門分野の学位が取れること	4.0	4.2	3.3	3.5	4.0	4.1	3.9
3	就職に有利になること	2.6	2.9	1.9	2.8	3.5	3.3	2.3
4	自宅・会社からの通学が便利なこと	1.4	3.2	2.1	3.0	2.1	3.2	3.0
5	指導を受けたい教員がいること	3.9	4.3	3.4	3.7	4.4	4.4	3.8
6	大学のネームバリューがあること	1.8	2.2	2.0	2.1	2.3	2.5	2.2
7	就職を先に延ばせること	1.3	1.5	1.8	1.7	2.2	1.7	1.6
8	希望する就職先がなかったこと	1.6	1.1	1.3	1.3	1.5	1.4	1.2
9	奨学金を受給できること	1.3	1.9	1.3	1.9	2.7	2.3	1.6
10	専門の資格が取れること	3.8	3.7	2.4	2.8	4.0	3.8	3.1
11	研究したいことがあること	4.3	4.4	3.1	3.7	4.2	4.3	3.8
12	在学中の学費の支払いのこと						3.5	3.4

注1；表中数値は平均値

表2に見られるように、全体的な傾向としては過去6年間とほぼ同様であり、「専門分野の学位が取れること」「指導を受けたい教員がいること」「研究したいことがあること」「専門の資格が取れること」といった項目が上位を占めている。以下に述べる表3「大学院進学にあたって影響源となった項目」においても、重視されている項目が指導教員や学部時代に世話になった教員、あるいは出身大学の教員との相談であることを考えると、大学院進学の動機づけに教員が大きく関与していることが分かる。

この質問に関する自由記述は、特になかった。

(3)-5 大学院進学にあたっての影響を与えた情報源について

表3 大学院進学にあたって影響源となった項目の順位

	平均点数 (5~1点評価)						
	H24 (n=11)	H25 (n=11)	H26(n=15)	H27 (n=11)	H28 (n=11)	H29 (n=19)	H30 (n=12)
1 本学の先輩の研究成果を見たこと	1.7	1.9	1.8	1.6	1.9	2.8	1.7
2 大学院に行っている友人・知人からの情報	1.7	2.5	2.5		2.5	2.9	2.0
3 両親や兄弟姉妹から勧められたこと	1.4	1.1	1.7	1.5	1.1	1.8	2.2
4 自分の配偶者の意見	0.6	0.3	0.5	1.0	0.3	0.6	1.1
5 大学院紹介の受験雑誌などの記事	1.7	1.2	1.9	2.1	1.2	2.1	1.2
6 本学発行の大学院紹介パンフレット	2.2	3.0	2.2	3.1	3.0	2.9	2.6
7 学内の大学院進学説明会	3.2	2.5	3.2	2.5	2.5	3.6	2.9
8 学外の大学院進学説明会	1.1	1.2	0.9	2.2	1.2	1.4	0.8
9 本学のホームページの記事	2.4	2.4	2.2	2.4	2.7	2.6	2.0
10 指導教員になる教員との相談	3.1	4.5	2.9	3.5	4.5	3.9	4.2
11 学部時代に世話になった教員との相談	2.3	2.7	2.6	2.3	2.7	3.0	3.4
12 出身の大学の先生との相談	2.5	2.7	2.7	3.0	2.7	3.0	3.6
13 出身の高校の先生との相談	0.5	0.9	0.5	1.1	0.9	0.8	0.2
14 教員の業績と研究テーマを見て、将来、自分の研究テーマを追求していくうえで最適な場所と考えたから				3.0	3.9	3.8	3.6
15 他の大学院にはない独創的な文化資源(蔵書、マニユスクリプト、物的資料など)があると考えたから				3.0	1.6	2.1	1.8

注1:表中の数値は平均値である。

過去6年間の傾向を見ると、「指導教員になる教員との相談」がそれぞれの年度において第1位となっているが、今年度も最も高い得点となっており、やはり指導教員の影響が大きいことが伺える。また、平成27年度から追加された「教員の業績と研究テーマを見て、将来、自分のテーマを追求していくうえで最適な場所と考えたから」が進学に当たっての動機の大きな要因となっており、今年度に関しても同項目の平均点は指導教員の影響に次ぐ高得点となっている。当然のことではあるが、こうしたことを踏まえると、大学院教員の研究力・発信力が、学生が大学院進学を決めるにあたって重要な要素になっていると言える。なお、昨年同様「学内の大学院進学説明会」も高い得点となっており、進学説明会開催も重要であると言える。

この質問に対する自由記述は、特になかった。

(3)-6 他大学の受験状況：

「他の大学院を受験しましたか」では、新入生18名中、有効回答者12名全員が「いいえ」と答えており、回答を寄せた院生の中では、今年度他大学大学院受験者は0名であった(昨年度は19名の有効回答者のうち、4名が他大学大学院の受験をしたと回答)。

(3)-7 大学院修了後の進路及びどのような大学院生活を送りたいか

「大学院修了後の進路は、どの様に考えていますか」については表4に、「あなたはどのような大学院生活を送りたいですか」については表5にまとめた。

表4 大学院修了後の進路について（複数回答）回答率（%）で表示

	H27	H28	H29	H30
1 博士後期課程に進学したい	13	22	26	42
2 外国に留学したい	20	22	16	17
3 教育職員（専修）（幼稚園・小・中・高校・栄養教諭）として就職したい	0	28	21	25
4 専門社会調査士として就職したい	7	0	0	17
5 臨床心理士として就職したい	40	22	37	33
6 研究機関で研究開発の仕事に就きたい	20	6	16	8
7 民間企業で一般職の業務に就きたい	7	11	0	17
8 民間企業で総合職の業務に就きたい	13	11	16	17
9 公務員として就職したい	7	11	11	17
10 大学教員として就職したい	27	6	16	8
11 まだ具体的に考えていない	7	28	5	8

注1；希望は複数回答のため、合計は100%を超えている。

表4および表5に関しては、複数回答であるため回答率で示した。今年度は回答者の絶対数は少ないものの、修士課程1年生の段階で博士後期課程進学を視野に入れている院生の割合が例年に比し多いことが特徴として指摘できる。さらに「教育職員（専修）（幼稚園・小・中・高校・栄養教諭）として就職したい」、「臨床心理士として就職したい」といった将来のキャリアを見据え「専門職として就職したい」とする希望は過年度同様強い。

この質問に対する自由記述欄には次のようなものがあった。

- (1) いまの職場やフィールドでさらに専門性を高める。

大学院生活への希望を尋ねた結果を表5に示した。

表5 どんな大学院生活を送りたいか(複数回答)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1 専門分野についての研究中心の生活をしたい	30	55	33	20	44	63	17
2 研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい	80	64	87	82	61	58	50
3 たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい	20	18	27	27	44	42	25
4 就職活動や資格をとるための時間を多くしたい	20	9	7	27	17	16	8
5 就職活動を早めに始めて、まずは就職を決めたい	20	9	20	13	11	16	8
6 狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい	60	55	33	53	17	37	25
7 アルバイトや遊びはできるだけ控えたい	10	18	7	0	0	11	17
8 アルバイトや遊びも大いにやりたい	10	9	20	27	11	6	8
9 自由な時間をできるだけ楽しみたい	20	18	27	27	17	16	17

注1;表中数値は%

どんな大学院生活を送りたいかについて見ると、「研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい」、「専門分野についての研究中心の生活をしたい」という希望とともに「たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい」、「狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい」といった、自分の専門分野の枠を超えたより広い学問領域への関心が高いことが伺える。こうした学際的な分野への院生の希求に応えることもこれからの課題となろう。

この質問に対する自由記述欄には次のようなものがあった。

(1) 進学してからのほうが、ゼミ選びで悩みました。

(3)-8 大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと

「進学意識調査」の最後に、大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだことについて自由記述欄に記述された意見を以下に掲げる。

- ① 就職が周りより遅れること。
- ② 学費と、大学院の授業について行けるか不安だったこと。
- ③ 親の介護。
- ④ 進学するにあたり悩んではいませんでした。
- ⑤ 仕事と家庭と勉強を両立させることができるのか。
- ⑥ 親に金銭的負担をかけること、就活に制限が出てしまうこと。専門社会調査士の資格を取得しても、調査会社のような専門職以外の職種は就活しにくいのではないか。
- ⑦ 自分のキャリアやプライベート、年齢。
- ⑧ 同じ学科の友達が誰も進学しないこと。

(4) 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）

本調査は、前項の「進学意識調査」と同時に実施した。大学院人間文化研究科に在籍する大学院生 53 名を調査の対象とし、「進学意識調査」と同様の方法、期間で実施した結果、29 名（回答率 54.7%）から回答を得た。昨年度の回答率 76.3%（在籍者 59 名、回答者 45 名）を大きく下回ることになってしまったのは残念である。その要因が那边にあるのか、次年度に向け改善策を検討する必要がある。

結果の概要は以下の通りである。

(4)-1 各評価項目

大学院の授業全般についての評価は表 6 の通りである。各項目ともおおむね 5 段階評価でほぼ 4（3.8～4.2）であり、全体の平均点も 4 であるので、授業はほぼ適切に行われているという評価であったと言える。

しかしながら、自由記述欄には後に掲げるように個々の授業に関する率直な意見が寄せられており、そうした声にしっかり耳を傾け、引き続き大学院生のニーズに応えられる大学院教育を作り上げるようさらなる努力が必要である。

表6 大学院の授業全般についての評価

課程	回答数	問1	問2	問3	問4	問5
			シラバスに記載された到達目標に示された知識や能力を獲得できた	授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった	授業の内容は専門知識等を習得する上で十分な意義が感じられた	研究指導や論文指導のあり方について適切であった
修士課程	23	3.8	4.0	4.2	4.1	3.7
博士後期課程	6	4	4.2	4.3	4.3	4.0
全平均	29	3.8	4	4.2	4.1	3.8
最高点		5	5	5	5	5
最低点		2	2	3	2	2

注：表中数値は平均値、最高点及び最低点である。

続いて、大学院の履修および研究環境については表7の通りである。

いずれの項目も平均値は3.6から3.8の範囲であり、平均点は3.7であった。したがってこれもおおむね適切、あるいは満足のレベルであると判断できよう。ただし、絶対数が大きく異なるので単純な比較はできないものの、各設問における修士課程院生の平均値が博士後期課程院生のそれを下回っている点は注意しておく必要があると思われる。

表7 大学院の履修および研究環境について

課程	回答数	問6	問7	問8	問9
			事務手続きのシステム全般について分かりやすかった	ガイダンスの日程や実施方法について適切であった	図書館他学校の施設設備について満足している
修士課程	23	3.4	3.8	3.6	3.7
博士後期課程	6	4.2	3.8	4.2	4.0
全平均	29	3.6	3.8	3.7	3.8
最高点		5	5	5	5
最低点		2	1	1	1

注：表中数値は平均値、最高点及び最低点である。

教育・研究支援について表8に示す。

表8 教育・研究支援について

課程	回答数	問10	問11
			事務職員の対応は適切であった
修士課程	23	3.8	3.7
博士後期課程	6	4.5	3.5
全平均		3.9	3.7
最高点	29	5	5
最低点		2	1

注：表中数値は平均値、最高点及び最低点である。

全体の評価は、3.9 および 3.7 であり、これも全体的には適切であったとの評価結果であると言えようが、個々人で見ると「1 まったくそうは思わない」、「2 あまりそうは思わない」と低い評価を下した人が両設問ともに5名存在することには注意をしておく必要がある。

(4)-2 大学院の授業全般（問1～5）、履修・研究環境（問6～9）、教育・研究支援（問10～11）に関する自由記述欄への記述状況

自由記述欄に記載された意見については、そのままの意見を箇条書きで以下に記載する。

問1. 「大学院の授業ではシラバスに記載された到達目標として示された知識や能力を獲得できた。」

- ・とても尊敬できる先生です。

問2. 「授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった。」

- ・授業によっては高度すぎると思う。課題が多すぎる場合があるので、他の授業との兼ね合いなども考えてほしい。
- ・文学の楽しさ、深さを教えてください。
- ・授業によって、善し悪しの振れ幅が大きいです。

問3. 「授業の内容は専門知識等を習得する上で、十分な意義が感じられた。」

- ・授業中、先生の言葉にいつもはっとします。文学は奥深い。

問4. 「研究指導や論文指導のあり方について適切であった。」

- ・先輩がいないから、現状が適切かどうか、判断できない。
- ・授業以外でも発表のための原稿を見てくださいました。いつも熱心に教えてくださいました。

問5. 「学外研究・学外実習について希望通り実施することができた。」

- ・今年、学会発表をします。これだけで精一杯です。

問6. 「事務手続きのシステム全般について分かりやすかった。」

- ・いつも親切に答えてくれます。

問7. 「ガイダンスの日程や実施方法について適切であった。」

- ・助言で不安がなくなりました。

問8. 「図書館他の学校の設備について満足している。」

- ・もっと最新の専門書を増やしてほしい。
- ・図書館の司書の方が教えてくださり、いつも助かります。
- ・図書館の書籍に、保育の専門的な本が揃っていない。

問9. 「大学院生室・大学院生自習室の学習環境について満足している。」

- ・PCが古くてすぐ落ちる。訴えても変えてくれない。
- ・とても居心地がよい。お茶を飲んで休んでいます。
- ・ミーティング室の使用について、A・Bどちらも特定の学生が、特定の曜日に占有する状況が続いており、平等な使用機会が与えられていない。
- ・パソコンの立ち上げに2時間かかる。
- ・パソコンの画面が小さいので、大きいモニターのパソコンがあるととてもよいと思いました。

問10. 「事務職員の対応は適切であった。」

- ・教授に聞いても分からなかったことなど丁寧に対応してもらえて、とても助かりました。
- ・職員Mさんに感謝。体調を崩したときのことを思い出し、そのやさしさが忘れられません。ありがとうございました。
- ・窓口のスタッフの対応が、いまいちのことが多かった。

問11. 「大学院の学費・奨学金制度について」

- ・課題等でアルバイトの時間が取れないため、奨学金の額を増やしてほしい。実習費も個人負担のため、生活が苦しい。

(4)-3 ハラスメントについて

ハラスメントについて、今回のアンケート調査では29名が回答し、「経験がある」が2名、「答えたくない」が8名、「経験がない」が19名であった。自由記述欄には3名の院生が次のような意見を述べていた。なお、アンケートを取る際に回答結果は慎重に扱う旨明記しており、以下に示した自由記述については記載内容に若干の配慮をした。

- ・友達が受けていた。
- ・言わなくてもいい悪いことを言われる。
- ・授業に関して相談に行きましたが、威圧的な態度を取られ、言わなくてもいいような内容まで言われました。人格否定的な発言や事実でないことまで含めて言われたことに関しましては、いささか問題であると感じております。相手に対して気分を害するような物言いをするのか、理解できませんでした。

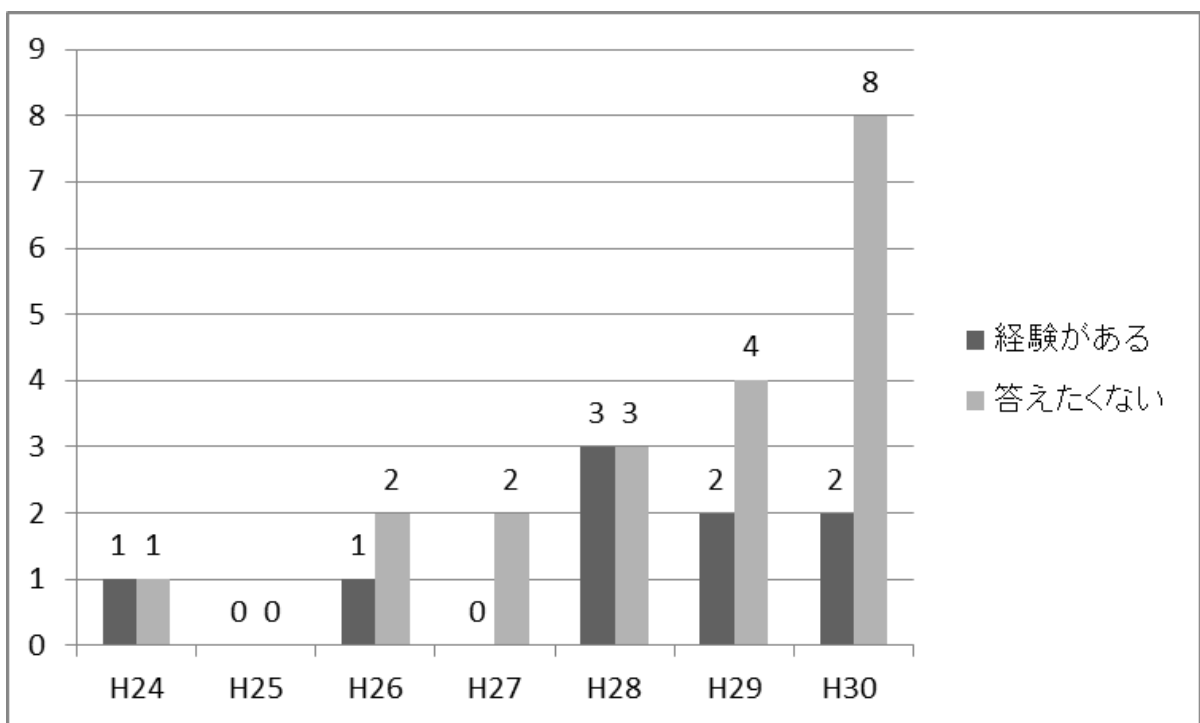
平成24年度からアンケート調査項目に「ハラスメントについて」を取り入れた。ハラスメントに関する調査結果の概要を図1に示す。平成25年度のように、「経験がある」及び「答えたくない」共にゼロであった年もあるが、年々増加傾向にあると言える。特に今年度は「答えたくない」との回答が8名からあり、「経験がある」と回答した2名を含めると、10名(34.5%)の院生が「経験がない」を選択していないことになる。FD

委員会では昨年度、以下の対応をとっていた。

- ① FD アンケートの回答について、修了生も申し出ができる機会を確保するよう、大学院生に1月中に文書を配布した。また、意見の申請先として、FD 委員、ハラスメント委員、専攻教員も記載した。
- ② ハラスメントに関する回答のFD 報告書への記載は、大学院生は少数で個人の特特定がしやすいことから、一部表現について個人を特定しづらい形に修正し、また、専攻名、学年は記載しないこととした。
- ③ 専攻会議等での報告は、専攻名、学年を伏せアンケートの回答内容はそのままを報告し、注意喚起を行うことにした。

こうした対応を取ったにもかかわらず、また一昨年、昨年と続けて専攻会議において教員への注意喚起を行ってきたにもかかわらず、それが効果として現れていないということになる。委員会として、今後とも、本学のFD 研修会等でハラスメントに関連した講習の実施を働きかける等しながら、引き続き教員への注意喚起を行っていく必要がある。

図1



(4)-4 社会人特別選抜の入学者への配慮について

社会人特別選抜の入学者を対象にした「授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた」かの問いでは13名から回答を得た。詳細は、「5 非常にそう思う」5名、「4 そう思う」5名、「3 どちらともいえない」が2名で、「2 あまりそうは思わない」0名、「1 まったくそう思わない」を選択した院生が1名であった。全体の平均値は4.0であり、社会人学生に一定の評価は受けているとは言えようが、「まったくそう思わない」との回答が1件あったことは、下記自由記述欄記載意見を含め、注意しておくべきであろう。

社会人入学者の自由記述は1件あった。

- ・開講する授業の教員に相談しましたが、一方的な話のみでおわり、こちらの事情は汲み取っていただけませんでした。そのためその授業に関しては諦めました。

(4)-5 その他意見・希望について

今回の調査では特に意見等は寄せられなかった。

(4)-6 おわりに

平成 25 年度から 3 年間の FD 実施計画を立て、「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関するアンケート」を実施した。本年度はその 2 巡目（平成 28 年度～30 年度）の最終年に当たる。評価を点数化し、経年変化をみる集計方法は継承し、自由記述も基本的にはそのままを掲載した。

本年度から、専攻・専修・学年等、回答者を特定される懸念のある項目は削除する形で行ったのだが、残念ながら、回答率は 50%を少し超えるくらいにとどまってしまった。この回答率を上げるにはどうしたらよいか、次年度に向けて検討する必要がある。

その一つとして、寄せられた様々な貴重な意見に対して、大学・教員側がどのように対応したか、あるいはどのように対応しようとしているのか、そうした情報をすみやかに院生側に伝えることが必要であるように思われる。

以上

(5) 院生・教員懇談会の実施

開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとした。今年度の実施状況は以下の通りであった。

専攻	実施内容
人間生活科学専攻 D	平成 31 年 2 月 18 日(月)に、博士後期課程に所属する院生、健康栄養科学専修の修士課程の院生、指導教員とで懇談会を開催した。当日は修士論文発表会でもあったので、卒業生、大学院進学を希望する学部生なども交えて論文作成の苦労話や研究の進捗状況や進路について情報交換ができた。
人間生活科学専攻 M (健康・栄養科学専修)	平成 31 年 2 月 18 日(月) 17:30 からコタカフェにて、人間生活科学専攻 D と合同にて健康・栄養科学専修の院生、指導教員の懇談会を実施した。参加者には、家政学部食物学科の教員、健康・栄養科学専修の修了生、次年度の専修への新入生も参加し、修士論文、大学院生活あるいは就職活動などの情報交換が行われた。短い時間であったが、院生同士あるいは院生と教員間で交流を深めることができた。
(生活環境学専修)	平成 30 年 6 月 23 日(土)13:30 から、修士 1 年生 1 名、修士 2 年生 3 名と、主指導教員 2 名および専修代議員参加のもとで、院生・教員懇談会を開催した。研究遂行上の問題点や進路について活発な意見交換ができた。院生間はもちろん、教員との親睦も深まり、今後の研究生活上においても有意義な懇談会となった。
(児童発達臨床学専修) (保育・教育学専修)	平成 30 年 5 月 12 日(土)に、保育・教育学専修の修士課程の大学院生と、教員による院生・教員懇談会を開催した。学会参加の後だったこともあり、研究遂行上の問題点について活発な意見交換ができた。
言語文化学専攻 (日本文学専修)	言語文化学専攻日本文学専修では、平成 30 年 7 月 5 日および 12 月 13 日(木)に行われた「日本文学専修院生研究発表会」の後に、日本文学専修の院生及び教員のほぼ全員での懇談会を開催した。研究発表会直後でもあり、話題は研究内容と研究生活に関することで占められた。また、平成 31 年 3 月 8 日(金)に修士修了生を送る会を、修士修了生を中心に、在学院生・教員、OG(過去の修了生)で行った。提出したばかりの修士論文のこと、今後の研究のことなどを話題として懇談し、有意義であった。
(英語文学・英語教育専修)	英々専修では 2 月 7 日(木) 13:30 から大学院生の研究発表会を行い、その後、修士課程を修了する 2 人の院生の〈追いコン〉という形で「院生・教員懇談会」を実施した。場所は英文大会議室。ケイタリングで取り寄せた料理を囲み、院生と教員とのなごやかな親睦の会と

	なった。
現代社会研究専攻 (両専修合同)	2018年7月27日(金)12:30~14:00の間、院生と教員の懇談会を開催。研究内容と研究計画に関し、率直な意見交換をおこなった。2019年1月15日(火)にも院生と教員の懇談会を実施した。社会人大学院生であるため、今後の研究の進め方・履修科目と履修計画・研究方法等について、具体的な意見交換を行った。
臨床心理学専攻	2018年7月19日(木)16:30から18:00まで、修士2年生を対象とした専攻内修論中間発表会後に、修論指導に関する感想、希望等を聴取した。その際、1年生からも質問等を受け付けた。 2019年2月20日(水)15:00から16:30まで、修士1年生と2年生合同の意見交換会(スーパーヴィジョン、授業や実習に関する意見や要望について)が持たれ、スーパーヴィジョンに関する要望や疑問点等の報告書を同年2月21日に受け取った。 2019年2月23日(土)15:30から17:30まで本専攻非常勤授業担当者懇談会があり、実習教育についての意見交換と、大学院生から出された報告書について、情報を共有し問題点とその対応について話し合った。 2019年2月23日(土)19:00から21:00まで、スーパーヴァイザーとの顔合わせと交流を目的とした懇談・懇親会を行った。懇親会に入る前に、非常勤講師懇談会で話し合われた結果について報告と質疑応答を行った。修士2年生からも実習指導についての感想、意見等を聞いた。 2019年3月5日(火)13:00~15:00 修士1年生対象の専攻内修士論文構想発表会を行い、その後修論に関する意見交換を行った。 2019年3月26日(火)18:00~18:30 卒業式後の修了記念パーティの冒頭30分を使って、修士2年生を対象にした意見交換会を行った。

(6) 学会発表の奨励に関する活動

学会発表に備えて、院生の各種学会への参加を奨励してきた結果、今年度の状況は次表の通りであった。活動類型のうち、「学会参加」のカテゴリーには「各種シンポジウム」「全国フォーラム」等への参加も含むが、学会での「口頭発表」は含まないものとし、別途、項目⑦に記載する。

研究科	専攻	活動類型	件数	内容
人間文化	人間生活科学専攻博士後期課程	学会参加	2件	【生活計画学専修】 日本栄養改善学会第65回大会(朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター)、第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会(仙台国際センター)
	言語文化学専攻博士後期課程	学会参加	5件	【日本文学専修】 日本近代文学会2018年度春期大会(早稲田大学)、花袋研究学会第58回定期大会(東洋大学白山校舎)、花袋研究学会 夏季研修会(飛鳥山公園)、花袋研究学会101回例会(すみだ女性センター)、国文学言語と文芸の会3月例会(明治大学駿河台キャンパス)
人間文化	人間生活科学専攻修士課程	学会参加	18件	【健康・栄養科学専修】 第18回 日本抗加齢医学会総会(大阪国際会議場)、第37回 日本臨床運動療法学会学術集会(大妻女子大学)、第73回 日本体力医学会大会(福井県民ホール)、日本泌尿器科学会総会(京都国際会館)、日本栄養・食

			糧学会(岡山県立大学)、日本糖尿病学会(東京国際フォーラム)、日本肥満学会(神戸国際展示場)、日本食生活学会 第56回大会(関東学院大学)、第65回 日本栄養改善学会学術総会(朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター)、第9回 透析運動療法研究会(名古屋国際会議場)、日本農芸化学会関東支部 2018年度大会(東京理科大学)、日本薬学会第139年会(幕張メッセ)、第24回 摂食・嚥下リハビリテーション学会(仙台国際センター)、第22回日本病態栄養学会(パンフィコ横浜)
			【生活環境学専修】 日本デザイン学会 第65回 春季研究発表大会(大阪工業大学 梅田キャンパス)
			【保育・教育学専修】 日本保育学会(宮城学院女子大学)、日本赤ちゃん学会(東京大学)、日本乳幼児教育学会(岡山コンベンションセンター)
言語文化学専攻修士課程	学会参加	8件	【日本文学専修】 日本近代文学会 春季大会(早稲田大学)、日本近代文学会 11月例会(明治学院大学)、大妻女子大学国文学会(大妻女子大学)、中古文学会 2018年度 春季大会(日本大学)、中古文学会 2018年度 秋季大会(ノートルダム清心女子大学)、和歌文学会 第64回大会(國學院大學渋谷キャンパス)、平安文学の会(大妻女子大学)、平安文学の会(十文字学園女子大学)
臨床心理学専攻	学会参加	3件	日本心理臨床学会第37回大会(神戸国際会議場)、第11回動物介在教育・療法学会学術大会(東京大学大学院農学生命科学研究科)、日本健康心理学会第31回大会(京都橘大学)

(7) 学内発表会の奨励・支援に関する活動

学内での論文発表会については、「平成30年度大学院要覧」132頁に、「修士論文審査等に関する日程」のうち、第8番目の項目に「論文発表会の開催」として記載されている。その修士論文発表会を、平成31年2月23日に実施した。総勢24名の院生が発表した。当日のプログラムを以下に掲載しておく。

修士論文発表会について

日時 平成31年2月23日(土) 9時～ (16:30終了予定)

場所 千代田校本館E棟055講義室

開会の挨拶

堀江正一人間文化研究科長

総合司会

三浦元博教務委員長

発表プログラム

時間	発表順	発表者		発表者氏名
9:00		堀江研究科長あいさつ		
9:10	1	臨床心理学 1		金井 正美
9:25	2	臨床心理学 2		上坂 緑
9:40	3	臨床心理学 3		神山ルリ乃
9:55	4	臨床心理学 4		田中 有沙
10:10	5	臨床心理学 5		田向 優
10:25	6	臨床心理学 6		藤田 歩美
10:40	7	臨床心理学 7		山口 千晴
休憩 10 分(10:55~11:05)				
11:05	8	言語文化学 1	日本文学専修 1	坂上 幸
11:20	9	人間生活科学 1	生活環境学専修 1	鈴木 恵
11:35	10	言語文化学 2	日本文学専修 2	上田ひかり
11:50	11	人間生活科学 2	生活環境学専修 2	松ヶ瀬美歩
休憩 60 分(12:05~13:05)				
13:05	12	人間生活科学 3	健康・栄養科学専修 1	栗山 恵弥
13:20	13	言語文化学 3	英語文学・英語教育専修 1	石原 果奈
13:35	14	人間生活科学 4	健康・栄養科学専修 2	瀬瀬 琴音
13:50	15	言語文化学 4	英語文学・英語教育専修 2	芝 すみれ
14:05	16	人間生活科学 5	健康・栄養科学専修 3	萩原 千晴
14:20	17	現代社会研究 1	臨床社会学専修 1	朝倉 由衣
休憩 10 分(14:35~14:45)				
14:45	18	人間生活科学 6	健康・栄養科学専修 4	不破 未貴
15:00	19	言語文化学 5	国際文化専修 1	高尾 和泉
15:15	20	人間生活科学 7	健康・栄養科学専修 5	森 由香子
15:30	21	言語文化学 6	国際文化専修 2	丁 麗新
15:45	22	人間生活科学 8	児童発達臨床学専修 1	重枝 彩
16:00	23	言語文化学 7	国際文化専修 3	梁 貝葉
16:15	24	人間生活科学 9	児童発達臨床学専修 2	大屋 理香

(8) 院生論文集発行の奨励・支援に関する活動

新研究科の設置の趣旨に適合した院生論文集として、「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」に掲載することとした。平成 30 年度の修士論文概要は、オンラインジャーナルの”No.29 2019”

に掲載された。各専攻での研究教育活動の状況は以下の通りであった。研究教育活動の内容を「論文発表」「口頭発表」「ポスター発表」に分けて以下に示す。

専攻	氏名	発表形式	題目
人間生活科学専攻博士後期課程	佐藤 祐子	論文発表	食文化を学ぶ学生による日本食の認識調査と活動状況
		口頭発表	エンドウとインゲン豆の食品成分の比較
		口頭発表	大豆と小豆の栄養成分・機能性の比較とそれらを用いた食品や料理の提案
		ポスター発表	農産物直売所利用者への食育介入による野菜摂取量の変化について－第2報－
	伊藤 陽子	論文発表	地域在住高齢者の健康観に関する一考察
		論文発表	静岡県東部地区における歯科医師と栄養士との協働実態調査
口頭発表		歯科領域における栄養士・管理栄養士の協働実態に関する調査	
言語文化学専攻博士後期課程	飯田 さやか	論文発表	『伊勢物語』八五段考―「思へども」の歌と親王
	谷松 満子	口頭発表	「KとT」を書く花袋
人間生活科学専攻修士課程	栗山 恵弥	ポスター発表	ショウガオールが骨格筋細胞に与える影響
		ポスター発表	ショウガ成分 shogaol が運動機能および代謝に与える影響
	瀬瀬 琴音	口頭発表	株の異なるユーグレナの摂取が食餌性肥満モデルマウスの糖代謝および脂質代謝に及ぼす影響
	萩原 千晴	口頭発表	たんぱく質飲料の摂取とインターバルトレーニングの併用が若年女性の骨格筋に及ぼす影響

		口頭発表	中強度インターバルトレーニングと卵白たんぱく質飲料摂取が若年女性の骨格筋に及ぼす影響
		ポスター発表	豆乳の摂取とインターバルトレーニングの併用が若年女性の骨格筋に及ぼす影響
	森 由香子	口頭発表	間質性膀胱炎患者の食事指導教育ツールにおける満足度に関する検討
		ポスター発表	間質性膀胱炎患者の食事指導教育ツールにおける満足度に関する検討
	松ヶ瀬 美歩	ポスター発表	新聞記事から読む「アイビーファッション」の社会的受容について
	三尾 建斗	口頭発表	内在性酵素により低分子化した大麦β-グルカンがマウスの耐糖能及び脂質代謝に及ぼす影響
大屋 理香	口頭発表	幼児の造形活動における技術習得プロセスについての検討	
言語文化学専攻修士課程	坂上 幸	論文発表	「人間、失格」者が語る「人間」批判—太宰治「人間失格」
臨床心理学専攻修士課程	金井 正美	ポスター発表	職場におけるセラピー犬介在の効果—バイタルおよび気分・状態の変化—
	上坂 緑	ポスター発表	女子大学生の学生相談室への被援助中断に関する探索的研究
	山口 千晴	ポスター発表	成人愛着スタイルが青年期の境界性・回避性パーソナリティ障害に及ぼす影響
	樋田 琴乃	ポスター発表	自発的筆記における首尾一貫感覚と就職活動ストレスとの関連性

(9) 他大学との各種連携の活性化に関する活動

現在、現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けている。詳しくは、「平成30年度大学院要覧」70頁を参照されたい。平成30年度については、「文化情報特論(担当:小泉恭子)」へ埼玉大学大学院より1名の特別聴講学生を受け入れた。

(10) 就職支援に関する活動

今後、キャリア教育の充実の観点から就職支援を強化していくための具体的な方策を検討していく。

専攻	主な進学先・就職先	
人間生活科学	就職	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社はくばく ・学校法人青葉学園 東京医療保健大学 ・社会福祉法人福音寮 ・学校法人潤徳学園 潤徳女子中・高等学校 ・サンスター株式会社 ・医療法人社団あんしん会 ・リデア株式会社
言語文化学	進学	・大学院進学
	就職	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都教育委員会 ・株式会社アジア人材開発 ・野村證券株式会社
現代社会研究		(修了者が社会人のため対象者なし)
臨床心理学	進学	他大大学院進学
	就職	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人財団明理会 西仙台病院 ・八王子市教育センター(非常勤) ・相模原市立青少年相談センター(非常勤)

(11) 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

社会人特別選抜の入学者に授業の開講時間など適切な配慮がなされたかについては、アンケートをとったところ、全体の評価は悪くないものの、「事情を汲み取っていただけなかった」というコメントが寄せられた。社会人入学を制度して設けているからには、不満がないよう対応すべきである。特に社会人学生に対する対応には時間外サービスも含まれるが、これにはサービス時間の延長以外の柔軟な対応を工夫すべきであるように思われる。

次年度も引き続き、千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

(12) 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

新研究科の設置の主旨のひとつである「学部横断的（専攻・専修横断的）な教育・研究体制のあり方」、ならびに、「学位取得に至るまでの組織的指導体制の具体化・実質化」を推進して行くために、平成23年度入学生より、「研究計画発表会」を研究科全体で実施することとし、「修士論文審査等に関する日程」のプログラムの中に位置付けることを決めた。

(13) その他の活動

「その他の活動」として、院生によるティーチング・アシスタントの実施状況一覧を次に掲載しておく。

ティーチング・アシスタント等について

ティーチング・アシスタント等に 任用される大学院生・研究生		担当授業科目						任期
所属・学年等	氏名	開講学科等	授業科目名	授業担当 教員名	開講 時期	開講曜日 ・時限	開講 校地	
人間生活科学 専攻(修士課程) 2年	栗山 恵弥	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	生活環境実験	田中 直子	前期	木曜3、4 限	千代田 校	H30.4.12～ H30.8.3
	額瀬 琴音	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅱ	玉木 有子	後期	火曜1、2 限	千代田 校	H30.9.18～ H31.1.28
	萩原 千晴	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	人体構造機能論実験	明渡 陽子 高波 嘉一	前期	金曜3、4 限	千代田 校	H30.4.17～ H30.8.3
		家政学部 食物学科 食物学専攻	体力測定と評価	須永美歌子	前期	火曜2限	千代田 校	H30.4.13～ H30.8.3
	大屋 理香	家政学部 児童学科 ライフデザイン 学科	感性教育C(身体表 現)	池田美知子	後期	金曜1、2 限	千代田 校	H30.9.14～ H31.1.18
人間生活科学 専攻(修士課程) 1年	横田 安依	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅰ	松本 美鈴	前期	水曜1、2 限	千代田 校	H30.4.18～ H31.1.28
		家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	食品学実験	渡辺 雄二	後期	金曜3、4	千代田 校	
	星野 優芽	家政学部 児童学科 児童学専攻	保育福祉施設演習Ⅱ	池田 りな 加藤 悦雄 田代 和美 高橋ゆう子 林 明子 潮木 玲奈 久保田美沙子	前期	水曜4限	千代田 校	H30.4.12～ H31.1.28

			保育福祉施設演習Ⅰ	池田 りな 加藤 悦雄 田代 和美 高橋ゆう子 林 明子 潮木 玲奈 久保田美沙子	後期	木曜1限	千代田校	
			保育内容研究Ⅴ (幼児と表現)	久富 陽子 須藤みぎわ	後期	火曜4限	千代田校	
			保育内容研究Ⅱ (幼児と人間関係)	池田 りな	後期	火曜5限	千代田校	
			子どもと絵本	宮地 敏子	後期	木曜3限	千代田校	
言語文化学専攻(修士課程) 2年	芝 すみれ	文学部 英文学科	Speaking(Intermediate) A	BARR,B.	前期	木曜3限	千代田校	H30.4.12～ H31.1.29
			Speaking(Intermediate) A	BARR,B.	前期	木曜4限	千代田校	
			Speaking(Intermediate) B	BERNINGER,G	後期	水曜4限	千代田校	
			Speaking(Intermediate) B	BARR,B.	後期	木曜3限	千代田校	
			Speaking(Intermediate) B	BARR,B.	後期	木曜4限	千代田校	
	石原 果奈	文学部 英文学科	Speaking (Basic) A	OKUMA,G.S	前期	月曜1限	千代田校	H30.4.12～ H31.1.29
			Speaking (Basic) A	OKUMA,G.S	前期	木曜4限	千代田校	
			Speaking (Basic) B	OKUMA,G.S	後期	月曜1限	千代田校	

現代社会研究 専攻(修士課程) 1年	栗田みどり	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	コンピュータ基礎A	小幡 正子	前期	水曜2限	多摩校	H30.4.12～ H30.7.28
臨床心理学専 攻(修士課程) 2年	金井 正美	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	社会心理学調査研究 法	八城 薫	後期	火曜3限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21
		人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	社会心理学調査研究 法	八城 薫	後期	火曜4限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21
	上坂 緑	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	心理学基礎実験	田中 優	後期	火曜4限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21
	神山 ルリ乃	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	社会心理学調査研究 法	西川千登世	後期	火曜3限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21
		人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	社会心理学調査研究 法	西川千登世	後期	火曜4限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21
	田向 優	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	社会・臨床心理学基 礎セミナーⅢ	田中 優 古田 雅明	前期	木曜3限	多摩校	H30.4.12～ H30.7.28
	藤田 歩美	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	社会・臨床心理学研 究法	大久保暢俊 八城 薫 本田 周二 山蔦 圭輔 田中 優 堀 洋元 古田 雅明 福島 哲夫	前期	木曜1、2 限	多摩校	H30.4.12～ H30.7.28
臨床心理学専 攻(修士課程) 1年	江部 優奈	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	心理学基礎実験	堀 洋元	後期	火曜4限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21

須藤 優希	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	心理検査法セミナー	馬淵 聖二	後期	月曜4、5 限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21
樋田 琴乃	人間関係学部 人間関係学科	コンピュータ応用	小幡 正子	前期	水曜3限	多摩校	H30.4.12～ H30.7.28
	人間関係学部 人間福祉学科 人間福祉学専 攻	コンピュータ基礎A	小幡 正子	前期	水曜3限	多摩校	H30.4.12～ H30.7.28
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	心理学基礎実験	小幡 正子	後期	火曜4限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21
		コンピュータ基礎B	小幡 正子	前期	水曜3限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21
	人間関係学部 人間福祉学科 人間福祉学専 攻	コンピュータ基礎B	小幡 正子	前期	水曜3限	多摩校	H30.9.14～ H31.1.21
桃崎 沙耶	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	社会・臨床心理学基 礎セミナーⅢ	大久保暢俊 高島 靖菜	前期	木曜3限	多摩校	H30.4.12～ H30.7.28
米澤 夏生	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理 学専攻	心理検査学	馬淵 聖二	前期	月曜4限	多摩校	H30.4.12～ H30.7.28

II 全学FD研修

1 研修会の内容及びアンケート結果

(1) FD 講演会

「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」

関西大学 教育推進部 教授 森 朋子 氏

実施日時：2019年1月7日（月）16：30～18：00

場 所：千代田キャンパス 大学校舎A棟1階155講義室

多摩キャンパス 7号館1階7114講義室（映像・音声配信による視聴）



平成30年度

FD講演会

学生の学びの質的向上に向けて ～関西大学を例に～

1. 私立大学等改革総合支援事業について、および一般経費削減の概要
2. 1. のタイプ1を取っている他大学の取り組み（内部質保証、学修成果の可視化など）
3. 教育の質的転換を実質化するためのアクティブラーニング

日時：2019年1月7日（月）16:30～18:00

場所：千代田キャンパス 大学校舎A棟1階155講義室
同時中継 多摩キャンパス 7号館1階7114講義室

講師 § 関西大学 教育推進部 教授 森 朋子 氏

【略歴】

人がどのように学ぶのか、学びのメカニズムとプロセスを解明し、その知見を教育現場に活用する学習研究が専門。

ケルン大学哲学部Magister修了後、大阪大学言語文化研究科前期・後期課程修了し言語文化博士取得。島根大学准教授を経て現職の関西大学教授。

現在、文部科学省教育再生加速プログラム委員、名古屋大学高等教育研究センター客員教授、東京大学情報学環反転学習社会連携講座フェロー、東京理科大学APアドバイザーなどを兼務。

著書として、『アクティブラーニング型授業としての反転授業【理論編】』（共編者、ナカニシヤ出版、2017年）、『アクティブラーニングの技法・授業デザイン』（共著、東信堂、2016）、『ディープ・アクティブラーニング』（共著、勁草書房、2015）などがある。

主催 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

FD 講演会アンケート集計結果

- < 実施日時 > 平成31年1月7日（月）16:30～18:00
 < 場 所 > 千代田キャンパス 大学校舎A棟1階155講義室
 多摩キャンパス 7号館1階7114講義室（映像・音声配信による視聴）
 < テーマ > 「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」
 < 講 師 > 関西大学 教育推進部 教授 森 朋子 氏

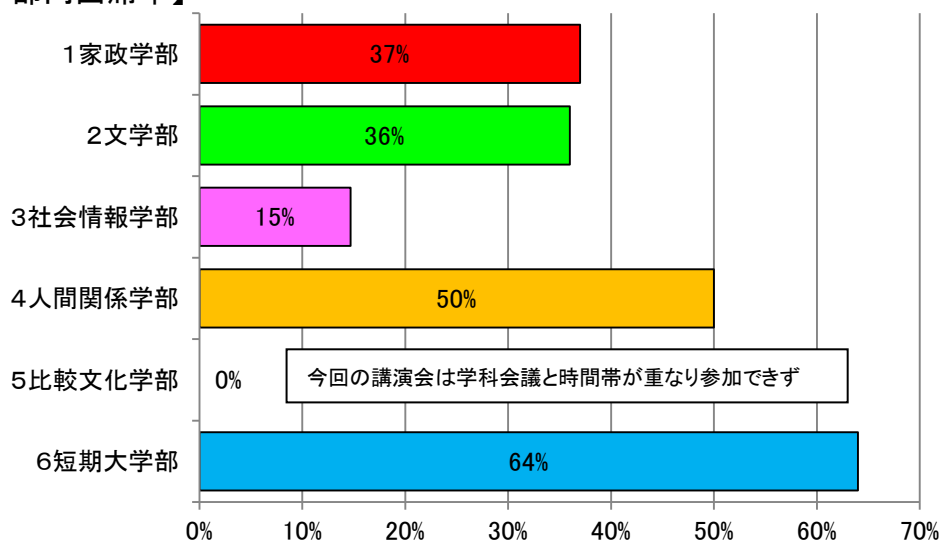
◎参加人数・アンケート回収数等

キャンパス	講演会参加者数	アンケート提出者数（回収率）
千代田校	77人	65人(84%)
多摩校	29人	25人(86%)
合計	106人	90人(85%)

【アンケート提出者の所属】

選択肢	千代田校	多摩校	全体(アンケート提出者における構成比)
1 家政学部	19人	0人	19人 (21%)
2 文学部	12人	1人	13人 (14%)
3 社会情報学部	5人	0人	5人 (6%)
4 人間関係学部	2人	14人	16人 (18%)
5 比較文化学部	0人	0人	0人 (0%)
6 短期大学部	13人	0人	13人 (14%)
7 事務職員	10人	9人	19人 (21%)
8 非常勤講師・附属施設	4人	1人	5人 (6%)
未回答	0人	0人	0人 (0%)

【学部内出席率】



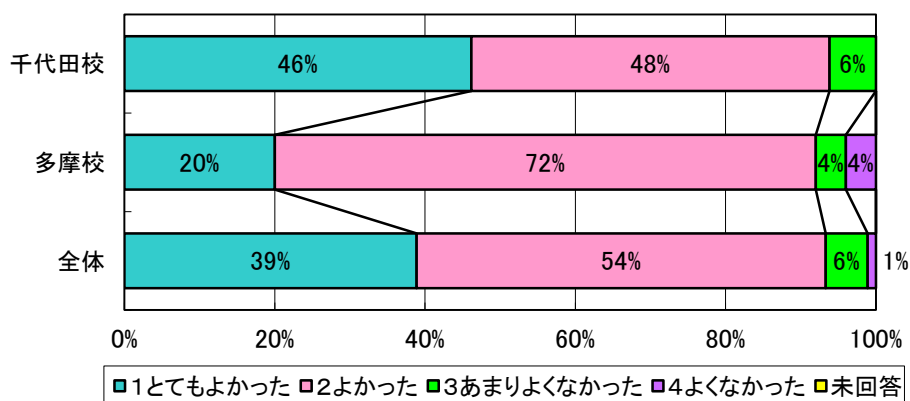
■ 1 家政学部 ■ 2 文学部 ■ 3 社会情報学部 ■ 4 人間関係学部 ■ 5 比較文化学部 ■ 6 短期大学部

以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数90人分を対象）

問1 この講演会の内容・運営等についてのご意見をお聞かせください。

【講師は】

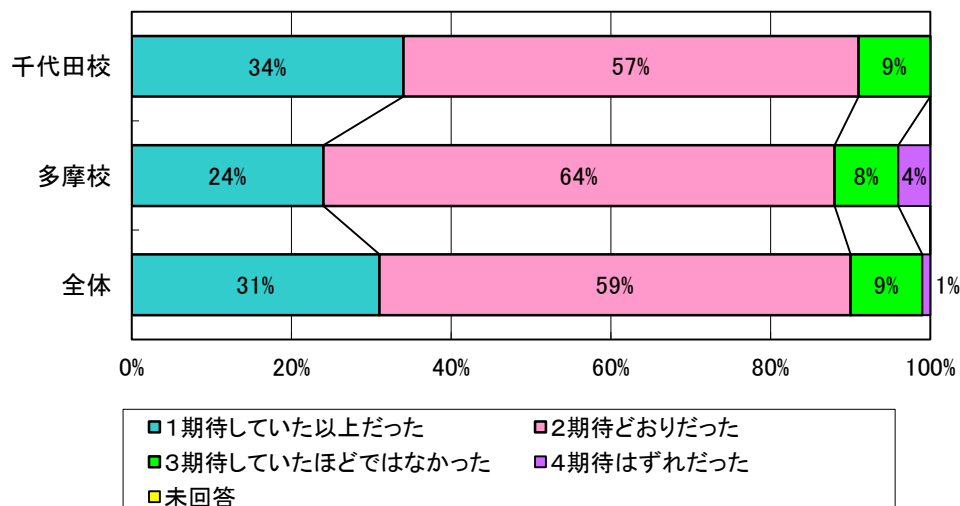
選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 とてもよかった	30 (46%)	5 (20%)	35 (39%)
2 よかった	31 (48%)	18 (72%)	49 (54%)
3 あまりよくなかった	4 (6%)	1 (4%)	5 (6%)
4 よくなかった	0 (0%)	1 (4%)	1 (1%)
未回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



【内容は】

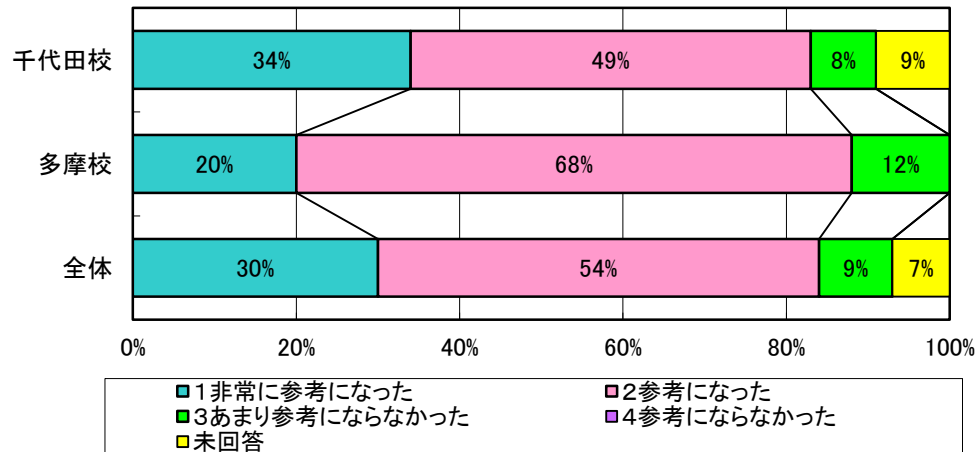
①期待どおりでしたか

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 期待していた以上だった	22 (34%)	6 (24%)	28 (31%)
2 期待どおりだった	37 (57%)	16 (64%)	53 (59%)
3 期待していたほどではなかった	6 (9%)	2 (8%)	8 (9%)
4 期待はずれだった	0 (0%)	1 (4%)	1 (1%)
未回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



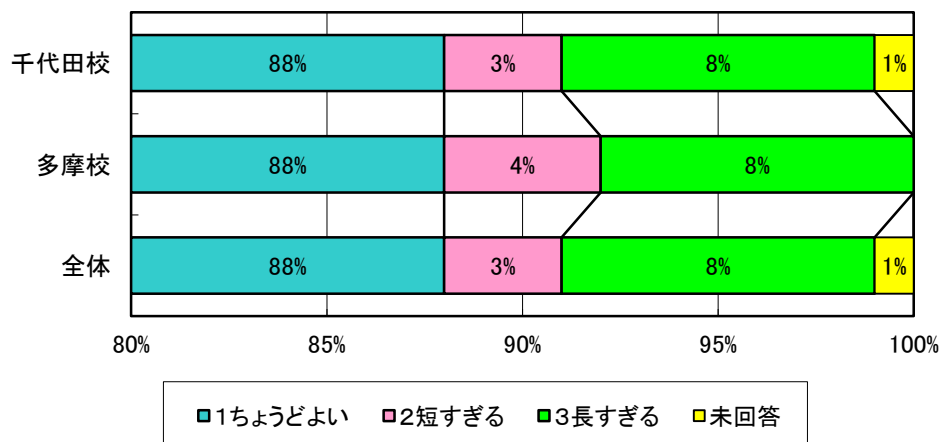
②今後のFD活動の参考になりましたか

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 非常に参考になった	22 (34%)	5 (20%)	27 (30%)
2 参考になった	32 (49%)	17 (68%)	49 (54%)
3 あまり参考にならなかった	5 (8%)	3 (12%)	8 (9%)
4 参考にならなかった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
未回答	6 (9%)	0 (0%)	6 (7%)



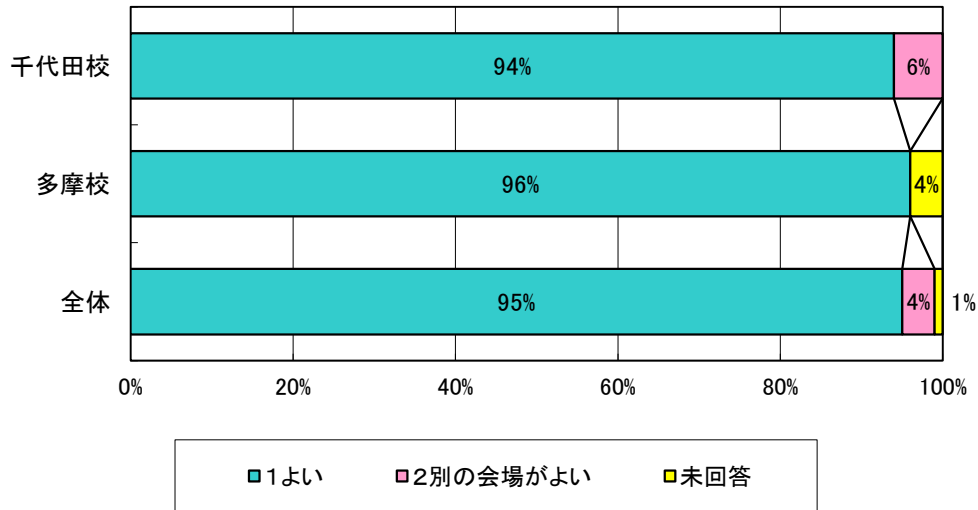
【時間は】

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 ちょうどよい	57 (88%)	22 (88%)	79 (88%)
2 短すぎる	2 (3%)	1 (4%)	3 (3%)
3 長すぎる	5 (8%)	2 (8%)	7 (8%)
未回答	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)



【会場は】

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 よい	61 (94%)	24 (96%)	85 (95%)
2 別の会場がよい	4 (6%)	0 (0%)	4 (4%)
未回答	0 (0%)	1 (4%)	1 (1%)



問2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらお書きください。

講演内容について

- ・「デザイン思考」の部分が興味深く拝聴しました。ありがとうございました。
- ・実践例を含めてお話しいただいたのでわかりやすかった。(2)
- ・とてもよかった。質疑応答の時間がもっとほしかった。
- ・全体の流れが良くわかり、参考になりました。
- ・高等教育がどう変わっていくのか、だから大学教育も変わらなければならないという点。
- ・初年次教育の重要性。
- PDCA サイクルのマイクロ/ミドル/マクロを合わせていく必要性。
- 現在の大学で弱い部分なので大切だとは思いますが企業とは異なるので、多様な学生を育てるための多様性は教育の現場には必要かなと思います。多様性とは作られた多様性だけでなく「すき間」も大切かと思っています。その「すき間」を埋める作業が学生を育てると思うので。
- ・日々の個人レベルのPDCAが大切だと感じた。見えにくい力(学力)をどのように評価、判断すべきなのだろうかと考えました。
- ・デザイン思考型という考え方は今後の課題になると思った。PDCA サイクルから深い学びにつなげることが大切だと感じた。また他大の入試について高大連携など参考になりました。
- ・学生が大学においてしっかり成長する取り組みとしてPDCAを理解し、確認・評価・改善していくことが大切という点が記憶に残った。
- ・アサーティブ入試(期間を長く取って、マッチングする学生を入学させることを目指す入試)
- ・昨今の大学改革を推進する背後の意図の説明が良かった。
- ・学生指導・授業などの参考になった。今後は、教員と学生、学生同士の対話議論・実践などを通じて、知識の定着・活用や知識の創造を進めていく。
- (外部) 第3者評価、ディプロマ・ポリシー、シラバス達成、☆PDCA サイクル
- ・高大接続のあり方
- ・「教育の質にかかる客観的指標」が参考になりました。
- ・社会的情動スキル(非認知スキル)を大学が養う場として担うことができれば、社会に役立つ力を育成できる超スマート社会に適應できるという話が今後目指していきたい大学スタイルと感じた。
- ・マクロレベルの図式化は見事で、それなりに興味をそそられたが、もう少し具体例に踏み込んだケースの

紹介と分析が欲しい。コノテーション過多でデノテーションの部分がやや不足と感じた。もっと後半に比重を置くとよかった。入学生のレベルの低下にどう対応すべきなのか？

- ・説明の内容、資料がこれまでにどこかで見たことがあるようなものばかりで、新たな知識を得ることができなかったのは残念の一言に尽きる。講師自らが実践していることが語られていなかった。説得力がないのが残念。現場感が感じられなかった。いわゆるセミナー屋の典型。ただし、講師のプレゼンはうまかった。一年の最初に反面教師としたいような話を聞くことができた。
- ・リカレント教育
- ・知識の確認ができた。新しいことの学習はあまりできなかった。
- ・大学教育改革の考え方が整理され、理解できた。しかし、実際の改革を実行していく際の工夫、ノウハウ等については、今ひとつイメージがわかなかった。本学の実情に応じてともかくやっていくしかないであろう。
- ・大学をとりまく環境が大きく変動してきていることは理解できたが、具体的に日々の自分の授業をどう改善していったらよいかはいまひとつ理解できなかった。
- ・話が一般的なレベルすぎて具体的な改善策はほとんど得られなかった。
- ・具体例が少なかった。抽象的で現実との連関が感じられない。
- ・専門用語が定義されずに使われているので分かりにくい。特に英語の略語が多い。
- ・モデルが細分化され複雑化している。もっとシンプルなモデルはないのか。
- ・「補助金のためではなく目の前の学生のため」が印象に残りました。
- ・補助金のためでなく学生のために！

大妻女子大学の FD について

- ・どれだけ教えることができたかではなく、どれだけ学習してもらえたかという視点で客観的な評価基準を設けることが、改善につながる第1歩だと感じた。
- ・大学改革は総力戦でやっていかなければならないこととわかった。そのための専門家が必要である！学生が学ぶための仕組み作りが必要。
- ・今後のシラバス、授業内容の参考になりました。(2)
- ・5年、10年とあっという間に経ち、学生に対してこうしたら・・・と考えているうちに次の世代の学生が来ているような気がしました。臨機応変に対応していく心がけが大切ですね。
- ・多々ありましたが、お聞きしているうちに一つ、勝手にFDの方法を思いつきました。ゼミ生などをモニターにして、授業の評価をさせるという方法です。今の授業アンケートは率直に言って信頼性が今一つです。責任あるアンケートとして「モニター」方式を実践してみようと思いました。
- ・この内容をきちんと実行していく事は難しく、少しくらい気持ちになりました。様々な専門分野を横につないで新たな知見を生み出していくコーディネーターの存在が非常に重要なことなのだと理解しました。
- ・高等教育や学習理論などを専門に研究する教員が複数本学にも在籍しているとFD等もより進むのではないかと。
- ・教員全員が同じ方向に向かえるかがポイントのように思えました。専門チームが必要と思いました。
- ・多様な学生を育成するには、教員・職員も多様性をもつ必要があることがわかった。
- ・具体的内容で大変勉強になった。学生へのきめ細やかな評価が必要と思いつつも実際にはなかなか上手くいかない。どうすれば良いのか、と求めていたところだったので、今回のお話はとても参考になった。学生スタッフ、TAなどの例は本学でもより積極的に取り入れるべきではないかと感じた。
- ・文学などを好む内向的な学生は入試段階から排除されるのだと思った。
- ・学生の学びの質向上のために取り組んでいること、特に入試の方式の多様化、大学での学生支援(=育成)の方法が多様化している現状を学ぶことができてよかった。
- ・人間関係学部は、授業の中で、学ぶ力や学ぼうとする力を取り入れていることがあると感じる。それをどう表していくか、大学全体で統一していくかが課題だと感じた。また入試に関しては、これから見直していく必要があると思った。多様な学生が増えている中で、ひとりひとりの学生の意欲を引き上げられるように考えていかなければならないと思う。
- ・やるべき事が多くあることがわかりました。
- ・当然のことであるが、本学がどのような学生を育てようとしているかが学生募集に直結していることを痛感しました。
- ・「シラバス」「教学IRベースのFD」「初年次教育」という今大妻がまさに取り組んでいることなので、非常にタイムリーで参考になった。
- ・具体的でわかりやすい説明でした。あらためて気づけたことがたくさんありました。見えにくい学力、見

えない学力の部分はどう育てるか考えていきたいと思いました。

- ・「学習者の学びを育てるカリキュラム」が実現できるための環境を作ることの大切さ、そのために教員と法人との連携がどうとれるのか、これが目指すところか。
- ・全学共通の専門外科目が大切で、大学のカラーを出していくのに役立つ。(大妻でも必要)。
- ・見える学力、見えにくい学力、見えない学力
- ・文科省の大学改革の方針等がおぼろげながらわかったような気がします。
- ・PBL型の授業の有効性や重要性をあらためて認識した。その意味で、CDPやキャリアデザインの授業をよりクオリティを上げられるように力を尽くしたいと思った。
- ・非常に参考になった。今度は実践。その方向(←全学が同じ方向にすることがまず先か、ベクトルがずれるとムダになる)に全力でとりくむ形にもっていく必要がある。
- ・うかがったお話には全て賛同で、その通りだと思いました。その前提で研究機関としての大学と教育機関としての大学を両立させる事の難しさを感じました。今後の社会情勢とこれからの学生に求められる社会人力を考えると既存の大学という機関そのものの在り方を再考すべき時期に来ているのかもしれないとも思いました。
- ・統一基準しかも細かな基準を定めて、それに従うかどうかで評価し、予算措置にも影響させるというやり方で大学毎の独自の教育が行えるのだろうか。ここで述べられた方向が絶対的なものとは思えない。形式を整えるのみの空論の様に思える。又、これまでの大学の授業は一方向の授業、自分の話を聞かせる、何となく思いつきでやっているという構文、一方向の決めつけに基づく話であった。今は講義であっても学生と意見をやりとりしながら話を進めることが多い時代だと思う。
- ・カリキュラムマネジメント体制の話は参考になった。今やっている仕掛けを見える化する作業を考えたいと思った。学習の定着が20%という事を忘れずに、くり返し+αの学習効果を考えたい。全学的な取り組みの重要性も改めて感じた講演であった。
- ・大学に今何が求められているのかを考えさせられました。
- ・お話しいただいた内容については理解できるが、理論と実践の対応についてむずかしいと感じた。
- ・教員個人でできることは何かを考えさせられる講演内容で、とても参考になりました。
- ・私立大学等改革総合支援事業タイプI取得を目指す本学にあって、SD・FD実施状況の点数5点を得る為には、全教職員が参加していることが前提条件である。しかし、現実の参加状況を見ると0点であろう。SD・FD活動は定期的開催されるのに、何故、基本中の基本を見直さないのか? ∴目標設定に対してのオペレーションを、如何にコミットして行くかがポイントだと感じました。
- ・経常費のためでなく、学生ファーストでのライフ、学びの提供を行って行くべきと感じた。補助金のために大学が没個性になってはいけないと思う。

その他

- ・多くの授業を担当し、それらの改善をしたい教員としては、事業申請の話は5〜10分程度にして、マイクロレベルの質保証を説明(実践例の紹介など)することに講演時間を費やしてほしかったです。
- ・対象が、教員全般か部課長のマネジメント層に向けたのか、半端な印象が強い。森先生のいわれるマイクロまたはマクロに的を絞った方がよかったのではないかと。90分に無理に詰めた感があり、もったいない。
- ・高山先生の話もおもしろかった。
- ・副学長の最後の話が長すぎた。自分の話をする時間ではない。
- ・問題意識が一致していることが多々あった。このFDを本学教職員全員が聞いても良いと思う。
- ・職員も聴くべき内容でもあるため、各グループから何名参加というようにすべきではないかと。SDも重要。
- ・FD講演会のためやむをえないが、職員の取り組みについて具体的な話も伺いたかった。

問3 今後の講演会で希望されるテーマ・内容(実施方法でも可)をお書きください。

- ・アクティブラーニングの実例と方法。(3)
- ・大人教授業における効果的なアクティブラーニングの手法について。
- ・必要な教員が必要なインプットを得られる少人数制の実践的アクティブラーニング研修を希望します。講演は授業改善に役立つという実感を得られません。
- ・形式だけのAL型授業やAL風授業では意味がないと思うので、導入による成果や問題点が示された形での事例研究もしくは実施報告というものを見たいと思います。
- ・PBL授業について
- ・講演よりも上手な先生の授業見学がしたい。
- ・先進的他大学の講演

- ・教授法（女性に適した教授法）
- ・今回お話しいただいた PDCA（マイクロレベル）を実践するノウハウ。
- ・具体的・進歩的な FD 活動の紹介。
- ・初年次教育について。教養→専門というような一般的な流れが良いとは限らないと思います。今の学生にとって初年次教育に必要なものか？
- ・初年次教育の具体例、専門教育との関係。
- ・学習のフィードバック
- ・学習成果の可視化
- ・教育や学習についての科学的な知見
- ・発達障がい、精神疾患学生への対応事例。
- ・入試広報・募集広報に対するマネジメント。
- ・クラブ活動をいかに大学広報として活用するか？ ex.帝京大学＝ラグビー、名城大学＝女子駅伝
- ・教職員向け英会話講座等。
- ・社会心理学全般
- ・例年、気になるテーマを取り上げていただいていると思う。
- ・具体的に思いつきませんが、今後とも教員・職員ともに必要な話題をテーマにいただければと思います。

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成15年3月7日

制定

(設置)

第1条 大妻女子大学大学院、大妻女子大学及び短期大学部（以下「本学」という。）に、本学の教育の内容及び方法の検討、さらにそれらの組織的な研修、研究及び改善（以下「FD」という。）を推進するため、大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長 1名
- (2) 人間文化研究科長及び人間文化研究科FD委員長
- (3) 家政学部長、文学部長、社会情報学部長、人間関係学部長、比較文化学部長及び大妻女子大学短期大学部長
- (4) 各学部及び短期大学部から選出された教員各1名

2 学長及び委員以外の副学長は、必要に応じて出席することができる。

(任期)

第3条 前条第1項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員が欠員となった場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) FDの企画及び実施に関する事項
- (2) FDに関する情報の収集及び提供に関する事項
- (3) FDの実施に係わる支援及び評価に関する事項
- (4) 研究科、各学部及び短期大学部におけるFD活動に関する事項
- (5) その他、委員会が必要と認める事項

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した者がその職務を代理する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 次の各号の者は委員会に出席して意見を述べることができる。

- (1) 事務局長、教育支援センター一部長、多摩事務部長
- (2) 委員会の同意を得て委員長が必要と認めた者

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育支援センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学運営会議において定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年1月11日から施行し、平成16年12月1日から適用する。
ただし、第7条第1項第1号の規定は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年3月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年5月7日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員名簿

		平成30年度
副学長(委員長)		大澤 清 二
副学長		高 山 宏
人間文化研究科長		堀 江 正 一
家政学部長		青江 誠一郎
文学部長		村 上 丘
社会情報学部長		山 倉 健 嗣
人間関係学部長		小 川 浩
比較文化学部長		原 研 二
短期大学部長		下 坂 智 恵
委員	人間文化研究科	須田 喜代次
	家政学部	中 島 永 晶
	文学部	木 戸 雄 一
	社会情報学部	小 泉 恭 子
	人間関係学部	本 田 周 二
	比較文化学部	佐 藤 実
	短期大学部	廣 瀬 友 久